

競賣買ノ方法ニ依リ呼値ヲ唱ヘ賣ト買トニ付キ各別ニ相手方ヲ求メテ之ト賣買ノ手合ヲ爲シタル場合ニ於テモ其値段決定前ニ其相手仲買人カ何レモ其賣買關係ヨリ脱退スルノ目的ヲ以テ更ニ右相手仲買人間ニ於テ最初ノ賣若クハ買ノ反對賣買ヲ爲シ之ニ因リ最初ノ賣買關係ヨリ脱退シ去リテ取引所場帳ニハ其相手仲買人トノ賣買カ抹消セラレ最初ノ仲買人ノミカ其賣ト買トヲ存セシムルコトヲ求ムル時ハ取引所ハ特ニ其仲買人ノ氏名ヲ賣方ト買方トノ部ニ登載セシムル方法(二)仲買人カ或客ヨリ賣注文ヲ受ケ他客ヨリ同一銘柄限月單價數量ノ買注文ヲ受ケ取引所市場ニ於テ立會中一方ハ自己又ハ一代理人(場立)カ或客ノ爲メ競賣買ノ方法ニテ賣リヲ呼ヒ他方ニハ他ノ代理人(場立)ヲシテ同方法ニテ他客ノ爲メ買ヲ呼ハシメ手合セシムル場合ニハ賣買値段決定ト同時ニ同一仲買人カ一面賣主タルト同時ニ一面買主トシテ取引所場帳ニ登載セシムル方法(三)仲買人カ或客ヨリ賣注文ヲ受ケ他客ヨリ同一銘柄限月單價數量ノ買注文ヲ受ケ取引所市場ニ出ツルモ立會中競合ノ煩ヲ省ク爲メ徐ニ賣買値段ノ決定ヲ待チ其ノ決定値段ヲ標準トシテ賣ト買トヲ同時ニ自己ノ名義ニテ取引所ノ場帳ニ登載ノ申出ヲ爲シタル爲メ同一仲買人カ一面賣主タルト同時ニ一面買主トシテ取引所場帳ニ登載セシムル方法(四)仲買人カ右取引所市場ニ於テ立會中取引物件ニ付キ或呼値ヲ唱ヘテ賣リ又ハ買ハントスル場合ニ於テ他仲買人ノ之ニ應スルモノナキ時ハ其仲買人カ其値段ニテ賣主トナルト同時ニ買主トナリテ取引ヲ爲サント欲スルニ於テハ市場ノ監督者ハ之ヲ立會中ノ仲買人ニ諮リ仲買人ノ異議ヲ主張スルモノナク且監督者モ其取引ヲ相當ト認ムル時ハ其仲買人ノ欲シタル取引ハ茲ニ成立シ之ヲ適法ノ競賣買ト爲シ取引所ノ場帳ニ登載セシムル方法 同(五)仲買人カ右取引所市場ニ於テ立會中ニ同一賣ト買トノ登錄ヲ申出テ又ハ立會中ニ競合セ手合成立シタルモ抹消セラレタルモノニシテ立會中ニ場帳ニ登錄スルヲ得サリシ爲メ延引シテ立會後ニ至リ既ニ決定シタル値段ヲ以テ同一賣ト買トノ登錄ヲ申出タルニ依リ同一仲買人カ一面賣主トナルト同時ニ一面買主トシテ取引所場帳ニ登載セシムル方法等ノ數種ノ方法アルコトヲ認メ得ヘク而シテ右ハ何レモ引續キ多年反覆シテ之ヲ競賣買ノ一種トシテ行ハレ來リタル慣習ナルコトヲ認メ得ヘクシテ右(一)(二)及(四)ノ取引方法ノ如キハ何レモ仲買人カ取引セントスル株式ニ付キ取引所市場ニテ相手方ヲ求メテ呼値ヲ唱ヘ賣買ニ參加シ手合ヲ爲シタルモ取引所ノ場帳ニハ其決定シタル賣買値段ヲ以テ其仲買人カ賣主トシテ又買主トシテ其氏名ヲ登錄セシメタルニ過キササルモノニシテ右取引方法ハ競賣買ノ性質ヲ具有スル賣買取引ノ方法ナルコト明カナルカ故ニ取引所法第十九條ニ依リ本件取引ニ適用セラルヘキ舊勅令即明治二十六年勅令第七十四號カ其第十三條第二號ニ「競賣買ヲ爲スノ方法」ト規定セル趣旨ニ反セサル取引方法ト解シ得ヘク又其他ノ法令ニ牴觸スル所ナク而モ公ノ秩序善良ノ風俗ニ背反スルモノニ非スト認メ得ヘキヲ以テ此取引方法カ前説示ノ如ク多年間大阪株式取引所ニ於テ一種ノ競賣買トシテ反覆實行セラルルコトハ前記證人宮崎敬介ノ供述ニ依リ認メ得ラルル以上商慣習トシテ有効ニ成立セルコト論ヲ俟タサル所ニシテ苟モ大阪株式取引所ニ於テ株式賣買ヲ爲スコトノ委託ヲ爲ス當事者ハ反證ナキ限り一應右慣習ニ依ル意思

ヲ有セルモノト認ムルヲ相當トスヘク而シテ當事者間ニ於テ何等反對ノ證據ノ見ルヘキモノナキヲ以テ亦タ右慣習ニ從フノ意思アリシモノト認ムヘシ 夫レ此仲買人カ右第一、二及四ノ取引方法ニ依リ取引スルモ取引所場帳ニハ第三ノ取引ニ因リ記帳方法ト同シク同一仲買人カ一面賣主ト爲リ他面買主ト爲リテ登錄セラルルモノナルヲ以テ同場帳ニ被控訴人ノ氏名カ一面賣主トシテ一面買主トシテ登錄セラレ從テ被控訴人ノ商業帳簿等ニ相手仲買人ヲ暗示スヘキ(二二)ノ符合ヲ記載シタルハトテ之ヲ以テ直チニ被控訴人カ本件取引ノ委託ヲ控訴代理人主張ノ如キ方法ノ「バイカイ」即チ取引所市場ニテ既ニ成立シタル賣買決定値段ヲ以テ標準ト爲シ賣ト買トヲ同時ニ自己ノ名義ヲ以テ場帳ニ登載セシムル方法ニ依リ取引ヲ爲シタルモノト速斷スルヲ得サレハナリ 如此當審ノ證人宮崎敬介ノ證言ニ(同證言中第三ノ取引方法ニ依リ取引モ多シトノ部分ハ之ヲ採用セス)依リ本件取引ノ委託アリタル當時右取引所市場ニ於テハ仲買人カ前記數種ノ取引方法中其第一ノ取引方法ニ依リ之カ取引ヲ爲スコトカ多數ニシテ其他ノ取引方法ニ依リ取引ヲ爲スコトハ少數ナリシコトヲ認メ得ヘク此事實ト證人加藤太治郎ノ第一審ニ於ケル證言トヲ對照參酌シテ之ヲ觀レハ被控訴人ハ控訴人ヨリ委託ニ係ル本件賣買取引ニ付キテハ其取引當時多數ニ行ハレ居リタルモノト認ムヘキ第一ノ方法ニ依リ取引ヲ爲シタルモノニシテ即チ被控訴人カ取引所市場ニテ本件取引ニ付キ相手ヲ求メテ呼値ヲ唱ヘ賣買ニ參加シ手合ヲ爲シタルモ其値段決定前ニ其相手方仲買人カ何レモ其賣買關係ヨリ脱退スルノ目的ヲ以テ更ニ右相手方仲買人間ニ於テ最初ノ賣又ハ買ノ反對賣買ヲ爲シ之ニ因リ最初ノ賣買關係ヨリ脱退シ去リタル結果取引所場帳ニハ賣若クハ買ノ相手方トシテ被控訴人ノ氏名カ登載セラレタルニ過キササルモノナルコトヲ推認スルコトヲ得ヘシ 控訴代理人援用ノ證據ニ依リテハ本件賣買カ控訴代理人主張ノ如キ「バイカイ」ノ方法ニ依リテ取引セラレタルコトヲ認ムルヲ得ス(大正五年ネ三〇〇號「定期株式委託賣買證據金返還請求控訴事件」同六、三、一二民三判決—新聞一二四六號二五、評論六卷諸一三二、判例二卷民四四七)

大審院 明治二十六年勅令第七十四號實施中ニ於ケル同一仲買人カ公定相場ノ決定後其相場ニ依リ賣ト買トヲ同時ニ取引所ノ場帳ニ附出ス場合ト雖モ仲買人カ取引所ノ市場ニ於テ競賣買ノ方法ニ依リ取引ヲ爲シタリト謂フニ妨ナキモノトス —判決錄要旨

(判決理由) 取引所市場ニ於テ同一仲買人カ同一帳入期間内ニ當日ノ公定相場ニ依リ自ラ賣ト買トヲ取引所ノ場帳ニ記入セシメ即日相殺スル方式即チ所謂「バイカイ」ノ方式ニ依リ有効ナル競賣買トシテ取引ヲ爲スコトヲ得ルモノナルコトハ大正三年勅令第三百三十七號新取引所令ノ解釋トシテ本院判例ノ示ス所ナリ(大正五年才第四二〇號同年十一月十四日判決參照) 本件取引所ニ於ケル取引ハ大正三年三月二十三日ヨリ同年五月十九日マテニ爲サレタル

舊勅令實施
中ニ於ケル
バイカイノ
効力
公定相場ニ
依ルバイカイ
有効説
効力ニ關ス
ル聯合部判
決

モノナルヲ以テ右新取引所令ノ施行前ニ係リ明治二十六年勅令第七十四號ノ適用ヲ受クヘキモノトス。而シテ此舊勅令實施中ニ於テハ右所謂「バイカイ」ノ一部即チ同一仲買人カ既ニ取引所ニ於テ成立シタル賣買値段ニ依リ賣ト買ト同時ニ取引所ノ場帳ニ附出ス場合ヲ無効ト認メタル判例（大正三年（オ）第六六四號大正五年六月二十六日判決參照）存スルモ此點ニ於テ特ニ新舊二法ニ依リ解釋ヲ異ニスヘキ理由ナク且右新法ノ關スル新判例ヲ適當ト認ムルヲ以テ舊法ニ關シテモ前判例ヲ變更シ新判例ト同一ノ理由ニ依リ右所謂「バイカイ」ヲ全部有効ナルモノト判定ス。即チ同一仲買人カ公定相場決定後其相場ニ依リ賣ト買ト同時ニ取引所ノ場帳ニ附出ス場合ト雖モ仲買人カ取引所ノ市場ニ於テ競賣買ノ方法ニ依リ取引ヲ爲シタリト謂フニ妨ナキモノト認ム（大正五年オ一九七號「株式賣買不足金支拂請求ノ件」同六、四、九民聯判決一民錄二三輯五二七、彙報二八卷下民八七、新聞一二五八號二五、評論六卷諸一二六、判例二卷要旨三九六）

判例批評

松本丞治博士「バイカイ」ノ効力ニ關スル大審院ノ判例トシテ既ニ大正四年七月六日ノ第一民事部判決ヲ以テ有効説ヲ採用セルモノアリ。然レドモ取引所仲買人ハ其委託者ノ計算ニ於テスル場合ト自己ノ計算ニ於テスル場合トハ必ず自己ノ名ヲ以テ取引所ニ於テスル取引ヲ爲スコトヲ要スルモノナルガ故ニ自己ガ自己ト賣買スルハ法律上不能タルコト明瞭ニシテ從テ「バイカイ」ノ無効ナルコト亦明瞭一點ノ疑ヲ容レズ。是レ余ノ前判例ニ對スル批評ニ於テ論述セル所ナリ。上掲セル第一判決（大正五、六、二六判決）ハ無効説ヲ採リタルモ其論據ハ不幸ニシテ余ト同一ナラズ。却テ「バイカイ」ハ競賣買ノ性質ヲ缺如スルガ故ニ無効ナリトセリ。之ニ反シ第二（大正五、一一、一四判決）及第三判決（大正六、四、九判決）ハ競賣買ト解スベキガ故ニ有効ナリトセリ。余ヲ以テ觀ルニ「バイカイ」ノ競賣買タルヤ否ヤヲ抑モ未ナリ。既ニ法律上ノ賣買取引トシテ存在スルコトヲ得ズ。安ソ競賣買タルコトヲ得ムヤ。其競賣買タルヤ否ヤヲ爭フハ猶天ニ登リテ日月ヲ捉フル契約ガ請負タルヤ否ヤヲ議スルガ如ク蓋シ無用ノ論ナリ。：「バイカイ」有効論ハ現行法ノ解釋論トシテ之ヲ支持スベキ根據毫モ存在セザルナリ。然レドモ小口落及ビ「バイカイ」ノ盛行ハ必ズシモ其理由ナシトセズ。抑モ我現行取引所法ノ精神ハ仲買人ヲ以テ取引所ニ於テスル取引ノ形式上ノ當事者トスルト同時ニ其取引ノ結果ヲ舉ゲテ全部委託者ニ歸セシムルニ在リ。是レ取引ノ經濟的實質の當事者ヲ委託者自身トスルノ趣旨ナリ。換言スレバ仲買人ヲシテ法律上ハ問屋タルモ經濟上ハ仲立人タラシムルニ在リ。然ルニ實際ノ傾向ハ寧ロ仲買人ヲシテ經濟上ニ於テモ亦問屋タラシムルコトヲ要求セリ。是レ小口落及ビ「バイカイ」ノ如キ變則的行爲ノ發生シタル所以ナリ。而シテ既ニ小口落ヲ是認スル以上ハ立法論トシテ吞行爲ヲ是認スベカラザルノ理由毫モ存在セズ。蓋シ二者間ニ實質上ノ差異ナケレバナリ。故ニ立法論トシ

テハ余ハ仲買人ノ地位ヲ向上セシメ其信用ヲ増進スル手段ヲ講ズルト同時ニ之ヲ純粹ノ問屋ト認メ且吞行爲ヲ公認スルヲ可トス（私法論文集三卷四四九、商法判例批評錄三〇一）

東京地 取引所令第十一條第二項ニ所謂競賣買ハ「バイカイ」附出ノ方法ヲモ包含セシメタル法意ナリト解スルヲ相當トス（大正五年ワ三四二號「定期米賣買不足金請求事件」同六、五、一七民二判決一新聞一二七二號二四、判例二卷民六五四、七五九）

*判決理由一八〇二頁參照

東京地 所謂「バイカイ」附出ノ方法ニ依ル取引モ亦取引所令第十一條第二項ニ所謂競賣買ニ當ルモノト解スルニ於テ何等ノ妨ケナキヲ以テ假ニ被告ノ爲シタル右取引カ所謂「バイカイ」附出ノ方法ニ據リタルモノトスルモ敢テ之ヲ以テ無効ナリトスル能ハス（大正五年ワ一三九九號「證據金返還請求事件」同六、五、三一民二判決一判例二卷民八〇一）

*判決理由一八五七頁參照

大阪地 所謂「バイカイ」ノ方式ニ依ル取引ハ株式ノ仲買人カ市場ノ公定相場ヲ以テ同一帳入期間内ニ同月限同數量ノ株式ニ付自ラ賣手買手トナリテ之ヲ取引所ノ場帳ニ記入セシメテ即日相殺スル方式ノ取引ニシテ取引所ニ於ケル適法ナル定期取引ナリ。從テ委託者ハ反證ナキ限り仲買人カ此方法ニ依リテ取引スヘキコトヲ知リテ委託ヲ爲シタルモノト推定スヘキモノトス（大正三年ワ三八二號同七、二、二民三判決一判例三卷民六九六）

東京控 同一仲買人カ取引ノ相手方ヲ缺ク場合ニ於テ取引所市場ノ閉鎖前其場節ニ於テ相異リタル仲買人間ニ競定セラレタル一ノ約定値段ニ從ヒ若クハ其場節ニ於ケル公定相場ニ從ヒ自ラ提出シタル賣若クハ買ノ相手方トナリ委託ヲ受ケタル賣買ヲ成立セシムルハ其結果ニ於テ相異リタル仲買人間ニ成立シタル競賣買ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキモノニシテ取引所令第十一條ニ所謂競賣買ノ

取引所令第十一條ニ於テ所謂競賣買トハ買ノ相手方トナリ委託ヲ受ケタル賣買ヲ成立セシムルハ其結果ニ於テ相異リタル仲買人間ニ成立シタル競賣買ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキモノニシテ取引所令第十一條ニ所謂競賣買ノ

バイカイノ方式ニ依ル取引ニ依リ（バイカイ有効説）

舊取引所令第十一條ニ於テ所謂競賣買トハ買ノ相手方トナリ委託ヲ受ケタル賣買ヲ成立セシムルハ其結果ニ於テ相異リタル仲買人間ニ成立シタル競賣買ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキモノニシテ取引所令第十一條ニ所謂競賣買ノ

取引所令第十一條ニ於テ所謂競賣買トハ買ノ相手方トナリ委託ヲ受ケタル賣買ヲ成立セシムルハ其結果ニ於テ相異リタル仲買人間ニ成立シタル競賣買ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキモノニシテ取引所令第十一條ニ所謂競賣買ノ

一ノ約定値段ニ從ヒ若クハ其場節ニ於ケル公定相場ニ從ヒ自ラ提出シタル賣又ハ買ノ相手方トナリ賣買取成立セシムルハ亦取引所令第十一條ニ所謂競賣買ノ方法ナリト説明シアリテ約定値段ニ依リテ「バイカイ」ヲ爲ストキハ執レノ場合ニ於テモ有効ナルモノノ如キ口吻アルハ措辭妥當ヲ缺ケルモ原判決ノ趣旨ハ茲ニアラサルコト前掲説明ニ依リ明カナルヘケレハ原判決ハ上告人所論ノ如キ不法アルモノニアラス。而シテ公定相場トハ當日ノ約定値段ヲ平均シテ公示シタルモノナルコト取引所法施行規則第十八條ニ依リ明カニシテ原判決ノ認メタル事實ニ依リテ之ヲ爲ハ他ノ仲買人トノ間ニ定マリタル約定値段ニ依リテ「バイカイ」ヲ爲シタルモノニシテ右ノ公定相場ニ依リテ之ヲ爲シタルニアラサルヲ以テ原判文中公定相場ニ關スル説明ハ無用ノ贅文ヲ附加シタルニ過キス。故ニ其説明中ニ不法ナル廉アリトスルモ主文ニ影響セサルヲ以テ之ニ對スル論旨ハ原判決ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス。上告人ハ被上告人ノ爲シタル「バイカイ」ハ市場閉鎖後態ニ附出シタルモノナリト論スレトモ原判決ニハ右「バイカイ」ハ上告人(控訴人)主張ノ如ク市場ノ閉鎖後態ニ仲買人ノ利益ノ爲メニ撰マレタル値段ニ從ヒ場帳ニ附出シタルモノニアラスト説明シアリテ上告人ノ主張ハ排斥セラレタルヲ以テ其所論ハ徒ラニ原院ノ認定ヲ攻撃スルニ外ナラサルモノトス。又原判決ハ被上告人ノ爲シタル買建又ハ賣建ノ内「バイカイ」ニ係ル部分ト然ラサル部分トヲ一箇ノモノトシテ同時ニ提出シ競賣買ヲ完結シタリト認定シタルニアラサルヲ以テ上告人カ此等ヲ一箇ノ取引トシテ同時ニ完結シタリト論スルハ原判決ヲ誤解シテ攻撃スルニ過キサルモノトス。尙原院ハ證人小林要ノ證言ニ依リテ被上告人ノ爲シタル二百石ノ買付及ヒ千八百石ノ賣埋ハ「バイカイ」ノ方法ニ依リタルモノナルコトヲ認メ此事實ト甲第四號證トヲ綜合シテ同證ニ一口トシテ記載シタル四百石ノ買付及ヒ二千石ノ賣埋ハ「バイカイ」ノ方法ニ依リタルモノト然ラサルモノトヲ包含スルコトヲ認定シタルモノナレハ其認定ハ不法ニアラス。上告人ノ甲第四號證ニ關スル論ハ原院ノ證據解釋ヲ非難スルモノナレハ採ルニ足ラス。又上告人ハ約定値段ニ依リ「バイカイ」行ハルトセハ約定値段不當ナレハ不當ナル約定値段ニ依リ多數ノ「バイカイ」行ハルヘシト論スレトモ本件ニ於テ約定値段不當ナルコトハ原判決ノ認メサル所ナレハ其所論ハ原判旨ニ副ハサルモノトス。仍テ上告論旨ハ執レモ理由ナシ。(大正八年オ五二七號「定期米賣買不足金請求ノ件」同八、一二、二五民二判決—民錄二五輯二三六八、彙報三二卷上民六二〇、新聞一六六六號一九、評論九卷諸一五)

*原審—東京控、大正八、五、三〇民三判決(前掲)

竹田 省博士 大審院ハ立會中ノ「バイカイ」ハ始メヨリ之ヲ有効ナル競賣買トシ、附出「バイカイ」ニ就テハ曲折ヲ經テ遂ニ之ヲ有効ナル競賣買ナリトスルニ至リタリ。然レドモ大審院ハ本問題ヲ解決スルノ的確ナル標準ハ遂ニ之ヲ發見セザルモノノ如ク唯僅カニ必要上之ヲ認メザルベカラズト云フニ過ギズ：「吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ所謂「バイカイ」問題ハ商法第三一七條即ち問屋ノ介入權ノ問題ニシテ而シテ恰モ此規定ノ適用ニヨリ「バイカイ」ハ取引所令ニ所謂競賣買タルヲ得ベク、又其有効ナル競賣買タルモノナリヤ否ヤノ標準モ一ニ同條規定スル介入權行使ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤニ存スルモノニシテ而カク難解不明ノ問題ニ非ズ：「商法第三一七條ニ依レバ問屋ハ所謂介入權ヲ有シ其委託セラレタル賣買ニ就キ一定ノ要件ノ下ニ自ラ賣主又ハ買主トナルコトヲ得。而シテ取引所ノ仲買人ハ法律上問屋タル性質ヲ具備スルガ故ニ亦自ラ商法第三一七條ノ適用アリ。同條所定ノ要件ノ下ニ於テ其委託セラレタル賣買ニ就キ自ラ買主又ハ賣主トナルコトヲ得ベク所謂「バイカイ」ヲ爲スハ即チ介入權ノ行使ニ外ナラズ(本書一九一頁參照)：「此ノ解釋ノ結果トシテ「バイカイ」ガ法律上有効ナルガ爲メニハ亦商法第三一七條ノ規定ニ從ヒ介入ニ必要ナル要件ヲ具備スルコトヲ要スルハ當然ニシテ此ノ見地ヨリ從來ノ判例ヲ觀ルトキハ理論ハ兎モ角結果ハ皆之ヲ是認スルコトヲ得ベシ：「本件事實ノ下ニ於テハ自ラ所謂任意處分トシテ前ト反對ノ賣買ヲ爲シ以テ委託ニ基ヅキ爲シタル取引ヲ消滅セシムルハ果シテ適法ナリヤ否ヤノ問題ヲ生ズベシト雖モ、恐ラク此ノ權利ハ商法第三一八條第二八六條等ニ類似スル一種ノ自助權ニシテ約定又ハ慣習上ノモノト解スルノ外ナカルベク此ノ點ハ案件ニ於テ爭點トハナリ居ラズ。次ニ右ノ如キ自助權アリト假定シ自助ノ爲メノ賣買ニ就キテモ仲買人ハ介入ヲ爲スコトヲ得ベキヤ否ヤ。既ニ述ベタル如ク委託セラレタル賣買ニ就キテハ商法第三一七條ノ規定ニヨリ仲買人介入權ヲ有スト雖モ此事ヨリシテ茲ニ論ズル場合ニモ當然介入權アリトスルヲ得ズ。何トナレバ茲ニ論ズル場合ノ賣買ハ仲買人ノ自助トシテ之ヲ爲スモノナル以上委託ニ基ヅク賣買ニ關スル規定ヲ以テ當然之ニ適用スルヲ得ザレバナリ。而シテ本判決ハ稍明確ヲ缺クト雖モ仲買人ハ自助ノ爲メニスル反對賣買ニ就キテモ亦介入ヲ爲スヲ得ルヤノ點ヲ決シタルモノニ非ズシテ、寧ロ介入ヲ爲スヲ得ベキコトヲ前提トシ唯案件ノ方法ニ於ケル介入モ適法ナル介入ト認ムルヲ得ベキヤノ點ヲ決シタルモノト解スルヲ至當トスベシ：「自助ノ爲メニスル賣買ニ就キテモ仲買人ハ委託賣買ニ對スルト同一ノ介入權ヲ有スルコトノ前提ノ下ニ於テハ本判決ノ結果ハ當否頗ル疑ハシク寧ロ案件ノ介入ハ不當トスルヲ至當トスベシ：「仲買人ノ介入ハ取引所ノ客觀的相場ニ依ルヲ要シ、而モ此點ハ仲買人ガ委託者ノ利益ヲ犠牲トシテ自己ノ利益ヲ追フコトヲ防遏スルガ爲メニ認メラルル絕對的規定ナリトス。而シテ案件ノ場合ニ於テハ仲買人ハ他ニ數組ノ委託者ニ利益ナル賣買價格成立シ居リタルニ拘ラズ其價格ニ依ラズ寧ロ自助ノ

爲メニ爲シタル賣買ノ中眞ニ競賣買ニヨリテ成立シタル一部ノ賣買ノ價格ニヨリ介入ヲ爲シタルモノノ如ク本判決ハ此場合ニ於ケル其一部ノ賣買價格ハ他ノ仲買人ニヨリテ認メラレタル相當ノモノト謂ヒ得ベキコトヲ理由トシテ介入ヲ適法トスルモノニ外ナラズ然レドモ此理論ヲ是認スルトキハ仲買人ハ結局既定ノ價格中自己ニ利益ナル價格ヲ選ミテ介入ヲ爲スヲ得ルコトナリ介入ハ客觀的價格ニヨリテノミ之ヲ爲スヲ要ストスルノ趣旨ハ蹂躪セラレベシ：立會中ノ介入ナラバ兎モ角、事後ノ附出ノ場合ニ於テハ仲買人ハ別ニ成立シタル數箇ノ價格中其孰レヲモ選擇スルヲ得ベキ事實上ノ自由ヲ有ス而モ仲買人ハ一方委託者ニ對シテハ受任者トシテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委託事務ヲ處理スルノ義務ヲ負フガ故ニ右ノ如ク價格ノ選擇ヲ爲スヲ得ベキ場合ハ別段ノ事情ナキ限り委託者ニ最モ利益ナル價格ニヨリテ取引ヲ爲スベキハ當然ニシテ從テ其他ノ價格ヲ以テセル介入ハ委託者ニ於テ正當ナル介入トシテ之ヲ承認スルコトヲ拒否スルヲ得ルモノト解セザルベカラズ以上ハ既ニ述ブルガ如ク案件ノ介入モ委託賣買ニ於ケル介入ト同一ニ論ズベキコトヲ假定シテノ議論ニシテ此點ニシテ動搖スル以上ハ結論モ亦動搖セザルヲ得ズ吾人ノ想像スル所ニヨレバ恐ラク取引所ノ取引ノ慣行トシテ所謂任意處分ニヨル賣買ニ就キテモ亦介入ヲ許スモノナルベク而シテ既ニ介入ヲ許ス以上ハ其要件モ自ラ委託賣買ニ對スル介入ニ從フモノト解スルヲ至當トスベシト雖モ此ノ點ハ尙ホ實際ノ事情ノ精査ニ俟ツベキハ勿論ナリトス(法學論叢六卷二號二四七)

朝高法院 朝鮮ニ於テ米穀ノ延取引ヲ行フ所ノ組合其ノ他ノ市場ニ於テハ一般ノ取引所ニ於テ行ハルル所謂「バイカイ」附出ノ方法ニ類似スル取引ノ行ハルル慣習アリ朝鮮ニ於テ米穀仲買業者ハ委託ヲ受ケタル米穀ノ延取引ニ付所屬ノ市場ニ立會ヒ取引物件ニ付或値段ヲ唱ヘテ賣リ又ハ買ハムトスルモ他ノ仲買中之ニ應スル者ナキ爲自ラ其ノ賣買ノ相手方ト爲リテ取引ヲ爲サムト欲シ且市場ノ監督者及立會中ノ仲買人之ニ異議ヲ唱ヘサルトキ自ラ其ノ賣買ノ相手方ト爲リテ取引ヲ成立セシムルコトヲ得ルハ從來行ハレタル慣習ニシテ其ハ法タル効力ヲ有スルモノトス(大正二四、二、二〇判決—朝高錄一二卷民七、朝鮮高等法院判例要旨類集追錄民一五一)

大審院 仲買人力取引所ニ於テ客ノ注文ヲ履行スルニ當リ所謂小口落若クハ「バイカイ」等ノ方法ニ依リテ賣買ヲ決濟スル如キハ其取引所トノ關係ニ於テ取引ヲ結了スルニ止マリ仲買人ト客トノ

朝鮮ノ米穀
延取引ニ於
テ行ハルル
バイカイ附
出ノ方法ニ
類似スル取
引

委託賣買
行ノ證明ナ
キバイカイ

取引目ノ
責任

關係ニ於テハ取引所ニテ行ヒタル賣若クハ買力客ノ注文セル賣建又ハ買戻ヲ實行シタルコトノ證明セラレサル限り仲買人ハ客ニ對シテ不履行ノ責ニ任セサルヘカラサルモノトス—判決錄要旨(大正四年才九七四號「計算金並證據金請求ノ件」同五、四、二九民三判決—民錄二二輯五〇三、新聞一二二九號一一、同一二三三號二八、最近一八卷一五、評論五卷諸一六五、判例一卷民一八六)

* 判決理由—八三五頁參照

第五章 建玉ノ小口落

小口落ニ關スル業務規程ノ規定

大株業務規程 第三十八條 取引員反對賣買ヲ爲シタルトキハ特ニ申告ナキ限り之ヲ決濟ノ爲メ爲シタルモノト看做シテ其損益ヲ計算シ損失アルトキハ其金額ヲ本所ニ納入セシメ利益アルトキハ本所之ヲ立替支拂フモノトス
前項ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テ決濟スヘキ建玉ハ其取引員ノ建玉中日時ノ順位ニ依ルモノトス但一計算區域内ニ於ケル反對賣買ニ付テハ日時ノ順位ニ依ラス當日ノ賣ト買ト相殺スルモノトス

一 計算區域内ニ於テ反對賣買ヲ爲シタルモノニシテ其値段ノ同一ナル分ニ限り各自ノ約定値段ヲ以テ決濟スヘシ
第二十二條第一項本文ノ場合ニ於テ價格ノ異ナルモノハ後ノ價格ヲ標準トシテ假ニ差金ヲ授受スルモノトス
兩建玉ノ一方ヲ反對賣買ニ依リ決濟シタルトキハ殘存セル對當玉ノ帳入値段ヲ當日ノ帳入値段ニ引直シ假ニ差金ヲ授受スルモノトス

東株業務規程 第四十四條 取引員長期取引ニ付轉賣買戻ヲ爲シタル場合ニ於テ本所ハ取引員ノ計算上利益トナル建玉ヨリ順次之ヲ相殺スルモノトス但取引員ヨリ指定アリタルトキ及一計算區域内ノ轉賣買戻ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

大株業務規程 第四十二條 短期取引ニ於テ反對賣買ヲ爲シタルトキハ特ニ申告ナキ限り決濟ノ爲メ爲シタルモノト看做シテ之ヲ處理スルモノトス此ノ場合ニ於テハ一計算區域内ニ於ケル反對賣買ハ當日ノ賣ト買トヲ以テ相殺シ繰延玉ニ對スル反對賣買アルトキハ其翌日ニ於テ對當數量ヲ決濟スルモノトス

東株業務規程 第四十六條ノ五 短期取引ニ於ケル賣買對當數量ハ取引員ヨリ特ニ申出ナキ限り之ヲ相殺計算ニ付スルモノトス
第四十六條ノ六 取引員委託ニ因リ清算取引ヲ爲シタル場合本所ト取引員トノ關係ニ於テ其ノ賣買玉カ相殺セラレタルトキハ取引員ハ長期取引ニ在リテハ委託者ヨリ轉賣買戻ノ申込ヲ受ケタルトキ又ハ受渡期日前ニ於テ短期取引ニ在リテハ繰延玉ノ反對賣買又ハ受渡ノ申込ヲ受ケタルトキニ於テ更ニ賣付又ハ買付ヲ爲シテ委託者トノ關係ヲ完了スルモノトス

事務局長通牒 期月終了後ニ於テ其ノ期月ノ小口落玉アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ取引所ニ附出スコトヲ得ルヤ否ヤ竝ニ此ノ場合身元保證金ノ返還時期如何ニ關シ疑義伺出ノ向モ有之候處左記ノ通り解釋スヘキモノト被

期月終了後ノ小口落玉

思料候條此段及通牒候也(大正一三、二、二五―商二二號)

記

- 一、取引員ハ小口落玉ニ付其ノ期月最終賣買日迄ニ取引所ニ附出スヘキモノニシテ其ノ期月終了後ニ於テハ何等ノ方法ヲ以テスルモ之ヲ處理スルノ途ナシ
- 二、取引員タル資格ヲ失ヒタルモノニシテ取引所ニ於ケル賣買玉ノ存スルモノナク既ニ期月ヲ經過シタル小口落玉ヲ有スルノミナル場合ニ於テハ其ノ者ノ取引所ニ於ケル取引ハ既ニ結了セラレタルモノトシテ身元保證金ハ其ノ者ト取引所間ノ計算完了後業務規程ニ從ヒ返還スヘキモノナリ

小口落問題ノ沿革

藤田國之助氏 小口落ハ各取引所ニ於テ久シク慣行シ來タツタ所デアツテ、夙ニ大審院判例ニ於テモコレヲ是認シ(明治三四〇一、同三四、五、四民一判決 明治三七〇四七、同三七、五、三一民一判決 明治三七〇六四一、同三八、五、二三民一判決)又政府ハ夙ニ議會ニ於テ小口落ハ永年ニ亘ル取引所ノ慣行デアツテ取引所法令ニ牴觸セズ、從ツテコレヲ禁止スル意思ナキコトヲ表明シタ 然ルニ大正七年寺内閣時代仲小路農商務大臣ハ當時ノ米價暴騰ヲ以テ、米穀取引所ニ於ケル仲買人ノ買戻リニ因ルモノデアルトシタ 即チ客ハ大體ニ於テ賣方デアルニ拘ラズ、仲買人ハ結束シテコレニ買向ヒ、所謂「客殺シ」ヲヤツテキル シカモカクノ如ク仲買人ガ客ニ買向ヒコレヲ壓倒シ得ル所以ノモノハ、畢竟小口落ノ慣行ニ依ツテ仲買人ガ客ノ差入レタ委託證據金ヲ自己ノ賣買證據金ニ流用スルコトヲ得ルカラデアル 故ニ米價調節ノ必要ガナクテモカカル弊風ハコレヲ矯正スベキモノデアルトシタ ソコデ仲買人ハ委託者ガソノ委託契約上ノ債務ヲ履行シナイ場合ヲ除キ、委託者ノ注文ニ依ル定期取引ノ建玉ヲ委託者ノ指圖ニ依ラズシテ轉賣又ハ買戻スルコトヲ得ズ、又取引所ハ定期取引ノ兩建玉ニ付イテ賣買證據金ヲ減免スルコトヲ得ナイ趣旨ノ規定ヲ取引所令ニ追加シタ シカシ小口落禁止ハ取引所ニ於ケル建玉ノ整理計算ヲ非常ニ複雑ナラシメルコト等ヲ理由トシテ取引所ハ猛烈ナル反對運動ヲ起シ、ソレガ奏効シテ、大正九年ニ至リ政府ハ取引所令ヲ改正シテ小口落ノ制度ヲ復活シ、以テ今日ニ至ツテキル(取引所論二五八)

商工局長 岡 實氏 小口落ハ我邦取引所ノ永クヤリ來タツタ所ノ一ツノ慣行デアツテ、所謂水續慣行ト稱フベキ所ノ一ツノ方法デアル 政府ハ過去ニ於テ此慣行ヲ認メ來ツタノデアル 而シテ此慣行ノ因ツテ生ジタ理由ハ何レニアアルカト言フト、即チ仲買人ハ取引所ニ對シテハ自己ノ名ヲ以テ賣買ヲ行ヒ且ツ其責任ハ客ヲ離レテ自分ニ歸屬シテ居ルモノデアルト言フ規定ニ基ツク 取引所ノ側ニアツテモ亦同一仲買人ガ債權債務ヲ混同シタ場合ニハ此二ツノモノヲ落シテシマフト言フコトヲヤツテ居ツタ 是ニ對スル

大正三年當時ノ當局ノ意向

司法裁判所ノ判決ニ依ツテモ亦此慣行ヲ否認ハシテ居ラヌ 今回ノ改正ヲ行フニ當ツテ此點ニ付テ相當ノ注意ヲ拂ツタノデアルガ大凡市場ニ存在シテ居ル事柄ト言フモノハ凡テ實際ノ必要カラ起ツタ事柄ガ多イ 之ニ對シテ行政權ヲ以テ一朝ニシテ根本的革新ヲ加ヘルト言フコトハ餘程慎マナケレバナラス 小口落ハ相當ノ利モアリ又一面ニ於テ害モナキニアラズ 之ヲ如何ニスベキカト言フコトハ今後朝野共ニ考ヘナケレバナラス問題デアルト思フケレドモ、今政府ハ此モノヲナクシテシマフト言フ考ハナイ 而シテ仲買人ガ證據金ヲ融通スルコトニ因ツテ生ズル危險ヲ防グト言フコトハ餘程困難ノ場合ガアル 客ノ中ニモ隨分惡イノガアツテ仲買人ニ損耗ヲ與ヘルコトガアル 併シナガラ時トシテハ仲買人ガ客ニ依ツテ利益スル所ガナクテハ商賣ガ成立タナイ 即チ小口落ニ依ツテ玉ガ落チテ居ルニ拘ラズ仲買人ガ其證據金ヲ占有スルガ如キハ其一例デアル 仲買人ハ之ヲ返スコトハ自由デアル 又客モ特別ニ斯カル場合ニハ返シテ呉レト申込ソレヲ受取ツテモ差支ナイノデアル 大體仲買人ガ客カラ受クル證據金ナルモノハ、客ニシテ信用アリ名望アリ資産アル人デアレバ、仲買人ハ一文ノ證據金ヲ受ケズトモ尙自分ノ資金ヲ融通シテ場ニ上セルノデアル 又實際客ガ資力ナキ信用ナキモノト考ヘタ場合ニハ高キ證據金ヲ取ツテモ尙且ツ其客ヲ謝絶スルコトモ出來ル 或客ニ對シテハ證據金ヲ取り、或客ニ對シテハ僅ニ取り、又或客ニ對シテハ多ク取ル 又ソレヲ取ツタ以上ハ仲買人ガ融通スルト言フコトハ已ムヲ得ナイコトト思フ 又融通スルコトガ何等罪惡デアルト言フコトハ言ヘナイト思フ 結局問題ハ小口落ト言フコトハ事實胚胎シテ居ルノデアルガ、私ノ唯今言ツタ要點ハ小口落ヲ禁ズルノ意思ナシ 而シテ證據金ヲ仲買人ガ融通スルト言フコトハ事實トシテ已ムヲ得ナイ 而シテ此證據金ヲ融通スルコトモ契約ノ自由範圍ニ於テ政府ハ之ヲ禁ズルノ意思ナシ 斯ウ言フコトニ歸着スル(大正三年第三一議會衆議院委員會—速記集上三三一)

商工局長 岡 實氏 小口落ハ即チ債權債務ガ同一ニ混同シタ場合ニ落スノデアルガ、此ノ事ハ毫モ不適當ナモノデハナイ 而シテ之ヲ場ヘ出ス以上ハ即チソレニ依ツテ取引所ノ對數賣買ノ上ニ現ハレルノデアル ソレニ依ツテ十分取引所ノ作用ヲ爲シ得ルモノト政府ハ認メテ居ル(大正三年第三一議會衆議院委員會—速記集上三六五)

大正七年ノ小口落禁止令

舊令第十一條ノ二(大正七、六) 仲買人ハ委託ヲ受ケタル定期取引ニ付其ノ委託者ノ指圖ニ依ラスシテ轉賣又ハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業細則ノ定ムル所ニ依リ提供スヘキ證據金又ハ受渡物件若ハ受渡代金ヲ仲買人ノ請求アルニ拘ラス委託者ニ於テ提供セサルトキハ此ノ限ニ在ラス
舊令第十一條ノ三(大正七、六) 前條ノ規定ニ違反シテ轉賣又ハ買戻ヲ爲シタル仲買人ハ取引所之ニ三月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

舊取引所法施行規則ノ解釋

舊令第十一條ノ四(大正七、六) 定期取引ニ付證據金ヲ納メシムル取引所ハ同一仲買人ノ賣付ト買付トカ對立スルノ故ヲ以テ證據金ノ減額又ハ免除ヲ爲スコトヲ得ス
* 右各條ハ大正九年六月勅令第百八十二號ヲ以テ改正サレ小口落ノ制度復活ス
舊令第十一條ノ二(大正九、六) 仲買人ハ其取引所ニ於ケル定期取引ノ賣建及買建ノ各數量ヲシテ委託者カ取引所ニ存續スヘキコトヲ指定シタル數量ヨリ下ラシムルコトヲ得ス

名古屋控

前示取引所法施行規則(同規則第二十條ノ六(明治三十五年農商務省令第十三號追加))
ハ明治二十六年勅令第七十四號第十三條第一項第四號ニ株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法トアルニ胚胎シ發布セラレタルモノナレハ前示取引所法施行規則第二十條ノ六ニ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定ス可シトアル文詞ハ被控訴人(仲買人)ノ見解ノ如ク賣買者ノ賣買ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シテ之カ相殺ヲ爲シ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定ス可シトノ意ニシテ賣買者ノ相殺ノ届出ニ依リト解釋スヘキニ非サルコトハ右勅令省令ノ比較解釋上一點ノ疑ナキ所ナリ(明治三十八年子二三〇號「立替金及口錢請求事件」同三九、一、二九民二判決—新聞三五二號八)

- * 舊令第二十條ノ六(明治三五、六) 取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用キントスルトキハ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定スヘシ
- * 舊令第十三條(明治二六、七) 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得
- 四 契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法
- * 舊令第十三條(明治三五、六) 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得
- 四 株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法

ケタル轉賣ヲ適法ニ履行シタリト謂フヲ妨ケス

(判決理由) 證人笠原孝太郎ノ供述ニ依レハ二月二十六日ノ買付建玉ハ四月二十七日ノ轉賣以前ニ於テ已ニ全部賣埋ニヨリ手仕舞トナリタルモノニシテ右四月二十七日ノ轉賣ハ他ノ買建ヲ賣埋メタルモノナルコト明カナルヲ以テ或ハ控訴人ハ被控訴人ヨリ轉賣ノ委託ヲ受ケル以前擅ニ其買建ヲ賣埋メタルモノナレハ右四月二十七日ノ轉賣ハ委託ノ本旨ニ從ヒタル履行ト云フヲ得サルニアラヌヤトノ疑ナキヲ保シ難シ 然レトモ仲買人ハ其何人ノ注文ニ基クテ問ハス委託者又ハ自己ノ爲メニ自己ノ名義ト責任トヲ以テ取引所ノ市場ニ於テ取引ヲ爲スヘキモノニシテ取引所對仲買人ノ關係ニ於テハ客ノ甲タルト乙タルトヲ顧ルノ必要ナキヲ以テ同一ノ仲買人カ爲シタル同一銘柄ニ關スル同一限月ノ賣ト買トハ其各委託者カ同一ノ人ナルト別異ノ人ナルトニ拘ラス仲買人ニ於テ特ニ兩建ノ申出ヲ爲ササル限リ日附ノ最モ舊キモノヨリ順次相殺シテ取引所對仲買人ノ關係ヲ決濟スル所謂小口落ナル方法カ東京株式取引所ニ於テ行ハレツツアルコトハ當裁判所ニ顯著ナル所ニシテ斯ノ如キ方法ハ毫モ違法ニアラサルヲ以テ本件被控訴人ノ委託ニ基キ控訴人ノ取引市場ニ於テ買建テタル玉カ賣埋當時迄建玉トナリ居ラサリシモ亦右ノ所謂小口落ノ方法ニヨリテ決濟セラレタルモノト認ムルヲ相當トスヘク而シテ其後ニ至リ控訴人カ被控訴人ノ委託ニ基キ取引所ノ市場ニ於テ轉賣ヲ實行シタル以上ハ其轉賣セラレタル玉カ偶囊ノ委託ニ基ク買付ノ建玉ニアラサリシトスルモ之カ爲メニ毫モ委託者タル被控訴人ニ利害ノ影響ヲ及ホスヘキモノアラサルヲ以テ委託ヲ受ケタル轉賣ヲ適法ニ履行シタリト謂フヲ妨ケス 以上說明シタル如ク控訴人ハ被控訴人ノ委託ニ基キ取引所市場ニ於テ本訴株式買付及其轉賣ヲ實行シタルモノニシテ即チ本訴委託契約上ノ仲買人タル義務ヲ完全ニ履行シタルモノナルヲ以テ被控訴人カ控訴人ニ對シテ爲シタル解除ノ意思表示ハ其効力ヲ生セサルモノト云ハサルヘカラス(大正五年レ一七九號)證據返還請求控訴事件」同五、一一、四民二判決一判例一卷民一一九二)

小口落ノ効力即日落ノ効任關係ト委

小樽區 小口落又ハ未入落ノ方法ニ依ル決濟ノ結果委託者ハ其知ラサル間ニ取引所ニ對スル擔保ノ利益ヲ喪失スルニ至ルモノニシテ其意思ニ反スルコト甚シク該決濟ハ洵ニ委託者ニ對スル背任違信ノ行爲ナリ」委託者カ初ヨリ小口落ノ行ハルヘキコトヲ承認スルコトアリトスルモ仲買人ハ小口落ヲ爲シタル結果後日取引所以外ニ於テ委託者トノ間ニ計算ヲ終了スルコトトナリ其計算ハ取引所ニ現出セサルヲ以テ此ノ點ニ於テハ取引所法ノ要求スル徵稅ヲ爲スコトヲ困難ナラシムルニ至ルヘク固ヨリ法ノ精神ニ違背スルモノナリ (大正六年刑六七三號「取引所稅法違反被告事件」大正七、一一、五判決)

新聞一四九三號一五、評論八卷諸一五一、判例四卷刑一三三

*判決理由一〇八八頁參照

即日落ノ効力即日落ノ効任關係ト委

大阪控 即日落ハ取引所ト仲買人トノ間ニ於ケル決濟方法トシテ違法ナリト謂フヲ得ス 又委託者ノ委託ノ本旨ニ反シタリト謂フヲ得ス

(判決理由) 仲買人ハ一方ノ客ヨリ買注文ノ委託ヲ受ケタル場合ト雖モ他ノ一方ノ客ヨリ之ト正反對トナル賣注文ノ委託ヲ受ケ得ヘキハ勿論自己ノ計算ニ於テモ亦定期取引ヲ爲シ得ヘキカ故ニ本件ニ於テ當事者間ニ爭ナキカ如ク控訴人(委託者)ノ買注文カ場ニ立チタル際被控訴人(仲買人)ハ各同單價ニテ賣注文ヲ爲シタルハ違法ニ非ス 又大阪株式取引所ノ如キ株式組織ノ取引所ニ於ケル定期取引ハ必ス競賣買ニヨル事ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ其所謂競賣買トハ取引市場ニ於テ賣方買方ノ雙方ニ競爭スル事ヲ許ス賣買ヲ謂フモノニシテ事實上競爭ノ行ハレタル事ヲ要スル趣意ニ非ス 故ニ本件ノ如ク買注文ヲ其指値ニテ競賣買市場ニ出シタル以上他ノ仲買人ニ於テ競合ヲ事ヲ得ヘキカ故ニ被控訴人カ各同單價ニテ賣注文ヲ出シタルハトテ競賣買ニ非スト謂フヲ得ス 然リ而シテ同一仲買人ノ賣ト買トノ存スル場合ニハ兩建ノ指定ナキ限リ相殺スル慣習カ本件取引當時大阪株式取引所ト仲買人間ニ行ハレ居リタル事ハ當院ニ於テ顯著ナル事實ニシテ斯クノ如キ相殺ノ方法ハ取引所ト仲買人トノ間ノ一ノ決濟方法ナレハ此兩者間ニ於テハ其當時ノ法規上取テ失當ノ處置ナリト謂フヲ得サルカ故ニ當事者間ニ爭ナキカ如ク本件カ控訴人ノ委託ニ依ル買注文ト被控訴人ノ賣注文トカ即日相殺セラレタルハトテ取引所ト仲買人トノ間ニ於ケル決濟方法トシテハ違法ナリト謂フヲ得ス 而シテ斯クノ如キ場合ニ於ケル仲買人ト委託者トノ關係如何ト云フニ委託者カ仲買人ニ株式ノ定期取引ノ委託ヲ爲スハ委託當時ニ於ケル競賣買ニヨリ約定値段ヲ定メ置キ限月ニ至ル迄ノ間ニ轉賣買戻ヲ爲シテ其時ノ値段トノ差額ヲ取引スルカ又ハ限月ニ現物ヲ授受スルヲ目的トスルニアルカ故ニ即日相殺シテ建株ナキ事ト爲シ置クモ後日同注文者ヨリ轉賣若クハ買戻ノ申出アル時ハ新ニ賣付又ハ買付ヲ爲シ注文者トノ間ニ於テハ此賣付又ハ買付ニ依リ轉賣若クハ買戻ヲ爲シタルノ勘定ヲ爲シ又ハ限月ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲シ注文者ヲシテ其間建株ヲ維持シタルト同一ノ地位ニ在ラシムルヲ得ルカ故ニ即日相殺シタルハトテ委託ノ本旨ニ反シタリト謂フヲ得ス 又本件取引當時ノ法規ニモ違反セス(大正八年ネ一六四號「株式定期賣買委託損失請求事件」同八、一一、八民一判決一新聞一六二七號一九)

大阪控 仲買人ハ委託者ヨリ手仕舞ノ指圖ナキ限リ取引所ニ於テ建玉ヲ維持スヘク若シ此建玉カ委託者ヨリ手仕舞ノ指圖ナキニ拘ラス決濟セラルルニ至リタルトキハ之ヲ以テ委託ノ趣旨ニ反シタ

小口落禁止規定ニ違反セル順次落ト委任關係

ルモノト認ムヘキハ多言ヲ要セス

(判決理由) 被控訴人ハ帶谷傳三郎(被控訴人前主)ハ控訴人先代ノ委託ニ依リ計算書(十二)記載ノ大正九年二月十七日買建ノ千日土地株三十株ヲ同年四月二十九日轉賣シタルモノナル旨主張シ控訴人ハ右建玉ハ既ニ二月二十三日控訴人先代ノ委託ニ依ラスシテ轉賣セラレタルモノナルヲ抗爭スルニ付キ案スルニ控訴人先代カ係争買建株ヲ四月二十九日轉賣スヘキ旨委託シタルモノナルコトハ原審證人高林淺次郎及宮川伊三郎ノ證言ニ依リ窺知シ得ルモ原審證人島彌兵衛ノ證言ニ依レハ帶谷傳三郎カ大正九年二月十七日大阪株式取引所ニ於テ一株金百九十二圓ニテ買建ヲ爲シタル千日土地株五十株(十二)(十三)該買建株ニ該當スルハ同月十八日及十九日買建テタル千日土地株五十株ト共ニ同月二十三日轉賣セラレタルモノニシテ四月二十九日轉賣セラレタル千日土地株三十株ハ二月二十日買建タル五十株ノ内二十株ト二月二十四日買建タル十株ナルコトヲ認メ得ヘシ 又本件委託履行當時ニ於テハ大正七年勅令第二百二十九號ニ依リ仲買人ハ委託者ノ指圖ニ依ルニアラサレハ其建玉ノ手仕舞ヲ爲スコトヲ得サリシモノナル處當審證人樗木航五郎及石井履尾ノ證言並ニ甲第二十二號證ニ依レハ大阪株式取引所ニ於テハ主務省ノ認可ヲ得大正八年八月四日以來營業細則ニ於テ仲買人ハ取引所トノ關係ニ於テ決濟スヘキ建玉ハ特ニ之ヲ指定セサル限リ賣買日附ノ最モ舊キ建玉ヨリ順次決濟(所謂順次落)スルコトト爲シタルコトヲ認メ得ルモノ之レ單ニ仲買人ノ取引所トノ關係ニ於テ特ニ決濟スヘキ建玉ノ指定ナキ場合ノ取引完了方法ヲ定メタルニ過キスシテ仲買人ト委託者トノ間ニ於テハ右勅令ノ規定ニ從ヒ仲買人ハ委託者ノ指圖ニ依ラスシテ建玉手仕舞ヲ爲スヲ許サス 手仕舞ノ指圖ナキ限リ取引所ニ於テ建玉ヲ維持スヘキ處アル場合ニハ取引所ニ對シ他ノ決濟スヘキ建玉ヲ指定シテ右委託者ノ建玉ヲ保存スヘキ義務アリ 然ラスシテ其建玉カ委託者ヨリ手仕舞ノ指圖ナクシテ決濟セラルルニ至リタルトキハ之ヲ以テ委託ノ趣旨ニ反シタルモノト認ムヘキハ多言ヲ要セサル所ナリ 然ラハ帶谷傳三郎ノ係争建玉ハ委託ニ基キ控訴人先代ヨリ四月二十九日轉賣ノ指圖アル迄保存スヘキ義務アルモノナルニ拘ラス二月二十三日擅ニ順次落ノ方法ニ依リ轉賣シ消滅セシメタルモノナルヲ以テ四月二十九日爲シタル千日土地株三十株ノ轉賣ハ控訴人先代ノ手仕舞ノ委託ヲ履行シタルモノニアラサルハ明ナリ 故ニ帶谷傳三郎ハ控訴人先代ニ對シ計算書(九)(十二)(十四)(十五)記載ノ取引ニ基キ損失金ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノニアラス(大正三年ネ七〇六號「定期株式委託賣買計算金請求控訴事件」同一五、七、六民三判決―新聞二七三九號一、評論一七卷諸一、二) * 上告審―昭和二、七、六民三判決(次掲)

大審院 大正七年勅令第二百二十九號第十一條ノ二ノ法意ハ順次落利益落即日落等ノ方法ニ依リ

第十一條ノ所謂小口落禁止規定ノ法意ニ依リ建玉ノ消滅ト委任關係ノ終了

テ決濟セラレタル賣買取無効ナルモノトスル趣旨ニアラス 故ニ建玉ハ之ニ依リ取引所ニ對シテハ勿論客ニ對スル關係ニ於テモ亦消滅スルニ至ルモノニシテ假令右決濟ノ前後ニ於テ仲買人カ右建玉ニ相當スル他ノ建玉ヲ爲スモ之ヲ以テ彼ニ替フルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス 而シテ消滅シタル建玉ニ關スル賣買取付テハ委託當事者ノ契約履行ニ因ル損益計算ヲ爲シ得サルモノトス

(判決理由) 大正七年勅令第二百二十九號第十一條ノ二カ仲買人ハ委託ヲ受ケタル定期取引ニ付其ノ委託者ノ指圖ニ依ラスシテ轉賣又ハ買戻ヲ爲スコトヲ得スト定メタル所以ハ一方ニ於テ仲買人ニ對シ此ノ如キ轉賣又ハ買戻ヲ爲スヘカラサルコトヲ命シタルト共ニ他方ニ於テ從來仲買人ハ客ノ委託ニ係ル建玉ヲ必スシモ取引所ニ於テ維持スルコトヲ要セス仲買人ト取引所間ニ於テ之ヲ順次落利益落即日落等ノ方法ニ依リ他ノ賣買ト決濟消滅セシムルモ結局客ノ手仕舞玉ニシテ取引所ニ差出サレ或ハ客ノ注文ニ依リ買建玉ニ相當スル現物ノ受渡ヲ爲ストキハ當該賣買ハ終始委託ノ趣旨ニ副フモノト爲シタル慣行ヲ否定シ如上決濟方法ヲ以テ委託ニ係ル建玉ヲ消滅セシムルハ賣買委託ノ本旨ニ適セサルモノトシ之ニ副フカ爲ニハ建玉ハ必ス其ノ轉賣買戻ニ付委託者ノ指圖アル迄之ヲ取引所ニ維持スヘキモノト定メタルニ在リテ同法ノ法意ハ決シテ此ノ如キ方法ニ依リテ決濟セラレタル賣買取無効ナルモノトスル趣旨ニアラス 故ニ仲買人カ客ノ爲ニ爲シタル建玉ヲ其ノ委託ナキニ不拘順次落等ニ依リ他ノ取引ニ係ル賣買玉ト差引決濟シタル場合ニ於テハ委託ニ依ル建玉ハ取引所ニ對シテハ勿論客ニ對スル關係ニ於テモ亦消滅シ其ノ後客ヨリ手仕舞又ハ受渡ノ申出アルモ仲買人ハ其ノ注文ニ應スルコト能ハサルニ至ルモノニシテ假令右決濟ノ前後ニ於テ仲買人カ前示建玉ニ相當スル他ノ建玉ヲ爲スモ之ヲ以テ彼ニ替フルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス 果シテ然ラハ原判決カ本件ニ付順次落ニ依リ所論建玉カ他ノ賣買ト決濟セラレタル事實ヲ肯認シタル以上右建玉カ之ニ依リ消滅シ此ノ建玉ニ關スル賣買取付テハ委託當事者ノ契約履行ニ因ル損益計算ヲ爲シ得サルモノト論決シタルハ正當ナリ(大正一五年オ一〇六五號「定期株式委託賣買計算金請求事件」昭和二、七、六民三判決―彙報三八卷下民二七一、新聞二七二三號五、評論一七卷諸八、新報一一九號一一) * 原審―大阪控、大正一五、七、六民三判決(前掲)

即日落小口
落ノ効力ト
委任關係

大審院 大阪堂島米穀取引所ニ於ケル即日落小口落ノ慣習ヲ以テ取引所ノ法規又ハ公序良俗ニ反スル無効ノモノト做シ難クスル慣習ノ下ニ委託者ノ反對ノ指圖アラサル場合ニ取引員カ右慣習ニ依リ即日落小口落ノ方法ニ依リ取引所ヲシテ決濟ノ處分ヲ爲サシメタリトスルモ之ヲ清算取引委託ノ本旨ニ反スルモノト做シ得サルモノトス

(判決理由) 原審ノ確定シタル大阪堂島米穀取引所ニ於ケル清算取引ノ即日落小口落ナルモノハ同一取引員ノ取引所ニ於テ爲シタル賣ト買トヲ組合セテ決濟スル取引所ノ爲ス建玉整理ノ方法ニシテ委託者ト取引員ノ間ニ在リテハ之ニ依ルコトナク轉賣買戻ニ該當スル前ノ委託ニ依ルモノト反對ノ賣付又ハ買付ヲ爲スコトニ因リ決濟即チ手仕舞ヲ爲スモノナルヲ以テ即日落小口落ニ因リテ取引所ノ帳簿上ニ於テハ取引ハ決濟セラレタルコトト爲ルモ其ノ委託者ニ對スル關係ニ於テハ委託者ノ指圖ニ因リテ轉賣買戻ヲ爲スニ至ルマテハ取引終了スルコトナク從テ委託者カ現物ノ授受ヲ爲サント欲スルトキハ取引員カ前ノ委託ト同一ノ買付又ハ賣付ヲ爲スコトニ因リテ之ヲ爲シ得ヘク取引所モ此ノ取引ニ付責任ヲ負フヘキハ當然ナルヲ以テ右慣習ヲ以テ取引所ノ法規又ハ公序良俗ニ反スル無効ノモノト做シ難キモノトス 從テ斯ル慣習ノ下ニ委託者ノ反對ノ指圖アラサル場合ニ取引員カ右慣習ニ依リ即日落小口落ノ方法ニ依リ取引所ヲシテ決濟ノ處分ヲ爲サシメタリトスルモ之ヲ清算取引委託ノ本旨ニ反スルモノト做シ得サルモノトス 上告論旨ニ縷々説明スル所ハ右ト所見ヲ異ニシテ原判決ヲ攻撃スルニ歸スルモノニシテ之ヲ採ルニ足ラス論旨援用ノ本院大正十五年オ一〇五五號昭和二年七月六日言渡ノ判決ハ本件ニ適切ナラサルモノトス (昭和八年オ一六九〇號「證據金返還請求及賣買取引計算尻金請求反訴事件」同八、一〇、二民五判決—新聞三六二〇號九、評論二二卷商六三七)

小口落ト委
任關係

バイカイニ
依リ即時落
ト取引員委

大阪控 小口落ノ計算方法ハ取引所ト仲買人間ノ計算整理方法ニシテ委託者ニ對シテ何等ノ利害關係ナキモノトス (明治三十九年ネ五五四號「證據金取戻請求控訴事件」同四〇、一二、六民二判決—最近一卷一九二)

* 判決理由—八三〇頁參照

大審院 仲買人カ他人ノ委託ニ依リ取引所ニ於テ取引ヲ爲ストキハ取引所ト仲買人間ハ仲買人ト委託者間ト別箇獨立ノ關係ヲ有シ前者間ノ關係ニ於テ同一仲買人ノ賣ト買ト力即時相消セラレ證據

託者間ノ關
係

委託賣買
行ノ證明ナ
キ小口落ト
取引員ノ責
任

取引員ノ性
質
日仕舞ノ効
力ト委任關
係ノ存續

金ヲ要セサルカ如キコトアルモ之カ爲メニ當然後者間ノ關係ニ影響ヲ及スコトナシ (判決錄要旨) (大正三年オ五二三號「定期株式委託賣買證據金返還請求ノ件」同四、七、六民一判決—民錄二一輯一一八一、最近一卷三八一、評論四卷商三三一)

* 判決理由—四八〇頁參照

大審院 仲買人カ取引所ニ於テ客ノ注文ヲ履行スルニ當リ所謂小口落若クハ「バイカイ」等ノ方法ニ依リテ賣買ヲ決濟スル如キハ其取引所トノ關係ニ於テ取引ヲ結了スルニ止マリ仲買人ト客トノ關係ニ於テハ取引所ニ行ヒタル賣若クハ買カ客ノ注文セル賣建又ハ買戻ヲ實行シタルコトノ證明セラレサル限り仲買人ハ客ニ對シテ不履行ノ責ニ任セサルヘカラサルモノトス (判決錄要旨) (大正四年オ九七四號「計算金並證據金請求ノ件」同五、四、二九民三判決—民錄二二輯五〇三、新聞一二二九號一一、同一一三三號二八、最近一卷一八五、評論五卷諸一六五、判例一卷民一八六)

* 判決理由—八三五頁參照

大審院 取引所仲買人カ他人ノ注文ニ因リ取引ヲ爲ストキハ其注文者トノ間ニ一種ノ委任關係ヲ有スト雖モ取引所ニ於テハ自己ノ名義及ヒ責任ヲ以テ取引ヲ行フモノナレハ取引所並ニ取引ノ相手方ニ對シテハ獨立シテ別箇ノ關係ヲ保ツモノトス 取引所仲買人カ他人ノ注文ニ因リ定期米ヲ買付ケ又ハ賣付ケタルトキハ其委任關係ハ特別ノ合意アルカ若クハ該取引ノ局ヲ結ハサル限り當然消滅スルモノニ非ス 故ニ仲買人カ唯取引所トノ計算ニ於テ便宜上或買米又ハ賣米ヲ日仕舞轉賣又ハ買戻ノ方法ニ依リ他ノ賣米若クハ買米ト相殺シタレハトテ之カ爲メ委任關係ノ存續ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ (判決錄要旨)

(判決理由) 取引所仲買人ハ他人ノ注文ニ因リテ取引ヲ爲ストキハ其注文者トノ間一種ノ委任關係ヲ有スト雖モ取引所ニ於テハ自己ノ名義及ヒ責任ヲ以テ取引ヲ爲スモノナルカ故ニ取引所及ヒ取引ノ相手方ニ對シテハ獨立シテ別

箇ノ關係ヲ保ツモノナリ 此ヲ以テ仲買人カ他人ノ注文ニ因リ定期米ヲ買付又ハ賣付タル場合ニ於テモ他ニ同期ノ賣米又ハ買米アルトキハ取引所ト勘定ヲ爲スニ當リ日仕舞轉賣或ハ買戻ト稱シ之レヲ相殺シテ建米ナキコトト爲シ置キ後日同注文者ヨリ轉賣若クハ買戻ノ申出アルトキハ新ニ賣付又ハ買付ヲ爲シ注文者トノ間ニ於テハ此賣付又ハ買付ニ依リ轉賣若クハ買戻シタルノ勘定ヲ爲シ注文者ヲシテ其間建米ヲ維持シタル地位ニ在ラシムルカ如キハ往々取引所ニ行ハルル所ニシテ何等ノ法規ニモ悖ラス又注文ノ本旨ニモ反セサルヲ以テ從來本院ノ是認スル所ナリ(明治三四年才第一號同年五月四日言渡判決、明治三七年才第四七號同年五月三十一日言渡判決) 然レハ斯カル方法ノ行ハルル所ニ於テハ仲買人ハ他人ノ注文ニテ爲シタル買米又ハ賣米ヲ取引所トノ勘定ニ建米ト爲シ置カサルモ妨ナキコト勿論ノ筋合ナルカ故ニ注文者ノ建米ノ有無ハ仲買人ト取引所間ノ關係如何ニ依テ判斷ヲ爲スヘカラサル道理ナリ 然リ而シテ仲買人カ他ヨリ注文ヲ受ケタルモ其賣買取引ヲ爲ササリシカ如キ場合ハ注文者トノ間ニ於ケル委任關係ハ勿論存續セサルヲ以テ後ニ至リ注文ノ如キ賣買取引ヲ爲スモ注文者ニ於テ之ヲ追認セサル限り委任關係ナキコト言フ俟タスト雖モ一旦注文ニ從ヒ賣買取引ヲ爲シタルトキハ其委任關係ハ特別ノ合意アルカ若クハ該取引ノ局ヲ結ハサル限り消滅スルモノニ非ス 而シテ定期ノ取引ハ期限ニ至リ目的物ノ受渡ヲ遂クルカ或ハ期限前注文者ノ申出ニ因リ又ハ其申出ナキモ規約ニ基キ隨意ニ處分スルヲ得ヘキ事由ノ發生ニ因リ仲買人カ注文者ノ爲メニ轉賣買戻若クハ解合ヲ爲シテ茲ニ始メテ其局ヲ結フモノナレハ仲買人カ唯取引所トノ勘定ニ於テ便宜上或買米又ハ賣米ヲ日仕舞轉賣買戻ノ方法ニ依リ他ノ賣米又ハ買米ト相殺シタルハトテ注文者ノ爲メニ其取引ノ局ヲ結フモノニ非サルヲ以テ之レカ爲メ委任關係ノ消滅セサルコト洵ニ明白ナリトス 抑被上告人ハ上告人カ訴外藏内治郎作ノ注文ニ因リ明治三十四年十二月二日ニ賣付タル明治三十五年二月限定期米二千六百石ヲ取引所トノ勘定ニ於テ日仕舞ト爲シタルニ因リ治郎作ノ爲メニハ建米ナキニ至リタリト主張スルモノナレトモ佐賀米穀取引所ニ於テハ仲買人トノ勘定ニ同日爲シタル同期ノ賣付買付ヲ相殺シテ日仕舞ト爲ス方法ノ行ハルルコトハ原院モ認ムル所ナレハ假令上告人カ取引所トノ間ニ被上告人ノ言フ如キ日仕舞勘定ヲ爲シタルハトテ治郎作ノ爲メニ建米ナキニ至リ同人トノ委任關係消滅シタルモノト爲スヘカラス 然ルニ原院カ上告人ト取引所間ノ關係ヲ以テ直ニ上告人ト治郎作間ノ關係ヲ推シ委任關係ノ消滅シタルモノトシ因テ上告人ニ本訴金品返還ノ義務アリト爲シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免カレサル

モノトス (明治三七年才六四一號「委託金品取戻請求ノ件」同三八、五、二三民一判決「民錄一一輯七三九、彙報一六卷民二七三、新聞二八九號一三)

長崎控 仲買人カ一旦爲シタル賣買ニ付日仕舞ノ勘定ヲ爲シ置キ後日注文者ノ申出ヲ待テ更ニ建直シヲ爲シ以テ計算ヲ遂クル方法ノ常ニ行ハルル取引所ニ於テ仲買人カ其方法ヲ取リ日仕舞ヲ爲スモ注文ノ本旨ニ反スルモノト爲スヲ得サルハ勿論ナレハ其日仕舞ヲ爲シタルコトニ因テ仲買人ト注文者トノ間ノ委任關係ハ消滅シタルモノト言フヲ得ス

(判決理由) 取引所仲買人ハ他人ノ注文ニ因リ賣買ヲ爲ストキト雖モ取引所ニ於テハ自己ノ名義及責任ヲ以テ取引ヲ爲スモノナレハ仲買人カ取引所ニ對スル關係ハ注文者ニ對スル委任關係トハ全ク別異ニシテ前者ノ關係ヲ以テ後者ノ關係ヲ推スコトヲ得サルハ言フ俟タス 是ヲ以テ仲買人カ取引所ニ於テ他人ノ注文ニヨリ賣付又ハ買付ヲ爲シタル場合ニ當リ其取引ニ付日仕舞ヲ爲シ同期ノ賣米又ハ買米ト相殺シ建米ナキコトト爲シタルトキハ取引所ニ對スル關係ハ茲ニ消滅スルモ仲買人ハ後日同注文者ヨリ轉賣買戻ノ申出アルトキハ新規賣買ノ手續ヲ爲シ注文者トノ間ニ於テハ建米カ最初ヨリ維持セラレタルモノトシテ計算ヲ爲シ以テ其注文ヲ完結セシムルヲ得ヘキヲ以テ仲買人カ一旦爲シタル賣買ニ付日仕舞ノ勘定ヲ爲シ置キ後日注文者ノ申出ヲ待テ更ニ建直シヲ爲シ以テ計算ヲ遂クル方法ノ常ニ行ハルル取引所ニ於テ仲買人カ其方法ヲ取リ日仕舞ヲ爲スモ注文ノ本旨ニ反スルモノト爲スヲ得サルハ勿論ナレハ其日仕舞ヲ爲シタルコトニ因テ仲買人ト注文者トノ間ノ委任關係ハ消滅シタルモノト云フヲ得ス 然而シテ證人石橋要一郎カ佐賀取引所ニ於テハ仲買人カ一ノ客ヨリ依頼ヲ受ケ千石ノ米ヲ買ヒ同日他ノ客ヨリ依頼ヲ受ケ千石ノ米ヲ賣ルカ如キ場合ニハ日仕舞即チ甲種勘定トシテ相殺スルヲ以テ取引所ニハ賣買ハ存セサルモ仲買人ノ帳簿ニハ残り居ルニ付客ト仲買人間ノ依頼關係ハ存續シ限月ニ至リ客ヨリ計算ヲ求ムルトキハ仲買人ヨリ更ニ取引所ニ出シテ賣買ヲ爲シタルト買ナレハ轉賣買戻ナレハ買戻ヲ爲シ結末ヲ付クル旨ノ證言ニ依レハ佐賀取引所ニ於テ仲買人カ日仕舞ノ勘定ヲ爲シ同期ノ賣付買付ヲ相殺シ置キ後日注文者ノ申出ニヨリ更ニ建直シヲ爲シ計算ヲ遂クル方法ノ行ハルルコトハ明ナルヲ以テ控訴人カ被控訴人ノ委任ニ基キテ爲シタル賣付米ニ付取引所ニ於テ日仕舞ノ勘定ヲ爲シタリトテ當事者間ノ委任關係ハ之ニ因テ消滅スルモノニアラス 故ニ控訴人カ日仕舞ヲ爲シタル事實ノミヲ以テ委任消滅ノ事由トナシ之ニ基キ證據金及其代用物ノ取戻ヲ求ムル本訴請求ハ是認スヘカラス (明治三九年才七號「委託金圓取戻請求事件」同三九、一、二三民二判決「新聞三三四號二一)

日仕舞ノ効
カト委任關
係ノ存續

相殺落ノ効
力ト委任關
係ノ存續

相殺落ノ効
力ト委任關
係ノ存續
追證據金納
入恣意ト建
玉任意處分
權ノ行使

名古屋控 相殺ニ由リ取引所ノ帳簿上ニテ賣買關係消滅シタリトスルモ其ハ只取引所ト仲買人間ノ關係ニ止マリ委託者ニ對スル關係ニハ影響ヲ及サス仲買人ト委託者ノ關係ハ契約ノ期限内ニシテ未タ株式ノ受渡結了セサル間ハ尙依然存續スルモノナルカ故ニ受渡期限ニ至リ目的物ノ受渡ヲ遂クルカ又ハ期限前特別ノ合意等ニ因リ之カ處分ヲ爲スニ至ル迄ハ消滅セサルモノトス (明治三八年子二三〇號「立替金及口錢請求事件」同三九、一、二九民二判決—新聞三五二號九)

名古屋控 相殺ニ依リ賣買關係ノ消滅スルハ仲買人ト取引所間ノ關係ニ止リ委託者ト仲買人間ノ委託關係ハ何等ノ影響ヲ受クルコトナク依然存續シ受渡期限ニ至リ目的物ノ受渡ヲ遂クルカ又ハ期限前特別ノ合意ニ因リ又ハ合意ナキモ規定ニ基キ隨意ニ目的物ヲ處分スルヲ得ヘキ事由發生シ仲買人カ目的物ノ處分ヲ爲スニ至ル迄ハ消滅セサルモノトス

(判決理由) 凡ソ取引所仲買人ハ他人ノ注文ニ依リテ取引ヲ爲ストキハ其注文者トノ間一種ノ委任關係ヲ有スト雖モ取引所ニ於テハ自己ノ名義及責任ヲ以テ取引ヲ爲スモノナルカ故ニ取引所及取引ノ相手方ニ對シテハ自ラ獨立シテ別箇ノ關係ヲ保ツモノナルヲ以テ相殺ニ依リ賣買關係ノ消滅スルハ只仲買人タル被控訴人ト取引所間ノ關係ニ止リ控訴人(委託者)ト被控訴人間ノ委託關係ハ何等ノ影響ヲ受クルコトナク依然存續シ受渡期限ニ至リ目的物ノ受渡ヲ遂クルカ又ハ期限前特別ノ合意ニ因リ又ハ合意ナキモ規定ニ基キ隨意ニ目的物ヲ處分スルヲ得ヘキ事由發生シ被控訴人カ目的物ノ處分ヲ爲スニ至ル迄ハ消滅セサルモノトス 即相殺ハ仲買人カ他人ノ注文ニ因リ限月ノ株式ヲ買付ケ又ハ賣付ケタル場合ニ於テモ他ニ同期同種ノ賣買アルトキハ取引所ト計算ヲ爲スニ當リ之ト相殺シ建株ナキコトト爲シ後日注文者ニ對スル受渡若クハ轉賣買戻ヲ要スル場合ニ新ニ賣付又ハ買付ヲ爲シ注文者トノ間ニ於テハ此賣付若クハ買付ニ依リ計算ヲ爲シ注文者ヲシテ其間建株ヲ維持シタルノ地位ニ在ラシムルノ方法ニシテ此ノ方法ハ何等ノ法規ニモ背カス又注文ノ本旨ニモ反セサルヲ以テ假令被控訴人カ取引所トノ關係ニ於テ相殺ヲ爲シタルハト被控訴人ハ控訴人ニ對シ東京株式取引所定款ニ準據シ追證據金ヲ請求シ得サルノ理由ナキト同時ニ若シ控訴人ニ於テ追證據金ノ差入ヲ爲ササルトキハ被控訴人ハ同定款第八十四條ノ權利(建玉任意處分權)ヲ行使シ得ヘキ權利アルコト明白ナリトス (明治三八年子二三一號「立替金及口錢請求事件」同三九、一、二九民二判決—新聞三四七號一三)

相殺落ノ効
力ト委任關
係ノ存續
追證據金納
入恣意ト建
玉任意處分
權ノ行使

東京控 東京株式取引所ノ仲買人カ定期取引ノ場合ニ於テ例ヘハ甲ノ委任ニヨリ或株式ノ買付ヲ爲シ更ニ又乙ノ委任ニヨリ同種ノ株式ノ賣付ヲ爲ストキハ東京株式取引所ハ明治二十六年勅令第七十四號ニヨリ其期限内ナルニ拘ラス右賣買ハ對當株數マテ相殺セラレ當然帳簿ヨリ抹消シ其計算ヲ終了シ得ヘク且其相殺ハ同取引所ト仲買人トノ間ニ於ケル關係ニシテ仲買人ト委任者タル甲又ハ乙トノ關係ニ於テハ右相殺ハ何等ノ効力ヲ生セスシテ甲又ハ乙ハ尙同取引所ニ於テ各買又ハ賣ヲ有スルトト同一ノ状態ヲ維持シ右相殺ニヨリ東京株式取引所帳簿上甲ノ委任シタル買付存セサル後ニ於テ甲ヨリ前ニ買付ケタル株式ノ轉賣ヲ仲買人ニ委任セルトキハ仲買人ハ其賣付株ニ相當スルモノヲ新規ニ賣付ケ得ヘク且其賣付モ又轉賣買戻ノ方法ニヨリ東京株式取引所ノ帳簿上相殺セララルモ若シ其賣付直段前ノ買付直段ヨリ低キトキハ恰モ其相殺ナカリシトキト同様其差額ハ甲ノ損害ニ歸シ仲買人ハ東京株式取引所ニ之ヲ立替ヘタルト同一ノ計算ニ於テ甲ニ對シ之ヲ請求シ得ヘキコト並ニ前記ノ如ク仲買人カ委任者甲ヨリ委任セラレタル取引ハ相殺セラレ既ニ東京株式取引所ニ存セサル場合ト雖モ甲ノ委任ニヨリ買付ケタル株ノ相場漸次下落シ追證據金ヲ要スルニ至リタルトキハ仲買人ハ甲ニ對シ追證據金ノ請求ヲ爲シ得ヘク若シ其交付ナキトキハ右買付株ニ相當スル株ヲ轉賣シテ其委任關係ヲ結了シ其轉賣價額買付價額ニ比シ低價ナリシトキハ前記ノ場合ト同シク仲買人ハ甲ニ對シ其差額ヲ立替ヘタルト同一ノ計算ニ於テ之ヲ請求シ得ヘキコトノ商慣習法ノ存スルハ當審ノ鑑定人渡邊對三ノ陳述第一審ノ證人青木匡ノ證言ニ甲第十三號證乃至同第十五號證ヲ參照シテ之ヲ認ムルニ足レリ (明治四二年ネ一一八號「立替金及口錢請求事件」同四二、一〇、一二民一判決—最近六卷一三二)

東京控 東京株式取引所ニ於ケル取引ニ關シ同一仲買人ノ同一期限同一種類ノ賣建株ト買建株トハ之ヲ相殺シ帳簿落ト爲スモ仲買人ト注文者トノ間ニ於テハ其注文株ヲ維持シ追證據金ノ請求其他

東京株式取
引所ニ於ケ
ル相殺落ノ

慣習
追証據金納
入備慮ト建
玉任意處分
權ノ行使

第四編 取引所ニ於ケル賣買取引

ノ處分ヲ爲スコトヲ得ル慣習アリテ其慣習ハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニアラス
(判決理由)取引所法第十九條ニハ「取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリ 明治二十六年七月勅令
第七十四號第十三條第一項ニハ「取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用フルコトヲ得」トアリテ其第四號ニハ「株式會社組織ノ取引
所ニ在リテハ契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法」トアリ 尙取引所法施行規
則第二十條ノ六ニ於テ「取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用ヒントスルトキハ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シ
テ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定スヘシ」トアリ 而シテ明治三十九年九月改正ノ株式會社東京株式取引所定款
第一百條ニハ「定期取引ハ當月限翌月限翌々月限ノ三期ニ分チ約定スルモノトス、但期限内ニ於テ轉賣買戻ヲ爲スコトヲ得、轉賣買
戻ヲ爲シタルトキハ其届出ニ依リ損益ヲ計算シ損失アルトキハ其金額ヲ取引所ニ差入レシメ利益アルトキハ取引所之ヲ支拂ヒ其取
引ヲ結了ス」トアルヲ以テ東京株式取引所ニ於テハ右法令及定款ノ結果同一仲買人ニ對スル同一種類ノ株式ノ定期賣買取
引於テハ特別ノ意思表示アル場合ノ外ハ賣買取引ト相殺スルノ手續ヲ採ルコト明カナリトス 蓋シ之一方ニハ取引ノ計算ヲ簡ニシ取
引所ノ手數ヲ省キ一方ニハ當事者ヲシテ期限内隨意ニ賣買取引ヲ爲シ得ルヲ爲スルノ利ヲ與ヘントスル
ノ趣旨ニ出テシモノナルナリ 而シテ取引所法第十二條ニハ仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルト問ハス取
引所ニ對シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシトアルニ徴スレハ右相殺ヲ來スヘキ轉賣買戻ハ委任者ノ意思ニ因レルト否トハ
取引所ニ對スル關係ニ於テハ之ヲ問フノ要ナキモノトス 然リト雖モ仲買人ト客トノ關係ニ至テハ之ト全ク別箇ノ一種ノ委任關係
ヲ生スルモノニシテ其内容ハ畢竟客ハ株式ノ種類員數價格及限月ヲ指定シテ其賣付又ハ買付ヲ仲買人ニ委託シ以テ限月ニ至リテ其
受渡ヲ爲スカ又ハ其以前ニ於テ轉賣買戻ヲ爲シ之ニヨリテ利益ヲ得ンコトヲ目的トスルニ在ルヤ言フ俟タス 故ニ仲買人ヨリ
云ヘハ取引所ノ關係如何ニ拘ラス客ニ對シテハ客ヲシテ此目的ヲ達セシメサルヘカラサルノ義務アルモノニシテ客ヨリ云フトキハ
苟モ此目的ヲ達セラルルニ於テハ取引所ニ於ケル關係ノ如何ハ敢テ之ヲ顧慮スルノ要ナキモノト謂フヘシ 換言スレハ仲買人ハ
客ノ指定スル所ニ從ヒ取引所ニ於ケル取引ニ因リテ開始シタル賣買取引ヲ完結シ客ヲシテ其結果ヲ得セシムレハ足ルモノニシテ其賣買
ヲシテ終始其儘取引所ニ繼續セシムルヲ要スルモノニアラサルナリ 然リ而シテ客カ賣付又ハ買付ヲ委託スルノ際特ニ兩建ヲ求メ
取引所ノ相殺ヲ避ケンコトヲ計ルハ委任事項ノ内容ニ屬シ固ヨリ其自由ナリト雖モ若シ其意思ヲ表示セシメシテ前記ノ如ク取引所ノ
帳簿上ニハ相殺セラレタル場合ニ於テ後日客ヨリ轉賣買戻ヲ指圖ヲ受ケタルトキハ仲買人ハ茲ニ新ニ賣付又ハ買埋ヲ爲スノ
外ナク而モ其目的タル株式ハ固ヨリ特定セルモノニ非サルヲ以テ之ニヨリ客トノ間ニ於テハ轉賣買戻ヲ爲シタルト同一ノ計算ヲ爲
シ以テ客ヲシテ其間注文株ヲ維持セラレシト同一ノ効果ヲ收メシメ能ク委託ノ本旨ニ合セシムルヲ得ルモノナレハカカル方法ハ客

赤間關米穀
取引所ニ於
ケル日仕舞
慣習買戻ノ

ニ於テ何等失フ所ナク仲買人ニ於テモ決シテ不當ノ利得ヲ爲スノ機ナク又毫モ良風公序ヲ害スルノ虞レアルモノニ非サルヲ以テ其
有効ナルコト勿論トス 或ハ此場合ニ仲買人カ破産ヲ爲シ其他資力缺乏ヲ告グルカ如キコトアルニ於テハ客ハ取引所ノ擔保ニ據ル
能ハサルノ結果損失ヲ蒙ルコトナキニアラスト雖モ是レ實ニ稀有ノ事例ニ屬スルノミナラス客カ兩建ノ方法ヲ選フニ於テハ之ヲ
防キ得テ餘リアルモノナレハ此一事ヲ以テ直ニ前記方法ノ効力ヲ否認スル能ハサルハ明カナリトス 而シテ實際ニ於テモ該方法ハ
商慣習トシテ東京株式取引所ニ行ハレ居リテ仲買人及客ハ一ニ皆之ニ從フコトハ鑑定人高根義人渡邊對三林猶吉等各鑑定人ノ一致
シテ其旨ヲ陳述スルニ依リテ之ヲ認メ得ル所ニシテ此慣習ノ有効ナルコト固ヨリ言フ俟タス 只夫レ取引所ニ於テハ已ニ相殺ニヨ
リ其帳簿上ヨリ切り落サレタル株式ニ關シ尙追証據金ノ相場ヲ生スルトキハ仲買人ハ客ニ對シテ之ヲ請求シ其交付ヲ得サルトキハ
仲買人ハ其取引ノ處分結了シ得ルノ慣習ニ至テハ其存在ハ之ヲ前記鑑定人等ノ鑑定ニヨリテ認メ得ヘシト雖モ其當否ニ至テハ多少
ノ疑ナキニアラス 何トナレハ客ノ注文株カ轉賣買戻又ハ買戻ニヨリ相殺セラレテ取引所ニ繫屬セサルモノトスレハ之ニ關シ追証據金
ヲ要スルノ理ナシ 然ルニ仲買人ハ依然之ヲ請求シ得ヘク其拂込ナキトキハ定款ニ從ヒ違約處分ヲ爲シ得ヘシトセハ一見不當ナル
カ如ケレハナリ 然リト雖モ元來取引所ト仲買人トノ關係ハ仲買人ト客トノ關係トハ全ク別箇獨立ノモノナルコトハ前ニ述ヘシカ
如クナルヲ以テ仲買人ノ客ニ對スル責任ハ客ノ注文株カ取引所ニ於テ相殺セラレタルカ爲メニ消滅スヘキニアラス 從テ仲買人ハ
後日客ヨリ轉賣買戻又ハ買戻ヲ求メラルルコトアルヘク而モ其取引ハ客ノ損失ニ歸シタル場合ニ於テハ其損失客ハ之ニヨリテ利益ヲ得
タル相手者ニ對シ結局其利益金ノ支拂ヲ爲ササルヘカラサルヘシ 蓋シ一方ニハ損失者アレハ他方ニ利得者アルハ事ノ常態ナレハナ
リ 故ニ豫メ客ニ對シ之ヲ徵收セスンハ利得者ニ支拂フヘキ金員ナク終ニ自己ノ負擔ニモ歸スルニ至ルヘキ不當ノ結果ヲ生スルヲ
以テ相殺落ノ場合ニ追証據金ヲ請求スルハ亦理由アルモノト謂ハサルヘカラス 而シテ此追証據金ハ仲買人カ其委任セラレタル事
務ノ處理ニ必要ナル費用ト謂ハンヨリハ寧ロ仲買人ニ損害ヲ蒙ラサシムル爲メ豫メ差入レシムル金額ナリト解スヘク仲買人カ取
引所ニ差出ス追証據金トハ全然其性質ヲ異ニスルモノト認ムルヲ穩當トス 要之相殺落ノ場合ニモ尙仲買人カ客ニ對シ追証據金ヲ
請求シ之ニ應セサルトキハ適宜處分ヲ爲スハ毫モ不法ノ廉ナキヲ以テ此慣習モ亦有効ナリト認メサルヘカラス (明治四〇年ネ五一
四號「株式賣買證據金並利益請求事件」同四二、一二、七民二判決—新聞六二〇號二一、法曹記事二〇卷二號八七)

大審院 赤間關米穀取引所ニ於テハ仲買人カ他ノ注文ニ因リ定期米ノ賣買取引ヲ爲スニ當テ取引
所ノ帳簿上日々ノ賣買ヲ日仕舞若クハ轉賣買戻ノ方法ニ依リ對當額ヲ相殺シ注文者ヨリ受渡期日前
轉賣買戻ノ申出アルトキハ新ニ賣買ノ手續ヲ爲シテ局ヲ結ヒ注文者ヲシテ日仕舞轉賣買戻ナキ地位

ニ在ラシムルノ商慣習アルコトハ原院ノ確定スル所ナリ 然レハ特別ノ場合ニ在ラサル限り注文者カ此商慣習ニ從フノ意思ヲ以テ注文ヲ爲シタリト看做スハ至當ナルヲ以テ原院カ斯ク判定シタルハ舉證ノ責任ヲ顛倒シタルモノト謂フヘカラス (明治三十七年オ四七號「定期米賣買證據金取戻損害要償ノ件」同三七、五、三一民一判決—民錄一〇輯七八〇)

小口落又ハ即日落トバ
イカイトノ
關係

大審院 小口落又ハ即日落ナルモノハ適法ノ取引方法ニ依リテ成立シタル取引ニ關シ取引所ノ帳簿計算上ノ便宜ノ爲メニ行ハルル相殺方法ナレハ縱令「バイカイ」ノ取引ニ付キ亦同一ノ相殺方法行ハルルモノトスルモ之ヲ以テ小口落又ハ即日落ノ一種ト爲スコトヲ得ス (判決錄要旨 (大正三年オ六六四號「定期株式委託賣買證據金返還請求ノ件」同五、六、二六民二判決—民錄二二輯一二三八、彙報二八卷上民二四、新聞一一五四號二八、最近一八卷二八二、評論五卷諸二二七、判例一卷民五二〇)

* 判決理由—四八六頁參照

建米ノ記帳
ト取引有無
ノ判斷

大審院 建米ハ同日ニ於ケル賣買米注文額ノ均一ナラサル場合ニ存スル差額ニシテ之ヲ取引所ノ帳簿ニ登載スルハ現ニ其差額力仲買人ノ手裡ニ存在スルカ又ハ注文者ニ於テ特ニ建米ノ存置ヲ希望スルトキニ限レル場合ニ在リテハ建米トシテ取引所ノ帳簿ニ登載シアルト否トハ必スシモ係爭取引ノ有無ヲ判斷スルノ標準ト爲ラス (判決錄要旨)

(判決理由) 本訴ニ於テ上告人ノ抗辯トセシ所ハ明治三十四年一月二十五日以後ハ株式會社赤間關米穀取引所ニ上告人ノ爲メニスル建米ノ存置ナキカ故ニ被上告人カ上告人ノ爲メニ係爭定期米ノ賣買ヲ爲シタリトノ事實ハ虛偽ノモノナリト言フニ在リ 而シテ定期米賣買ニ於ケル建米トハ同日ニ於ケル賣買米ノ注文額カ均一ナラサル場合ニ存スル差額ニシテ之ヲ取引所ノ帳簿ニ登載スルハ現ニ仲買人ノ手許ニ其差額存スルカ又ハ注文者ニ於テ特ニ建米ノ存置ヲ希望スルトキニ限ルモノナルコトハ原院ノ確定セシ事實ナリトス 此確定セシ事實ニ依ルトキハ建米トシテ取引所ノ帳簿ニ登載シアルト否トハ必スシモ係爭取引ノ有無ヲ判斷スルノ標準タルモノニアラス 何トナレハ假リニ明治三十四年一月二十六日及ヒ其前日ノ取引ニ建米ナカリシトスルモ被上告人カ同日ニ於テハ一ノ取引ヲモ爲ササ

リシモノト認メサルヘカラサルモノニアラス 又登載アルトキハ必ス係爭取引アリシモノト推斷セサルヘカラサルモノニアラサレハナリ 故ニ原院カ「云々客ヨリ特別注文アルカ又ハ仲買人ノ手許ニ於テ賣買米ノ注文額不平均ナリシ外其建米トシテ取引所ノ帳簿ニ記載セラレサル理ナルヲ以テ建米トシテ取引所ノ帳簿ニ記載アルト否トハ本訴爭點ヲ決スヘキ標準ト爲スニ足ラス」ト說示シ上告人ノ抗辯ノ理由ナキコトヲ判定シタル以上ハ建米ノ存否ヲ判定スルノ必要ナク從テ被上告人ヲシテ係爭取引ヲ爲シタル日ニハ賣買注文額カ均一ナリシ事實ヲ立證セシムルノ要ナカリシモノナレハ本論旨ハ上告ノ理由タラス (明治三十七年オ一六七號「定期米賣買代金立替金請求ノ件」同三七、六、二五民一判決—民錄一〇輯九六二、新聞二一九號一一)

第六章 賣買取引ノ決済

大審院 取引所ニ於ケル定期取引ハ其契約期間内ニ轉賣買戻アル場合ノ外契約期限ニ至リ其取引ヲ結了スヘキモノナレハ賣主力其義務ヲ怠ル等ノ事實ニ因リテ期限後ニ至リ未結了ノ儘存續スヘキモノニ非ス
一判決録要旨 (明治三十三年才一四六號「證據金取戻及損害金要償ノ件」同三四、三、二三民一判決—民錄七輯三卷七八)

* 判決理由—九三四頁參照

藤田國之助氏 競賣買及轉賣買戻ノ方法ニ依ル清算取引ニ在ツテハ賣買約定ノ相手方ハ特定シナイノミナラズ、誰トデモ反對賣買ヲスレバ賣買ヲ決済シ得ルト言フノデアルカラ、コレハ民法ノ賣買ヤ商法ノ交互計算ノ法理デハ説明ガ困難デアル ソコデ學者ニ依ツテハ清算取引ニ在ツテハ會員間又ハ取引員間ニ賣買取引ガ行ハレルノデハナクテ、會員又ハ取引員ト取引所トノ間ニ賣買取引ガ行ハレルノデアル、即チ取引所ハ賣方タル會員又ハ取引員ニ對シテハ買方ノ地位ニ立チ、買方タル會員又ハ取引員ニ對シテハ賣方ノ地位ニ立ツノデアル、從ツテ賣方ガ賣約定ヲ履行シナイカラト言ツテ取引所ハ買方ニ對スル責任ヲ免レルコトガ出來ズ、反對ニ買方ガ買約定ヲ履行シナイカラト言ツテ取引所ハ賣方ニ對スル責任ヲ免レルコトガ出來ナイトカウ主張スルノデアル (河合良成氏「取引所講話」戸田海市博士「特殊問題ノ研究」) 米國ノ商品取引所ハ大抵取引所トハ別ニ清算會社ヲ設立シテキルガ、ソノ定款ヲ讀ンデ見ルト明文ヲ以テコレ等ノ學者ノ主張セラレルヤウナ事ガ書カレテキル シカシ日本ノ制度ノ解釋トシテハ少シ行キ過ギテキルト思フ コノ說ヲ以テ所謂「場デ賣リ場デ買フ」ト言フ經濟上ノ實際ヲ説明シタモノトシテモ、取引所ガソノ賣買取引ニ付テ必ズシモ擔保ノ責任ズルモノデナイコトニナツタ今日ニ於テハ失當デアルト評セネバナラヌ 況ヤ法規ノ解釋トシテハ益々無理デアル 即チ各取引所ノ定款ハ取引所ハソノ會員又ハ取引員ヲシテ賣買取引ヲ爲サシムルコトヲ目的トスルコトヲ規定シ、取引所法ハ會員又ハ取引員デナケレバ取引所ニ於テ賣買取引ヲスルコトヲ得ナイコトヲ規定スルノミナラズ、ソノ他取引所法令中右ノ說ヲ以テシテハ到底解釋ノ付カヌ條項ガ少クナイ (法第二十二條及第二十三條等參照) 抑々清算取引ハ抽象的ノ銘柄又ハ更ニ進ンデ標準物ニ依ツテ行ハレ、又ソノ取引所ノ會員又ハ取引員デアレバ大體相互ニ信用シ合ツテキル者デアルカラ、ドウ言フ物件ヲ誰ト受渡スルカト言フコトハ問題ニスル價值ガナイ ダカラ誰ト誰トノ間ニ受渡スルカト言フコトハ受渡價實際ニ至ツテ取引所ガ定ム

反對賣買
 依ル決済
 法律ノ解釋

定期取引ノ
 結了

米穀ノ定期
 取引ニ付テ
 行ハルル轉
 賣買戻ノ意

他取引所ノ
 相場ニ依ル
 建米ノ手詰
 法第二十五
 條

受渡ト取引
 所ノ管理

レバ可イコトデアリ、又誰カガ違約スルヤウナコトハ極メテ稀ナコトデアルカラ、違約ヲシタトキハソノトキノコトトシテソノ場合ニ誰ヲ被違約者ニスルカヲ別ニ定メテオケバ可イ カウスレバ何モ賣買約定ノ當初カラ誰ト誰トノ間ニ約定ガ締結サレタカ、誰トノ賣買ガ誰トノ反對賣買デ抹消サレタカト言フコトハ間フ必要ガナイ カウシタ實際上ノ見地カラ、競賣買又ハ轉賣買戻ハ必要ナ場合ニハ取引所ノ業務規程ニ依ツテソノ賣買ノ相手方ガ決定サレテモ異存ガナイト言フ條件ノ下ニ、一團ノ賣方ノ各人ト一團ノ買方ノ各人トガ一種ノ契約ヲ締結スルモノト解釋スルヨリ外ハナイ (取引所論二二二)

朝高法院 米穀ノ定期取引ニ付テ行ハルル轉賣買戻ハ賣買當事者ノ一方カ相手方ニ通知スルコトナク又其ノ承諾ヲ受クルコトナクシテ市場ニ於テ前取引ト反對ノ賣買ヲ爲スニ因リテ自己ノ賣約ト買約トヲ相殺シ全然其ノ契約關係ヨリ脫離スルコトヲ謂ヒ多クノ場合ニ於テハ契約當事者一方ノ賣約若クハ買約ト買戻約若クハ轉賣約トヲ差引消合スルモノニシテ其ノ行爲ハ定期取引ニ關スル商慣習ニ依リテ認メラルル一種特別ノモノトス (大正二、八、七判決—朝高錄一〇卷民二三五、朝鮮高等法院判例要旨類集民六七三)

大審院 甲取引所ニ於テ建米ノ手詰ヲ爲スニ當リ乙取引所ノ相場ヲ以テ賣買手詰ノ標準價格ト爲ス事ハ取引所法ノ許ササル所ナリ
一判決録要旨 (明治三十二年二號「預金請求ノ件」同三二、四、一民一判決—民錄五輯四卷一)

* 判決理由—一三〇頁參照

令第十六條 受渡其ノ他ノ決済及其ノ繰延ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ取引所ヲ經テ之ヲ爲スヘシ 受渡其ノ他ノ決済及其ノ繰延ニ關スル事務ハ取引所自ラ之ヲ行フヘシ 受渡場所ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ (制定—大正一一、七)

舊令第十五條 (明治二六、七) 賣買取引ノ物件代金ノ受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシ

舊令第十四條 (大正三、六) 受渡ハ營業細則ノ定ムル所ニ依リ取引所ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

受渡場所ハ營業細則ノ定ムル所ニ依ル

商工局監理課 一、受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシトハ現行勅令ノ規定スル所(現第十五條)ナレ共役員ノ數モ多カラス役員自身現場ニ立會フコトハ實際上不能ナルヲ以テ單ニ取引所ヲ經由スルヲ以テ足ルコトニ改メタリ 而シテ取引所ヲ經テ云々ト云フハ畢竟取引所カ監督節制ヲ施スヘキ必要アルヲ以テナリ 格付受渡ノ方法ニ依ラサル場合ト雖トモ取引所ニ於テ爲シタル取引タル以上ハ取引所ハ當事者ヲシテ賣買ノ真正ノ目的ヲ完全ニ達セシムルコトヲ圖ルノ必要アルヲ以テ必ス取引所ヲ經テ受渡ヲ爲スヘキコトトセリ 故ニ趣旨ノ根本義ニ於テハ現行勅令ト別段ノ徑庭ナシ

二、受渡ヲ爲スヘキ場所カ豫メ一定セラルルノ必要ナルハ論ヲ俟タス 然レ共從來ノ慣用語トナレル「受渡地區」ナルモノハ法律上意義甚タ不明瞭ナルヲ以テ今回所謂受渡地區ナルモノヲ廢シ受渡ノ場所ヲ定ムルコトトセリ 更ニ詳言スレハ從來受渡地區トシテ何々郡ト云フカ如ク定メタルニ代ヘテ何町何番地何々倉庫會社倉庫ト云フカ如ク規定スルヲ以テ正確ニシテ又今日ノ實際ニモ適當スト認メ茲ニ「受渡場所」ナル語ヲ用キタリ(現又ハ現行トアルハ明治二十六年勅令第七十四號)(大正三、六、二九・農商務省商工局監理課「取引所令ニ關スル說明」)

藤田國之助氏 受渡ハ業務規程ノ定ムル所ニ依ツテ、取引所ヲ經テコレヲ爲スベク、又受渡ニ關スル事務ハ取引所自ラコレヲ行フベキコトニナツテキル 蓋シ一ニハ受渡當事者間ニ任意受渡ヲ行ハシメルトキハ決濟ノ繰延ガ行ハレタリシ易イ 從ツテ實質ニ於テ取引所法令ニ規定スル限月ニ關スル規定ガ無視サレタリ、實物取引ガ清算化サレル虞ガアル爲デアリ、二ニハ各取引所ノ定款ニ規定スル受渡ヲ履行シナイ會員又ハ取引員ハコレヲ除名スルト言フ規定ト相俟ツテ、受渡ヲ確保スル爲デアル 受渡ヲ確保スルコトハ必ズシモ渡シタイト思フ者ヲシテ必ズ代金ヲ取得セシメ、受ケタイト思フ者ヲシテ必ズ品物ヲ取得セシメルト言フ趣旨ダケデアリ 受渡ガ正確ニ行ハレナケレバ日々ノ相場ガ正確ニ立タナイト言フ關係ガアル爲デアル(取引所論二七五)

受渡地區又ハ受渡場所

商工局長 岡 實氏 營業地區ハ獨占權ノ範圍デ、受渡地區ハ商品ノ受渡ヲ爲シ得ル地區デアル 而シテ前者ハ重複ヲ禁ジ、後者ハ重複ヲ許ス精神デアル 併シナガラ許スコトヲ原則ト認ムルカ、或ハ認メナイコトヲ原則トスルカト言フト、許サザルヲ原則トシテ居ル 尤モ各地取引ノ永年ノ慣行ニ依テ已ムヲ得ザル事情ガアルト認メタ際ニハ甚ダ好マヌナガラ是ガ重複ヲ許シテ居ル 無論重複ヲ許シテ居ル場所ノ如キハ例外的ノモノデアルカラ、地區ヲ整理スルトキハ重複シテ居ル場所ニ付テ十分ノ研究ヲ遂ゲナケレバナラヌ 又重複シテ居ナイ場所デモ整理ノ餘地アル場所ガアル(中略)併シナガラ受渡地區ヲ營業地區ト同一ニスルカドウカト言フコトニ付テハ今直ぐ御答ハ出來ナイ 取引所トシテハ受渡地區ノ廣キヲ喜ブ傾キハアル 從ツテ各地要求ニ依ツテ出來ルダ

ケ廣クタル如キ傾向ヲ持ツテ居ル 併シナガラ農商務省トシテハ成ルベク取引ノ確實ヲ期スル爲ニ、濫リニ地區ヲ擴メルコトハ宜シクナイト言フ主義方針ヲ執ツテ、今後モ是ニ準據スルツモリデアル(大正三年第三一議會衆議院委員會「速記集上三五三」)

藤田國之助氏 取引所ノ受渡場所ハ原則トシテソノ取引所ノ地區内ニ限ラレテキル 但今日ノ實際ニ於テハ取引所ノ地區ハ大抵取引所所在ノ都市又ハソノ附近ノ町村ニ限ラレ、廣クモ所在道府縣ニ限ラレテキル 取引所所在ノ地區ハソノ經濟上カラ見テ適當ト思ハレル地域ヨリ狭イノヲ通常トスルカラ、受渡場所ヲソノ地區内ニ限定スルコトハ時ニ不合理ナ結果ヲ招キ易イ 殊ニ米ノ取引所ハ明治年間全國百數十箇所ニ濫設セラレ、ソノ地區ハ相侵スコトナキヤウ極メテ狭ク定メラレタモノデアツテ、今日殘存スル米ノ取引所ノ地區モソノ當時ノモノヲソノ儘承繼シテキル爲特ニ然リデアル ダカラ米ノ取引所殊ニ産地ノ米ノ取引所ニ在ツテハ、ソノ地區外、或ハソノ近縣ニマデ受渡場所ガ擴張サレテキル取引所ガアル コノ場合ニハ受渡場所カラ取引所所在都市マデノ運賃ハ賣方ノ負擔ニ歸スルコトニナツテキル(取引所論二七六)

大株業務規程 第六十九條 約定物件ノ受渡ハ各其ノ區別ニ依リ左ノ期限ニ於テ完了スヘシ

- 一 長期取引 毎月ノ最終營業日(十二月二十六日)ノ午後三時限
- 一 短期取引 賣買成立日ノ翌日午後一時限

但土曜日ニ在リテハ午前十一時限

一 實物取引 約定期日ノ午後一時限

但土曜日ニ在リテハ午前十一時限 國債其他ノ債券ノ受渡ハ受渡日ノ午後二時限トス

短期取引ニ於ケル受渡其他ノ決濟ノ繰延ハ賣方買方ノ合意ニ依ルコトヲ要ス但此場合ニ於テハ本所ノ定ムル所ニ依リ繰延料ヲ支拂フヘシ

前項ニ依リ繰延ヲ爲シタル玉ハ賣買帳入ノ日ヨリ起算シ一ヶ月以内ニ之カ決濟ヲ完了スヘシ但其決濟結了日カ休業日ニ當タルトキハ順次之ヲ繰上ク

繰延料ノ率ハ商議員總代ニ諮問シ本所之ヲ定ム

第七十條ノ二 受渡物件中新株式ノ受渡ニ付テハ同一會社ノ株式ニシテ該新株式ト其ノ拂込金額カ同額若ハ同額以上ノ株式ヲ同一價格ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但決算期ノ中間ニ於テ拂込徴收ニ依リ同一ノ拂込額トナリタル株式ハ代用ニ供スルコトヲ得ス

受渡ニ關スル業務規程ノ規定

前項ノ規定ハ優先新株式ノ受渡ニ付テハ之ヲ適用セス
第七十一條 長期取引ノ受渡ハ賣方ハ約定證券又ハ提供證券預リ證書ヲ本所ニ差出タシ買方ハ受渡標準値段ニ相當スル代金ヲ本所ニ差出タシテ之ヲ爲スヘシ
前項受渡標準値段ハ受渡期日最近ノ帳入値段トシ受渡標準値段ト約定ノアリタル帳入値段トノ差金ハ證據金返戻ノ際決済ヲ爲スモノトス

短期取引ノ受渡ハ賣方ハ約定證券ヲ本所ニ差出タシ買方ハ第四十條ニ於テ定メタル受渡値段ニ相當スル代金ヲ本所ニ差出タシテ之ヲ爲スヘシ
實物取引ノ受渡ハ賣方ハ約定證券ヲ本所ニ差出タシ買方ハ約定値段ニ相當スル代金ヲ本所ニ差出タシテ之ヲ爲スヘシ
受渡ニ供セラルル記名證券ニハ白地式裏書アルカ又ハ賣渡委任狀ノ添附ヲ要スルモノトス

國債其他ノ債券ノ受渡ニ於テ使用スヘキ證券ハ無記名證券ニ限ルモノトス
裸相場ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル國債其他ノ債券ノ受渡ニ於テハ買方ハ利拂期日以後經過シタル日數ニ應ジ別ニ定メタル計算表ニ依リ經過利子ヲ算出シ所要ノ諸税金ニ相當スル金額ヲ控除ノ上之ヲ賣方ニ支拂フモノトス
東株業務規程 第七十一條 受渡ニ於テハ賣方ハ賣渡委任狀ヲ添付シタル約定證券又ハ白地式裏書ニ依ル約定證券ニ分割委任狀及親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ同意書並裁判所ノ決定書其ノ他必要ナル書類ヲ添付シ買方ハ清算取引ニ在リテハ受渡標準値段ニ對スル代金、實物取引ニ在リテハ約定値段ニ對スル代金ヲ本所ニ振込ムモノトス但裸相場ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル國債、地方債、社債及外國國債等債券ノ受渡代金ニ付テハ經過利子ヨリ之ニ對シ課セラルヘキ諸税金ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ加フ

國債、地方債、社債及外國國債等債券ノ賣買取引ニ於ケル受渡證券ハ無記名式ノモノニ限ル
第六十八條ノ四 取引員短期取引ニ付一時ニ巨額ノ新規賣買ヲ爲ス場合ニ於テ本所ノ請求アリタルトキハ其ノ日ニ於ケル受渡ヲ爲スヤ否ヤヲ本所ヘ申出ツルコトヲ要ス
第七十六條 受渡ヲ爲シタル證券ハ買方ニ於テ遲滞ナク名義書換ノ手續ヲ爲スモノトス
前項ノ手續ヲ完了スルニ至ル迄ハ賣方ニ於テ名義書換ニ付其ノ責ニ任スヘシ但名義書換停止中ノ期間ヲ除キ受渡後一箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 受渡ニ供セラレタル證券ニ付本所ニ於テ瑕疵アリト認ムルトキ又ハ權利移轉ニ支障ヲ生ジタリト認ムルトキハ本所ハ前條第二項但書ノ規定ニ拘ラス賣方ニ對シ受渡證券ノ差換ヲ爲サシムルコトアルヘシ
東京地 定期取引ニ依リ買受ケタル株式ニ付キ受渡期日前ニ其取引ヲ終了セムトスルトキハ株式仲買人間ニ於テハ右取引相場ヨリ日歩（仲買人間ニ行ハルル）及委託手数料ヲ控除セルモノヲ以テ受渡價格ト定ムル慣行アルコトヲ認メ得ルモ如斯仲買人間ニ行ハルル受渡價格ヲ以テ直チニ取引所ニ於ケル相場ト爲スヲ得サルコト勿論ナリ（大正六年ワ六七一號「損害賠償請求事件」同八、二、二八民三判決一評論八卷諸一四九）
* 判決理由一四一八頁參照

行政裁 米穀取引所ハ其ノ所屬仲買人ノ藏所ニ就キ届出ノ米穀俵數ヲ検査スルノ權限ヲ有ス
仲買人カ虚偽ノ藏所届ヲ爲シタル場合ニ於テ渡米ノ差出ヲ怠リタルモノト認メ仲買人ニ對シ除名ノ處分ヲ行ヒタルハ適法ナリ
一〇卷八二、行政裁判所判例要旨類集大正六年版九〇一、行政裁判所判例全集二二三
* 判決理由一二二六頁參照

山口地、下關支部 下關米取引所營業細則ノ所謂倉庫及素倉ハ必スシモ個々ノ現在ノ建物ニ限ラレタルモノト爲スヘカラス
（判決理由）主要ノ争點ハ増設倉庫及濱町以外ノ倉庫ハ被告取引所定期米ノ受渡場所ナルカ否ヤニアリ 依ツテ按スルニ被告取引所ハ其營業細則（乙第二號證）第六十一條第一、二號ニ於テ受渡場所ノ規定ヲ爲シ一、地區内ニ於テ取引所ノ指定シタル倉庫及附屬倉庫ニ、門司市濱町東神倉庫株式會社門司支店所屬ノ倉庫及附屬倉庫トセリ（後ニ三、四號ノ追加アレトモ本件ノ争點ニ關係ナキニ付キ略ス）而シテ第一號證ニ依レハ被告取引所ハ右第六十一條第一號ニ基キ大正四年七月二十九日地區内ノ受渡場所ヲ一、下關倉庫株式會社附屬ノ倉庫及附屬倉庫ニ、下關市本町東神倉庫株式會社門司支店所屬ノ倉庫及附屬倉庫ニ、下關市所在ノ馬關倉庫ト指定シタリ 以上ノ事實モ亦當事者間ニ争ナキ所ナリ 而シテ原告代理人ハ右第六十一條ニ規定セル倉庫トハ何レモ個々ノ建物

定期取引ノ受渡期日前ニ於ケル取引終了ニ關スル慣行
米穀取引所ノ權限ノ藏所ノ届出ノ除名
下關米取引所ノ營業細則ト受渡場所

ヲ指シタルモノナルニ付キ其第二號門司市ノ倉庫及素倉ハ細則施行ノ日タル大正四年七月二十九日ニ於テ會社所屬ノ現在ノ建物ニ限ラレ其第一號ニ基キ被告取引所カ指定シタル前記下關市ノ倉庫及素倉ハ其指定ノ日ニ於テ會社所屬ノ現在ノ建物ナラサルヘカラスト主張セリ 右第六十一條ノ所謂倉庫及素倉トハ原告ノ見解ノ如ク個々ノ建物ヲ指シタルモノト解スヘキモ必スシモ個々ノ現在ノ建物ニ限ラレタルモノト爲スヘカラスト 而シテ其第一號ノ指定ノ方法ニハ何等ノ制限ナキヲ以テ個々ノ建物ヲ個々ニ指定スルモノヲ包括シテ指定スルモ又指定當時現在ノ建物ノミヲ指定スルモ將來増設スヘキモノヲモ見込ミ指定スルモ指定者ノ自由ナリトス而シテ被告取引所カ爲シタル前記大正四年七月二十九日ノ指定ハ個々ノ建物ノ所屬會社ヲ舉ケ包括的ニ指定シタルモノニテ其範圍頗ル廣ク何等ノ制限ナシ 少クモ地區内ニ於ケル倉庫及附屬素倉ニシテ被指定會社ニ屬スルモノナル以上ハ現ニアル倉庫ノ完全ナルト否トハ問ハス又現在ノモノナルト將來増設ノモノナルトヲ選ハス悉ク包含セシメタルモノト解スヘク文理上疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ 右第六十一條第二號門司市ノ倉庫規定モ亦全ク同趣旨ナリ サレハ受渡當日迄ニ右被指定會社カ一定ノ地區内ニ増設シタル倉庫ハ當然第六十一條ノ受渡場所タリ 原告代理人ハ定期取引ニ於テ受渡場所及倉庫ノ如何ハ相場ノ基準ヲ爲シ賣買契約ノ一内容ヲ爲スモノニテ其性質上又受渡場所ナル觀念上指定倉庫ノ範圍ハ指定當時實在ノモノナラサルヘカラスト主張スルモ信用アル倉庫者ハ各其覺悟ヲ以テ取引場所及倉庫カ相場ノ基準ヲ爲シ賣買契約ノ一内容ヲ爲スモノトスルモ増設ノ倉庫ヲ受渡場所トシ毫モ妨ケヲ生スルコトナシ 右増設カ新甫ノ取組後ニ係ル場合ト雖モ其關係ハ同一ナリ(中略) 次ニ原告代理人ハ右營業細則第六十一條第二號門司市濱町ナル文字ハ倉庫及附屬素倉ノ所在地ヲ示シタルモノニテ濱町以外ノ倉庫ハ受渡場所ニアラスト主張スレトモ他ノ文字ヲ加入セスシテ虛心ニ同號ヲ讀ミ過クセハ門司市濱町ナル文字ハ東神倉庫株式會社門司支店ノ肩書ト認メサルヲ得ス(大正五年口二七號「證據金並ニ違約金請求事件」同五、一一、一三判決—新聞一二〇〇號二二)

* 控訴審—廣島控、大正六、七、二七民事部判決(次掲)

廣島控 下關米取引所ノ營業細則ハ地區内(下關市内)ニ於ケル受渡ノ場所ニ付キ制限ヲ加ヘ居ラサルヲ以テ下關市内ニ存スル以上ハ具體的ニ倉庫營業者ニ於テ現在建設セル個々ノ倉庫及附屬素倉ヲ指定スルト將又抽象的ニ倉庫營業者ニ於テ指定當時建設セルモノ及將來増設セラルル倉庫及附屬素倉ノ總テヲ包括シテ指定スルト否トハ一ニ同取引所ノ任意ニ屬シ得ヘキ趣旨ナリト解スヘキモノトス 又同營業細則ニ規定セル地區外ノ受渡場所門司市濱町ハ東神倉庫株式會社門司支店ノ肩書

下關米取引所ノ營業細則ト受渡場

ニシテ敢テ同倉庫及附屬素倉ノ所在地ヲ制限シタルモノニ非ス

(判決理由) 控訴代理人ハ賣方仲買人ノ提供スヘキ米ノ證券ハ被控取引所營業細則第六十三條第六十一條ニ依リ地區内(下關市内)ニ於テハ同取引所ノ指定シタル倉庫及附屬素倉ニ收藏シタル米ニ付發行シタル證券ニ限ルモノニシテ茲ニ所謂指定トハ指定當時現在セル個々ノ倉庫及附屬素倉ヲ指定スルノ意ナレハ倉庫營業者カ指定後ニ新築シ又ハ借入レタル倉庫及附屬素倉ニ收藏シタル米ニ付發行シタル證券ハ同細則所定ノ證券ニアラスト 然ルニ本件賣方ノ提供シタル證券中同會社ノ發行シタル證券ニシテ同細則施行ノ日以後即大正四年十二月十一日同會社カ他ヨリ借入レタル倉庫ニ收藏シタル米ニ付發行シタル證券アリテ此等ノ證券ハ孰レモ提供ノ効力ナキ旨主張スレトモ賣方仲買人ノ提供スヘキ米ノ證券ニ關シ被控取引所ノ營業細則(甲第一號證)第六十三條ニ定期取引ノ受渡ハ毎月ノ末日(十二月二十日)午後三時限リ賣方ヨリ第六十一條ニ依リ定メタル倉庫ノ發行シタル預證券及買入證券又ハ倉荷證券ニシテ自己ノ處分シ得ヘキモノヲ差出シ云々ト規定シ其第六十一條ニハ受渡ノ場所ヲ左ノ通りトス、一地區内ニ於テ取引所ノ指定シタル倉庫及附屬素倉、二門司市濱町東神倉庫株式會社門司支店附屬ノ倉庫及附屬素倉ノ規定シアリテ之ニ依レハ地區内(下關市内)ニ於ケル受渡ノ場所ハ取引所ノ指定シタル倉庫及附屬素倉ナルコトヲ要スル外何等ノ制限ヲ加ヘ居ラサルヲ以テ下關市内ニ於ケル受渡ノ場所ヲ指定スルニ當リテハ下關市内ニ存スルモノナル以上具體的ニ倉庫營業者ニ於テ現在建設セル個々ノ倉庫及附屬素倉ヲ指定スルト將又抽象的ニ倉庫營業者ニ於テ指定當時建設セルモノ及將來増設セラルル倉庫及附屬素倉ノ總テヲ包括シテ指定スルト否トハ一ニ被控取引所ノ任意ニ屬シ得ヘキ趣旨ナリト解スヘキヲ以テ更ニ被控取引所カ受渡ノ場所ニ關シ如何ナル指定ヲ爲セシヤヲ查スルニ同取引所カ受渡ノ場所ヲ下關倉庫株式會社所屬ノ倉庫及附屬素倉下關市在東神倉庫株式會社門司支店ノ倉庫及附屬素倉云々ト指定シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ニシテ之ニ依レハ該指定ハ受渡ノ場所ヲ右會社ノ倉庫及附屬素倉ト定メタルノミニシテ何等ノ制限ヲ加ヘサレハ苟モ同市内ニ於ケル同會社ノ倉庫及附屬素倉ナル以上ハ其指定當時現在セルモノナルト將來ニ建設又ハ借入レタルモノナルトヲ問ハス包括シテ此等總テ受渡ノ場所ト爲スノ趣旨ナリト解スヘク又現ニ實際ノ取引ニ於テ指定後ニ同會社ノ増設シタル倉庫ニ收藏シタル米ニ付發行シタル證券ヲ適法ノモノトシテ受渡ヲ爲シ來リタルコトハ原告仲買人和田榮藏ノ訊問調書記載ノ證言ニ依リ明ナル事蹟ニ徴スルモ右解釋ノ誤ラサルコトヲ確ムルニ足ル(中略) 控訴代理人ハ賣方仲買人ノ提供シタル證券中東神倉庫株式會社門司支店發行ノ米ノ證券ニシテ門司市濱町所在ノ倉庫以外ノ倉庫ニ收藏シタル米ニ付發行シタル證券ナルモ該倉庫ハ指定ノ倉庫ニアラサレハ此證券モ提供ノ効力ナキ旨主張スレトモ地區外ノ受渡場所ニ關シ同營業細則乙第二號證第六十一條ニ門司市濱町東神倉庫株式會社門司支店ノ所屬倉庫及附屬素倉ヲ受渡ノ場所トスル旨規定シアリテ之ニ依レハ門司市濱町ハ東神倉庫株式會社門司支店ノ肩書ニシテ控訴代理人主張ノ如ク同倉庫及附屬素倉ノ所在地ヲ制限スルモノト解セサル

ヲ以テ同會社門司支店所屬ノ倉庫及附屬素倉ナル以上ハ指定ノ倉庫及附屬素倉ニ該當スヘキモノトス 現ニ原審ノ證人和田榮藏ノ訊問調書記載ノ證言ニ依リ明カナル如ク仲買人間ニ門司市ニ於テ濱町以外ノ同支店倉庫ヲ受渡ノ場所トシテ異議ナク取引シ來リタル事蹟ニ徴スルモ右認定ヲ確ムルニ足ル (大正五年ネ一八八一號「證據金並ニ違約金請求控訴事件」同六、七、二七民事部判決—新聞一三二九號二五、判例二卷要旨五四三)

*原審—山口地、下關支部 大正五、一一、一三判決(前掲)

早受渡
早渡手形發
行ノ根據

藤田國之助氏 早受渡手形發行ノ根據ヲ、株式取引所ガソノ長期清算取引ニ付イテ定款上賠償又ハ辨償—特ニココニ辨償トハ名古屋株式取引所ノ如ク長期清算取引ニ付イテ取引員ノ現ニ納入セル身元保證金及賣買證據金ノ限度ニ於テ立替支拂ヲ爲ス(或ハソノ限度ニ於テ賠償ヲ爲ス)コトヲ言フ—責ニ任ズルコトニ求メタイ 言フマデモナク最モ完全ナル賠償ハ債務ノ本旨ニ從ツタ履行ヲ爲スコト、即チ賣方ニハ約定代金ヲ支拂ヒ、買方ニハ約定證券ヲ引渡スコトニ在ルノダカラ、業務規程上取引所ガカカル賠償ヲ爲スベキコトヲ規定シテモ一向差支ナイ譯デアアル ソシテ取引所ハコノ賠償責任ニ依ツテ一ノ保證債務ヲ負フ譯デアツテ、コレヲ買方違約ノ場合ニ付イテ言ヘバ、主タル債務者タル買方ガソノ債務ノ不履行即チ約定代金ヲ提供シナイ場合ニ初メテソノ履行ヲ爲ス責ニ任ズレバ可イノデアアルガ、取引所ガ自ら進ンデ主タル債務者ト連帶シテ保證ノ責ニ任ズルコトハ何等差支ナイ所デアリ、更ニ進ンデコノ連帶保證債務ヲ手形債務トスルコト亦差支ナイ譯デアアル 早受渡手形ハ實ニコノ手形ニ外ナラナイ 取引所ハ早渡證券ニ對シテ賣方ニ現金又ハ小切手ヲ交付スルモノデハナイ 單ニ受渡期日ノ翌日ニ約定代金ヲ支拂フベキ旨ノ約束手形ヲ交付スルニ過ギナイ コノ先日付手形ノ割引ニ依ツテ賣方ガ資金ヲ調達スルト否トハコノ手形ヲ取得シタ賣方ト銀行トノ金融問題デアツテ取引所トシテハ何等關知スル所デナイ 早受ヲ爲ス買方ニ對スル關係モ亦同様ニ説明シ得ル(取引所論一四八)

大株業務規程 第七十六條 長期取引ノ受渡期日前ニ於テ受渡ヲ爲サムトスルモノハ本所ノ承認ヲ得テ早受渡ヲ爲スコトヲ得 前項ノ場合ニ於テ賣方ヨリ約定證券ノ提供ヲ爲シタルニ拘ラス買方ニ於テ受渡希望者ナキトキハ本所ハ一時買方ノ爲メニ其證券ヲ受領シ後日之ヲ買方ニ交付スルモノトス 前項ノ規定ニ依リ本所ニ於テ約定證券ヲ受領シタルトキハ本所ハ賣付當日ノ帳入値段ヲ手形金額トシ其銘柄ノ當該限受渡日ノ翌日ヲ支拂日ト爲シタル手形ヲ賣方ニ交付スルモノトス但本所ノ都合ニ依リ之ヲ交付セサルコトアルヘシ 實物取引ノ受渡期日前ニ於テ受渡ヲ爲サムトスルトキハ本所ノ承認ヲ得テ受渡ヲ爲スコトヲ得 本條ノ場合ニ於テ本所ハ日歩其他料金ヲ徴收スルコトナシ

格付受渡

令第十四條 清算市場ニ於ケル賣買取引ニ限リ業務規程ノ定ムル所ニ依リ標準物ヲ定メ格付受渡ノ方法ヲ用キルコトヲ得

受渡格付表ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ(制定—大正一一、七)

*本項ニ付テハ尙本編第二章第一節「實物取引及清算取引」中標準物ニ依ル清算取引ノ項參照

舊令第十三條 (明治二六、七) 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

三 米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

舊令第十三條 (明治三五、六) 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

三 米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムルトキ又ハ第一項第四號ノ方法ヲ用ウルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

舊令第十三條 (明治三九、一一) 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

三 米、大麥、蠶絲及棉花ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

取引所ニ於テ第一項第三號ニ依リ同種商品ノ格付ヲ定ムルトキ又ハ第一項第四號ノ方法ヲ用ウルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

舊令第十三條 (明治四一、一〇) 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

三 米、大麥、小麥、蠶絲、棉花、綿絲ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

取引所ニ於テ第一項第三號ニ依リ同種商品ノ格付ヲ定ムルトキ又ハ第一項第四號ノ方法ヲ用ウルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

舊令第十二條 (大正三、六) 賣買取引ハ現物、見本又ハ銘柄ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

米、棉花、綿絲又ハ蠶絲ノ定期取引ニ限リ營業細則ノ定ムル所ニ依リ標準物ヲ定メ格付受渡ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ標準物ハ之ニ依リテ爲シタル定期取引ノ受渡期日ヲ經過シタル後六月間取引所之ヲ保管スヘシ

商工局監理課 一、第一項ハ現行勅令ト別段ノ差ナシ(現第十一條)

二、標準物ニ依ル格付賣買取引認ムルコトハ從來ト同シ 但タ大麥、小麥ニ付テハ從來ノ規定アリシトイヘトモ其ノ實用ナキヲ以テ單ニ米、棉花、綿糸、蠶絲ノ四種ヲ此ニ掲ケタルノミ（現第十三條第一項第三號）又從來ノ規定ニ在リテハ「標準物ヲ以テ賣買取引ヲ爲シ取引所ニ於テ：代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法」ナル文字ヲ用キタルモ多年ノ慣例ニヨリ「格付受渡ノ方法」ト云フヲ以テ意味明瞭ナリト認メ文面ヲ簡單ニシタル以外別段ノ差ナシ

三、標準物ハ紛争ノ生シタル場合ニ於テ必要トスルコトアルヘキニ依リ少ナクモ定期取引ノ最終ノ受渡期日ヲ經過シタル後六月間ハ取引所ハ義務トシテ之ヲ保管スヘキコトトセリ（現又ハ現行トアルハ明治二十六年勅令第七十四號）（大正三、六、二九・農商務省商工局管理課「取引所令ニ關スル說明」）

舊施第二十條ノ五（明治三五、六）取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ
 舊施第二十條ノ五（明治三九、一一）取引所ニ於テ米、大麥、蠶絲及棉花ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ
 舊施第二十條ノ五（明治四一、一〇）取引所ニ於テ米、大麥、小麥、蠶絲、棉花、綿絲ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ
 取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ

標準物ノ提出及保管

施第十三條 取引所清算市場ニ於ケル賣買取引ノ標準物ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ一部ヲ商工大臣ニ差出シ其ノ一部ヲ會員又ハ取引員ニ交付シ之ヲ其ノ營業所ニ保管セシムヘシ
 前項ノ標準物ハ之ニ依リテ爲シタル賣買取引ノ受渡期日後六箇月ヲ經過スル迄取引所之ヲ保管スヘシ（制定―大正三、六 改正―大正一一、七）

舊施第十三條（大正三、六）取引所定期取引ノ標準物ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ一部ヲ農商務大臣ニ差出シ其ノ一部ヲ仲買人ニ交付シ之ヲ其ノ營業所ニ保管セシムヘシ
 受渡格付表ハ營業細則ニ之ヲ規定スヘシ

格付係員選任ノ申告

商工局監理課 標準物ノ一部ヲ農商務大臣ニ差出サシメ又仲買人ニ交付シ仲買人ヲシテ之ヲ保管セシムルハ標準物賣買取引ノ嚴正ヲ期圖スルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ格付ヲ爲ス者ヲ公吏ニ準シタル法律ノ精神（取引所法第三十二條ノ二）ニ相對應スルモノナリ
 次ニ受渡格付表ハ從來營業細則ヲ離レタル別ノ規程ナリシモ賣買取引ニ關スル重要ナル事項ニ屬スルヲ以テ之ヲ營業細則中ニ規定スヘキモノトセリ 但シ本年二月ニ至ルノ間ニ於テ營業細則ノ改正ヲ行フ時マテハ格付表ハ全然從來ノ例ニ依リテ取扱ハルヘキコトハ新勅令ノ說明ニ於テ述ヘタル所ノ如シ（大正三、六、二九・農商務省商工局監理課「取引所法施行規則ニ關スル說明」）

施第二十一條

取引所其ノ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク履歷書ヲ添附シ左ノ事項ヲ申告スヘシ

一 氏名、住所、職業

二 報 酬

三 在職期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間

受渡物件ノ格付ヲ爲ス者選任シタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ申告スヘシ

取引所ハ其ノ物件ヲ取引スル取引所ノ會員又ハ取引員ヲシテ受渡物件ノ格付ヲ爲サシムルコトヲ得ス（制定―大正三、六 改正―大正一一、七）

舊施第二十一條（大正三、六）取引所其ノ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク履歷書ヲ添附シ左ノ事項ヲ申告スヘシ

一 氏名、住所、職業

二 報 酬

三 在職期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間

受渡物件ノ格付ヲ爲ス者選任シタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ申告スヘシ
 取引所ハ其ノ物件ヲ取引スル取引所ノ仲買人ヲシテ受渡物件ノ格付ヲ爲サシムルコトヲ得ス

商工局監理課 本條ノ規定ヲ必要トスルニ至リタル所以ノモノハ取引所法第三十二條ノ二及第三十二條ノ三第一項第一號ノ規定ノ關係上格付ヲ爲ス者ノ何人タルカヲ明確ニ爲シ置ク必要アルニ由ル 又本條第三項ニ於テ同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ仲買人ヲ

シテ格付ノ任務ニ當ラシムルコトヲ禁シタルハ格付ノ公正ヲ期スル精神ニ出ツ 是ノ故ニ各取引所ニ於テハ格付ヲ爲ス者ハ明瞭ニ之ヲ確定スルコトヲ要ス 其ノ格付ヲ爲ス者ニアラサル者ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス格付ニ参加スルコトヲ得サル精神トス

本則施行前ヨリ格付ヲ爲ス者トシテ選任シタル者ニ付テハ附則第三十條ニ依リ九月一日早々申告ヲ爲ササルヘカラス(大正三、六、二九・農商務省商工局監理課「取引所法施行規則ニ關スル説明」)

取引所法第二十二條ノ
二 役員又ハ格付ヲ爲ス者
ノ收賄ト處罰

法第三十二條ノ二 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス(追加—大正三、三)

取引所法第三十二條ノ
二 追加ノ趣旨

商工局長 岡 實氏 取引所ノ役員トカ或ハ取引所ニ於ケル検査役ト申スベキモノハ、場面ヲ監督シ若クハ受渡ヲ監理シテ最モ公平忠實ニ其職務ニ盡スベキコトデアツテ、公益ノ要求スル所デアアル 然ルニ時トシテハ合格スベカラザル米ガ合格シテ、ソレガ爲メニハ賄賂ヲ行ツタトテ言フ流言浮説ガアツテ、思ハザル紛擾ヲ起スコトガ往々アルコトデアアル 故ニ取引所ノ役員検査役ハ賄賂ヲ受クベカラズ、之ヲ贈ルベカラズ、贈ル者受クル者共ニ罰スル主義ヲ執ツテソレニ對スル制裁規定ヲ明カニシタ(大正三年第三一議會衆議院委員會—速記集上三〇九)

「格付ヲ爲ス者」ノ意義

商工局長 岡 實氏 此格付ヲ爲スト言フ觀念ノ範圍デアアルガ、是ハ主トシテ其責任トシテ格付ヲ決定スル職務ニ服スル者ト言フ意味デアアル 併シナガラ其事ガ此文字ダケデア明カデナイト言フコトデアレバ、ソレハ或ハ施行細則、其他定款中等ニ一定ノ限界ヲ定メルコトヲ認メテ宜カラウト考ヘテ居ル(大正三年第三一議會衆議院委員會—速記集上四〇九)

法第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者
- 二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

贈賄者處罰

- 三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者
- 四 免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(追加—大正三、三 改正—大正一、一、四)

大審院 米穀取引所ニ於ケル格付検査ノ不當ヲ理由トスル損害賠償ノ訴ハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノトス

—判例集要旨

(事實) 被上告人(被控訴人、原告) 請求ノ要旨ハ被上告人ハ上告人株式會社小樽取引所ノ取引員ニシテ同取引所ニ於テ買建テタル大正十一年十一月限、同年十二月限、大正十二年一月限ノ買建テタル定期米ニ付賣方取引員ノ提供シタル代用米ニ付上告人會社カ營業細則及改正業務規程ニ基キ格付ノ検査ヲ爲シタルニ被上告人ハ其ノ検査ヲ不當ナリトシ因リテ被リタル損害ノ賠償ヲ求ムト云フニ在リ 上告人答辯ノ要旨ハ(一) 取引所ノ格付検査ハ其ノ性質上私法的行爲ニ屬セス 故ニ格付検査ノ不當ナルコトヲ原因トスル本訴請求ハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬セス(二) 取引所ノ不當ノ決議若ハ處分ニ對シテハ監督官廳タル農商務大臣ニ於テ其ノ監督權ニ依リテ之ヲ取消又ハ變更ヲ命ジ得ルモノナルヲ以テ取引所ノ處分タル格付検査ノ不當ナルコトヲ原因トスル本訴請求ハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬セス(三) 假ニ司法裁判所ノ權限ニ屬ストスルモ上告人取引所ノ營業細則第一百條改正業務規程第九十八條ニ取引所ノ格付決定ニ對シテハ賣買當事者双方異議ヲ唱フルコトヲ得スト規定シアリ 而シテ被上告人等ハ該規定ヲ知了シ暗黙ニ之ニ服從スルノ意思ヲ表示シ本件ノ取引ヲ爲シタルモノナレハ被上告人ハ本件ノ格付検査ニ拘束セラルルモノニシテ之ニ對シ異議ヲ述フルノ權利ナシ 故ニ無訴權ノ抗辯ヲ提出スト云フニアリ 原院ハ上告人ノ無訴權ノ抗辯ヲ排斥シタルモノトス

(判決理由) 米穀取引所ニ於ケル格付検査ハ標準米ト異リタル米ヲ代用トシテ受渡ヲ爲スニ當リ其ノ代用米ノ品質ヲ査定スルコトニシテ此ノ格付検査ニ依リテ賣買當事者ハ受渡米ノ外ニ若干ノ値違金ヲ授受スルコトヲ要スルヲ以テ格付検査ハ直接賣買ノ履行ニ關與シ賣買當事者ノ私法上ノ權利關係ニ消長ヲ來タスモノナルカ故ニ格付検査ノ不當ヲ理由トシテ損害賠償ヲ求ムル訴ハ司法裁判所ニ於テ之ヲ裁判權ヲ有スルモノト云ハサヘカラス(大正一二年オ八八八號「損害賠償請求事件」同一三、三、八民三判決—民集三卷一〇九、彙報三五卷上民三二二、新聞二二四八號一七、評論一三卷諸一八二)

米穀取引所
ノ不當ナル
格付検査ニ
基ク損害賠
償ノ訴ト無
訴權ノ抗辯

菊井維大氏 私ハ判旨ノ解スル所ヲ以テ正當ナリト信ズル 上告人ハ原審ニ於ケル答辯ニ於テ取引所ノ格付検査ハ性質上私法的行爲ニ屬セズト云ツテ居ルガ何故ニ然ルカ了解ニ苦シム 又取引所ノ不當ノ決議若ハ處分ニ對シテハ監督官廳タル農商務大臣ニ於テ其ノ監督權ニ依リ之ガ取消又ハ變更ヲ命ジ得ルト謂フ事由ヲ擧ゲテ格付検査ニ對スル不服ヲ原因トスル請求ハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬シナイト論ジテ居ルガ單ニ被監督者タルノ故ヲ以テ直チニ被監督者タル取引所ノ行爲ヲ公法的ト解スルノハ正シクナイ：或ル法律關係ガ公法的ナリト解セラルル爲メニハ其ノ當事者ガ權力者ト服從者タル地位ニ於テ對立スルコトガ必要ナル 從テ法律服從者相互間ニ於テ生ジタル法律關係ハ之ヲ私法的ナリト解スベキデアル 判旨「格付検査ハ直接賣買取引ニ關與シ賣買取引當事者ノ私法上ノ權利關係ニ消長ヲ來スモノナルカ故ニ云々」ト云ツテ居ルノモ此ノ意味ニ外ナラナイノデアル（判例民事法大正一三年度八二）

美濃部達吉博士 此ノ判決モ亦當然ノ事テ別段ノ評論ヲ要セヌ 取引所ノ格付検査ハ勿論行政處分ト見ルベキモノデハナイガ假令ソレガ公法的行爲デアルトシテモ其ノ違法ナルコトヲ理由トシテ損害賠償ヲ求メルノハ民事事件ニ屬スル 公法的行爲ナルガ故ニ賠償責任ナシト云フ主張ハ本案ノ答辯デアツテ無訴權ノ抗辯トハナリ得ナイ（類集評論行政法判例第三分冊七七四、評釋公法判例大系上卷六一三）

安濃津地 委託者ハ取引所ニ於ケル賣買取引ニ關シテハ何等直接ノ關係ヲ有セサルニヨリ假令取引所カ該賣買取引ニ對シ不當ノ格付ヲ爲シ爲メニ其一方ニ損害ヲ蒙ラシメタリトスルモ其賣買取引ノ當事者タル仲買人ヨリ其不當ヲ抗擊シ之カ救済ヲ求ムルハ格別委託者カ直接取引所ニ對シ其格付ノ不當ヲ主張シテ其損害ノ賠償ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

（判決理由）取引所ノ仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトト間ハス取引所ニ對シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フモノナルカ故ニ他人ノ注文ニヨリ賣買取引ヲ爲ス場合ト雖モ其注文者トノ間ニハ一種ノ委任關係ヲ有スルニ止マリ取引所ニ於テハ自己ノ名義及ヒ責任ヲ以テ賣買取引ヲ爲シ取引所及取引ノ相手方ニ對シ全ク獨立シタル當事者トシテ別個ノ權利關係ニ立ツモノナルヲ以テ單ニ他人間ノ商行為ノ媒介ヲ爲スヲ業トセル仲買人トハ大ニ其趣ヲ異ニシ寧ロ自己ノ名ヲ以テ他人ノ計算ヲ爲メ或商行爲ヲ營ム間屋ノ範疇ニ屬スルモノト解釋スルヲ妥當トス 故ニ取引所ノ賣買取引ハ仲買人ト取引所及取引ノ相手方間ニ生スル權利關係ニシテ注文者ハ該賣買取引ニ關シ何等直接ノ關係ヲ有スルコトナク只仲買人ニ對シ其委託ニ基ク一種ノ委任關係ヲ有スルニ過キ

サルモノト謂ハサルヘカラサルナリ 從ツテ原告等カ仲買人ニ對シ被告取引所ニ於ケル本訴米穀ノ賣買取引ヲ委託シタリト假定スルモ原告等ハ單ニ仲買人ニ對シ其委託ニ基ク一種ノ委任關係ヲ有スルニ外ナラサルヲ以テ仲買人カ不當ニ其ノ委任事務ヲ處理シタリトセハ其仲買人ニ對シ之カ救済ヲ求メ得ヘキハ勿論ナリト雖モ取引所ニ於ケル賣買取引ニ關シテハ何等直接ノ關係ヲ有セサルニヨリ假令取引所カ該賣買取引ニ對シ不當ノ格付ヲ爲シ爲メニ其一方ニ損害ヲ蒙ラシメタリトスルモ其賣買取引ノ當事者タル仲買人ヨリ其ノ不當ヲ抗擊シ之カ救済ヲ求ムルハ格別原告等カ直接取引所ニ對シ其格付ノ不當ヲ主張シテ其損害ノ賠償ヲ求メ得ヘキモノニ非サルヲ以テ原告ノ本訴請求ハ既ニ此點ニ於テ認容スルニ由ナキモノト認定シ此點ニ關スル被告ノ抗辯ニ辯論ヲ制限シ爾餘ノ爭點ヲ判定セス（明治四四年通三七號「受米格付及損害賠償請求事件」同四四、五、二三民事部判決—新聞七二四號二四）

* 短期取引ノ繰延及立會休止中ノ乘換手續—本編第二章第一節「賣物取引及清算取引」參照

第七章 解 合

解合ノ意義

大審院 所謂解合ハ上告人モ認ムルカ如ク當事者力標準値段ヲ協定シ之ニ基キテ取引ノ結算勘定ヲ爲ス方法タル以上ハ之ヲ一種ノ轉賣買戻ト爲スモ其理由ナキニ非サルノミナラス如キ見解ハ實ニ本院ノ判例(三三、二六定期賣建株券引取要求事件)ト符合スルヲ以テ固ヨリ不當ニアラス(明治三五年オ一三三號「定期賣立株式代金並保證金請求ノ件」同三五、七、五民一判決一民錄八輯七卷三〇)

解合ノ意義

東京控 解合ナルモノハ取引所ニ於ケル賣買建玉ヲ一定ノ協定價格ニ依リ決算シ互ニ取引ヲ終了セシムヘキ商慣習上ノ手仕舞方法ニ外ナラス

(判決理由) 控訴人「委託者」ハ同年九月十三日ニ於テ九月限五千石ノ買建玉ヲ一石十九圓二十錢ニテ賣埋メタルコトヲ主張シ被控訴人「仲買人」ハ同様ノ價額ヲ以テ賣方ト解合ヲ爲シ取引ヲ終了シタルコトヲ主張スルモ素解合ナルモノハ取引所ニ於ケル賣買建玉ヲ一定ノ協定價額ニ依リ決算シ互ニ取引ヲ終了セシムベキ商慣習上ノ手仕舞方法ニ外ナラサルヲ以テ右兩當事者ノ主張ハ同日ニ於テ被控訴人カ控訴人ノ委託ニ基キ九月限五千石ノ買建玉ヲ一石十九圓二十錢ニテ手仕舞シタリトノ事實ニ付キ争ナキモノト解シ得ヘシ(大正四年ネ一四五號「證據金返付請求控訴事件」同七、六、七民三判決一判例三卷民一三七七)

解合ノ意義

朝高法院 俗ニ解合ト稱スルモノハ市場變調ヲ呈シ賣方買方雙方死力ヲ盡シテ相争ヒ一方倒ルレハ假令違約處分ヲ爲スモ相手方亦多少ノ損害ヲ免レサルカ如キ場合ニ於テ賣方買方合議ノ上所謂解合値段ヲ協定シ其ノ値段ヲ以テ轉賣買戻ノ形式ニ依リ總賣買ノ差引消合ヲ爲スヲ謂フモノナレハ其ノ行爲ノ性質ハ轉賣買戻ノ行爲ニ於ケルト全ク同一ニシテ畢竟解合ハ之ヲ其ノ賣方又ハ買方ノ一方ヨリ箇々ノ契約ニ付テ觀察スレハ即チ轉賣買戻ニ外ナラサルモノトス(大正二、八、七判決一朝高錄一〇卷民二三五、朝鮮高等法院判例要旨類集民六七三)

委託者ト取
引員トノ關
係
委託者ノ承
諾ニ基キテ
解合ノ効
果
總解合ニ關
スル慣習
不存ニシ
テ解合ノ効
力及ボスニ
ハ委託者
其承諾アル
力又ハ商慣
習法若ハ規
約ニ依ルコ
トヲ要ス
スル判例

大審院 取引所仲買人カ他人ノ依頼ニ因リ爲ス取引ハ一種ノ委任行爲ナレハ一般委任ノ法則ニ從フヘシ 而シテ委任ノ原則上受任者ハ委任ノ趣旨ニ反シテ行爲ヲ爲スヲ得ス 取引所仲買人カ委任者ノ爲メニ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル末其取引ノ停止トナリタル場合ニ於テ總解合ニ因リ委任セラレタル賣買ノ解除ヲ爲シ委任者ニ對シ其責任ヲ免レンニハ豫メ其委任者ノ承諾アルカ然ラサレハ公認セラレハ公認セラレタル慣習法若クハ規約ニ依ルコトヲ要ス 然ルニ仲買人タル上告人カ本件賣買ノ解合ヲ爲スニ付テハ委任者タル被上告人ノ承諾ヲ得タル事實アルコトハ原裁判所ノ認メサル所ニシテ且規約ニモ依リタルモノニ非ス 而シテ上告人ハ唯慣習法ノ存在スル一事ヲ以テ即チ諸取引市場ニ於ケル定期賣買ノ總解合ハ委任者ノ承諾ナクシテ之ヲ爲スヘキコトハ古來全國一般ノ慣習法ナリト縷々陳述スレトモ本院ニ於テハ之ニ反スル判例コソアレ仲買人カ委任者ノ承諾ナキニ之ニ對シ責任ヲ負フコトナクシテ賣買ノ總解合ヲ爲シ得ヘキ慣習アルコトハ未タ曾テ認メサル所ナリ 而シテ本件ノ東京商品取引所ニ於ケル慣習タルヤ上告人カ第一審以來援用スル所ノ證人等ノ訊問調書ニ就テ之ヲ調査スルニ是等ノ證言ニ依ルモ仲買人カ委任者ノ承諾ナキニ責任ヲ負フコトナクシテ總解合ヲ爲ス慣習存在スルモノト認ムルヲ得サルコトハ原裁判所ノ説明スル所ト同感ナリ 故ニ原裁判所カ本件ノ總解合ニ付テハ仲買人ニ責任アリトシ敗訴ノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法ナル點ナシ(明治三二年一六六號「損害金請求ノ件」同三一、九、一六民二判決一民錄四輯八卷一八)

(判決理由) 凡取引所仲買人カ他人ノ依頼ニヨリ取引ヲ爲スハ一種ノ委任行爲ナレハ一般委任ノ法則ニ從フヘキコト固ヨリ論ナシ 而シテ委任ノ原則トシテ受任者ハ委任ノ趣旨ニ反シテ行爲ヲ爲スコトヲ得ス 然ラハ仲買人カ委任者ノ爲メニ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル末其取引ノ停止トナリタル場合ニ於テ總解合ニ因リ委任セラレタル賣買ノ解除ヲ爲シ委任者ニ對シ其責任ヲ免レンニハ豫メ其委任者ノ承諾アルカ然ラサレハ公認セラレハ公認セラレタル慣習法若クハ規約ニ依ルコトヲ要ス 然ルニ仲買人タル上告人カ本件賣買ノ解合ヲ爲スニ付テハ委任者タル被上告人ノ承諾ヲ得タル事實アルコトハ原裁判所ノ認メサル所ニシテ且規約ニモ依リタルモノニ非ス 而シテ上告人ハ唯慣習法ノ存在スル一事ヲ以テ即チ諸取引市場ニ於ケル定期賣買ノ總解合ハ委任者ノ承諾ナクシテ之ヲ爲スヘキコトハ古來全國一般ノ慣習法ナリト縷々陳述スレトモ本院ニ於テハ之ニ反スル判例コソアレ仲買人カ委任者ノ承諾ナキニ之ニ對シ責任ヲ負フコトナクシテ賣買ノ總解合ヲ爲シ得ヘキ慣習アルコトハ未タ曾テ認メサル所ナリ 而シテ本件ノ東京商品取引所ニ於ケル慣習タルヤ上告人カ第一審以來援用スル所ノ證人等ノ訊問調書ニ就テ之ヲ調査スルニ是等ノ證言ニ依ルモ仲買人カ委任者ノ承諾ナキニ責任ヲ負フコトナクシテ總解合ヲ爲ス慣習存在スルモノト認ムルヲ得サルコトハ原裁判所ノ説明スル所ト同感ナリ 故ニ原裁判所カ本件ノ總解合ニ付テハ仲買人ニ責任アリトシ敗訴ノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法ナル點ナシ(明治三二年一六六號「損害金請求ノ件」同三一、九、一六民二判決一民錄四輯八卷一八)

大審院 取引所仲買人カ他人ノ注文ニヨリ取引所ニ於テ取引ヲ爲ス事ハ一種ノ委任行爲ニ外ナラ

委託者ト取

引員トノ關
係者ノ承
諾ニ基カ
ル解合ノ効
果ヲ委託者
及ボスニハ
其ノ承諾ヲ
要スルハ判
例

サルヲ以テ一般委任ノ法則ニ從フヘキモノトス。取引所仲買人カ委任者ノ注文ニヨリ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル末其取引ノ停止ト爲リタル場合ニ於テ賣買ノ解合ヲ爲スモ委任者ノ承諾ニ出テサル限リハ委任者ニ其結果ヲ對抗スルコトヲ得ス。判決録要旨

(上告理由) 原判決ノ要旨ハ株式會社神戸米穀外四品取引所ニ於テハ明治三十一年三月二十二日同所株三月限賣買カ總解合トナリタルコト明カニシテ被告上告人(仲買人)カ上告人(委託者)ニ報告シタル甲第一號證一、二ノ同所株三月限賣買附モ解合トナリタルコト勿論ナレハ被告上告人ニ對シ株券ヲ引渡シテ給付ヲ得ントスルハ不能ノ事ニ屬ス、何トナレハ被告上告人ハ上告人ニ對シ間接代理ノ關係アルニ止マリ自己ニ株券ヲ買受クル事ヲ契約シタルモノニアラサルヲ以テ賣買カ解合トナリ株券引換ニ代金ヲ渡スヘキ買主ナキニ至リタル上ハ被告上告人ハ株券ヲ引取り代金ヲ支拂フ事能ハサルハ當然ナレハナリト言フニアリ。以上ノ判旨ハ第一ニ取引所仲買人ノ性質ヲ誤解シ第二ニ解合ノ性質ヲ誤解シタルモノナリ。第一、我邦現在ノ取引所仲買人ナル者ハ商法ノ所謂仲立人ニアラサルハ勿論同法ノ所謂取引所仲立人トモ其性質ヲ異ニスル點アリ。蓋シ商法ノ取引所仲立人ナルモノハ歐米諸國ニ於ケル會員組織取引所ノ仲立人ニ關スル法規ヲ採用シタルモノナレトモ現行取引所法ノ仲買人ハ從來我國ニ行ハレタル取引所仲買人ノ慣習上ノ性質ニ基キタルモノナリ。而シテ我現在ノ取引所仲買人ハ獨リ他人ノ注文ニヨリ取引所ニ賣買ヲ爲スノミナラス自己ノ計算ニテモ賣買ヲ爲スコトヲ得ヘク且他人ノ注文ニヨルトキト自己ノ計算ニテ爲スコトヲ問ハス取引所ニ對シテハ總テ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シ其責任モ亦自己ニ負擔スルハ勿論他人ノ注文ニヨルトキト雖モ注文主ニ對シ相手方ノ何人タルヤヲ報告スル事ナキモノトス。故ニ取引所仲買人ハ注文主ニ對シテハ其注文ヲ受ケタル賣買高ヲ取引所市場ニ於テ賣買シ受渡期日ニ至リ注文主ニ報告シタル代價ヲ以テ物品ト代價ヲ交換スルノ義務アルノ外取引所ノ帳簿上ニ於テ注文主ニ報告シタル通りノ取引ヲ受渡期日迄其儘ニ存立シ置クノ義務アル事ナシ。則チ取引所仲買人ト其注文主トノ關係ハ普通ノ代理關係ニ非スシテ二個ノ獨立シタル商人間ノ關係ニ外ナラス。仲買人ハ取引所ノ帳簿上ニ於テ注文主ニ報告シタル通りノ取引カ取引所ノ帳簿ニ存スル場合ニ限リテノ履行ヲ請求スルヲ得ルモノヨリテ消滅シタルト問ハス注文主ニ對シテハ報告シタル通りノ代價ニテ計算ヲ爲スハ我邦取引所ニ於ケル一般ノ慣習ナリトス。若シ然ラスシテ注文主ハ仲買人ヨリ報告シタル通りノ取引カ取引所ノ帳簿ニ存スル場合ニ限リテノ履行ヲ請求スルヲ得ルモノトセンカ。斯ル取引ノ存セサル場合ニ於テハ亦履行ノ責ナキニ至ラン。若シ然ラハ轉賣買戻ニヨリ取引ヲ相殺スルテ我定期取引ノ特別方法ハ全ク其實効ヲ失フニ至リ仲買人ハ一々其注文主ニ對シ相手ノ何人ナルヲ通知シ其對手ヨリ受取りタル金品ニアラサレハ之ヲ注文主ニ引渡ス能ハサルニ至ルヘシ。是レ豈ニ現行取引所仲買人ノ性質ニ適合スルモノナランヤ。取引所仲買人ノ性質前述ノ

如クナル上ハ原院カ被告上告人ハ上告人ニ對シ間接代理ノ關係アルニ止マリ自己ニ買受ノ契約ヲ爲シタルモノニアラサルヲ以テ上告人ノ承諾ヲ經スシテ解合ヲ爲シ取引所ノ帳簿ニ其取引ノ存セサルニ至リタル場合ニハ上告人ニ對シ直接履行ノ責任ナシトシタルハ取引所仲買人ノ性質ヲ誤解シタルモノナリ。第二、解合ナルコトハ定期取引社會ニ於ケル慣用語ナルカ其意義ハ賣買雙方ニ於テ豫メ代價ヲ協定シ置キ其代價ニテ賣方ハ買戻ヲ爲シ買方ハ轉賣ヲ爲スヲ言フナリ。而シテ解合ヲ爲サントスル物品ヲ賣買シタル者全體カ此轉賣買戻ヲ爲ス事ニ同意シタル時ハ之ヲ總解合ト言フナリ。故ニ解合トハ法律語ニアラサルノミナラス何レノ取引所ニ於テモ定款及ヒ營業細則上ヨリスレハ普通ノ轉賣買戻ト何等異ナル事ナキモノトス。則チ本件ニ於テ總解合アリタリト言フモ亦賣方仲買人ヨリ見レハ其賣高全部ヲ或代價ニテ買方仲買人ヨリ買戻シタルモノニシテ買方仲買人ヨリ見レハ其買高全部ヲ同一ノ代價ニテ賣方仲買人ニ轉賣シ各之ヲ取引所帳簿ニ記載シ賣買ヲ相殺シテ一モ殘スナキニ至レリト言フニ過キスシテ一旦成立シタル賣買カ無効タルニハアラサルナリ。從テ之ヲ本件當事者ノ關係ニ適用シテ謂フトキハ被告上告人ハ上告人ノ注文ニヨリ取引所市場ニテ株式賣立テ置キタルニ更ニ同一市場ニテ自ら同一數ノ株式ヲ買取りタルモノナリ。而シテ取引所ハ仲買人其人ノミヲ見テ其人ノ取引カ注文ニ出テタルト否ラサルト問ハサルヲ以テ被告上告人カ前ニ株式賣立テ後ニ同一額ヲ買ヒタルヲ以テ帳簿上之ヲ相殺シタルナリ。即チ上告人ノ注文シタル取引ニ對シテハ被告上告人自ら履行者ノ地位ニ立ツコトナリテ此結果ニ至リタルナリ。然ルニ被告上告人ノ此買取ハ上告人ノ承諾ヲ經タルモノニアラサルヲ以テ其結果ヲ以テ上告人ニ對抗スルヲ得サルハ勿論ニシテ被告上告人自己ノ計算ニテ別ニ買取ヲ爲シタルモノト見ルノ外ナシ。從ツテ取引所ノ帳簿ノ記載如何ニ拘ラス上告人ニ對シ賣付約定ノ履行ヲ爲ス責任アルヘキハ前段ニ述ヘタル仲買人ノ性質ニ照ラシ疑ヲ容レズ。以上述ヘタル理由ナルヲ以テ上告人ニ於テ解合ヲ承諾シタル事實ナキ限リハ被告上告人ハ解合ノ有無ニ拘ラス上告人ニ對シ直接履行ノ責任アルヘキモノナルニ原院ハ上告人ニ解合承諾ノ事實ナキ事爭ヒナキニ拘ラス解合ニヨリ履行カ不能ニ歸シタリトノ理由ヲ付シ上告人ノ請求ヲ斥ケタルハ不法ノ判決ナリ。

(判決理由) 凡ソ取引所仲買人カ他人ノ注文ニヨリ取引所ニ於テ取引ヲ爲ス事ハ一種ノ委任行為ニ外ナラサレハ一般委任ノ法則ニ從フヘキ事勿論ナリ。而シテ委任ノ原則トシテ受任者ハ委任者ノ趣旨ニ反シテ行為ヲ爲スコトヲ得サルモノトス。故ニ取引所仲買人カ委任者ノ注文ニヨリ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル末其取引ノ停止トナリタル場合ニ於テ賣買ノ解合ヲ爲スモ之カ委任者ノ承諾ニ出テタルニアラサル限リハ委任者ニ向ツテ其結果ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス。而シテ解合ナルモノハ賣買契約ノ履行ニシテ今之ヲ本件當事者ニ付テ論スレハ被告上告人ハ上告人ノ注文ニヨリ取引所市場ニ於テ株式賣置キタルヲ更ニ買戻シタルモノニシテ固ヨリ賣買契約ノ解除ニアラサル

ナリ 然ルニ本件被上告人カ賣買ノ解合ヲ爲スニ付キ上告人ノ承諾ヲ得タリトノ事實ハ原院ノ認メサル所ナレハ這ハ被上告人カ自己ノ計算ニテ爲シタルモノニ外ナラサルヲ以テ被上告人カ上告人ノ委任外ニ於テ爲シタル行爲ハ之ヲ上告人ニ對抗スル事ヲ得サルニ付被上告人ハ上告人ニ對シ賣付約定履行ノ責ニ任シ賣建テタル株券ヲ受取り賣建代金ヲ支拂フヘキハ固ヨリ當然ナルニモ拘ラス原院カ其判決中「株式會社神戸米穀外四品取引所ニ於テ明治三十一年三月二十二日同所株三月限賣買カ總解合トナリ云々被控訴人カ控訴人ニ委託シ控訴人ヨリ甲第一號證一、二ノ如ク報告シタル同所株三月限賣建モ共ニ解合トナリタルコトハ勿論トス 故ニ今被控訴人カ株券ヲ控訴人ニ渡シテ代金ノ給付ヲ得ントスルハ控訴人ニ在テハ全ク不能ノ事ニ屬セリ 何トナレハ控訴人ハ被控訴人ニ對シ間接代理ノ關係アルニ止マリ固ヨリ自己ニ株券ヲ買受ケル事ヲ契約シタルモノニアラサルヲ以テ云々」ト判示シテ被上告人カ上告人ノ承諾ナク其委任外ニ於テ爲シタル解合ノ場合ニ於テ約定履行力不能ナリトノ理由ヲ以テ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ上告人所論ノ如ク取引所仲買人ノ性質ト解合ノ性質トヲ誤解シ即チ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス（明治三十三年二六號「定期賣建株券引取要求ノ件」同三三、六、一〇民一判決「破毀差戻」民録五輯六卷二九）

大審院 注文者ト其注文ヲ受ケタル取引所仲買人トノ關係ハ一種特別ノ委任關係ナルヲ以テ普通委任ノ法則ノミニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス 仲買人カ注文者ノ意思ニ反シテ勝手ニ解合ヲ爲シタルトキハ仲買人ハ注文者ニ對シ自ラ履行ノ責ニ任シ賣建テタル株券ヲ受取り賣建代金ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノトス（判決錄要旨）

（判決理由） 注文者ト其注文ヲ受ケタル取引所仲買人トノ關係ハ一種特別ノ委任關係ナルヲ以テ普通委任ノ法則ノミニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス 何トナレハ仲買人ハ他人ノ注文ニ因リ取引ヲ爲ス場合ト雖モ自己ノ名ヲ以テ之ヲ爲シ其相手方ニ對シテハ直接ニ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フニ注文者ハ該取引ノ相手方ト何等ノ權利義務ノ關係ヲ有セサルヲ以テ普通ノ委任關係ト同一ニ論スルコトヲ得サルモノアレハナリ 而シテ本件ノ如ク仲買人カ注文者ノ意思ニ反シテ勝手ニ解合ヲ爲シタルトキハ仲買人ハ注文者ニ對シテ自ラ履行ノ責ニ任シ賣建テタル株券ヲ受取り賣建代金ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フヘキコトハ從來本院ノ判例（明治三十三年二六號「定期賣建株券引取要求ノ件」トスル所ニシテ原判決ハ全ク此判例ノ旨趣ニ適合スルヲ以テ固ヨリ違法ノ裁判ニアラス（明治三十五年オ一三三號「定期賣立株式代金並保證金請求ノ件」同三五、七、五民一判決「民録八輯七卷二五、彙報一三卷民四四五、新聞一〇一號二五）

東京地 仲買人カ注文主ノ爲メニ一旦定期米ノ買付ヲ爲シナカラ其承諾ヲ得ルコトナク恣ニ解合處分ヲ爲シ買付米受渡前ニ取引關係ヲ消滅セシメタルハ是レ即チ仲買人トシテ注文主ニ對スル義務ヲ完全ニ履行スル所以ニアラサルヲ以テ仲買人ニ債務不履行ノ事蹟ナシト言フヲ得ス（明治四五年ワ九二一號「損害賠償及證據金取戻請求事件」大正二、三、一三民三判決「新聞八八八號二二」）

* 判決理由一八九一頁參照

長崎控 取引人ニ於テ苟モ客ノ委託ニ基キ株式ノ定期賣建ヲ爲シ而モ其ノ限月期間内容ヨリ買戻等ニ因ル建玉處分ノ指圖ナキ以上取引人ハ限月末ニ於テ客ヨリ賣建株式ヲ受取り相手方トノ間ニ該株式ト之カ代金トヲ授受シテ現物受渡ヲ完了スヘク縱令相手方ニ於テ其ノ受渡義務ノ不履行アルモ之ヲ理由トシテ客ニ對スル自己ノ責務ヲ免ルルコトヲ得サルモノナリ 解合ハ賣買契約ノ解除ニ非スシテ取引所ニ於テ賣方買方雙方ノ取引人カ合意上其ノ賣買玉ニ付轉賣買ヲ爲シ相殺計算ヲ爲シタルト同一効果ヲ生スヘキ履行ニ代ル一種ノ決済方法ニ外ナラス 本件解合ハ委託者ノ承諾ニ基カサルモノナル爲取引人ハ該解合ノ効果即チ轉賣買ニ依ル相殺計算ノ結果ヲ以テ委託者ニ對抗シ得サル筋合ナルヲ以テ取引人ハ委託者ニ對シ其ノ賣建値段ニ依リ算出シタル金額ヲ支拂フヘキ責務アリ

（判決理由） 控訴人カ青島取引所ノ取引人ニシテ大正十一年九月二十三日被控訴人先代ヨリ同取引所ニ於テ同取引所株式百株ヲ十一月限一株金四十三圓ニテ賣建方委託ヲ受クルト同時ニ被控訴人先代ヨリ右株券百株ヲ受領シ同日其ノ賣建成立シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナリ 而シテ凡ソ取引人ハ取引所ニ於テハ客ノ委託ニ依リ其ノ計算ニ於テ取引ヲ爲ス場合ニ於テモ取引所トノ關係ニ於テハ常ニ自己ノ名ヲ以テ爲シ自己カ其ノ取引ノ當事者ト爲リ其ノ法律關係ノ主體ト爲ルモノニシテ委託者ノ代理人トシテ爲スモノニ非サルカ故ニ取引人ノ行爲ハ一種ノ間接營業ニ外ナラサルモノトス 故ニ取引人ニ於テ苟モ客ノ委託ニ基キ株式ノ定期賣建

委託者ノ承諾ヲ得ルコトナク恣ニ解合處分ヲ爲シ買付米受渡前ニ取引關係ヲ消滅セシメタルハ是レ即チ仲買人トシテ注文主ニ對スル義務ヲ完全ニ履行スル所以ニアラサルヲ以テ仲買人ニ債務不履行ノ事蹟ナシト言フヲ得ス（明治四五年ワ九二一號「損害賠償及證據金取戻請求事件」大正二、三、一三民三判決「新聞八八八號二二」）

委託者トノ關係ハ一種特別ノ委任關係ナルヲ以テ普通委任ノ法則ノミニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス 仲買人カ注文者ノ意思ニ反シテ勝手ニ解合ヲ爲シタルトキハ仲買人ハ注文者ニ對シ自ラ履行ノ責ニ任シ賣建テタル株券ヲ受取り賣建代金ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノトス（判決錄要旨）

ヲ爲シ而モ其ノ限月期間内客ヨリ買戻等ニ因ル建玉處分ノ指圖ナキ以上取引人ハ限月末ニ於テ客ヨリ賣建株式ヲ受取り相手方トノ間ニ該株式ト之カ代金トヲ授受シテ現物受渡ヲ完了スヘク縱令相手方ニ於テ其ノ受渡義務ノ不履行アルモ之ヲ理由トシテ客ニ對スル自己ノ責務ヲ免ルルコトヲ得サルモノナルヲ以テ取引人ハ其ノ取引ノ相手方ヨリ代金ヲ受領シタルト否トヲ問ハス客ニ對シテハ賣建株式ニ對スル其ノ賣建値段ヲ以テ計算シタル代金ヲ支拂フヘキ義務アルヤ勿論ナリトス然ラハ取引人タル控訴人カ被控訴人先代ヨリノ委託ニ基キ本件株式ノ賣建ヲ爲シ同株式ヲ被控訴人先代ヨリ受領シ居ルコト冒頭説示ノ如クニシテ而モ其ノ限月期間内被控訴人先代ヨリ買戻ニ因ル建玉處分ノ指圖ナカリシコト控訴人先代ノ爭ハサル所ナルヲ以テ控訴人ニ於テ其ノ相手方ヨリ賣建株式代金ヲ受領シタルヤ否ヤヲ問ハス被控訴人先代ニ對シ賣建値段一株金四十三圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ支拂フヘキ義務アルモノト謂ハサルヘカラス控訴人先代ハ青島取引所ニ於テハ大正十一年九月二十七日立會ヲ停止シタル儘打過キ同年十一月二十日ニ至リ總解合成立シ而モ該解合ニ付テハ被控訴人先代ニ於テモ之ヲ承諾シ居リタルモノナルカ假ニ其ノ承諾ナカリシトスルモ被控訴人先代ハ本件賣建委託ヲ爲ス際市況ニ鑑ミ控訴人ニ於テ隨意處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ約諾セシヲ以テ之ニ基キ解合ヲ爲シタルモノナレハ被控訴人先代ハ其ノ解合ノ結果ヲ甘受スヘキモノナル旨抗辯スレトモ此ノ點ニ關スル證人久留島象三ノ證言ハ輒ク措信シ難ク其ノ他控訴人先代ハ總テノ證據資料ニ依ルモ右抗辯事實ヲ肯定セシムルニ足ラサルヲ以テ前記解合ハ控訴人カ被控訴人先代ノ承諾ヲ得ス自己ノ責任ヲ以テ擅ニ之ヲ爲シタルモノト爲スヘク從テ該解合ハ之カ内容如何ヲ問ハス其ノ結果ヲ以テ委託者タル被控訴人先代ニ對抗シ得サルヤ勿論ナレハ控訴人先代ノ前記抗辯ハ理由ナシトシテ之ヲ排斥スヘク又本件賣建ハ被控訴人先代ニ於テ其ノ限月期間内買戻ニ因ル建玉處分ノ指圖ヲ爲シタルモノニ非サルコト既述ノ如クナルヲ以テ轉賣買ニ因ル差金ノ授受ニ依リ決濟スヘキ場合ニ非サルコト明ナルノミナラス既ニ控訴人ニ於テ賣建ヲ爲シタル以上相手方ヨリ其ノ代金ヲ受領シタルト否トヲ問ハス控訴人ニ於テ被控訴人先代ニ其ノ賣建代金支拂ノ義務アルコト前認定ノ如クナルヲ以テ控訴人先代ノ第二抗辯モ亦其ノ理由ナキコト自ラ明白ナルニ依リ該抗辯ハ之カ排斥ヲ免レス控訴人先代ハ本件取引ハ先物ノ定期賣建ナルヲ以テ大正十一年十一月末ニ至リ其ノ賣建値段ヲ標準トシ其ノ時ノ公定相場ト比較シ損益ヲ計算シ授受スヘキモノナレハ假ニ立會ヲ繼續シタリトスルモ被控訴人先代ハ賣建値段ニ依ル代金ヲ請求シ得ヘキニ非ス而モ事實ハ總解合ヲ爲シ且立會停止ノ爲十一月末ノ受渡ハ現出不能ニ終リタルモノナレハ被控訴人先代ハ控訴人ノ委託不履行ニ因ル損害ノ賠償ヲ求ムルハ格別恰モ委託契約カ實踐サレタルカ如ク代金ノ支拂ヲ請求スルハ失當ナル旨抗辯スレトモ先物ノ定期取引ト雖當ニ差額取引ヲ以テ完結スヘキモノト爲スノ謂レナク其ノ限月期間内轉賣買戻ニ因リ建玉ノ處分ヲ爲ササル限り限月末ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲シ以テ取引ヲ決濟スヘキモノナルコト容疑ノ餘地ナキヲ以テ被控訴人先代カ本件賣建ニ付其ノ限月期間内買戻ニ因ル建玉處分ノ指圖ヲ爲ササリシコト既述ノ如クナル以上被控訴人先代ハ控訴人ニ

委託者ノ承
諾ニ基カザ
ル解合ノ効
果
解合ノ意義
ガ委託者ノ
承諾ナクシ
テ之ニ及ブ
ベキ場合ア
リトスル判
例

對シ其ノ賣建値段ニ依リ計算シタル代金額ノ支拂請求ヲ爲シ得サルノ理由ナク又解合ハ賣買契約ノ解除ニ非スシテ取引所ニ於テ賣方買方雙方ノ取引人カ合意上其ノ賣買玉ニ付轉賣買ヲ爲シ相殺計算ヲ爲シタルト同一効果ヲ生スヘキ履行ニ代ル二種ノ決濟方法ニ外ナラサレハ既ニ控訴人ニ於テ其ノ限月期間内其ノ責任ヲ以テ解合ヲ爲シタルコト前認定ノ如クナル以上其ノ解合ハ取引所並相手方取引人トノ關係ニ於テ有効ナルコト明白ナルニ依リ被控訴人先代委託ノ株式賣建ハ實行セラレ其ノ取引ハ履行セラレタルト同一狀態ニ於テ決濟セラレタルモノニシテ而モ右解合ハ被控訴人先代ノ承諾ニ基カサルモノナル爲控訴人ハ該解合ノ効果即チ轉賣買ニ依リ相殺計算ノ結果ヲ以テ被控訴人先代ニ對抗シ得サル筋合ナルヲ以テ控訴人ハ被控訴人先代ニ對シ其ノ賣建値段ニ依リ算出シタル金額ヲ支拂フヘキ義務アルヤ當然ナルノミナラス立會停止ハ其ノ期間内普通ノ方法ニヨル新ナル賣買取引ノ停止スルニ止マリ既ニ成立セル賣買ニ基ク現物受渡其ノ他ノ決濟方法ヲモ停止セルモノニ非スト認ムルヲ相當トスルヲ以テ旁總解合並立會停止ノ爲現物ノ受渡不能ナリトノ理由ニ基ク控訴人先代ノ前記抗辯モ亦之ヲ採用スルヲ得サルモノトス然ラハ被控訴人先代ノ家督相續人タル被控訴人カ本件株式ノ賣建値段一株金四十三圓ノ割合ヲ以テ計算シタル百株ノ代金合計金四千三百圓ノ支拂ヲ求ムル本訴請求ハ正當ニシテ原審カ該請求ヲ認容シタルハ相當ナルモ右賣建代金ニ對スル損害金ニ付テハ原審ニ於テ被控訴人ヨリ之カ申立ヲ爲シタル事實ハ原審口頭辯論調書ヲ仔細ニ査閱スルモ之ヲ認メ難キ所ナルヲ以テ被控訴人ハ原審ニ於テ右損害金請求ノ申立ヲ爲ササリシモノト爲ス外ナキニ拘ラス原審カ控訴人ニ對シ該損害金ノ支拂ヲ命シタルハ失當ニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ變更ヲ免レサルモノトス(株式委託賣建代金請求事件)昭和二、五、一六民事部判決(民集八卷二六六)

大審院 取引所ニ於ケル取引ノ解合ハ内容ノ如何ニ依リ其ノ効力ヲ注文者ニ及ホスヘキ場合アルモノトス—判例集要旨

(事實) 被告(被控訴人、原告)ノ本訴請求原因ハ被告先代ハ青島取引所取引人ナル原告(控訴人、被告)ニ對シ同取引所ニ於ケル株式ノ取引ヲ委託シタル結果被告先代ハ原告人ニ對シ本訴ノ金額ヲ請求スル權利ヲ有スト云フニアリ原告人ハ之ニ對シ被告主張ノ事實ハ之ヲ認ムルモ右ノ取引後總解合成立シタルヲ以テ現在ニ於テ被告主張ニ係ル債務ハマタ存在セスト抗爭シタリ原裁判所ハ右ノ解合ハ被告先代ノ承諾ニ基カサルヲ以テ原告人ハ之ヲ以テ被告先代ニ對抗スルヲ得スト

ノ理由ニ依リ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタリ

(判決理由) 解合ナルモノハ相場ノ高低ニ急劇異常ナル變徴ヲ來シ其ノ間ニ於テ爲サレタル取引關係ヲ存續セシムルトキハ取引人ニ對シ測ルヘカラサル財産上ノ危殆ヲ招ク虞アル場合ニ之ヲ爲シ以テ一切ノ關係ヲ解消スルコトヲ云フ 然リ而シテ取引所ニ於ケル取引ニ在リテハ直接ニ其ノ衝ニ立ツ者ハ取引人ニ外ナラズト雖元來此ノ種ノ取引タルヤ其ノ結局ノ計算ハ注文者ニ歸スル性質ノモノナルカ故ニ取引所ニ於ケル取引ハ解合ニ依リテ一掃セラシムルモ注文者ニ對スル關係トシテ取引ハ依然存續スルモノトセハ解合ハ殆ント無意味ニ了ラサルヲ得ス 解合ノ効果ノ又從ヒテ注文者ニ及フヘキ場合ノ必無ナラサルヤ知ルヘキナリ 而カモ解合ナルモノカ非常ノ際ニ處スル應急ノ措置ナルコトヲ省レハ其ノ効果ノ注文者ニ及フヘキ前示ノ如キ場合ニ於テ注文者ノ承諾ハ之ヲ得ルコトヲ必要トセス 即チ之ヲ注文者ノ側ヨリ云ハハ注文者ハ右ノ如キ萬一ノ場合ノ或ハ生シ得ルコトヲ當初ヨリ豫想シテ注文ヲ爲シタルモノト認メサルヘカラサルコト言フ俟タス 之ヲ要スルニ解合ノ効果カ注文者ニ及フヤ否ハ各場合ニ於ケル解合ノ内容ヲ審案シテ定メラルヘキ問題ニ外ナラズ 原審カ思フ此ノ點ニ致スコト無ク解合ノ効果カ注文者ニ及フコトハ必無ナリトノ前提ノ下ニ被上告人ノ本訴請求ヲ是認シタルハ審理不盡ノ違法アルヲ免レス (昭和二年オ九六七號「株式委託賣建代金請求事件」同四、三、二民四判決「破毀移送」民集八卷二五九、彙報四〇卷下民二五二、新聞三〇〇四號九、評論一八卷商二八四、新報一八九號一五)

*原審—長崎控、昭和二、五、一六民事部判決(前掲)

判例批評

竹田 省博士 青島取引所ノ取引人ガ委託者ノ注文ニヨリ取引所ニ於テ賣建ヲ爲シタ後總解合ガ行ハレタ場合取引人ハ委託者ニ對シテドコマデモ現物ヲ受取り其爲シタル賣建値段ヲ以テ計算シタル代金ヲ拂ハネバナラヌカ或ハ解合ノ結果ヲ以テ對抗スルコトガ出來ルカガ案件ノ争點トナツテキルノデアツテ控訴判決ハ解合ガ委託者ノ承諾ヲ得タルモノニ非ザル限リ其効果即チ「轉賣買」ニ依ル相殺計算ノ結果ヲ以テ委託者ニ對抗スルコトガ出來ナイトシテキルニ反シ本判決ハ一概ニサウハ云ヘズ「解合ノ効果カ注文者ニ及フヤ否ハ各場合ニ於ケル解合ノ内容ヲ審案シテ定メラルヘキ問題」デアルトシテキルノデアアル 從テ本判決ハ解合ニハ其効果が委託者ニモ及フ場合ト然ラザル場合トアルコトヲ認メテキルコトハ疑ナク容レナイガ然ラバ如何ナル内容ノ解合ガ其効果ヲ委託者ニモ及ボス場合デアルトシテキルノカノ標準ニ付テハ何事ヲモ示シテキルトハ解セラレヌ：：次ニ判決ガ或ル種ノ解合ハ何ガ故ニ

委託者ニ對シテ其効果ヲ及ボスヤノ法規上ノ根據ヲモ明瞭ニハシテ居ナイ：：卑見トシテハ我が取引所法ノ所謂取引員ハ商法ノ間屋タル性質ヲ有シテキルノデアリ從テ商法第三一五條モ一應ハ適用アルベキデアルト考ヘル：：所謂解合ニシテ相手方ノ債務ヲ消滅セシメルモノデアアル限リハ間屋ハ其後ハ第三一五條ノ履行責任ハ負ハヌ管デアリ唯相手方ノ債務ノ消滅ガ間屋ノ責ニ歸スベキ事由ニ基ク限リハ間屋ハ委託者ニ對シテハ間屋トシテノ義務違反ノ理由トスル損害賠償義務ヲ負擔スルコトナルベキデアアル ソコデ取引員ノ爲ス所謂解合ハ控訴判決ノ解スル如ク契約ノ解除ニ非ズシテ一定ノ棒値ニ於テ「轉賣買」ヲ爲シ相殺計算ヲ爲シタルト同一ノ効果ヲ生スヘキ履行ニ代ルヘキ一種ノ決済方法」ニ過ギヌノカ或ハ上告人ノ云フ如ク契約ノ解除ト見ルベキデアアルカ尙事實ノ精査ヲ必要トスルガ兎ニ角モトノ賣建ニヨル相手方ノ債務ガ消滅セシメラレル場合デアアルコトハ疑ノナイ所デアラウ 果シテ然リトスレバ上述ノ理論ニヨレバ取引員ノ爲シタル解合ハ取引員ノ義務違反ト見ルベキ行爲タルカ否カニヨリテ其委託者ニ對スル責任關係ガ定マルコトナルワケデアリ案件ノ解合モ即チ此見通ヨリ或ハ取引員ノ責任ニ歸シ或ハ然ラザルコトナルベキデアラウ (法學論叢二五卷六號九四〇)

松本丞治博士 判官ガ取引所取引人(内地ノ取引所ニ於ケル取引員ニ當ル)ノ委託ニ因ツテ爲ス取引ハ其結局ノ計算ハ注文者ニ歸スベキモノデアアルカラ解合ニ依ツテ取引ガ一掃セラシムルモ注文者ニ對スル關係ニ於テ取引ガ存續スルモノトスレバ解合ハ殆ト無意味ト爲ルト謂ツテ居ル點ハ取引所ニ於テスル取引ノ實際ニ照シテ全ク正當デアアル 又解合ガ非常ノ際ニ處スル應急ノ措置ナルコトヲ省レバ其効果ノ注文者ニ及フベキ場合ニ注文者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要サナイデアツテ注文者ハ右ノ如キ萬一ノ場合ノ或ハ生ジ得ルコトヲ豫想シテ注文ヲ爲シタルモノト認メザルベカラズト謂ツテ居ル點モ亦全ク正當デアアル 果シテ然ラバ解合ノ効力ガ常ニ委託者ノ承諾ヲ要セズシテ之ニ及フベキコトハ當然ノ論結デナケレバナラヌ 然ルニ判官ハ「解合ノ効果ノ又從ヒテ注文者ニ及フヘキ場合ノ必無ナラサルヤ知ルヘキナリ」之ヲ要スルニ解合ノ効果カ注文者ニ及フヤ否ハ各場合ニ於ケル解合ノ内容ヲ審案シテ定メラルヘキ問題ニ外ナラズト謂フニ止ツテ居ルノハ論理一貫セザル憾ナキヲ得ナイ 解合ノ効力ガ注文者ニ及フヤ否ヤノ問題ニ對スル從來ノ判例ハ寧ロ本件判決ト異ツテ居ツテ常ニ消極說デアアル：：本件判決ガ前述ノ如キ曖昧ナル判斷ヲ爲シタルハ恐ラクハ聯合部判決ニ依ツテ前例ヲ離ヘス勇氣ヲ缺イタ爲メデアツタカト思ハレルノデアツテ寧ロ惜ムベキコトデアアル (判例民事法昭和四年度一一三、私法論文集續編五八八)

水口吉藏博士 所謂解合ナルモノハ取引所ノ取引ニ於ケル用語ナルガ其ノ法律上ノ性質ハ當事者ノ合意ニ因ル一種ノ契約ノ解除ニ外ナラズ 唯其ノ解合ナルモノハ多クハ一定ノ標準相場ヲ以テ契約ヲ終了セシムル點ニ於テ一般ノ解除ガ初ヨリ契約ナカリシト同一ノ状態ニ復スルト異ルモノアルヲ以テ即チ解合ハ將來ニ對スル契約ノ解除タルヲ普通トス 然リ解除ナルガ故ニ解合ニ依リテ相

手方ニ代金支拂ノ義務ナキ場合ニハ問屋即チ取引員トシテ委託者ニ對シテ代金支拂ノ責任アルベキニ非ザルモノトス：其ノ解合ガ假令委託者ノ反對ノ意思表示ニ拘ラズ爲サレタリシトスルモ之單ニ其ノ受託者タル義務ニ違背シタルニ止ルヲ以テ其違背ヨリ生ジタル損害ニ付賠償ノ責任ヲ負フニ止リ爲ニ其ノ解合ガ委託者ニ對スル關係ニ於テ其ノ効力ナク從ツテ相手方ハ買主トシテ代金支拂ノ義務ヲ免ルルコトナキモノトシテ取引員責任ヲ負フコト爲ルモノニアラズ：解合ハ取引所ニ於ケル取引當然ノ性質トシテ爲サルベキモノニ係ルヲ以テ委託者ガ特ニ反對ノ意思ヲ表示セザル限り解合ハ委託者ニ對シテモ其ノ効力ヲ生ズルモノト爲サザルベカラズ 所謂解合ハ轉賣買戻ト異ルヲ以テ之ヲ取引員ノ任意手仕舞ト同一視スベキニ非ザルコト明カリ 本判決ガ解合ノ効力ガ委託者ニ及ブ場合ト然ラザル場合ノ存スル如ク説示スルハ果シテ正當ナルヤ之ヲ疑フ 取引所ニ於ケル解合ハ判決モ説示スル如ク異常ノ相場ノ變調ノ場合ニ處スル取引關係終了ノ方法ナルヲ以テ取引所ノ監督ノ下ニ行ハルル解合ニ委託者ニ對スル効力ヲモ認ムルニ非ザレバ取引所ノ機能ヲ全ウスルコト能ハザル結果ヲ生ズ 何トナレバ委託者ニ對シテ其ノ効力ヲ及ボスモノニ非ズトスレバ其ノ亂高下ノ状態ニ於テ取引ヲ繼續スル結果相場ヲ攪亂スルニ至ルベキヲ以テナリ(最新商法判例研究五九六)

山本崇一氏 「取引所ニ於ケル取引ハ解合ニ依リテ一掃セラルルモ注文者ニ對スル關係トシテ取引ハ依然存續スルモノトセハ解合ハ殆ント無意味ニ了ルコトヲ理由トシテ解合ノ効力注文者ニ及ブ場合アリ、斯ノ如キ場合ハ「注文者ノ承諾ハ之ヲ得ルコトヲ必要トセス」ト爲シ恰モ解合ノ性質上當然注文者ニ其ノ効力ガ及ブ如キ判示ニハ承諾出來ナイ 素解合ノ成立ニ付テハ注文者ハ何等關與セヌノデアツテ取引員等ノ爲シタル解合ガ無意味ニ了ルヤ否ヤハ注文者ノ關スルコトコロデハナイカラ注文者ガ委託契約ニ於テ豫メ解合ニ對シテ反對ノ意思表示ヲ爲シタル場合ハ之ニ解合ノ効力ヲ及ボスベキ謂ガナイ 私ハ注文者ニ對スル解合ノ効力ハ專ラ委託契約ノ趣旨ニ依ツテ決セラルベキモノデアルト信ズル 而シテ解合ハ無條件解合ヲ包含スル意味ニ於ケルノ内容如何ハ之ガ委託契約ノ趣旨ニ副フヤ否ヤヲ判斷スルニ付重要ナル事項ノ一ニ屬スルカラ其ノ内容ヲ審案スベシト爲ス判示ハ正當デアアル 論者或ハ取引所ノ機能ヲ論ジ注文者ニ對シテ解合ノ効力ガ及バナイトスレバ非常時ニ際シ相場ヲ攪亂シ其ノ機能ヲ全ウスルヲ得ナイト爲ス者ガアル(水口博士「法律論叢八號九」ケレドモ「經濟的必要即適法タル結果ヲ生セシムルモノテナイ」カラ之ニ依ツテ委託契約ノ趣旨如何ニ拘ラズ當然ニ解合ノ効力ガ注文者ニ及ブト論ズルハ無理デハナカラウカ(法律學研究二七卷二號二〇一七)

解合ノ意義
及効力
解合ト取引
所法第二十
五條
委託者ノ承

東京地 解合ハ取引所ノ相場ニ異常ノ變調ヲ來シ其ノ受渡不能ニ陥ルヘキ場合ニ於テ解合値段ニヨリテ既存ノ建玉ヲ轉賣買シ一齊ニ決済スルコトヲ謂フモノナレハ非常時ノ手段トシテ取引員全員カ右ノ如キ事項ヲ目的トスル契約ヲ爲スコトノ有効ナルハ勿論ナリ 取引員全員カ總解合ノ決議ヲ

諸ニ基カザ
ル解合ノ効
果
解合ノ効力
ガ委託者ノ
承諾ナクシ
テ之ニ及ブ
トスル判例

爲シ取引所ノ承認ヲ得タル時ハ茲ニ解合ノ効力發生シ現實ニ轉賣買ヲ爲サスシテ直ニ轉賣買アリタルト同一ノ効果ヲ生スルモノニシテ取引所法第二十五條ノ原則ニ對シ解合ハ其ノ例外ニ屬スルモノニシテ解合ニ付テモ現實取引ヲ強制スル趣旨ト解スルヲ得ス 解合ノ効果カ取引所取引員間ニ止ルモノトセハ之ヲ認ムル趣旨ハ殆ト没却セラルヘク又取引ノ委託者ハ相場ノ激變ヲ豫想スヘキコト當然ナレハ解合ノ効果ハ委託者ノ承諾ノ有無ヲ俟タスシテ委託者ニ及フモノト解セサルヘカラス

(判決理由) 原告先代上野勝造カ株式會社東京株式取引所ノ一般取引員ニシテ被告ト取引關係アリタル事實ハ當事者間ニ爭ナク證人森澤民之助堀内洋之助ノ各證言及同人等ノ證言ニ據リ眞正ニ成立シタリト認ムヘキ甲第一號證甲第二號證一、二ヲ綜合スレハ被告ヨリ原告先代ニ對シ原告主張ノ如キ値段ニテ買付ヲ爲シタル事實ヲ認ムルコトヲ得ヘク大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル大震災災ノ直後經濟界ニ慘害ヲ生シタル事實ハ被告ノ爭ハサルトコロニシテ證人森澤民之助堀内洋之助三上達彌ノ各證言ト證人三上達彌ノ證言ニヨリ眞正ニ成立シタリト認ムル甲第三號證甲第四號證一乃至十及甲第八號證ヲ綜合スレハ當時株式相場著シク下落シ立會停止數旬ニ及ヒ通常ノ手段ヲ以テハ如何トモ爲シ難キ狀況ニ至リタルカ爲メ大正十二年十月十三日取引員臨時總會ニ於テ總解合ヲ爲スコトヲ決議シ同年同月十八日解合値段ノ協定成立シ取引所ノ承認ヲ經テ同年同月三十日轉賣買ヲ市場帳簿ニ登錄シテ決済シタルコト其ノ結果被告ノ爲メ買付ケタル値段ト解合値段トノ差額ハ金四萬三千八百八十八圓トナリ原告先代ハ大正十二年十一月七日右金額ヲ取引所ニ支拂ヒタル事實ヲ認メ得ヘシ 而シテ解合ハ取引所ノ相場ニ異常ノ變調ヲ來シ其ノ受渡不能ニ陥ルヘキ場合ニ於テ解合値段ニヨリテ既存ノ建玉ヲ轉賣買シ一齊ニ決済スルコトヲ謂フモノナレハ非常時ノ手段トシテ取引員全員カ右ノ如キ事項ヲ目的トスル契約ヲ爲スコトノ有効ナルハ勿論ニシテ株式會社東京株式取引所業務規程第三十二條ハ解合ニ關スル取引終了ノ法ヲ規定シタルモノナリ 故ニ右第三十二條ノ趣旨ニ徵シ取引員全員カ總解合ノ決議ヲ爲シ取引所ノ承認ヲ得タル時ハ茲ニ解合ノ効力發生シ現實ニ轉賣買ヲ爲サスシテ直ニ轉賣買アリタルト同一ノ効果ヲ生スルモノニシテ取引所法第二十五條ノ原則ニ對シ解合ハ其ノ例外ニ屬スルモノニシテ解合ニ付テモ現實取引ヲ強制スル趣旨ト解スルヲ得ス 次ニ解合ノ効果カ取引所取引員間ニ止ルモノトセハ之ヲ認ムル趣旨ハ殆ト没却セラルヘク又取引ノ委託者ハ相場ノ激變ヲ豫想スヘキコト當然ナレハ解合ノ効果ハ委託者ノ承諾ノ有無ヲ俟タスシテ委託者ニ及フモノト解セサルヘカラス 果シテ然ラハ前示金四萬三千八百八十八圓ハ本件取引ニ付被告ニ歸スヘキ切損失金ニシテ被告ハ取引委託手数料金二千七圓五十錢(本件取引ノ手数料カ金二千七圓五十錢トナルコトハ當事者間ニ爭

立會停止中
ノ解合ト委
託者ノ承諾
ガ要否
ノ効力
ガ委託者ノ
承諾ナクシ
テ之ニ及ブ
トスル判例

ナシト共ニ之ヲ負擔スヘキモノニシテ原告先代勝造カ昭和五年二月二日死亡シ原告其ノ家督相續ヲ爲シタルコトハ被告ノ明カニ
争ハサルトコロナレハ之ヲ自由シタルモノト看做スヘク從ツテ被告ハ原告ニ對シ右二口合計金四萬五千九百九十五圓五十錢ヲ支拂フ
ヘキ義務アリ(昭和三年ワ三三八四號「株式賣買損失金並損害金請求事件」同五、一二、二〇民六判決—新報二四七號二六)

東京控 株式相場カ或ル一派ノ者ニ依ル買煽ノ結果急激ナル昂騰ヲ來シ立會停止ト爲リタル場合
ニ於テハ轉賣買戻等普通ノ方法ニ依リ取引ヲ終了セシムルコト能ハス又其ノ儘放任スルニ於テハ決
濟不能ニ陥ルヘキ虞アルノミナラス限度アル取引所ノ資産ニ依リテハ到底完全ニ其ノ擔保責任ヲ盡
シ難キニ依リ應急手段トシテ總解合ノ方法ニ依リ一齊ニ取引ヲ終了セシムル必要アルコトハ言ヲ俟
タサルトコロナルヲ以テ若シ此ノ場合特ニ委託者タル客ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ解合ノ効力ハ之ニ
及ハサルモノトセハ非常時ノ救濟手段タル解合ハ全ク其ノ意義ヲ失フモノト謂ハサルヘカラス

(判決理由) 控訴人カ株式會社青島取引所ノ證券取引人ニシテ大正十一年九月二十三日被控訴人先代忠次郎ヨリ同取引所株式百株
ヲ十一月限一株金四十三圓ニテ賣建委託ヲ受ケ同時ニ被控訴人先代ヨリ右百株ノ株券ヲ受領シタルコト及ヒ控訴人カ同日右取引所
市場ニ於テ該委託ノ趣旨ヲ實行シタルコトハ本件當事者間ニ争ナキトコロナリ 然ルニ控訴人ハ青島取引所ニ於テハ同年九月二十
七日立會ヲ停止シタル儘打過キ同年十一月二十日ニ至リ無條件ニテ總解合ヲ爲シ即チ何等給付ヲ爲サスシテ賣建買建ナカリシト
一状態ニ歸シタルモノニシテ而モ被控訴人先代ハ右解合ヲ承諾シ居タルモノナルノミナラス假リニ承諾ナカリシトスルモ被控訴人
先代ハ本件賣建委託ヲ爲ス際市況ニ鑑ミ控訴人ニ於テ任意建玉ノ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ約諾シタルヲ以テ控訴人ハ之ニ基キ前記
解合ヲ爲シタルモノニシテ被控訴人先代ハ該解合ノ効果ヲ甘受スヘキ義務アル旨主張シ被控訴人ハ之ニ對シ被控訴人先代ノ賣建委
託後タル大正十一年九月二十七日後場ヨリ立會停止セラレタルコト及ヒ同年十一月二十日總解合アリタルコトハ之ヲ認ムルモ右解
合ハ控訴人主張ノ如ク無條件ニテ行ハレタルモノニ非スシテ青島證券取引人組合ノ總會決議ニ基キ同年九月二十六日迄ノ賣建及ヒ
買建ニ付テハ同日ノ帳入値段ヲ標準トシテ決濟シタルモノナリ 然ルニ同日ニ於ケル本件係争株式ノ十一月限ノ帳入値段ハ一株金
四十二圓五十錢ナリシヲ以テ之ヲ右總解合値段トシテ解合ヲ爲シタルモノナル旨抗爭スルヲ以テ其ノ當否ヲ案スルニ原本ノ存在及
ヒ其ノ成立ニ争ナキ乙第五號證前控訴審證人淺野浩利ノ證言(但シ後記措信セサル部分ヲ除ク)並當審證人淺野浩利ノ第一、二回
證言及ヒ其ノ第一回ノ證言ニ依リ成立ヲ認メ得ヘキ乙第六號證一、二ヲ綜合スルトキハ株式會社青島取引所ニ於テハ大正十一年

八月頃ヨリ或ル一派ノ者ニ依リ同取引所株式ノ買煽ヲ受ケ市況次第ニ險惡ト爲リ圓滿ナル受渡困難ナル形勢ニ在リタルトコロ其ノ
後右買煽ノ結果同株式ハ異常ノ高値ヲ現出シタルヨリ同取引所ハ狼狽シ取引人ニ對シ追證ノ即納ヲ要求シタルモ遂ニ同年九月二十
七日立會ヲ停止シ其ノ善後策ニ付取引人間ニ協議ヲ重ネタル結果同年十一月三日取引人組合ノ總會ニ於テ十月限及十一月限ノ殘取
引ハ一切無條件ニテ解合ヲ受ケヘキコトヲ決議シ取引所ニ於テモ之ヲ承諾シタル上同年十一月九日其ノ計算ヲ爲シ同月二十日正式
ニ無條件總解合ヲ遂ケ茲ニ十月限及十一月限ノ取引ハ全部解消シ證據金ハ總テ取引所ヨリ取引人ニ返還シタル事實並右總解合ハ解
合値段ヲ定メ之ニ基キ行ハレタルモノニ非スシテ當初ヨリ賣建買建共ニ之ヲ爲ササリシト同一状態ニ歸セシムル趣旨ナリシ事實ヲ
認ムルヲ得ヘシ 尤モ前控訴審證人淺野浩利ノ證言中ニ本件解合ノ内容ニ付キ右認定ト抵觸スルカ如キ供述アルモ該供述ハ違カニ
措信シ難ク他ニ右認定ヲ覆スニ足ル證據ナシ 而シテ以上認定ノ如ク株式相場カ或ル一派ノ者ニ依ル買煽ノ結果急激ナル昂騰ヲ來
シ立會停止ト爲リタル場合ニ於テハ轉賣買戻等普通ノ方法ニ依リ取引ヲ終了セシムルコト能ハス又其ノ儘放任スルニ於テハ決濟不
能ニ陥ルヘキ虞アルノミナラス限度アル取引所ノ資産ニ依リテハ到底完全ニ其ノ擔保責任ヲ盡シ難キニ依リ應急手段トシテ總解
合ノ方法ニ依リ一齊ニ取引ヲ終了セシムル必要アルコトハ言ヲ俟タサルトコロナルヲ以テ若シ此ノ場合特ニ委託者タル客ノ承諾ヲ
得ルニ非サレハ解合ノ効力ハ之ニ及ハサルモノトセハ非常時ノ救濟手段タル解合ハ全ク其ノ意義ヲ失フモノト謂ハサルヘカラス
而モ前段認定ノ如キ事情ニ因リ急激ナル相場ノ變動ヲ生シタル場合ニ總解合カ既存取引終了ノ方法トシテ屢々行ハレ且委託者カ一
般ニ之ヲ是認スル慣例アルコトハ顯著ナル事實ナルヲ以テ特ニ反對ノ意思表示アリタリト認メ得ヘキ證據ナキ本件ニ於テハ被控訴
人ハ本件委託契約當時或ハ右ノ如キ場合ノ生シ得ヘキコトヲ豫想シ萬一斯ル事態ノ發生シタル場合ニハ受託者タル控訴人カ解合ノ
趣旨ニ基キ建玉ヲ處分スルコトヲ暗黙ニ承諾シ右委託契約ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス 然ラハ前記總解合ノ効力カ被控訴
人先代ニ及フハ疑ナキトコロナルヲ以テ本件委託取引ハ其ノ期日ニ於ケル決濟前ニ總解合アリタル結果其ノ効力ナキニ至リタルモ
ノト爲ササルヲ得ス 從テ控訴人ハ被控訴人先代ニ對シ本件株式ノ賣買代金ヲ支拂フヘキ義務ナキヲ以テ控訴人ニ對シ疊ニ交付シ
タル株券ノ返還ヲ求ムルハ格別右株式ノ賣買代金ノ支拂ヲ求ムル被控訴人ノ本訴請求ハ其ノ理由ナキコト明白ナリ 仍テ被控訴人
ノ請求ヲ認容シタル原判決ヲ取消シ被控訴人ノ請求ヲ棄却スヘキモノトス(昭和五年ネ一六九五號「株式委託賣建代金請求控訴事
件」同九、一一、一九民三判決—新聞三八〇二號一六、評論二四卷諸三三、新報三八六號九)

**東京民地 昭和六年十二月犬養內閣成立當時東京株式取引所カ取引員組合ト聯合協議會ヲ開キテ協
定シタル解合ハ所謂強制解合ノ性質ヲ有シ右取引所取引員ハ勿論之ト委託關係ニアル關係者ト雖總**

強制解合ト
委託者ノ關
ル商慣習ノ

存在
解合ノ効力
ガ委託者ノ
承認ナクシ
トスル判例

委託者ノ承
認ニ基カザ
ル解合ノ効
果
總解合ニ關
スル商慣習
ノ存在
解合ノ効力
ガ委託者ノ
承認ナクシ
トスル判例

テ該解合方法ニヨリ其ノ建玉ノ解合ヲ爲ササルヘカラサル商慣習株式取引業者間ニ存在スル事實ヲ認メ得ヘシ（昭和一〇年ワ一一七七號「株式清算取引仕切損金請求事件」同一、五、二九第一一部判決—評論二五卷商四九〇、新報四四〇號二一）

*判決理由一八六三頁參照

大審院 取引所ニ於ケル總解合ナルモノハ相場力急激ニ變動スルカ其他之ニ類スル事由ニヨリ決濟不能ニ陥リタル場合等ニ行ハルモノニシテ多クハ取引所ノ懲憑ニ依リ解合價值段及方法力決定セラレ賣買ノ當事者タル取引員ハ其決定セラレタル所ニ依リ合意解約ヲ爲スモノニシテ右取引員ニ取引ヲ委託シタル者モ亦之ニ異議ヲ唱ヘサル慣習アリ 他ニ特別ノ事情ノ認ムヘキモノナキ限り委託者ハ取引員ニ取引ノ委託ヲ爲スニ際シ豫メ右慣習ニ依ル意思ヲ以テ委託ヲ爲スモノト認ムルヲ相當トス

（上告理由） 原判決理由ニ依レハ「被控訴人先代ハ控訴人ノ定期米取引ノ委託ニ基キ控訴人ノ前記取引殘金六千六百四十九圓二十五錢ヲ其儘證據金ニ宛ツルコトトシ且新ニ前記額面金五千圓ノ國債ヲ證據金代用トシテ受取リタル上云云前後六回ニ亘リ合計金五萬千六百圓ノ定期米買建取返ヲ爲シタルトコロ同年十月四日期米ノ大暴落ニ遭ヒ遂ニ一石ニ付キ金十七圓六十九錢ニテ總解合トナリタル結果控訴人ノ損金ハ一萬五千七百二十六圓ニ上リタリ」ト認定セリト雖モ上告人ハ何レモ右事實ヲ否認スルモノナリ而シテ假リニ原判決認定ノ如ク總解合トナリタル事實アリトスルモ當然ニ注文者ノ承諾ナクシテ之レヲ處分シ得サル筋合ナルニ原審ニ於テハ右解合ノ内容ヲ審案セスシテ總解合ナル文字ニ眩惑シテ總解合ノ効果ハ當然ニ注文者ニ及フモノナリト誤解シ何等右解合ノ内容ヲ審案セス又注文者タル上告人ノ承諾ヲ得タルヤ否ヤヲ審究セスシテ上告人ニ對シ敗訴ノ判決ヲ爲シタルハ審理不盡ノ違法アリ

（判決理由） 取引所ニ於ケル總解合ナルモノハ相場力急激ニ變動スルカ其他之ニ類スル事由ニヨリ決濟不能ニ陥リタル場合等ニ行ハルモノニシテ多クハ取引所ノ懲憑ニ依リ解合價值段及方法力決定セラレ賣買ノ當事者タル取引員ハ其決定セラレタル所ニ依リ合意解約ヲ爲スモノニシテ右取引員ニ取引ヲ委託シタル者モ亦之ニ異議ヲ唱ヘサル慣習アリ 他ニ特別ノ事情ノ認ムヘキモノナキ限り委託者ハ取引員ニ取引ノ委託ヲ爲スニ際シ豫メ右慣習ニ依ル意思

證據金返還
ト委託者ノ
承認ナクシ
トスル判例

ヲ以テ委託ヲ爲スモノト認ムルヲ相當トス 原判文稍簡ニ失スル憾ナキニ非サルモ其意ハ蓋シ右ノ趣旨ノ外ニ出テサルコト判文ノ全趣旨ニ徴シ之ヲ窺知シ得サルニ非ス 從テ原判決ニ所論ノ如キ違法アリト爲スコトヲ得ス（昭和一一年オ一四一二號「定期米取引差損金請求事件」同一、一〇、一五民一判決「棄却」—判決全集三輯五三九）

大審院 原判決ノ旨趣ハ追證據金又ハ增證據金ナルモノハ相場ノ變動又ハ不穩ノ模様ニヨリ取引所ニ於テ差出サシムルモノナレハ本件ノ如キ相場ニ非常ノ變動ヲ來シ遂ニ總解合ヲ爲スニ至リタル場合ニ在リテハ既ニ追證據金又ハ增證據金ノ必要ナキニ至リシヲ以テ取引所ヨリ仲買人ニ引渡シ而シテ委託者ハ定期賣付ヲ委託シタルニモ拘ラス其取引了前ニ於テ仲買人ヨリ其追證據金又ハ增證據金ヲ受取リタルヲ以テ見レハ畢竟委託者ハ右ノ解合ヲ承認シ居リタルモノナリト事實ヲ認定シタルニ外ナラス

（上告理由） 原院ハ控訴人ハ被控訴人ノ爲シタル總解合ヲ承諾シタルモノナリト認定シ其理由ニ於テ「控訴人ニシテ總解合ヲ承諾シタルコトナシトスレハ取引了以前ニ於テ追證據金又ハ增證據金ヲ被控訴人ヨリ受取ルヘキ管ナキニ不拘留渡期日前即チ明治二十九年十二月二十八日ニ於テ追證據金及增證據金二千二百二十圓ヲ被控訴人ヨリ請取タル事實ニ徴シ」云々ト云ヘリ 然レトモ控訴人カ被控訴人ヨリ追證據金増證據金ヲ期日前受取リタル事實ヲ以テハ總解合ヲ承諾シタルト云フヘカラス 何トナレハ總解合ナルモノハ仲買人間契約解除ニシテ委任者タル第三者ノ與知セサルコトナレトモ若シ一旦總解合ナルモノアルトキハ賣買ハ總テ解除サレ最早受渡履行アルコトナク從テ追證據金増證據金ハ勿論本證據金ニ至ル迄不用トナルヲ以テ取引所ハ當然之ヲ還付スヘク然レハ證據金ノ性質上仲買人ニ於テ之ヲ預リ置クヘキモノニアラス 必ス之ヲ委任者タル本人ニ引渡ササルヘカラサルモノナリ 即チ總解合アルトキハ解合ノ瞬間ニ於テ控訴人ハ被控訴人ニ對シ總テノ證據金返還ヲ請求スルノ權利ヲ生スルモノニシテ控訴人ハ總解合ノ諾否ニ拘ラス假令被控訴人カ返還シ來ラストスルモ控訴人ハ進ンテ之カ返還ヲ請求スヘキハ當然ナリ 且ツ又增證據金ハ相場平穩ニ歸シタルトキハ返還シ追證據金ハ相場復舊シタルトキニ於テ返還シ本證據金ハ賣買了ノ時返還スルモノナリ 由之觀之控訴人カ證據金ヲ受取ル事ハ當ニ其權利ニシテ承諾ニ何等ノ關係アルヘキコトニ非ス 況ヤ控訴人ハ增證據金追證據金ノミヲ受取リタルモノナルニ於テハ總解合ナルモノヲ承諾セス賣買受渡ノ履行アルコトヲ豫期シタルモノナリト云ハサルヘカラス 然ルニ原判決力以上ノ理由ヲ無視シテ之ト反對セル斷定ヲ下シタルハ所謂理由ナキ不法ノ認定ナリ 且又追證據金増證據金ハ原裁判所ノ説明

ノ如ク相場ノ變動又ハ不穩ノ模様ニヨリ取引所之ヲ差出サシムルモノトシ總解合ノ結果取引所ヨリ之ヲ仲買人ニ還付シタルモノトスルモ原裁判所説明ノ如ク上告人カ追證據金又ハ増證據金ヲ受取リタルハ何故ニ總解合ニ承諾ヲ與ヘタルコトナルヤ其理由ヲ明示セス 畢竟總解合ハ數多ノ委託者カ承諾ヲ表シ始メテ相場ノ平穩ニ歸シタリトノ事實ヲ見ルニ足ルヘキモ相場ノ平穩ニ歸シタル結果受取リタル追證據金増證據金ノ受取カ何故ニ總解合ノ承諾ニ關係スヘキヤ其理由ナキナリ 故ニ此無關係ノ事實ニヨリテ總解合ノ承諾ヲ認メタルハ不當ニ事實ヲ確定シタルノ不法アルモノナリ

(判決理由) 原判決ノ旨趣ハ追證據金又ハ増證據金ナルモノハ相場ノ變動又ハ不穩ノ模様ニヨリ取引所ニ於テ差出サシムルモノナレハ本件ノ如キ相場ニ非常ノ變動ヲ來シ遂ニ總解合ヲ爲スニ至リタル場合ニ在リテハ既ニ追證據金又ハ増證據金ノ必要ナキニ至リシヲ以テ取引所ヨリ仲買人ニ引渡シ而シテ上告人ハ明治三十年一月三十日取引ノ定期賣付ヲ委託シタルニモ拘ラス其取引了前ニ於テ仲買人タル被上告人ヨリ其追證據金又ハ増證據金ヲ受取リタルヲ以テ見レハ畢竟上告人ハ右ノ解合ヲ承認シ居リタルモノナリト事實ヲ認定シタルニ外ナラス 隨テ本論旨ハ其事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルモノナレハ上告ノ理由トナラス (明治三二年八〇號「商品賣買證據金取戻及損害賠償請求ノ件」同三二、一〇、二民一判決「棄却」民錄五輯九卷六)

解合ノ性質
解合ト委託
者ノ保證金
取戻ノ當否

大審院 米穀賣買ノ解合ナルモノハ賣買契約ノ履行ニシテ之カ解除ニアラス。賣買ノ委託ヲ受ケタル米穀仲買人カ擅ニ解合ヲ爲シ其委託者ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ委託者ハ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ヘキモ賣買ヲ取消シ保證金ヲ取戻スヲ得ス。—判決要旨—

(上告理由) 被上告人ニ於テ委託ヲ受ケ賣渡ヲ爲シ之カ解合ヲ爲スニ當リテハ委託本人即チ上告人ノ承諾ヲ經サルヘカラス 然ルニ被上告人ニ於テ解合ヲ爲スニ當リテ上告人ノ承諾モ經ス之カ解合ヲ爲シタルハ不都合ナルニモ拘ラス主文ノ如ク判決セラレタルハ不法ナリ 又被上告人ニ於テ控訴廷ニアツテ陳述セル要領ハ上告人ヨリ米三百石賣付方ノ依頼ヲ受ケタルニ相違ナキモ相場ノ變動ニ依リ増證據金ヲ要スルカ故ニ一時立替ヲ爲シ送金ノ請求ヲ爲シタルモ此金圓ノ送付ヲ怠リタルノミナラス一般ノ賣買解合ニ基キ賣買ノ解合ヲ爲シタルモノナレハ越權ノ行爲ニアラサルカ故ニ證據金即チ保證金ヲ返戻スヘキ理由ナシト主張シ、上告人ニ在テハ相場ノ變動ニ依リ増證據金ヲ要スルノ通知ニ接シタルトキハ甲號證ノ如ク直チニ送金ヲ爲シ其義務ヲ怠リタルコトナシ 又假令一般ノ解合ナリトスルモ賣付主即チ上告人ノ承諾ヲ受ケヘキハ當然ナルニ被上告人ハ事茲ニ出テ私擅ニ解合ヲ爲シタルモノニ係ルニ如此判決ヲ下サレタルハ頗ル不法ノ判決ナリ

(判決理由) 解合ナルモノハ賣買契約ノ履行ニシテ解除ニアラス 故ニ其賣主上告人ニ付テ之ヲ論スレハ買戻シ即チ買埋メナルコトハ前第一ニ於テ辯明スル通り 而シテ賣買ノ委託ヲ受ケタル被上告人ニ於テ恣ニ解合ヲ爲シ之カ爲メ委託ヲ爲シタル上告人ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニ當テハ上告人ハ解合ノ委託權外ナル事ト損害ノ事實トヲ證明シテ被上告人ヨリ之ヲ償ハシムル迄ニ止マリ右ノ擅恣ヲ以テハ曾テ承諾ノ上爲サシメタル賣買ヲ取消シ保證金ヲ取戻スノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス 然ラハ被上告人カ爲シタル解合ノ擅恣ナルト否ラサルトニ拘ラス保證金取戻ノ請求ハ當然排斥セラルヘキ理ナルカ故ニ原裁判ニ於テ擅恣ノ有無ヲ判斷セス上告人ヲ敗訴セシメタルハ推理上必然ノ結果ニシテ上告論旨ハ總テ其理由ナキモノトス (明治二八年三九九號「保證金取戻ノ件」同二八、一一、一四民一判決「棄却」民錄五卷八二)

東京控 追證據金ノ必要ナカリシニ拘ラス之カ不納ヲ理由トシテ委託者ノ指圖ヲ俟タスシテ爲シタル解合處分ノ効果ハ之ヲ委託者ニ歸セシムルコト能ハサルモノトス 而シテ解合ニ依リ委託者ノ爲メニ處理シタル事務ハ終了シタルモノナレハ仲買人ハ證據金代用株券ヲ委託者ニ返還セサルヘカラス

(判決理由) 控訴人カ東京株式取引所ノ仲買人ニシテ被控訴人ノ委託ニ因リ同取引所ニ於テ大正九年二月十七日大日本麥酒株式會社株式四月限百株ヲ内五十株ハ一株金百四十圓九十錢殘リノ五十株ハ一株金百四十圓ニテ買建テ其百四十圓九十錢ニテ買建テタル五十株ハ同年三月八日一株金百四十二圓ニテ之ヲ轉賣シタルコト右定期取引ノ證據金ノ代用トシテ被控訴人ヨリ富士瓦斯紡績株式會社新株式三十株ヲ控訴人ニ交付シタルコトハ當事者間ニ爭ナキトコロナリ 然リ而シテ右百四十圓ニテ買建テタル五十株ニ付テハ四月三十日ニ於テ控訴人ハ取引所ニ於テ解合ヲ爲シタルコトハ控訴人ノ自陳スル所ニシテ是ニ依リ控訴人ノ委託ニ基キ爲シタル

追證據金
必要ナカリ
シニ拘ラス
之カ不納ヲ
理由トシテ
爲シタル
爲メニ處理
シタル事務
ハ終了シタル
モノナレハ
仲買人ハ證據
金代用株券
ヲ委託者ニ
返還セサル
ヘカラス

取引ハ終了セルモノニシテ且其解合處分ハ後ニ説明スル如ク被控訴人ニ其効果ヲ歸セシメ得ヘキニアラサルヲ以テ控訴人ハ右證據金代用ノ株式三十株ヲ被控訴人ニ返還スヘキ義務アルモノトス 控訴人ハ右被控訴人ノ委託以外ニ尙被控訴人ハ控訴人ニ對シ(一)大正九年二月十七日大日本麥酒株式會社株式五十株四月限(二)同日大日本石油株式會社新株式五十株四月限(三)同年三月八日大日本石油株式會社新株式五十株五月限(四)同日大日本鋼管株式會社株式五十株五月限ノ買建委託ヲ爲シ控訴人ハ取引所ニ於テ之カ買建ヲ爲シタルコトヲ主張シ被控訴人ハ之ヲ爭フヲ以テ右委託ノ有無ヲ按スルニ乙二乃至七號證ニ依リテハ控訴人カ各同證記載ノ如ク自己ノ名ヲ以テ取引所ニ於テ買建ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ルニ止リ被控訴人カ委託ヲ爲シタルコトハ是ニ依リテ認メ得ヘキモノニアラス 原審證人岡野周次中村元吉當審證人中西嶽ノ此點ニ關スル證言ニハ信ヲ措キ難ク却テ原審證人中村元吉ノ證言ニ依リ其成立ノ眞正ナルコトヲ認メ得ル甲第四號證原審證人野田政吉ノ證言ヲ綜合シテ被控訴人ハ右(一)乃至(四)ノ取引ニ付キ控訴人ニ委託ヲ爲シタルコトヲ認ムルヲ得 乙第一號證原審證人淺利久雄ノ證言ニ依リテハ右認定ヲ覆ヘシ難シ 殊ニ原審證人岡野周次淺利久雄ノ證言ニ依リ認メ得ル如ク中村元吉ハ控訴人ノ外交員ナリシヲ以テ甲第四號證ト相俟ツテ右(一)乃至(四)ノ取引ハ中村元吉カ被控訴人ノ名ヲ藉リテ自己ノ計算ニ於テ委託ヲ爲シタルモノト認メ得ヘキモノニシテ中村元吉カ被控訴人ノ代理人ナリト認ムヘキ證據存セサルヲ以テ右(一)乃至(四)ノ取引ニ付テハ被控訴人ハ何等ノ責任ヲ負擔スヘキモノニアラス 從テ之ヲ被控訴人ノ委託ナリトスル前提ノ下ニ爲セル控訴人ノ抗辯ノ理由ナキコト當然トス 而シテ前段說示ノ解合ニ係ル五十株ニ付テハ控訴人ハ大正九年三月十五日株式市價暴落ノ爲メ右(一)(二)(三)ノ取引ニ付キ追證據金ノ必要ヲ生シ被控訴人ニ納入ヲ求メタルモ應セサル故四月三十日解合ヲ爲シ其價額一株金百四十圓ナリシヲ以テ手數料ヲ合シテ千三百三十一圓五十錢ハ被控訴人ノ負擔スヘキ損失トナリタル旨爭フト雖モ大正九年三月十五日株式市價暴落ノ際ニ於テモ右五十株ノ爲メニハ追證據金ノ必要ナカリシコトハ控訴人ノ自陳ニ依リ明ナルヲ以テ右證據金ノ納入ナカリシヲ理由トシテ被控訴人ノ指圖ヲ俟タスシテ爲シタル右解合處分ノ効果ハ之ヲ被控訴人ニ歸セシムルコト能ハサルモノトス 然ラハ解合ノ結果控訴人主張ノ如キ損失ヲ生シタルトスルモ其損失ハ控訴人自ラ之ヲ負擔スヘク而シテ解合ニ依リ被控訴人ノ爲メニ處理シタル事務ハ終了シタルモノナレハ前段說示ノ如ク本件代用株券ハ之ヲ被控訴人ニ返還セサルヘカラサルモノトス 而シテ被控訴人ニ於テ其返還ヲ求ムルカ爲メニハ何等委託契約解除ノ必要ヲ認メス 況ンヤ委託ニ基キ事務ヲ處理シタル以上ハ委託者ニ於テ解除シ得ヘキモノニアラサルモ上述ノ理由ニ依リ被控訴人ハ本件株式ノ返還ヲ求メ得ヘキモノトス 尙本件富士瓦斯紡績株式會社新株式ノ大正十二年三月十日(本判決言渡ノ當日)ニ於ケル市價ハ一株金三十四圓四十錢ナルコトハ當院ニ顯著ナルヲ以テ若シ控訴人カ右株券三十株ヲ返還スルコト能ハサルトキハ金一千三十二圓ヲ損害トシテ被控訴人ニ支拂フヘキモノトス 然リ而シテ原審證人齋藤政太郎ノ證言ニ依リ被控訴人ハ大正九年五月十七日控訴人ニ對シ右

株券ノ返還ヲ求メタルコトヲ認メ得ルヲ以テ控訴人ハ右日時ヨリ返還ニ付キ遲滞ニ在リト謂フヘク甲第六號證ニ依レハ右日時ニ於ケル本件株式ノ市價ハ金百五十七圓三十錢ナルコトヲ認メ得ヘク他方原審證人齋藤政太郎中村元吉ノ證言ヲ綜合シテ被控訴人ハ大和貿易株式會社ノ監査役ニシテ時々株式賣買ヲ爲ス者ナルコトヲ認ムルヲ得 又本件株券ノ有價證券タル性質ニ照シ反證ナキ限り被控訴人ハ五月十七日當時本件株式引渡ヲ受クルニ於テハ右市價ヲ以テ之ヲ利用スヘキ地位ニ在リシモノト認ムルヲ正當トスヘキヲ以テ右大正九年五月十七日ノ市價ト大正十二年二月十日ノ市價トノ差額ノ三十株ニ對スル計金三千六百八十七圓ハ被控訴人カ控訴人ノ返還義務不履行ノ爲メニ受ケタル損害ナルカ故ニ控訴人ニ之カ賠償義務アリト雖モ被控訴人ハ本訴ニ於テ三千五百七十六圓ノ損害ヲ請求スルニ止ルヲ以テ右損害額ノ範圍内ニ於テ控訴人ハ右三千五百七十六圓ヲ被控訴人ニ支拂フヘキ義務アルモノトス 被控訴人ハ株券返還ヲ爲ス能ハサル場合ノ損害トシテ金一千三百三十四圓ヲ求ムルモ是ニ依レハ一株ノ金額三十七圓八十錢ノ割合ト爲ルニ大正十二年三月十日ノ市價ハ前說示ノ如ク一株金三十四圓四十錢ナルヲ以テ此割合ヲ超過スル部分ノ被控訴人ノ請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス(大正一一年八五七號「株券引渡及返還並損害請求控訴事件」同一二、三、二民二判決「新聞二一六五號二二」)

直取引ニ於ケル解合ノ効力

立會停止ノ命令ト解合ノ意義

東京地 解合ハ直取引ニアリテハ賣買ノ目的物タル株式ノ授受ナク預合ト爲リ居ルトキニ初メテ見ルヘキ現象ニシテ現物ノ受渡アリタルトキハ決シテ之レナキモノナリ (大正元年ワ一三四四號「直取引勘定殘金請求事件」同一二、五、一九民三判決「新聞八九〇號一九、最近一三卷二三、評論二卷商二四〇」)

* 判決理由一四四六頁參照

大審院 取引所法第二十七條ニ基キ農商務大臣カ立會ノ停止ヲ命シタル期間内ト雖關係アル仲買人總員ノ同意ニ依リ解合ヲ爲スコトハ之ヲ妨ケサルモノトス — 判例集要旨

(事實) 上告人ハ堂島米穀取引所ノ仲買人タル被上告人等ニ對シ大正七年七月三日ヨリ同六日ニ至ル迄ノ間ニ夫レ夫レ定期米ノ賣建ヲ委託シ且證據金又ハ其ノ代用證券ヲ差入レタル處同月十八日農商務大臣ハ同取引所ニ對シ取引全部ノ停止ヲ命シタリ 然ルニ前記取引所仲買人等ハ右ノ停止中總員ノ同意ニ依リ解合ヲ爲シタル結果上告人ノ前記建米モ之ニ依リ處分セラレタルモノトシテ取引所ノ場帳ヨリ抹消セラレタリ 上告人ハ前記停止命令ノ存續中ニ爲サレタル解合ハ無効ナリトノ理由ニ基キ本訴ヲ提起シタルニ對シ被上告人等ハ解合ハ普通ノ轉賣買戻ト異ルカ故ニ停止中ト雖有効ニ之ヲ爲スコトヲ得ト抗爭シタリ

【判決理由】所謂解合ナルモノモ亦一定ノ價格ノ下ニ轉賣買ヲ爲シタルト同一ノ効果ヲ生セシムルモノニシテ解除ニアラサルハ論無シ 原判決ニ解除トアルハ畢竟決濟若ハ濟方ト云フカ如キ意味ニシテ法律上所謂解除ヲ指スニ非サルコトハ行文上自カラ之ヲ領得シ難キニ非ス 但其ノ用語ニ注意ヲ缺キタルノ咎ハ竟ニ之ヲ免ルルニ由無シ 加之縱令原裁判所カ解合ナルモノノ法律上ノ性質ヲ如何ニ解シタルハトテ其ノ最後ノ判斷ニ於テハ何等正鵠ヲ失スルモノアルヲ見ス 何者當該省令ニ依ル停止中ニハ普通ノ方法ヲ以テスル轉賣買ノ如キハ之ヲ爲スヲ得サルコト勿論ナリト雖所謂解合ニ依ルソレハ決シテ禁止セラレサルモノト解スルヲ相當トスヘク此ノ點ニ於テハ原裁判所ノ判斷ハ其ノ軌ヲ一ニスルヲ以テナリ(大正一三年オ九二七號「證據金返還損害賠償請求事件」同一三、一二、二四民三判決—民集三卷五六一、彙報三六卷上民二二二、新聞二三六九號一九、評論一四卷民一一四、新報三〇號九)

松本丞治博士 取引所ノ停止ハ解合ヲ禁止スルモノデナイコトハ明瞭デアル 寧ロ多クノ場合ニ於テハ解合ニ因ッテ適宜ノ處分ヲ爲サシメル爲メニ停止ヲ命スルノデアル 停止中ノ解合ガ命令違反テアル結果無効デアルトノ上告人ノ議論ハ到底採用スベキ限デハナイノデアツテ大審院ノ判決ハ正當ト謂ハネバナラス(判例民事法大正一三年度五二〇、私法論文集續編五三三)

判例批評

第八章 賣買證據金

法第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

法第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

* 本條ニ付テハ第三編第四章第一節「身元保證金ノ性質」參照

東京控 取引所法第二十一條ニ依レハ仲買人カ賣買取引上取引所ニ對シ負擔シタル債務ヲ履行セサルトキハ取引所ハ該仲買人ノ承諾ナクシテ其證據金品ヲ以テ辨濟ノ用ニ供シ得ルコト明ナルヲ以テ取引所カ證據金代用有價證券ヲ辨濟ノ用ニ供スルニ付キ縱令仲買人ノ承諾ヲ得サリシトスルモ毫モ不法ニ非ス

(判決理由) 控訴人(仲買人)ハ右證據金代用有價證券ハ明治四十年四月五日ニ於ケル其市價決シテ壹萬參千參百貳拾圓ヲ下ラサリシモノナレハ被控訴人(株式會社橫濱株式米穀取引所)カ僅々之ヲ八千五百貳圓トシテ辨濟ノ用ニ供スルニ付キ控訴人ノ承諾ヲ與フヘキ筈ナク其承諾ナキニ右ノ如キ低價物トシテ辨濟ノ用ニ供シタルトセハ頗ル不當ト云ハサルヘカラスト主張スレトモ取引所法第二十一條ニ依レハ仲買人カ賣買取引上取引所ニ對シ負擔シタル債務ヲ履行セサル時ハ取引所ハ該仲買人ノ承諾ナクシテ其證據金品ヲ以テ辨濟ノ用ニ供シ得ルコト明カナルヲ以テ被控訴人カ前記證據金代用有價證券ヲ辨濟ノ用ニ供スルニ付キ縱令控訴人ノ承諾ヲ得サリシトスルモ毫モ不法ニアラサルハ勿論甲第四號證一、二ハ右證據金代用有價證券ノ同年三月七日ニ於ケル市價ヲ證スルニ止マリ被控訴人カ之ヲ以テ辨濟ノ用ニ供シタル同年四月五日及同年五月八日ニ於ケル市價カ八千五百貳圓以上ナリシコトハ同證及其他ノ控訴人ノ證據ニ依ルモ之ヲ認識スルコト能ハサルヲ以テ右主張ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス(明治四一年ネ五三號、同四二、四、二民三判決—新聞五八一號二〇、最近四卷一三五)

取引所法第二十條
賣買取引ノ納メシムル證據金
賣買取引ノ責任履行ノ用ニ供スル證據金
證據金代用有價證券ノ辨濟ノ用ニ供スル證據金

小山正之助氏 賣買證據金ノ性質ニ付或ル者ハ「賣買證據金ハ會員又ハ取引員間ノ債務ノ履行ヲ擔保スルモノデハナク、取引所ガ違約賠償ヲ爲シタル場合ニ於ケル賠償金ノ追徴權ヲ擔保スルモノデアツテ、將來發生スルコトアルベキ債務ヲ擔保スル一種ノ根抵當ノ性質ヲ有シテ居ル」ト言フ意味ノ説ヲ立テテ居ルガ、取引所法第二十二條第一項ガ「取引所ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生ズル損害ニ付賠償ノ責任スルコトヲ得」ト規定スルガ如ク取引所ニハ違約賠償ノ責任ナキコトヲ原則トシ、隨テ其ノ賠償ノ追徴權ハ同條第二項ノ「前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得」トノ規定ニ依リ初メテ發生スルモノデアアル 然ルニ賣買證據金ノ差入ハ取引所ノ違約賠償責任ノ有無ヲ問ハズ行ハレルモノデアアルカラ、賣買證據金ヲ取引所ノ違約賠償追徴權ノ根抵當ト見ルハ甚シキ誤解デアアル 何トナレバ論者ノ説ハ悉クノ取引所ガ當然違約賠償ノ責任ズルコトヲ前提トスルノミナラズ、賣買證據金ハ違約賠償ノ責任アル取引所ニアラザレバ之ガ差入ヲ爲サシメ能ハザルガ如キ結論トナルカラデアアル 要之取引所ニハ違約賠償ノ責任ナキヲ原則トシ、之アルハ例外ナルヲ以テ強イテ賣買證據金ノ性質ヲ言ハムトセバ、即チ會員又ハ取引員ガ賣買取引ノ履行ヲ爲サザル場合ニ於ケル他ノ會員又ハ取引員ノ被リタル損害ノ賠償又ハ取引所ノ爲シタル違約賠償ノ追徴ヲ擔保スル取引所法特設ノ一種ノ根抵當デアアルト言フベキデアアル(増補取引所研究二二六)

田中耕太郎博士 賣買證據金ハ賣買ノ兩當事者共ニ納入スルコトヲ要スルコト及ビ當事者ガ之レヲ放棄シ又ハソノ倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲナスヲ得ザル點ニ於テ手附ト異ナル(民五五七條參照)(新法學全集、取引所法五二)

大審院 賣買取引ニ付キ證據金ヲ納メシムルト否トハ取引所ノ定款ヲ以テ定ムヘキ事項ニシテ取引所ノ成立要件ニ非ス 故ニ證據金ハ取引所法違約行為ヲ組成スル物件ニ非スシテ其行為ノ用ニ供シタル物件ナリ(判決録要旨 (明治四二年九六〇六號「取引所法違約ノ件」同四二、六、三刑二判決一刑錄一五輯七〇六、新聞五七七號一五))

* 判決理由一三九頁參照

令第十三條 第一項 商工大臣必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ會員又ハ取引員ヲシテ賣買證據金ヲ納メシムヘキコトヲ命スルコトヲ得(制定一、大正一一、七)

小山正之助氏 取引所令ハ其ノ第十三條第一項ノ規定ヲ以テ賣買證據金強制收受ノ途ヲ設ケテキルガ、斯クノ如キ必要アルトキハ政府ハ敢エテ定款改正ヲ命ズルノ形式ヲ採ラズ直接ノ命令ヲ以テ之ガ差入ヲ命ジ得ルカ、又ハ此ノ命令ヲ以テ同時ニ定款ヲ改正セシメテ初メテ之ガ差入ヲ爲サシメ得ルカト言フ點ニ付テ聊カ解釋上ノ疑問ガアル 一、乃チ此ノ場合ニ於テハ政府ハ取引所ニ對シ賣買證據金強制收受命令ヲ下ストモニ、定款ノ改正ヲ命ズルニアラザレバ、之ガ差入ヲ爲サシムルコト能ハズト主張スル者アリ
二、之ニ對シ敢エテ定款ノ改正ヲ命ズルノ要ナシト主張スル者アリ：吾人ハ後説ヲ以テ正鶴ヲ得タルモノト信ジ、取引所法第二十二條ト取引所令第十三條第一項トハ全然別個ノ規定デアツテ兩者ノ間ニ矛盾スル所ナク、取引所ニハ定款ニ依ル場合ノ外政府ノ命令ニ依ルモ賣買證據金差入ノ要求權アリ、會員又ハ取引員ニハ之ニ從フノ義務アリト解ス(増補取引所研究二一八)

大株定款 第五十五條 賣買證據金ハ業務規程ニ依リ之ヲ徵收ス

大株業務規程 第十四條 長期取引ノ建玉ニ對シテ徵收スル賣買證據金ハ左ノ四種トス

- 一 本證據金
- 二 追證據金
- 三 増證據金
- 四 割増證據金

東株業務規程 第五十一條 長期取引ニ對シ徵收スル賣買證據金ハ左ノ五種トス

- 一 本證據金
- 二 割増本證據金
- 三 追證據金
- 四 増證據金
- 五 豫納證據金

大株業務規程 第十六條 本證據金ハ帳入値段ノ百分ノ三十ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ賣買者双方ヨリ之ヲ徵收ス但帳入値段拾圓未満ノモノニ付テハ本項ノ制限ニ依ラスシテ特ニ其額ヲ定ムルコトアルヘシ
本證據金ヲ改正シタル場合ニ於テハ改正以前ノ取組ニモ之ヲ適用シ其改正額ニ引直シ徵收スルコトアルヘシ

追證據金

東株業務規程 第五十三條 本證據金ハ帳入値段ノ百分ノ五十ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ新規賣買ニ對シ賣買者雙方ヨリ徵收ス但帳入値段拾圓未満ノ場合ニ於テハ別ニ其ノ額ヲ定ムルコトアルヘシ

大株業務規程 第十七條 追證據金ハ本證據金ノ半額トシ帳入値段ノ比較ニ於テ本證據金ノ半額以上ニ相當スル差額ヲ生シタルトキ其差額カ本證據金ノ半額ニ達スル毎ニ一時又ハ順次ニ其損方ヨリ之ヲ徵收ス

追證據金ハ同一銘柄ノ或限ノ賣買カ出來サリシトキト雖他ノ限ノ賣買ニ付之ヲ徵收スル場合ニ於テハ其出來サリシ限ノ取組ニ付テモ之ニ最モ近キ限ノ賣買ノ帳入値段ヲ其限ノ帳入値段ト看做シ前項ノ規定ニ準シテ追證據金ヲ差入レシム若シ之ニ接近セル限ニアルトキハ其先限ニ依リ各限トモ賣買出來サリシトキハ第四項但書ノ規定ニ依リテ計算ス

前二項ノ場合ニ於テ利息又ハ利益配當ノ拂渡、新株割當落、株金拂込額ノ異動其他ノ事由ニ依リ價格ニ異動ヲ生スヘキトキハ相當ノ金額ヲ増減シテ帳入値段ヲ定ムルコトヲ得

賣買停止、休業其他ノ事由ニ依リ立會休止中ノ場合ト雖時價ニ高低アルヲ認メ追證據金徵收ノ必要アルトキハ期日ヲ定メ徵收スルコトアルヘシ但標準價格ハ取引員中ヨリ評價人ヲ選定シテ評價セシメ本所之ヲ決定ス

東株業務規程 第五十四條 追證據金ハ現在建玉ノ帳入値段ト其ノ後ノ帳入値段トヲ比較シ其ノ差額カ建玉ニ對シ納入シタル本證據金ノ半額以上ニ達スル毎ニ現在建玉ニ對シ其ノ損方ヨリ徵收ス

追證據金ノ額ハ一回ニ付前項本證據金ノ半額トス

本證據金カ第五十二條ノ規定ニ依リテ徵收セラレサル場合又ハ第五十六條第二項ノ規定ニ依リテ其納入カ猶豫セラレタル場合ニ於テハ第一項ノ適用ニ付テハ既ニ其ノ納入アリタルモノト看做ス

大株業務規程 第十八條 增證據金ハ相場ニ甚シキ變動アリト認メタル場合ニ於テ本證據金ノ三倍以下ノ範圍内ニ於テ現在建玉又ハ新規賣買ニ對シ賣買者ノ一方又ハ双方ヨリ之ヲ徵收ス但シ增證據金徵收ノ際本證據金額ニ等差アルトキハ其ノ最多額ノ分ヲ標準トシテ之ヲ定ム

東株業務規程 第五十五條 增證據金ハ非常ノ事變、立會ノ停止其ノ他ノ事由ニ因リ相場ニ著シキ變動ヲ生シ又ハ受渡ニ危險ヲ來スト認ムル場合ニ於テ現在建玉又ハ新規賣買ニ對シ賣買者ノ一方又ハ雙方ヨリ之ヲ徵收ス

增證據金ノ額ハ現行本證據金ノ三倍以内トス

割增證據金

大株業務規程 第十九條 割增證據金ハ各銘柄毎ニ三限ヲ通算シテ賣買玉ヲ相殺シタル殘玉數カ別ニ定メタル制限ヲ超過シタルトキ超過數量ニ對シ其銘柄ノ最高ノ賣買本證據金ノ範圍内ニ於テ率ヲ定メ之ヲ徵收ス

建玉更ニ巨額ニ達シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ理事會ノ決議ニ依リ賣買玉ヲ相殺セス其双方又ハ一方ニ對シ第一項ノ割增證據金ヲ徵收スルコトアルヘシ

東株業務規程 第五十三條ノ二 割增本證據金ハ各銘柄毎ニ各限ヲ通算シテ賣買玉ヲ相殺シタル殘玉數(國債、地方債、社債及外國國債等債券ニ付テハ豫メ本所ノ定メタル數銘柄ノ各殘玉數ノ合計)カ豫メ本所ノ定メタル數量ヲ超過シタルトキ其ノ超過部分ニ對シ適宜之ヲ差入レシム但本所ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ之ヲ徵收セス

證據金ノ豫納

大株業務規程 第二十一條 本所ハ一時ニ巨額ノ賣買ヲ爲サシムルコトヲ危險ナリト認メタルトキ又ハ既ニ巨額ノ建玉ヲ有スルモノニ付更ニ賣買ヲ爲サシムルコトヲ危險ナリト認メタルトキ若クハ賣買不穩ノ徵候アリト認メタルトキハ取引員ノ全部又ハ一部ヲシテ新規賣建又ハ新規買建ノ一方又ハ双方ニ對シ豫メ本證據金ニ該當スル金額ヲ差入レシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ金額差入レノ時限ハ其都度本所之ヲ指定ス

前二項ノ規定ニ依リテ本證據金ニ該當スル金額ノ差入レヲ命セラレタル者ハ之ヲ差入レタル後ニアラサレハ新規賣付又ハ新規買付ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リテ差入レタル金額ハ其差入後ニ於テ爲シタル新規賣又ハ新規買ニ對スル本證據金ニ充當スルモノトス

東株業務規程 第五十七條 豫納證據金ハ相場ニ著シキ變動アリト認ムルトキ又ハ取引員カ一時ニ巨額ノ賣買ヲ爲サムトスル場合ニ於テ新規賣買ニ對シ取引員ノ全部又ハ一部ヨリ豫メ之ヲ徵收スルコトヲ得其ノ額ハ本所ニ於テ隨時之ヲ定ム

取引員ハ豫納證據金ヲ納入スヘキ場合ニ於テ之カ納入ヲ終リタル後ニ非サレハ新規賣買ヲ爲スコトヲ得ス

徵收免除

東株業務規程 第六十六條ノ二 本所ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ニ於テ商工大臣ノ承認ヲ得タルトキハ賣買證據金ノ全部又ハ其ノ一部ノ徵收ヲ免除スルコトアルヘシ

納期

大株業務規程 第二十條 本證據金ハ當日ノ賣買取引ニ對シ翌々日ノ午前九時迄ニ之ヲ差入ルヘシ但其翌日又ハ翌々日カ休業日ナルトキハ順次其次ノ日ノ午前九時迄ニ之ヲ差入ルヘシ

諸問シ本所之ヲ定ム
 追證據金ハ現在ノ建玉ニ對シ本證據金差入レノ時刻迄ニ差入ルヘシ但必要ト認メタルトキハ即時ニ之ヲ差入レシムルコトヲ得此場
 合ニ於テハ當日ノ大引値段ヲ標準トスルコトアルヘシ
 第一項但書ノ規定ハ追證據金ニ付之ヲ準用ス
 現在ノ建玉ニ對シ現ニ增證據金ヲ徵收スル場合ニ於テハ其以後ノ新規賣買ニ對シテハ本證據金ト共ニ增證據金ヲ差入レシムルモノ
 トス
 增證據金及割増證據金徵收ノ時限ハ本所隨時之ヲ定ム

徵收限度

兩建玉ト賣
買證據金

大株業務規程 第二十四條 買方ヨリ徵收スル賣買證據金ハ其之ヲ徵收スヘキ建玉ノ約定價格ヲ超過スルコトナシ但第十六條第一
 項但書ノ適用ヲ妨ケス又第二十一條ノ規定ニ依リテ豫メ徵收スル金額ハ之ヲ加算スルコトナシ
 大株業務規程 第二十二條 同一限同銘柄ノ賣買兩建玉ニ對シテハ其對當數量ニ付賣買證據金ノ差入レヲ要セス但必要アリト認メ
 タルトキハ現在ノ兩建玉ニ對シ之ヲ差入レシムルコトアルヘシ其差入時限ハ其都度本所之ヲ指定ス
 兩建玉ノ一方ヲ其反對賣買ニ依リ決済シタル場合ニ於テハ殘存セル對當玉ノ帳入値段ヲ當日ノ帳入値段ニ引直シ之ニ對シ當日徵收
 スヘキ賣買證據金ヲ一時ニ差入レシム其差入時限ハ本證據金差入レノ時刻ニ同シ但其金額參萬圓ヲ超過スルトキハ豫メ其半額ヲ徵
 收スルコトヲ得

現品提供ト
賣買證據金

大株業務規程 第二十五條 賣方ニシテ其約定證券ヲ本所ニ提供シタルトキハ其建玉ニ對スル賣買證據金ヲ徵收セス
 提供證券ニシテ取引員名義ナルトキハ賣渡委任狀ヲ添ヘ又委託者名義ノモノナルトキハ賣渡委任狀ノ外賣委託ノ證明書ヲ添附スヘ
 シ但シ白地式裏書アルモノニ付テハ賣渡委任狀ノ添付ヲ要セス
 前項賣委託ニ對スル建玉ノ買戻シヲ爲シタルトキハ買戻委託ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ以テ證券ノ返付ヲ請求スヘシ
 提供證券ハ約定限内ニ於テハ如何ナル事情アリト雖他ノ代用證券又ハ現金ト引換フルコトヲ得ス
 第二十六條 前條ノ規定ニ依ル提供證券ノ最近ノ帳入値段ニ依ル總代金カ五萬圓ヲ超エタル場合ハ本所ハ市場ニ揭示シテ前條ノ
 規定ノ適用ヲ停止スルコトアルヘシ
 前項ノ停止ハ揭示若クハ通知ヲ爲シタル日ノ翌立會日ヨリ其効力ヲ生ス但揭示若クハ通知カ後場終了後ナルトキハ翌日前場立會終
 了後ヨリ其効力ヲ生ス

本條ニ定メタル停止ハ提供證券ノ最近ノ帳入値段ニ依ル總代金カ五日以上引續キ四萬圓ヲ下リタル後ニアラサレハ之ヲ解除スル
 コトナシ

返還
短期取引及
賣買證據金

大株業務規程 第二十七條 賣買證據金額若クハ代用價格ノ變更、現品提供、賣買兩建玉又ハ反對賣買ニ依ル決済其他ノ事由ニ因リ
 賣買證據金ヲ返付スヘキ場合ニ於テハ本所ハ遲滞ナク之ヲ返付スヘシ既ニ徵收シタル追證據金ニ付第十七條第一項第二項又ハ第四
 項ニ定メタル事由ナキニ至リタルトキハ一時又ハ順次ニ遲滞ナク之ヲ返付スヘシ增證據金及割増證據金ニ付テモ亦之ニ準ス
 大株業務規程 第三十一條 短期取引ニ付本所ニ於テ必要ト認ムルトキハ賣買玉及繰延玉ニ對シ賣買本證據金、增證據金及割増證
 據金ヲ徵收スヘシ此場合ニ於テハ長期取引ノ賣買證據金ニ關スル規定ヲ準用ス但本證據金徵收ノ時限ハ翌日正午トシ本所ニ於テ必
 要アリト認ムルトキハ相當其時限ヲ繰上クルコトアルヘシ
 第二十一條ノ規定ハ短期取引ニ付之ヲ準用ス
 賣物取引ニ付テモ本所ニ於テ必要ト認ムルトキハ賣買本證據金、增證據金及割増證據金ヲ徵收スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ長
 期取引ノ賣買證據金ニ關スル規定ヲ準用シ本證據金徵收ノ時限ニ付テハ第一項但書ノ規定ヲ準用ス

賣買證據金
不納者處分

大株定款 第四十一條 取引員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本所ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ處分ス
 一 身元保證金、賣買證據金：；ヲ納入セサル者：； 除名但シ特ニ宥恕スヘキ事情アリト認ムルトキハ一月以上ノ營業停止又
 ハ一月以上ノ營業停止及過怠金ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
 前項第二號若ハ第三號ニ依リ營業ヲ停止セラレタルモノニシテ本所カ指定シタル期間内ニ相當ノ金額若ハ物件ヲ本所ニ差入レサル
 トキ：；ハ之ヲ除名ス過怠金ヲ課セラレタル者ニシテ指定期間内ニ納入セサルトキ亦同シ
 前項ノ期間ハ營業停止又ハ過怠金ノ處分ヲ爲シタル後遲滞ナク之ヲ指定シ一ヶ月ヲ超エサルモノトス

納買證據金
因取引員
營業停止
分納通
知ノ立
任

大審院 米穀取引所ニ於テ仲買人ニ對シ即時證據金ノ納入ヲ命スルハ特別規定ニ基ク臨時ノ處分
 ナルニ依リ特ニ其通知ヲ爲スヲ必要トス 故ニ其納入ヲ怠リタルヲ理由トシテ停止處分ヲ爲シタル
 カ爲メ之レカ取消ヲ求ムル爭訟起リタルトキ其納入ノ通知ヲ爲シタル事實ハ取引所ニ於テ之ヲ立證
 スルノ責任アリ 判決錄要旨

(判決理由) 株式會社大阪堂島取引所定款第三十條ニ「理事長ハ役員會ノ評決ヲ以テ仲買人中行爲不正ナル者又ハ不穩當ノ賣買ヲ爲ス者若クハ一般仲買人ノ營業ニ妨害ヲ爲ス者アルトキハ其賣買ヲ停止スルコトヲ得 此場合ニ於テハ農商務大臣ニ申告スヘシ云々 前項ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ其事跡判明セサルモ一時其者ノ賣買ヲ停止シ取調ヲ爲スコトヲ得」トアルヲ以テ新規多額ノ賣買ヲ爲ス者アル場合ニ於テ即時證據金納入ヲ命スルモ之ヲ納入セサルトキハ不正若クハ不穩當ノ賣買ヲ爲スモノト看做シ之ニ賣買營業ノ停止ヲ命スル如キハ理事長ノ職權タルヘシト雖モ即時ノ納金ハ原判決ニ於テ認ムル如ク普通定リタル手續ニアラスシテ特別ノ規定ニ依ル臨時ノ處分ナルヲ以テ此規定ニ依リ證據金ヲ納入セシメントスルニハ必スヤ明確ニ即時納入スヘキ旨ノ通知ヲ爲ササルヘカラス若シ此場合其通知ヲ受ケスシテ營業停止ヲ命セラルル如キ不當ノ處分ニ遭遇シタルニ於テハ通知ナキニ因リ證據金ヲ提供スル能ハサリシトノ理由ヲ以テ停止處分ノ取消ヲ請求シ得ヘキハ勿論ナルノミナラス此場合ニ在リテハ處分ヲ爲シタル者ニ於テ通知ヲ爲シタリトノ舉證ヲ爲ス可キ責務アルモノニシテ處分ヲ受ケタルモノヲシテ無的ノ事實ヲ證セシムル筋ナキハ亦論ヲ俟タサルナリ サレハ原裁判所カ證據金ヲ即時納入スヘキ旨ノ通知ヲ爲シタリトノ立證確實ナラストシテ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ相當ニシテ舉證ノ責任ヲ顛倒シタル如キ不法ノ裁判ニアラス(明治三〇年一九七號「營業停止處分取消ノ件」同三〇、七、五民二判決—民錄三輯七卷一)

大審院 兩建ノ場合ト雖モ雙方ノ取引ニ對シ證據金ヲ提供スヘキヲ本則ト爲スモノニシテ又兩建ト爲シタルノミニテハ直ニ雙方ノ取引ヲ消滅セシムルモノニ非サルナリ 故ニ兩建ノ場合ニハ雙方ノ取引消滅ニ歸スルヲ以テ證據金提供ノ義務ナシト云フハ其當ヲ得サルモノナリ (大正二年れ一八七〇號「詐欺ノ件」同二、一一、二九刑三判決—刑錄一九輯一三五七)

* 判決理由—九六七頁參照

藤田國之助氏 身元保證金ハ兎ニ角、賣買證據金ハコレヲ現金ヲ以テ納入スベク、有價證券ハコレヲ銀行ニ擔保ニ入レテ現金ヲ借り、コレヲ納入スルノガ本筋デアアル 處ガ我が國ニ於テハ證券金融ガ發達セズ、證券ヲ擔保ニ入レテ現金ヲ調達スルノガ容易デナイ ソコデ銀行へ行ツテ證券ヲ現金ニ換ヘル手續ヲ拔キニシテ、證券ヲソノ儘取引所ニ持參シテコレヲ現金ノ代リニ取ツテ貰フノ

兩建ト證據金

代用證券制度ノ趣旨

代用證券制度及商工大臣ノ變更命令

商工大臣ノ届出及代用價格ノ最高限度

賣買證據金代用證券ニ關スル業務規程ノ規定

ガコノ代用制度ノ本旨デアアル イハバ取引所自身ガ銀行ニ代ツテ證券金融ヲヤルコトニナル(取引所論二二七)

令第十三條 商工大臣必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ會員又ハ取引員ヲシテ賣買證據金ヲ納メシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

第四條第六項及第七項ノ規定ハ賣買證據金ニ付之ヲ準用ス

賣買證據金ニシテ商工大臣ノ指定スルモノニ付テハ取引所ハ會員又ハ取引員ヲシテ少クトモ其ノ半額迄ハ現金ヲ以テ之ヲ納メシムヘシ(制定—大正一一、七 改正—昭和六、六)

* 令第四條 第六項及第七項 身元保證金ハ取引所ノ定ムル所ニ從ヒ有價證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得「商工大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ有價證券ノ種類又ハ其ノ代用價格ヲ變更セシムルコトヲ得

舊令第十一條ノ五(大正九、六) 取引所法第二十條ニ規定スル證據金ニシテ農商務大臣ノ指定スルモノニ付テハ取引所ハ仲買人ヲシテ半額迄ハ現金ヲ以テ之ヲ納メシムヘシ

商務局長通牒 取引所令改正ニ伴ヒ變更スヘキ營業細則其ノ他ニ關シテハ大體左記事項ヲ參考トシテ變更相成度此段及通牒候也(大正九、六、三—商局二五三號)

七 追證據金及增證據金ニ付テハ少クトモ半額ハ現金ヲ以テ差入ルヘキ旨ノ規定ヲ新ニ設クヘキコト

施第十一條ノ二 取引所カ會員又ハ取引員ノ身元保證金及賣買證據金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ノ種類及代用價格ヲ決定シ又ハ變更シタルトキハ其ノ有價證券ノ時價ヲ附記シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ代用價格ハ國債證券及地方債證券ニ在リテハ時價以下ニ、其ノ他ノ有價證券ニ在リテハ時價ノ九割以下ニ之ヲ定ムヘシ其ノ有價證券ノ時價カ代用價格ヲ下リタルトキハ遲滞ナク之ヲ變更スヘシ(追加—大正一一、七)

大株業務規程 第二十三條 賣買證據金及第二十一條ノ規定ニ依リテ差入ルヘキ金額ハ國債證券、本所ノ指定シタル地方債證券、會社株券、債券若クハ内國ニ於テ發行シタル外國債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得其代用價格ハ本所隨時之ヲ定ム但追證據金ニ付テハ其納入額ノ半額ハ有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ許ササルモノトス

代用有價證券ノ種類又ハ其代用價格ヲ變更シタルニ因リ證據金不足ヲ生シタルトキハ本所ノ指定シタル日時迄ニ其不足額ヲ差入

ルベシ
記名ノ有價證券ハ白地式裏書アルカ又ハ名義書換ニ必要ナル書類ヲ添付シタルモノニアラサレハ代用ニ供スルコトヲ得ス他人名義ノ證券ニ付本所ニ於テ必要ト認ムルトキハ其取引員ノ費用ヲ以テ書換手續ヲ代理執行スルコトアルヘク此場合ニ於テ若シ其會社カ書類ノ不備其他ノ事由ニ依リ書換ヲ拒ミタルトキハ直ニ現金又ハ他ノ證券ヲ差入レシムルモノトス

東株業務規程 第五十九條 賣買取據金ハ本所ノ指定シタル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得其ノ代用價格ハ本所隨時之ヲ定ム代用ニ供スヘキ有價證券ニシテ同一銘柄ノモノ多數ニ上ルトキハ本所ニ於テ其ノ數量ヲ制限スルコトアルヘシ
追證據金及增證據金ノ各半額ハ現金ヲ以テ納入スヘシ
代用有價證券ノ廢止又ハ代用價格ノ引下ニ因リ賣買取據金ニ不足ヲ生シタルトキハ本所ノ指定シタル時限ニ其ノ不足額ヲ納入スヘシ

取引員ハ賣買取據金トシテ納入シタル現金又ハ代用有價證券ニ付引換ヲ請求スルコトヲ得

第六十條 記名ノ代用有價證券ハ其ノ取引員名義ノモノニシテ賣渡委任狀ヲ添付シタルモノ又ハ白地式裏書ニ依ルモノニ限ル但他人名義ノモノト雖取引員名義ニ書換ヘ得ヘキモノト認ムルトキハ之ヲ受領スルコトアルヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ本所ハ取引員ノ費用ヲ以テ書換手續ヲ代行ス但書類ノ不備其他ノ事由ニ因リ書換ヲ爲スコト能ハサルトキハ直ニ現金又ハ他ノ代用有價證券ヲ納入セシムルモノトス

大株業務規程 第二十八條 賣買取據金ノ代用有價證券ヲ納入シタルモノニシテ其證據金ヲ以テ決済ニ充ツヘキトキハ現金ヲ納入スヘシ若シ現金ノ納入ヲ怠ルトキハ本所ハ本人ノ費用ヲ以テ代用有價證券ヲ處分シ剩餘アラハ之ヲ返付シ不足アラハ之ヲ追徴ス

法第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

取引所ノ優先權

* 本條ニ付テハ第三編第四章第一節「身元保證金ノ性質」參照

賣買取據金ノ假差押命及差押及轉付賣買取據金ノ補充

大株業務規程 第三十六條 取引員其身元保證金又ハ賣買取據金ニ付裁判所ヨリ差押命令、假差押命令若クハ假處分命令ノ送達ヲ受ケタルトキ又ハ租稅滯納處分ニ依リ又ハ其例ニ依リテ差押ヲ受ケタルトキハ本所ノ指定シタル時限迄ニ更ニ其命令ニ相當スル金額ヲ本所ニ納入スヘシ
身元保證金又ハ賣買取據金ニ關スル規定ハ各其區別ニ從ヒ前項ノ金額ニ之ヲ準用ス

取引所ノ處分

大株定款 第四十一條 取引員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本所ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ處分ス

三 身元保證金若ハ賣買取據金ニ付裁判所ヨリ差押命令、假差押命令若ハ假處分命令ノ送達ヲ受ケ又ハ租稅滯納處分若ハ其ノ例ニ依リ差押ヲ受ケタル場合ニ於テ本所ノ指定期間内ニ相當ノ金額ヲ納入セサル者

除名但シ特ニ宥恕スヘキ事情アリト認ムルトキハ一月以上ノ營業停止又ハ一月以上ノ營業停止及過怠金ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項第二號若ハ第三號ニ依リ營業ヲ停止セラレタルモノニシテ本所カ指定シタル期間内ニ相當ノ金額若ハ物件ヲ本所ニ差入レサルトキ……ハ之ヲ除名ス過怠金ヲ課セラレタル者ニシテ指定期間内ニ納入セサルトキ亦同シ

前項ノ期間ハ營業停止又ハ過怠金ノ處分ヲ爲シタル後遲滯ナク之ヲ指定シ一ヶ月ヲ超エサルモノトス

第五編 取引所取引ノ委託

第一章 總 說

第一節 委託契約ノ性質

小山正之助氏 受託契約ハ本來個々ノ委託ニ付個別的ニ之ヲ締結スベキモノデアアルガ、實際ハ其ノ煩ヲ避ケテ一般ノ事項ハ豫メ包括的ニ之ヲ締結シテ將來ノ受託ニ付テモ之ヲ應用スルコトト爲シ、委託本證據金ノ定率及委託證據金代用物件ノ種類並ニ其ノ代用價格等ハ受託者專ラ個々ノ場合ニ付決定スルノ方法ヲ採ツテ居ル 而シテ受託契約ハ其名ノ如ク純然タル契約ナルヲ以テ法令及公序良俗ニ反セザル限り如何ナル事項ヲ其ノ内容トスルモ全ク當事者ノ自由意思ニ一任スベキ事項デアアルガ、其ノ缺如シタル事項又ハ不明ナル内容ニ付適用セラルベキ受託契約準則ハ其ノ本質上一方行爲ナルニ拘ラズ、其ノ効力ハ受託契約ト同一ナルガ故ニ、其ノ規定ノ如何ハ一般委託者ニ對シ至大ノ利害關係ヲ齎ラスモノデアアル 茲ニ於テ取引所法施行規則ハ之ヲ委託手数料率ト同一ニ取扱ヒ、其ノ第十五條ヲ以テ受託契約準則ノ決定又ハ變更ニ付テハ政府ノ認可ヲ受ケシメ、政府ハ變更ノ命令權ヲ握リテ委託者保護ノ萬全ヲ期シテ居ル (増補取引所研究二五四)

田中耕太郎博士 會員又ハ取引員ト委託者トノ間ノ取次契約ニ關シテハ本來契約自由ノ原則ガ支配スル結果トシテ當事者ハ各個ノ場合ニツキソノ内容ヲ定メルコトヲ得ルノデアアルガ實際上ハ會員又ハ取引員ハ委託者ト商工大臣ノ認可ヲ受ケタル受託契約準則 (規則一五條) ニ從ツテ契約ヲ爲ス 即チ委託契約ハ受託契約準則ニヨツテ附合契約化サレテキル 而シテコノ準則ハ事實上同一取引所ノ會員又ハ取引員ニ關シテ共通トナツテキル ソノ結果トシテコノ準則ハ契約條款ト云フヨリモ寧ロ當該取引所ニ於ケル賣買取引ノ委託ニ關シ委託者ノ意思如何ニ拘ラズ之ヲ拘束スル法規ノ性質ヲ有スルコト普通保險約款ノ如キモノト認メラレルノデアアル (新法學全集、取引所法五六)

大株業務規程 第六十四條 取引員ハ本所ノ規定其他定款、業務規程及受託契約準則ニ定メタル條件ニ依リテ委託ヲ受クルコトヲ受託契約ノ内容トスヘシ

東株業務規程 第四條 取引員ノ爲ス受託契約ハ定款、業務規程及受託契約準則ニ從フヘシ但強行規定ニ反セサル範圍ニ於テハ別段ノ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

大株受託準則 第一條 取引員ト委託者トノ間ニ於テ別段ノ契約ヲ爲ササル限り法令又ハ取引所ノ定款、業務規程、揭示、通達及本則ニ從ヒ委託契約ヲ爲シタルモノト看做ス

東株受託準則 第一條 東京株式取引所各營業部類ノ取引員カ爲ス賣買受託ハ特別ノ契約ナキ限り取引所定款、業務規程及本則ノ規定ニ據リ之ヲ處理スルモノトス

東株受託準則 第十七條 取引員又ハ委託者カ賣買委託ニ關シ定款、業務規程及本則ノ規定ニ違反シ相手方ヲシテ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任スルモノトス

大審院 取引所仲買人カ他人ノ依頼ニ因リ爲ス取引ハ一種ノ委任行爲ナレハ一般委任ノ法則ニ從フヘシ 而シテ委任ノ原則上受任者ハ委任ノ趣旨ニ反シテ行爲ヲ爲スヲ得ス

六號「損害金請求ノ件」同三一、九、一六民二判決—民錄四輯八卷一八

* 判決理由—五四七頁參照

大審院 仲買人ハ株式賣買ノ委託ヲ受ケテ賣買ヲ爲ス者ナレハ委託者ノ代理人タルニ過キス 故ニ委託者ト仲買人トノ間ニハ賣買契約存立スルモノニ非ス

件」同三二、四、二五民一判決—民錄五輯四卷七二

* 判決理由—一〇三八頁參照

大審院 取引所仲買人カ他人ノ注文ニヨリ取引所ニ於テ取引ヲ爲ス事ハ一種ノ委任行爲ニ外ナラサルヲ以テ一般委任ノ法則ニ從フヘキモノトス

二、六、一〇民一判決—民錄五輯六卷二九

* 判決理由—五四九頁參照

大審院 仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲スコトキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生スルモノトス

ノトス—判決錄要旨 (明治三二年一五七號「證據金並解合金引渡請求ノ件」同三三、一、二三民一判決—民錄六輯一卷四八)

* 判決理由—八七八頁參照

大審院 注文者ト其注文ヲ受ケタル取引所仲買人トノ關係ハ一種特別ノ委任關係ナルヲ以テ普通委任ノ法則ノミニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

件」同三五、七、五民一判決—民錄八輯七卷二五、彙報一三卷民四四五、新聞一〇二號二五

* 判決理由—五五〇頁參照

東京地 取引所法ニ所謂仲買人カ他人ヨリ賣買ノ委託ヲ受ケ取引所ニ於テ取引ヲ爲ス場合ハ決シテ委託者ノ代理人トシテ取引スルニアラス 取引ノ當事者タルモノハ委託者ニアラスシテ仲買人自身ナルヲ以テ其取引ニ因リテ直接ニ權利ヲ行ヒ義務ヲ負擔スルモノハ亦仲買人ナリト言ハサルヲ得ス 故ニ賣買委託者タル原告ハ賣買取引ヨリ生スル權利ヲ主張シ被告取引所ニ對シ本訴ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

スコトヲ得サルモノトス (民三判決—新聞明治三三年九月一號九)

東京控 取引所法第十二條第二項ニ「仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ」トアリテ仲買人カ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲シタル場合ニ於テハ其取引ニ關シ取引所ニ對シ一切ノ責任ヲ負フモノハ獨リ仲買人ノミニシテ仲買人ノ委託者即チ所謂客先ナルモノハ取引所ニ對シ毫モ責任ヲ負ハサルコト明カナリ 從ツテ取引所ニ於ケル取引ニ關シテハ仲買人ノ委託者ト取引所トノ間ニハ何等ノ關係ヲモ生スヘキモノニアラサルヲ以テ右取引關係ニ付委託者ヨリ直接取引所ニ對シ訴求スルハ其當ヲ得サルモノトス

(民一判決—新聞明治三三年九月一號九)

委託者ト取引員トノ關係

委託者ト取引員トノ關係

委託者ト取引員トノ關係

委託者ト取引員トノ關係

委託者ト取引員トノ關係

委託者ト取引員トノ關係

委託者ト取引員トノ關係

大阪控 其買建ハ利益ヲ得テ讓渡スルノ意思ニ出テ其買建ハ其買入レタルモノヲ賣建テタルモノト認ムルヲ得ヘキトキハ右ノ如キ意思ニテ取引所仲買人ニ綿糸ノ定期買建又ハ賣建ヲ委託スル行爲ハ商法第二百六十三條第一號ニ該當スル商行爲ナリ

(判決理由) 控訴人カ最終ノ抗辯トセル時効ヲ按スルニ訴外高島俊治ハ明治三十二年以降同三十三年中ハ棉花綿糸綿布ノ仲次ヲ業トセル商人ナリシコトハ同人ノ證言スル所ニシテ甲第一號證ハ同三十三年三月十四日ノ成立ナルコトハ爭ヒナキ事實ナレハ同人ハ甲第一號證成立當時商人ナリシコト明カナリ 而シテ金錢貸借ハ同人ノ營業部類ニ屬セサルコトハ前説明ニヨリ明瞭ナレトモ商人ノ爲シタル行爲ハ反證ナキ限り其營業ノ爲メニシタルモノト推定スヘク而シテ商人カ其營業ノ爲メニ爲シタル行爲ハ商行爲ナルカ故ニ第一號證ノ貸借ハ反證ナキ限り商行爲ナリトス 被控訴人(本件債權ノ讓受人)ハ右貸借ハ控訴人カ三品取引所市場ニ於テ綿糸ノ買占ヲ爲シタル際其證據金ヲ供スル爲メ俊治カ控訴人ニ貸與シタルモノナレハ俊治ノ營業ニハ何等關係ナキ行爲ナリト主張スレトモ綿糸ハ俊治ノ營業部類ニ屬スル商品ナルカ故ニ控訴人カ三品取引所ニ於テ之カ買占ヲ爲スニ際シ其資金ヲ供給シタル甲第一號證ノ貸借ハ俊治カ其營業ノ爲メニ爲シタルモノニアラスシテ單ニ友誼表彰ノ爲メナリト斷言スルヲ得ス 或ハ當時俊治ハ右貸付カ其營業ノ良果ヲ收ムルニ付キ必要又ハ有益ナリト認メ其營業ノ爲メニ之ヲ爲シタルニアラサルナキヲ保セサルカ故ニ右ノ事實ハ未タ右推定ヲ駁スニ足ラス 更ニ又控訴人ノ側ヨリ之ヲ見ルニ證人山安次郎、前川捨吉、末廣次郎、江口春太郎ノ證言ヲ綜合スレハ控訴人ハ自己ノ名ヲ以テ明治三十一年十一月頃ヨリ同三十三年三月甲第一號證成立後ニ至ル迄盛ニ三品取引所仲買人ニ對シ綿糸ノ定期買建又ハ賣建ヲ注文ヲ爲シタルコトヲ認ムルヲ得ヘシ 而シテ斯ク控訴人カ綿糸ヲ買建テタルハ其自用ニ供スル爲メナルコトハ双方ノ主張セサル所ニシテ被控訴人ノ甲第一號證成立當時控訴人ハ盛ニ仲買人ノ手ヲ經テ三品取引所ニ於ケル定期取引ヲ爲シ而モ其取引ハ悉ク差額買建ナリト主張シ證人山安次郎ハ控訴人ノ買建テタル綿糸ハ一時一千枚以上ニ上リタリト證言スルニ徴スレハ其買建ハ利益ヲ得テ讓渡スルノ意思ニ出テ其買建ハ其買入レタルモノヲ賣建テタルモノト認ムルヲ得ヘシ 而シテ右ノ如キ意思ニテ取引所仲買人ニ綿糸ノ定期買建又ハ賣建ヲ委託スル行爲ハ商法第二百六十三條第一號ニ該當スル商行爲ニシテ控訴人ハ當時之ヲ其業ト爲シタルモノナルコトハ前記證人ノ證言スル事實ヲ綜合シテ之ヲ認ムルコトヲ得ヘシ 被控訴人ハ控訴人ノ取引ハ總テ差額取引ニシテ現物ヲ取引タルコトナシト主張スレトモ控訴人ノ取引ハ總テ山安次郎ノ委託シタルモノニアラサルコトハ前記捨吉時次郎春太郎ノ證言ニ依リ明カナレハ山安次郎ノ證言ニ依リテハ右事實ヲ立證スルニ足ラス 而シテ市場ノ狀況ニヨリ時ニ買建テタルモノヲ賣建シタルコトアリトスルモノ之ヲ以テ商行爲ニアラスト謂フヲ得ス 又一人カ數業ヲ兼スルコトハ

取引所取引ノ委託
商法第二百六十三條
第一號
定期買建又ハ賣建
證據金ノ貸借
効力消滅時

不能ニアラサルカ故ニ控訴人カ會社ノ支配人ニシテ大阪支店長タリシ事實ハ前認定ト概觸スルモノニアラス 然ラハ甲第一號證ノ貸借成立當時控訴人カ商人ナリシカ故ニ甲第一號證ノ貸借ハ附屬的商行爲ナリト謂ハサルヘカラス 被控訴人ノ主張スル如ク右貸借ハ右定期取引ノ證據金ニ供スル爲メ借入レタルモノトセハ法ノ推定ヲ待タスシテ其商行爲タルコト明白ナリ 然ラハ本件貸借ハ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキ時ヨリ五年ノ時効ニ因リ消滅スヘキモノナリ(明治四四年ネ六八號「貸金請求控訴事件」同四五、一、二九民二判決—新聞七七三號二〇、評論一卷商一八)

取引所取引
商法第二百六十三條
第一號

大審院 取引所市場ニ於ケル綿糸ノ賣買ヲ仲買人ニ委託スル行爲ハ其買建ニ付テハ利益ヲ得テ讓渡スル意思ヲ以テ代金ヲ支拂ヒテ綿糸ヲ取得シ賣建ニ付テハ其取得シタル綿糸ヲ讓渡スルヲ目的トスルモノナルヲ以テ商法第二百六十三條第一號ニ該當スル商行爲ナリトス(判決要旨)

(判決理由) 被告カ三品取引所ニ於ケル綿糸ノ買建ヲ仲買人ニ委託シタルハ利益ヲ得テ之ヲ讓渡スルノ意思ニ出テ又賣建ヲ委託シタルハ其買入レタルモノヲ賣建ツルニ在リタルコト原院ニ於テ確定セル事實ナリ 然レハ取引所市場ニ於ケル賣買ハ受託者タル仲買人カ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲セシコト勿論ナルモ被告カ委託ハ其買建ニ付テハ利益ヲ得テ讓渡スルノ意思ヲ以テ代金ヲ支拂ヒテ綿糸ヲ取得シ賣建ニ付テハ其取得シタル綿糸ヲ讓渡スルヲ目的トセル行爲ナルコト勿論ナルヲ以テ原院カ被告カ上告人ノ右行爲ヲ商法第二百六十三條第一號ニ該當スル商行爲ナリト判示シタルハ正當ナリ(明治四五年オ九七號「貸金請求ノ件」同四五、六、二〇民一判決—民錄一八輯六一六、彙報二三卷民三六五、新聞八〇五號二七、最近一卷七六、評論一卷商一一九)

第二節 受託契約準則及委託手数料

第十五條 會員又ハ取引員ハ委託手数料率及受託契約準則ヲ定メ取引所ヲ經由シテ商工大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

受託契約準則
及委託手数料
認可

可及其ノ變
更命令

第五編 取引所取引ノ委託

取引所ハ前項ノ認可申請書ニ其ノ意見書ヲ添付スヘシ
商工大臣必要ト認ムルトキハ委託手数料率又ハ受託契約準則ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ (制定一六三三、六 改正一
大正一一、七)

商務局長通牒 取引員ト委託者トノ間ニ行ハルル受託契約ノ準則及委託手数料率ハ取引所法施行規則ノ改正ニ依リ
農商務大臣ノ認可ヲ要スル義ニ有之候處新ニ取引員タラムトスル者ニ付テハ豫メ右手数料率及準則ヲ定メシメ其ノ
認可申請書ハ取引員免許願ニ添付セシムル様取計相成度此段及通牒候也 (大正一一、一〇、二五)

商務局長通牒 取引員免許出願ノ際 (會員新ニ加入シタル場合) ニ認可申請スヘキ委託手数料率及受託契約準則ニ
關シテハ既ニ總代ノ名義ヲ以テ認可ヲ受ケタルモノト全ク同一ノモノヲ制定セントスル場合ハ認可申請書ニ其ノ旨
記載有之ラハ別ニ其ノ内容ヲ添付セサルモ差支無之候條了知相成度此段及通牒候也 (大正一四、五、二八―商局三六四
號)

認可ヲ受ケ
タル受託契
約準則及委
託手数料率
ノ効力

鈴木武志氏 認可ヲ受ケタル委託手数料率及受託契約準則ノ効力ニ付テハ疑問ガアル 如何ナル時如何ナル人ニ對シテモ認可ヲ受
ケタルモノニ異ル率ヲ適用シ又ハ異ル條件ヲ附シテハ不可ト言フ程嚴格ナモノデナイコトハ問題アルマイ 委託者保護ノ立法精
神ニ鑑ミ公法ノ認可ヲ受ケタル率ヨリモ高キ率ヲ適用スルコトヲ得ズ、認可ヲ受ケタル準則ヨリモ委託者ニ對シテ不利ナル條件
ヲ以テ受ケタルコトヲ得ザルノ趣旨デアリ、私法ノ認可ヲ受ケタル準則ニ對シテハ協定ナカリシ時又ハ率又ハ條件ニ付キ當事者間ニ爭ヲ生ジ
ソノ何レカヲ判ズルコト不可能ナル時ニハ認可ヲ受ケタルモノニ依リ約定シタルモノト看做サルト言フ位ノモノデアラウ (取引所
法通論一七五)

鈴木武志氏 認可ヲ受ケタル手数料率又ハ受託契約準則ニ比シ委託者ニ不利ナル料率ヲ課シ又ハ約束ヲ爲シテモソレハ無効デア
ル又委託者ニ對シスカル料率又ハ約束ヲ強要シタルモノハ取引所法第二十七條ノ處分ヲ免ルルコトガ出來ヌ (取引所法通論一八一)
藤田國之助氏 會員又ハ取引員ハ委託者ニ對シテ商法上ノ問屋タル性質ヲ有シテキル 故カラコノ委託契約ニ付イテハ取引所法令
ニ特別ノ規定ノナイ限り、商法ノ問屋ニ關スル規定ノ適用ガアリ、ソノ法律關係ハ委任トシテ解釋スベキモノデアルコトニ付イテ
ハ多數ノ判例ガ一致シテキル 又委託契約ハ會員又ハ取引員側ニ於テモ、又委託者側ニ於テモ商行為デアルコトハ勿論デア
ル

定期賣買米
通帳ニ記載
サレタル取
引規定ト取
引員委託者
間ノ合意ノ
推認

商法及民法ノ規定ハ任意規定ガ多イカラ當事者間ニ特別ノ契約アル場合ハコレニ據ルベキデア
ルコト特別ノ契約ハ一會員又ハ取
引員ニ付イテモ、個々ノ委託者ニ依ツテソノ内容ガ異ツテキテ可イ譯デア
ルガ、會員又ハ取引員ハ受託契約準則ナルモノヲ定メ、
主務大臣ノ認可ヲ受ケルコトニナツテキルカラ、實際ハコノ準則ニ依ツテ一
樣ニ契約セラレル 又コノ準則ハ各會員又ハ取引員
ガ個別ニ認可ヲ受ケルコトニナツテキルガ、實際ハ同一ノ取引所ノ會員
又ハ取引員ハ皆同一ノ内容ノ準則ニ依ツテ認可ヲ受ケルカラ
同一ノ取引所ノ會員又ハ取引員ハ同一ノ内容ノ委託契約ヲスルコト
ニナツテキル 故カラコノ準則ノ内容ハ會員又ハ取引員ガ委託者ニ
交付スル案内書、報告書又ハ通帳ノ類ニソノ全文又ハ抜萃ヲ印刷シテ
アルカラ、委託者モコレニ從フ意思デアツタコトヲ一應推定サ
レ
ルデア
ル (取引所論二四二)

大阪地 本件定期賣買米通帳ニ委託賣買米取扱規定ト題シ記載シタル各條項ハ何レモ印刷セルモ
ノナリト雖モ之等條項ノ趣旨ヲ推究シ且右通帳ノ態様ヲ參照スルトキハ仲買人タル原告ハ客ヨリ賣
買ノ注文ヲ受クルニ當リ豫メ右條項ヲ定メ之ニ依リ客トノ取引ニ付キ權利義務ヲ定メントスル意思
ノ存在ヲ認ムルニ難カラス 更ニ右通帳ヲ觀ルニ各條項ヲ記載セル其前文ニ於テ委託者ノ氏名ヲ表
示シ原告ノ署名捺印ヲ爲シ附込期限ヲ記入シ收入印紙ヲ貼付シアルヲ以テ斯ル態様ニ於テ通帳ヲ委
託者ニ交付シ委託者ハ之ヲ受領シ且本件取引ヲ記載シアル以上ハ本件當事者間ニ於テ本訴ノ取引ニ
關シ右條項ニ付合意ヲ爲シタルモノト推認スルヲ得ヘシ (明治四五年ワ一一一號「決算金請求事件」同四五、
四、二〇民三判決―新聞七九〇號一九)

委託米註文
取扱規約中
ニ依ルベキ
拘束力

大阪區 本件委託米注文取扱規約中ノ仲裁判斷ニ依ルヘキ旨ノ規定ハ當事者カ特ニ之ニ依ルノ意
思ヲ有スルトキニ於テ初メテ當事者ヲ拘束スルモノタルコトハ其文言ヨリ觀ルモ又其規約ノ性質上
ヨリ考フルモ疑ナキ所トス (大正四年ハ六七四三號「證據金返還請求事件」同五、八、一四判決―新聞一一六一號二三、
判例一卷民六〇八)

* 判決理由―六〇八頁參照
第一章 總 說 第二節 受託契約準則及委託手数料
五八五

通帳ニ記載
サレタル取
扱規則ノ拘
束力

賣買注文取
扱規則ノ推
認

受託契約準
則規定ノ推
認

受託契約準
則中ノ延滞
日歩徴收規
定

受託契約準
則中ノ延滞
日歩徴收規
定
代用價格算
定方法ニ關
スル約款ト
之ニ反スル
慣習アル場
合
委託契約ニ
基ク權利ノ
讓渡制限規
定ノ通帳記
載
委託契約ニ
基ク權利ノ
讓渡禁止ニ
關スル特約
ノ認定
受託契約準
則中ノ訴訟
ノ假處分決
定ニ對スル
抗告ノ對ス
ル代理人ノ
代理關係ノ
性質及受託
契約準則ノ
讓渡禁止

大阪地 仲買人ト委託者トノ間ニ授受セラレタル通帳ニ委託者ハ通帳所載ノ委託賣買米取扱規約ノ規定承認ノ上該規約ニ基キ取引ヲ委託セシコト相違ナキ旨記載シアリテ委託者カ之ニ署名捺印シタルトキハ有力ナル反證ノ見ルヘキモノナキ限り該委託者ハ此特約ニ拘束セラルヘキモノト認定スルノ外ナキモノトス (大正五年ワ四三四號「計算金支拂請求事件」同六、二、九民三判決—判例二卷民三六三)

東京地 委託者カ定期米ノ取引ノ事情ニ通シ居リ且仲買人ヨリ賣買注文取扱規則ヲ交付シアル事實ヲ認メ得ルトキハ委託者ハ右規則ニ據ルノ意思ヲ以テ右取引ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス (大正八年レ二九〇號「立替金請求控訴事件」同一、三、八民三判決—新聞一九九八號二二)

東京民地 取引員ニ對シ特ニ受託契約準則規定ニ據ラサル旨ヲ表示スルコトナク株式清算取引ヲ委託シ委託契約成立シタル場合ニ於テハ該當事者ハ一般の客觀的ニ觀察シテ右準則規定ニ據ル意思ヲ以テ右契約ヲ爲シタルモノト認ムルノ外ナシ (昭和一〇年ワ八〇〇號「株式取戻請求事件」同一〇、一二、一四第二部判決—新聞三九四八號二三、評論二五卷商三六六、新報四二五號二六)

東京控 東京株式取引所取引員カ注文客ヨリ取引ノ委託ヲ受クルニ當リ準據スヘキ受託契約準則第十五條ニハ委託者カ仕切損金ヲ支拂ハサル場合其他取引員ニ於テ立替金ヲ爲シタル場合ニハ取引員ハ委託者ヨリ金四錢ノ延滞日歩ヲ徴收シ得ヘキ旨ヲ規定シアルコトハ委託者ノ認ムルコトコトナレハ反證ナキ限り委託者ノ代理人ハ右受託契約準則ノ規定ノ存在ヲ知リテ本件取引ヲ委託シタルモノト推認スヘキヲ相當トス (昭和一年ネ四五六號「清算金請求控訴事件」同一三、六、三〇民二判決—評論二七卷商四三)

二、新報五一三號九

* 判決理由—六九八頁參照

朝高法院 委託取引ニ付テ當事者カ特約ナキ限り凡テ受託契約準則ニ依ルヘキ約ナリシトキハ當事者ハ一應之ヲ以テ契約ノ内容ト爲シタルモノト解スヘク該準則中證據金代用證券ノ代用價格算定方法ニ關スル約款ト反對ノ慣習アル一事ニヨリ直ニ該約款ニ依ラスシテ慣習ニ依ル意思ヲ有シタルモノト爲スヲ得サルハ當然ナリ 尤モ事實タル慣習アル場合之ニ依ル意思ハ明示セラルル要ナク之ニ依ルコトカ取引ノ通念ニ照シ合理的ナリト認メラル場合ニハ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト推定スヘキモノナルモ右ノ如キ約款存スルニ拘ラス當事者カ尙之ニ依ラスシテ慣習ニ依ル意思ヲ有シタルモノト認ムルニ付テハ必スヤ該約款ニ依ラサルコトカ合理的ニシテ從テ相反スル慣習ニ依ルコトカ取引ノ通念上妥當ナリト認メラル事情存セサルヘカラス (昭和一三年民上五二七號同一四、二、一七民事部判決—評論二八卷商四八三)

- * 判決理由—九八七頁參照
- * 委託契約ニ基ク權利ノ讓渡制限規定ノ通帳記載 (判例) — 本章第三節「委託契約ニ基ク權利ノ讓渡」參照
- * 委託契約ニ基ク權利ノ讓渡禁止ニ關スル特約ノ認定 (判例) — 本章第三節參照「委託契約ニ基ク權利ノ讓渡」參照
- * 受託契約準則中ノ訴訟ノ裁判權ニ關スル規定ト假處分決定ニ對スル抗告 (判例) — 本章第五節「取引所取引ノ委託ト訴訟」參照
- * 委託者ノ代理人ニ關スル受託契約準則ノ規定ト外交員ノ代理關係 (判例) — 本編第三章「委託者ノ代理人」參照
- * 委託契約ノ性質及受託契約準則—本章第一節「委託契約ノ性質」參照

第二節 委託契約ニ基ク權利ノ讓渡

大株受託準則 第八條 取引員及委託者ハ相手方ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ委託契約ニ依リ生シタル一切ノ權利義務ヲ他人ニ讓渡ス

東株受託準則 第十八條 取引員又ハ委託者ハ相手方ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ賣買委託ノ關係ヨリ生スル一切ノ權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

委託契約ニ基ク權利ノ讓渡制限規定ノ通帳記載

大阪控 本件仲買人ヨリ委託者ニ交附シタル右通帳ハ其注文ニ係ル取引ノ成立後之ヲ證明スル爲メニ交附セラレタルモノナレハ委託關係ヨリ生シタル一切ノ權利ヲ他人ニ讓渡セサル旨ノ制限規定カ通帳中ニ記載アルノミニシテ他ニ其所定ノ事項ニ付互ニ合意ヲ爲シタリト認ムヘキ證據ナキ以上該規定ノ條項ヲ以テ當事者間ノ委託契約ノ内容トナシ其所定ノ如キ特約ヲナシタルモノト認ムル能ハス (株式定期賣買證據金返還請求事件) 大正六、七、四判決—新聞一三五六號七)

* 大審院ハ大正六年十一月六日右大阪控訴院ノ判決ヲ適法ナリトシ此點ニ關スル上告ヲ棄却シタリ (新聞一三五六號七)

委託契約ニ基ク權利ノ讓渡禁止ニ關スル特約ノ認定

大審院 定期米賣買ノ成立及其ノ計算ヲ通知シタル書面ニ委託契約書ノ全條項ヲ掲ケ該條項力委託契約ノ内容タルヘキ旨ヲ記載シ且其ノ契約書ノ第三條トシテ「委託者及取引員ハ其ノ委託賣買取引ニ依リ生シタル一切ノ權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス」トノ記載アリ 之ニ依リテ一應本件定期米賣買委託契約ニ付テモ第三條記載ノ如キ債權讓渡禁止ノ特約アリタルモノト認ムヘキヤ當然ナリ

(判決理由) 被上告人ノ提出シタル乙第四號證ノ一乃至八(但赤色ノ記入部分ヲ除ク)ハ取引員タル上告人カ被上告人ニ對シ其ノ委託ニ依リ實行シタル定期米賣買ノ成立及其ノ計算ヲ通知シタル書面ニシテ之ニハ本件定期米賣買ノ外尙其ノ前後ニ互ル間ニ於ケル委託ニ係ル定期米賣買ノ成立及其ノ計算ヲ記載シ其ノ各書證ニハ委託契約書ノ全條項ヲ掲ケ該條項力委託契約ノ内容タルヘキ旨ヲ記載シ且其ノ契約書ノ第三條トシテ「委託者及取引員ハ其ノ委託賣買取引ニ依リ生シタル一切ノ權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス」トノ記載アリ而シテ此等書證(但赤色ノ記入部分ヲ除ク)ノ真正ナルコトハ上告人ノ認ムル所ナルカ故ニ之ニ依リテ一應本件定期米賣買委託契約ニ付テモ第三條

委託取引ヨリ生シタル債權ノ讓渡ニ關スル商慣習ノ有無

記載ノ如キ債權讓渡禁止ノ特約アリタルモノト認ムヘキヤ當然ナリ 然ルニ原判決ハ該書證ノ記載ニ付何等説明ヲ爲スコトナクシテ本件定期米賣買委託契約ニ因ル債權ニ付讓渡禁止ノ特約アリトノ上告人主張事實ハ之ヲ認ムヘキ證據ナシトシテ否定シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ違法ニ事實ヲ確定シタルカ又ハ理由不備ノ違法アリ 原判決ハ破毀ヲ免レス (昭和三年オ六〇〇號「定期米賣買不足金請求事件」同四、四、二〇民四判決—大審院裁判例(三三民九四))

東京控 株式定期賣買委託取引ヨリ生シタル債權ハ仲買人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ他ニ讓渡スルヲ得サル旨ノ商慣習東京市ニ存在セサルモノトス

(判決理由) 控訴人ハ元株式會社東京株式取引所仲買人ニシテ訴外田邊源四郎ノ委託ニ基キ右取引所ニ於テ株式定期賣買ヲ實行シ同人ニ對シ株式賣買勘定殘金債務ヲ負擔スルニ至リタルコトハ控訴人ノ認ムル所ナリ (中略) 而シテ訴外田邊源四郎カ控訴人ニ對シ右債權ヲ被控訴人ニ讓渡シタル旨大正十年十二月四日之カ通知ヲナシタルコト本件當事者間ニ爭ナク且右源四郎カ被控訴人ニ對シ大正九年十二月二十九日後右債權讓渡ノ通知以前ニ本件ノ債權ヲ讓渡シタル事實ハ原審證人田邊源四郎ノ證言ニ依リ之ヲ認定スルニ足ル 控訴人ハ本件ノ如キ株式定期賣買委託取引ヨリ生シタル債權ハ仲買人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ之ヲ他ニ讓渡スルヲ得サル旨ノ商慣習東京市ニアリ、本件株式定期賣買ノ委託ニ際シ契約當事者ハ右慣習ニ依ル意思ヲ有シタルカ故ニ前記被控訴人主張ノ債權讓渡ハ其効ナキ旨抗辯スレトモ此點ノ立證ニ供シタル乙第四號證ニ依テハ未タ以テ其主張ノ如キ商慣習ノ存在スルコトヲ認メ難ク當審證人中村武治ノ證言其他控訴人ノ援用シタル各證據ニ依ルモ到底之ヲ認ムルニ由ナキヲ以テ控訴人ノ前記抗辯ハ排斥ヲ免レス (大正一二年ネ一八〇號「株式定期賣買殘金請求控訴事件」同一三、九、二九民三判決—新聞二三二六號一九、評論一三卷商六七三)

* 上告審—大正一四、三、二六民一判決 (次掲)

大審院 上告會社カ原審ニ於テ上告會社ハ惡意ノ取得者ナリトスル被上告人ノ主張ヲ爭ヒタルモノナルコト明ナルニ因リ原審ハ上告會社カ本件債權ヲ讓受クルニ當リ善意ナリシヤ又ハ惡意ナリシヤヲ確定スルヲ要スヘキモノナルニ單ニ其ノ超過部分ノ債權ノ虛偽ノ意思表示ニ因リテ成レルモノナルコトノミヲ確定シ上告會社ノ此ノ部分ニ關スル請求ヲ棄却シタルハ審理不盡理由不備ノ不法ア

委託者ノ債權讓渡

（判決理由）原審ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ訴外田邊源四郎ノ委託ニ基キ東京株式取引所ニ於テ株式ノ定期賣買ヲ爲シ大正九年十二月二十九日ノ計算ニ於テ同人ニ對シ八千十圓五十錢ノ債務ヲ負擔シタルコトナリシニ源四郎ハ當時其ノ取締役タリシ上告會社ニ示ス必要アルヲ以テ右債務額ヲ一萬六千三百二十四圓トシ其ノ證書ノ作成方ヲ個人タル資格ニ於テ懇請シタルヨリ被告上告人ハ其ノ負擔セル債務ノ額ヲ超過スル部分ニ付源四郎ヨリ返リ證書ヲ受取り甲第一號證一萬六千三百二十四圓ノ債務ニ關スル證書ヲ作成シテ同人ニ交付シタルニ同人ハ右甲第一號證ノ債權ヲ上告會社ニ讓渡シタルモノトス 果シテ然ラハ甲第一號證記載ノ金額中八千十圓五十錢ヲ超過スル部分ノ債務ハ被告上告人ト上告會社トノ相通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ニ因ルモノト云フヘク而シテ原審口頭辯論ノ全趣旨ニ徴スレハ上告會社カ原審ニ於テ上告會社ハ惡意ノ取得者ナリトスル被告上告人ノ主張ヲ争ヒタルモノナルコト明ナルニ因リ原審ハ上告會社カ本件債權ヲ讓受クルニ當リ善意ナリシヤ又ハ惡意ナリシヤヲ確定スルヲ要スヘキモノナルニ單ニ其ノ超過部分ノ債權ノ虛偽ノ意思表示ニ因リテ成レルモノナルコトノミヲ確定シテ上告會社ノ此ノ部分ニ關スル請求ヲ棄却シタルハ審理不盡理由不備ノ不法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ 依テ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス（大正一三年オ一〇七二號「株式定期賣買勘定殘金請求事件」同一四、三、二六民一判決—彙報三六卷上民四七〇、新聞二四〇七號一七）

* 原審—東京控、大正一三、九、二九民三判決（前掲）

東京地 該規定「東京米穀商品取引所取引員清算取引受託契約準則第二十一條ノ規定——取引員及委託者ハ委託ニ因リ生シタル一切ノ權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス」ハ取引所法第二十五條ノ規定ニ基キ取引員又ハ委託者カ所謂吞行爲又ハ脱稅行爲ヲ爲スコトヲ防止センカ爲メ主務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規定ナルヲ以テ取引員カ取引所ニ對スル清算ヲ結了シ以テ該取引員ヲ廢業シタル場合ニハ斯ル弊害ノ生スヘキ虞ナキヲ以テ其廢業後ニ於テ委託者ニ對スル債權ヲ讓渡スルモ何等該規定ニ違反スル無効ノモノナリト謂フヲ得ス（昭和二年ワ二八七五號「定期米仕切金殘金請求事件」同四、

取引員ノ廢業ト委託者ニ對スル債權ノ讓渡

四、一二民一〇判決—新報一八七號二三）

* 契約解除ト損失填補金ノ返還ヲ受クル權利及其ノ讓渡（判例）—本編第八章第一節第一款參照

第四節 委託契約ニ基ク權利ノ消滅時効

大阪控 株式取引所仲買人カ客ヨリ取引所ニ於ケル株式定期賣買ノ委託ヲ受ケ受託者トシテ受託事務ヲ履行スヘキ債務ハ商行爲ニ因リテ生シタル債務ナルカ故ニ商法第二百八十五條ニ依リ其消滅時効ハ五年ナリ（大正三年ネ五二號「株式賣買證據金返還並損害賠償請求事件」同五、一、二九民三判決—新聞一〇八八號一六、最近一七卷一一〇、評論五卷商六六）

* 判決理由—九二七頁參照

大阪控 仲買人カ株式定期賣買ノ委託ヲ受ケ其受託事務ヲ履行スヘキ債務ハ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニシテ商法第二百八十五條ニ依リ五ヶ年ノ消滅時効ノ適用アルモノトス「法律ハ契約ノ解除權ヲ以テ一種ノ債權ナリトシ之ニ消滅時効ヲ適用セシムル精神ナルコトヲ推知シ得ヘシ（大正六年ネ八號「原狀回復請求控訴事件」同六、五、一五民三判決—新聞一二六四號二四、判例二卷民五九五）

* 判決理由—九二八頁參照

* 委託契約解除權ノ消滅時効（判例）—本編第八章第一節第三款「委託契約解除權ノ消滅時効」參照

大阪地 仲買人ニ對シ取引所ノ賣買成立證明書ノ交付ヲ求ムル請求權ハ定期賣買ノ委託即チ商行爲ヨリ生スル債權ナルヲ以テ商法所定ノ五年ノ時効ニ因リ消滅スヘキモノトス（大正五年ワ六四八號「定期賣買成立證明書交付請求事件」同五、一〇、二八民三判決—新聞一一九九號一七、判例一卷民一三六八）

* 判決理由—八二八頁參照

契約解除ト損失填補金ノ返還ヲ受クル權利及其ノ讓渡

受託事務ノ履行債務ノ消滅時効

受託事務ノ履行債務ノ消滅時効
委託契約ノ解除權ノ消滅時効

賣買證明書ノ交付請求權ノ消滅時効

證據金返還
請求權ノ消
滅時効

委託者ノ不
當利得返還
請求權ノ消
滅時効

株式賣買ヨ
リ生ズル違
約金債權ノ
消滅時効

株式ノ賣買
委託契約ニ
基ク金員支
拂請求權ノ
消滅時効

山口地、下關支部 委託者ノ證據金返還請求ノ債權ハ商法第三條第二、三、四、五條ニ依リ商行爲ニ依リ生シタルモノトシ五年ノ時効ニ罹ルヘキモノトス(大正五年ワ七一號「證據金返還請求事件」同五、一〇、三〇判決—新聞一二九號三二、評論五卷商七七四、判例一卷民一二七六)

* 判決理由—一〇五九頁參照

東京地 仲買人ニ於テ委託者ノ賣建委託ノ本旨ニ從テ委任事務ヲ處理セサルニ拘ラス買戻手仕舞ニヨル損失填補ノ名義ノ下ニ證據金ヲ給付セシメタルモノナルトキハ委託者ハ仲買人ヲ惡意ノ受益者トシテ利得金及之カ利息返還ノ請求ヲ爲スハ正當ナリ 右ノ如キ不當利得ノ返還請求權ハ法律ノ規定ヲ以テ其發生原因トスルモノナレハ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付テノミ適用スヘキ商法第二百八十五條ノ規定ハ適用ナク普通債權トシテ十年ノ時効ニヨリテ消滅スヘキモノトス(大正七年ワ四〇四號「不當利得返還請求事件」同九、二、一〇民六判決—評論九卷民二八八)

* 判決理由—八四七頁參照

大阪地 商法第二百六十三條第四號ニ所謂手形其他ノ商業證券トハ有價證券中商業上商品トシテ取引セラルルコトヲ常トスルモノト解スヘキヲ以テ株券ノ如キモ亦之ニ屬シ從テ其ノ賣買ハ右法條ニ依リ商業證券ニ關スル行爲トシテ所謂絕對的商行爲ナリ 從テ其ノ賣買ヨリ生ズル違約金債權ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權トシテ商法所定ノ五年ノ消滅時効ニ服スルモノトス(大正一五年ワ二二二二號「違約金請求事件」昭和三、三、二〇民六判決—新聞二八三七號二二、評論一七卷商四二六)

* 判決理由—一三一一頁參照

長崎控 記名株券ヲ商取引ノ目的トスルハ顯著ナル事實ナルカ故ニ本訴株券「控訴人ニ對シ賣買ヲ委託シタル九州電燈鐵道株式會社新株式」ハ商法第二百六十三條第四號ノ商業證券ニ該當シ當事者間ニ於ケル右株券ノ賣買委託亦同條ニ依リ商業證券ニ關スル行爲トシテ絕對的商行爲ニ屬スルモノト解スヘキカ故ニ該委託契約ニ基キ交付セラレタル株券ノ返還ニ代ヘ其ノ價格ニ相當スル金員ノ支拂ヲ約シタルトセハ右金員ノ支拂ヲ求ムル權利ハ所謂商事債權トシテ五年ノ時効ニ因リ消滅スヘキモノト謂ハサルヘカラス(昭和六年ア四三五號「契約金請求控訴事件」同七、六、二〇民二判決—新聞三四四〇號一六、評論二二卷商四一一、新報三〇五號一五)

損失金支拂
請求權ノ消
滅時効ノ起
算點

取引員ノ爲
ス消費貸借
ノ消滅時効

東京地 仲買人カ客ノ委託ニヨリ爲シタル定期取引ニ基ク損益ハ總テ客ノ損益ニ歸スルモノニシテ斯ル損益ノ有無ハ各個ノ取引ヲ終了シタル際ニ確定スルヲ以テ反對ノ特約ナキ限り各個ノ取引ノ終了シタルトキヨリ客ハ利益金賣買代金ヲ請求シ得ヘク仲買人ハ損失金ノ支拂ヲ請求シ得ヘキモノトス 從テ右各債權ノ消滅時効ハ各取引ノ終了シタルトキヨリ夫々進行スルモノト認メサルヘカラス(大正五年ワ三七〇一號、同七一三號「株券賣買代金同利得金並損害金請求事件」同六、二、二五民二判決—判例三卷民六一七)

* 判決理由—九四〇頁參照

大審院 商人カ他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタル場合ニ於テハ之ニ因リテ成立シタル消費貸借ハ其營業ノ爲メニシタルモノト推定セラレヘキコト商法第二百六十五條第二項ニ依リ明カナルヲ以テ其消費貸借ハ同條第一項ニ依リ商行爲ナリトス(大正七年(オ)第三四〇號同年八月六日當院判決參照)原判決ノ認ムル事實ニ依レハ訴外渡邊對三ハ株式取引所ノ仲買人ニシテ被上告人ニ對シ株式取引ヨリ生シタル八千九百六十五條第二項ニ依リ明カナルヲ以テ其消費貸借ハ同條第一項ニ依リ商行爲ナリトス(判決錄要旨)

(判決理由) 商人カ他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタル場合ニ於テハ之ニ因リテ成立シタル消費貸借ハ其營業ノ爲メニシタルモノト推定セラレヘキコト商法第二百六十五條第二項ニ依リ明カナルヲ以テ其消費貸借ハ同條第一項ニ依リ商行爲ナリトス(大正七年(オ)第三四〇號同年八月六日當院判決參照)原判決ノ認ムル事實ニ依レハ訴外渡邊對三ハ株式取引所ノ仲買人ニシテ被上告人ニ對シ株式取引ヨリ生シタル八千九百六十五條第二項ニ依リ明カナルヲ以テ其消費貸借ハ同條第一項ニ依リ商行爲ナリトス(判決錄要旨) 原院ハ此旨趣ヲ以テ本件消費貸借ヲ商行爲ト認メタルモノナルコト原判文ニ「本件債權カ商行爲ニ因リテ生シタルモノナルコト紋上認定ノ

事實ニ徴シテ明カナリトアルニ依リテ明カナリ 故ニ其認定ハ不法ニアラス 上告人カ原判決ハ民法上ノ準消費
貸借ニ改メタルコトヲ認定シタルモノナリト云フハ其誤解ニ出テタルモノトス 從テ原院カ本件消費貸借ヨリ生ス
ル債務ハ五年ノ時効ニ罹ルモノナリト判示シタルハ相當ナリ(大正一〇年オ六〇六號貸金請求ノ件) 同一〇、一〇、五民
三判決一民錄二七輯一七二八)

判例批評

東 季彦博士 新債務ガ民法上ノ債務デアルカ商法上ノ債務デアルカハ寧ロ其準消費貸借契約ノ性質如何ニヨツテ決スベキモノデ
アル 而シ商人ガ既存ノ債務ヲ目的トシテ準消費貸借ヲ成立セシメタ時ハ新ニ生ジタル消費貸借上ノ債務ハ一應ハ商人ノ營業ノ爲
メニナシタルモノト推定セラレ商事債務トナルベキデアル(判例民法大正一〇年度四五九)

竹田 省博七 他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタル場合ニ於テハ其債務ハ舊來ノ債務ト見ル
ベキニ非ズシテ其新ナル合意ニ基ク新ナル債權ナリトスルコトハ通説ノ認ムル所ナリ 從テ此新債務ハ十年ノ時効ニ服スベキカ將
又五年ノ時効ニ服スベキカハ右ノ合意即チ所謂準消費貸借契約ガ商行爲ナリヤ否ヤヨリ決スベキ問題ニシテ而シテ其一方ノ當事者
ガ商人ナル限リ商法第二六五條第二項ニヨリ商行爲ト推定セラルベキハ當然ナリト言ハザルベカラズ(法學論叢一二卷五號六七
〇)

東京控 委託者カ仲買人ニ對シ定期取引損失金及ヒ手数料金ノ債務ヲ負擔シ後之ヲ同金額ノ準消
費貸借ニ改メタルトキハ取引所ノ仲買人ハ一種ノ問屋ナルヲ以テ商人ト謂フヘク右準消費貸借ハ仲
買人ノ營業ノ爲ニスルモノト推定セラルル結果商行爲ニ因リテ生ジタル債權ナリトス

取引員ノ爲
ス準消費貸
借ノ消滅時
効

(判決理由) 成立ニ争ナキ甲第一號證同第二號證ノ一乃至三同第五號證ノ一、二同第六、七號證ヲ綜合スレハ控訴人相磯新助ハ東
京株式取引所ノ仲買人タル被控訴人ニ對シテサ島礦産株式會社株式ノ定期買賣ヲ委託シ其ノ取引ノ結果被控訴人ニ對シ損失金及ヒ
手数料金ノ債務ヲ負擔スルニ至リ其ノ一部ヲ辨濟シ殘金五萬圓ニ付右兩者間ニ大正九年四月三十日之ヲ目的トシテ同金額ノ準消費
貸借ニ改メ同時ニ控訴人新助ハ控訴人新助ノ債務ニ付キ連帶債務者ト爲リ右準消費貸借ノ債務ハ無利息返済期大正十年四月三十
日期限後ノ損害金ヲ年一割ト約定シタルコトヲ認定スルニ足ル 控訴人等ノ提出採用スル證據ニ依リテハ右認定ヲ覆スニ足ラス
而シテ前示準消費貸借ノ成立當時被控訴人カ東京株式取引所ノ仲買人ナリシコトハ被控訴人ノ認ムル所ニシテ取引所ノ仲買人ハ一
種ノ問屋ナルヲ以テ商人ト謂フヘク從テ右準消費貸借ハ被控訴人ノ營業ノ爲ニスルモノト推定セラルル結果商行爲ニ因リテ生シタ
ル債權ナリトス 然ラハ右準消費貸借ニ因ル債務ハ控訴人ノ主張スルカ如ク五年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキコト明ナリ(昭和五年
ネ一三九六號「貸金請求控訴事件」同六、一、一七民七判決一評論二〇卷民八五七)

取引員ノ爲
ス準消費貸
借ノ消滅時
効

東京控 委託者カ仲買人ニ對シ定期取引損失金及ヒ手数料金ノ債務ヲ負擔シ後之ヲ同金額ノ準消
費貸借ニ改メタルトキハ取引所ノ仲買人ハ一種ノ問屋ナルヲ以テ商人ト謂フヘク右準消費貸借ハ仲
買人ノ營業ノ爲ニスルモノト推定セラルル結果同人ノ商行爲ナリト謂フヘク從ツテ之ニ依
リテ生ジタル債權ハ五年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキ性質ノモノナリトス

(判決理由) 成立ニ争ナキ甲第一號證第二號證ノ一乃至三第五號證ノ一、二及成立並ニ原本ノ存在ニ付争ナキ甲第六第七號證ヲ綜
合スレハ控訴人相磯新助ハ東京株式取引所ノ仲買人タル被控訴人ニ對シテサ島礦産株式會社株式等ノ定期買賣ヲ委託シ其ノ取引ノ
結果被控訴人ニ對シ損失金及ヒ手数料金ノ債務ヲ負擔スルニ至リ其ノ一部ヲ辨濟シ殘金五萬圓ニ付キ右兩者間ニ大正九年四月三十
日之ヲ目的トシテ同金額ノ準消費貸借ニ改メ同時ニ控訴人新助ハ控訴人新助ノ債務ニ付連帶債務者トナリ右準消費貸借ノ債務ハ
無利息返済期大正十年四月三十日期限後ノ損害金ヲ年一割ト約定シタルコトヲ認定スルニ足ル 控訴人等ノ提出採用ニ係ル總テノ
證據ニ依ルモ前顯各證據ニ依ル右認定ヲ覆シ大正九年四月三十日右當事者間ニ締結セラレタル契約ハ單ニ以前ノ取引ノ殘債務ヲ承
認シタルニ過キサル旨ノ控訴人等ノ主張事實ヲ認メ難シ 而シテ前示消費貸借ハ叙上ノ如キ取引ニ付生ジタル計算尻ヲ其目的トシ
テ爲サレタルモノナルコト右認定ノ如クナル以上反證ナキ限リ被控訴人ノ營業ノ爲ニスルモノト認ムルヲ相當トスヘキノ
ミナラス該準消費貸借ノ成立當時被控訴人カ東京株式取引所ノ仲買人ナリシコトハ被控訴人ノ認ムルコトニシテ取引所ノ仲買人
ハ一種ノ問屋ナルヲ以テ商人ト謂フヘク此點ヨリスルモ右準消費貸借ハ被控訴人ノ營業ノ爲ニスルモノト推定セラルヘキ
トコロ被控訴人ノ採用ニ係ル甲第一號證其他其ノ提出採用ニ係ル總テノ證據ヲ以テスルモ右認定ヲ覆シ難シ 然レハ右準消費貸借
ハ被控訴人ノ商行爲ナリト謂フヘク從ツテ該貸借ニ依リテ生ジタル債權ハ所謂商行爲ニ因リテ生ジタル債權ナレハ五年ノ時効ニ因
リテ消滅スヘキ性質ノモノト謂フヘシ(昭和七年ネ二四六號「貸金請求控訴事件」同七、七、二二民六判決一新聞三四五七號一一
評論二一卷民一〇〇一)

東京控 本件準消費貸借成立當時被控訴人カ控訴人等主張ノ如キ取引所仲買人ナリシコト及ヒ被
控訴人カ前記公正證書ノ執行力アル正本ニ基キ控訴人兩名ニ對シ差押ヲ爲シ該差押手續カ大正十年

取引員ノ爲
ス準消費貸
借ノ消滅時
効

十月二十七日完了シタルコトハ被控訴人ニ於テ認ムルトコロナリ 従ツテ本件準消費貸借ハ被控訴人ノ商行爲ニ基クモノト謂フヘク該債權ハ商法第二百八十五條ノ規定ニヨリ五年ノ時効ニヨリ消滅スヘキ性質ノモノト謂ハサルヘカラス(昭和八年ネ五六八號「貸金請求控訴事件」同一〇、九、三〇民三判決―新聞三九三二號一、評論二五卷民訴九二、新報四一六號二三)

名古屋地 債權カ元來米穀定期取引ニ因リテ生シタルモノナリトスルモ之ヲ新ナル準消費貸借ニ更改シタルトキハ新債權カ商行爲ニ因リテ生シタルモノナルヤ否ヤハ一ニ繋リテ準消費貸借成立當時當事者双方若クハ一方カ果シテ商人ナリシヤ否ヤニヨリ決セラルヘキモノトス 準消費貸借成立當時當事者ノ一方カ假令仲買人タル業務ニ從事シ居リタリトスルモ仲買人タル營業名義ヲ有セザリシトキハ商人ナリト謂フコトヲ得ス(大正二二年通四五一號「貸金請求事件」同一三、一〇、一五民一判決―新聞二三三四號一九、新報二九號二三)

* 判決理由―二六一頁參照

* 定期取引ノ證據金ノ貸借ト消滅時効(判例)―本章第一節「委託契約ノ性質」參照

第五節 取引所取引ノ委託ト訴訟

大株受託準則 第十三條 取引員ト委託者トノ間ニ於ケル取引ニ關スル一切ノ訴訟ハ大阪市ヲ管轄スル裁判所ニ依ルヘキモノトス
東京控 假處分債務者ハ假處分ヲ命シタル決定ニ對シテハ民事訴訟法第七百五十六條第七百四十四條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ得ルニ止マリ抗告ヲ爲シ得ルニ止マリ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス

(抗告理由) 株式會社東京米穀商品取引所取引員清算取引受託契約準則ニ依レハ買賣取引ノ委託ニ關スル一切ノ事件ニ係ル訴訟ニ付テハ委託者ハ東京市ニ於テ裁判ヲ受クヘキコトヲ豫メ承諾シタルモノニシテ本件假處分ニ關スル本案訴訟ノ裁判籍ハ東京市ニ在ルヲ以テ本件假處分事件ノ裁判籍モ亦本案訴訟ノ管轄裁判所々在地タル東京市ニ存スルモノトス 故ニ本件假處分命令申請ハ管轄

當事者ノ一方ガ名義場合ノ準消費貸借ノ消滅時効

訴訟ト裁判籍 受託契約準則中ノ訴訟關スル規定ト假處分決定ニ對スル抗告

違ナルヲ以テ却下セラルヘキモノナルニ拘ラス此ノ點ヲ看過シタル原判決ハ違法ナルニヨリ取消サルヘキモノナリ

(決定理由) 假處分債務者ハ假處分ヲ命シタル決定ニ對シテハ民事訴訟法第七百五十六條第七百四十四條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ得ルニ止マリ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス 何トナレハ民事訴訟法第五百五十八條ハ強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ル旨規定スレトモ同條ハ同法第七百五十六條第七百四十四條ノ規定ニ依リ假處分ノ執行手續ニ準用セラルルニ止マリ裁判手續タル假處分ノ命令手續ニハ準用セラルルモノニ非ス又假處分ヲ命シタル決定ハ同法第四百十條ニ所謂口頭辯論ヲ經スシテ訴訟手續ニ關スル申立却下シタル決定ニ該當セサルヲ以テ同條ニヨリ抗告ヲ爲スコト能ハサルハ論ナク尙他ニ假處分決定ニ對シ抗告ヲ許シタル規定存在セサルカ故ナリ 從テ本件抗告ハ之ヲ許ササルモノトシテ却下スヘキモノトス(昭和八年ラ三二號「假處分決定ニ對スル抗告事件」同八、五、二民四決定―評論二二卷民訴三七九)

安藝區 大阪株式取引所市場ニ於テハ一般取引員ト委託者トノ間ニ於ケル委託買賣契約ノ關係ヨリ生スル金錢竝物件ノ授受ハ取引員ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スヘキ義務履行地特定ノ商慣習存ス

(決定理由) 原告ハ被告ハ原告ニ對シ金百二十二圓八十六錢也ヲ支拂フヘシ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ、其ノ請求ノ原因トシテ原告ハ昭和十四年六月頃ヨリ大阪株式取引所一般取引員タル被告ト株式短期清算取引ノ委託ヲ繼續シ來リタルモノナルトコロ(一) 昭和十五年六月二十一日原告カ日本郵船株式會社株式十株ヲ一株百三圓以上買ヘノ逆注文ヲ爲セルニ對シ被告ハ右注文ヲ誤解シ當日指値ノ如キ相場ナキニ拘ラス百二圓三十錢ニテ買建シ相場下落スルヤ同年七月十七日九十三圓五十錢ニテ擅ニ之ヲ手仕舞シ値額、日歩、手数料等合計九十七圓三十七錢ノ差損金ヲ計上シ(二) 同年六月二十八日原告カ株式會社東京株式取引所新株十株ヲ一株百三十八圓三十錢賣レノ注文ヲ爲シタルトコロ被告ハ擅ニ之ヲ逆用シ百三十八圓三十錢ニテ買付ヲ爲シ豫テ原告カ百三十六圓二十錢ニテ賣建シタル該株ヲ手仕舞シ依テ生シタル價值、手数料等合計金二十三圓六十五錢ノ差損金ヲ計上シ右(一)(二)ノ各差損金額ヲ彙ニ原告カ被告ニ差入置タル證據金中ヨリ差引キタルモノナリ、然レトモ右差損金ハ執レモ原告ノ注文意思ニ反シ被告ノ故意又ハ過失ニ基ク取引ノ結果生シタルモノニシテ原告ニ對シテハ歸責シ得ス、之ヲ證據金ヨリ差引キ得サルモノナリ、仍テ右差損金相當額ノ證據金ノ返還ヲ求ムル爲義務履行地タル原告ノ現時ノ住所地ヲ管轄スル當裁判所ニ本訴ニ及ヒタル旨陳述シ被告ノ抗辯ヲ争ヒ立證トシテ甲第一乃至四號證同第五、六號證ノ各一、二ヲ提出シ乙第一乃至三號證ハ執レモ不知、同第四號證ノ一、二同第五號證乃至八號證ハ執レモ成立ヲ認メタリ 被告ハ本件第一回口頭辯論期日ヨリ出頭セサルモ當裁判所カ陳述シタルモ

義務履行地特定ノ商慣習ト裁判籍

ノト看做シタル答辯書並準備書面ニ基キ本案前ノ答辯トシテ主文同旨ノ決定ヲ求メ其ノ原因トシテ本件被告ハ原告主張ノ如ク大阪株式取引所一般取引員ナルトコロ大阪株式取引所市場ニ於テハ取引員ト委託者間ノ受託契約ニ付テハ取引員組合制定ノ準則アリ、之ニ基キオルモノナルトコロ該準則ニ依レハ(一)取引員ト委託者トノ間ニ於テ委託買賣ノ關係ヨリ生スル金銭又ハ物件ノ授受ハ取引員ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スモノトスル旨及ヒ(二)取引員ト委託者間ニ於ケル取引ニ關スル一切ノ訴訟ハ大阪市ヲ管轄スル裁判所ニ依ルモノトスル旨ノ規定存シ本件當事者間ニ於テモ大阪區裁判所ヲ以テ合意管轄裁判所ト爲ス合意アリタルモノナリ、假ニ然ラストスルモ大阪株式取引所市場ニ於テハ前示準則(一)ノ規定同旨ノ義務履行地特定ノ商慣習行ハレオルモノナルヲ以テ原告住所所地ハ義務履行地ニ非ス、從テ以上孰レヨリスルモ當裁判所ヲ義務履行地管轄裁判所トスル本訴ハ失當ナル旨抗爭シ立證トシテ乙第一乃至三號證同第四號證ノ一、二同第五乃至八號證ヲ提出シタリ 當裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定人中村幹ヲ訊問シタリ 仍テ先ス被告主張ノ合意管轄ノ點ニ付按スルニ蓋シ管轄ノ合意ハ訴訟法上ノ要式行爲ニシテ書面ニ依ルヲ要スルトコロ被告提出ノ全立證ヲ以テスルモ未タ本件當事者間ニ管轄合意アリタル事實ヲ認ムルニ足ラス 次テ義務履行地特定ノ商慣習ノ點ニ付考察スルニ鑑定人中村幹ノ鑑定ノ結果ニ依レハ凡ソ大阪株式取引所市場ニ於テハ一般取引員ト委託者トノ間ニ於ケル委託買賣契約ノ關係ヨリ生スル金銭並物件ノ授受ハ取引員ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スヘキ義務履行地特定ノ商慣習ノ存スルコトヲ肯認スルニ足ルトコロ特段ノ事由ナキ限り本件當事者間ノ取引ニ於テモ右慣習ニ依リタルモノト解スルヲ妥當トスヘキ右認定ヲ得クヘキ證據ナシ 果シテ然ラハ當裁判所ニハ本件ノ管轄權ナク却テ本件ハ記錄上明カナル被告營業所所在地大阪市ヲ管轄スル大阪區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト謂フヘキモノトス 仍テ民事訴訟法第三十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス(昭和十五年八月四二號「損害賠償請求訴訟事件」同一六、七、二決定)

委託契約ノ成立及不存
立及前提ト
スル二個ノ
事實ヲ原因
トセル訴訟

大阪地 相手方カ契約ノ趣旨ニ從ヒ自己ノ委託セル取引ヲ爲シタリトシ之カ計算ヲ求ムルハ即チ委託契約ノ存立ヲ前提トスルモノナルモ相手方ノ不履行ヲ事由トシ契約ヲ解除シタル結果ニ基キ相手方ニ對シ請求スルハ即チ委託契約ノ不存立ヲ前提トスルモノニシテ彼ト之トハ全然兩立スヘカラサル事實ニ屬スルカ故ニ此兩事實ヲ原因トセル訴訟ハ一定ノ原因ヲ缺如セル不適法ノ訴ナリ

(判決理由)原告ハ本訴請求原因トシテ原告ノ委託セル株式ノ買建ハ被告ニ於テ之ヲ取引所市場ニ於テ取引セサルヲ以テ委託契約ヲ解除シ本訴請求ニ及フ旨主張シナカラ更ニ假設ノ事實ヲ原因トシテ原告委託ノ買建ハ被告ニ於テ履行シタリトスルモ原告カ委託セル買建及轉賣ノ結果其損益ノ計算上生スル損失ヲ原告交付ノ證據金並ニ之カ代用有價證券ノ換價金ヲ以テ補填スルモ殘額アルヲ以テ之カ拂渡ヲ求ムル旨主張シ原告ハ第一ノ原因ニシテ裁判所ノ容ルル處トナラサランカ更ニ第二ノ事實ニ依リ訴求ノ目的ヲ達セントスルモノナルモ相手方自己トノ契約趣旨ニ從ヒ自己ノ委託セル取引ヲ爲シタリトシ之カ計算ヲ求ムルハ之委託契約ノ存立ヲ前提トスルモノナルモ相手方ノ不履行ヲ事由トシ契約ヲ解除シタル結果ニ基キ相手方ニ對シ請求スルハ之委託契約ノ存在セザルコトヲ前提トスルモノニシテ彼ト此トハ全然兩立スヘカラサル事實ニ屬シ而モ原告ハ本訴ニ於テ一個ノ目的ニ對シ右二個ノ相容レサル事實ヲ原因トシテ主張セルモノナルヲ以テ本訴ハ訴ノ要件タル一定ノ原因ヲ缺如セルモノト云ハサルヘカラス 依テ本訴ハ不適法トシテ却下スヘキモノナリトス(證據金及株式返還請求並ニ反訴請求事件「明治四一、九、一九民三判決」新聞五三〇號一八)

委託註文ノ履行ニ關スル事實上ノ申述ノ補充ノ變更ノ原因

大阪地 原告カ最初ノ口頭辯論ニ於テ被告ニ對シ株式定期賣買ノ委託ヲ爲シ之ヲ轉賣セシメタルコトヲ主張シタルモ被告カ其轉賣ノ委託ヲ履行シタリヤ否ヤカ明確ナラサリシ場合ニ其後ノ口頭辯論ニ於テ右轉賣ノ委託ヲ履行セザルニ依リ之ニ代ルヘキ損害賠償ヲ求ムト主張シタルハ單ニ事實上ノ申述ヲ補充シタルニ止マリ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

(判決理由)原因變更ノ抗辯ニ付按スルニ原告カ本件最初ノ口頭辯論ニ於テ陳述シタル訴狀記載ニヨレハ原告ハ被告ニ對シ原告主張ノ如キ株式定期賣買ノ買建ノ委託ヲ爲シ大正五年九月二十七日被告ヲシテ之ヲ原告主張ノ如ク轉賣セシメタリト謂フニ在リテ被告カ此轉賣ノ委託ヲ履行シタリヤ否ヤカ明確ナラサリシモノトス 故ニ原告カ大正六年一月二十六日ノ口頭辯論ニ於テ被告ハ右轉賣ノ委託ヲ履行セザルニ依リ茲ニ履行ニ代ルヘキ損害賠償ヲ求ムト主張シタルハ單ニ事實上ノ申述ヲ補充シタルニ止マリ毫モ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニアラスト認ムルヲ相當トス 尤モ原告ハ初メ被告ヲシテ右建株ヲ原告主張ノ如ク轉賣セシメタル結果原告主張ノ如キ利益金ヲ生シタルニ依リ之カ支拂ヲ求ムト主張シタルコトハ明白ナルモ右ハ被告カ原告ノ委託ヲ履行シタリシナランニハ原告ノ得可リシ利益カ原告主張ノ金額ナリトノ計算ノ基礎ヲ示シタルモノト認ムルニ妨ナキヲ以テ被告ノ抗辯ハ其當ヲ得ス(大正五年ワ八〇七號「定期株賣買計算金支拂請求事件」同六、五、一四民三判決「新聞一三三三號二九、判例二卷民一三〇三」)

單位異ニ
スル定期米
取引ト同一
物ノ同一性

大阪地 定期米取引ハ當事者限月石數及單價等ニ依リテ共同一性ヲ確定スヘキモノニシテ假令當事者及限月石數ヲ同シクスルモ其單價ヲ異ニスル定期米取引ハ之ヲ同一ノ取引ナリト謂フヲ得ス從テ前訴ノ取引ト後訴ノ取引カ單價ヲ異ニスルトキハ其訴訟物ハ同一ニ非サルヲ以テ一事不再理ノ

抗辯ハ理由ナシ

(判決理由) 控訴人ハ曩ニ當裁判所ニ於テ被控訴人ニ對シ他ノ取引ト共ニ本件取引ヲ主張シ前示買建ノ價額ヲ一石金十三圓五十錢ト主張シテ其部分ニ對シ敗訴ノ判決ヲ受ケ右判決ハ確定シタレトモ右買建價格ヲ一石金十三圓五十錢ト主張シタルハ一石金十五圓三十錢ノ誤謬ナルヲ以テ更ニ本訴ニ及ヒタリト謂フニ在リテ被控訴代理人ハ之ニ對シテ一事不再理ノ抗辯ヲ提出シタルヲ以テ此點ニ付審究スルニ凡ソ定期米取引ハ當事者限月石數及單價等ニ依リテ其同一性ヲ確定スヘキモノナルコトハ明白ナルヲ以テ假令當事者及限月石數ヲ同フスルモ其單價ヲ異ニスル定期米取引ハ之ヲ同一ノ取引ナリト謂フヲ得ス 今本件ニ於テ控訴人ノ主張ニ依レハ控訴人ハ前訴ニ於テ本件單價金十五圓三十錢ノ取引ヲ主張セントシテ誤ツテ單價金十三圓五十錢ノ取引ヲ主張シタルモノニシテ右金十三圓五十錢ノ取引タルヤ全ク虛無ノ取引ニ屬シ控訴人ノ主張セントスル金十五圓三十錢ノ現實ノ取引ト單價ヲ異ニシ同一ノ取引ト認ムヘキモノニ非サルコト論ヲ俟タス 果シテ然ラハ本訴ノ訴訟物ハ前訴ノ訴訟物ト同一ニアラサルヲ以テ被控訴人ノ一事不再理ノ抗辯ハ理由ナシ(大正七年レ二三六號「定期米賣買損失金及手数料請求控訴事件」民三判決一判例四卷民一四〇)

大阪地 債權者タル委託者カ債務者タル仲買人ニ代位シテ仲買人カ取引所ニ於テ爲シタル取引行爲ノ無効確認ヲ求ムト雖モ確認判決ノ目的ハ唯權利關係ノ存在不存在ヲ確定スルニ止マリ權利行使ニヨリテ現實ノ財産ニ實現セラルルコトナク之カ爲メ債務者ニ何等ノ財産權ヲ回復スルモノニアラサルヲ以テ代位權行使ノ範圍ニ屬セサルモノトス

(判決理由) 請求ノ當否ニ付テ案スルニ本件原告ノ主張ニ依レハ原告(委託者)ハ被告取引所仲買人村上讚十郎及藤岡幸一郎ニ對スル債權者ナルヲ以テ右仲買人兩名ニ代位シ兩名カ被告取引所ニ於テ爲シタル取引行爲ノ無効確認ヲ求ムルト言フニ在リ 然レトモ凡ソ代位權ハ債權者カ債務者ニ屬スル權利ヲ行使スルニ因リテ債權者ノ有スル債權ノ辯濟ヲ保全スルニ適切ナル場合ニ限リ之ヲ行使シ得ヘキモノニシテ債權者ニ財産上ノ満足ヲ得セシムルヲ目的トスルコトハ民法第四百二十三條ノ規定ノ解釋上疑ヲ容レサル所ナリトス 然ルニ本件ニ於テ原告カ其請求スルカ如ク右取引ノ無効ノ確認判決ヲ得タリトスルモ原告ハ之ニ依リテ直チニ自己ノ債權ノ辯濟ヲ保全シ依テ適切ニ財産上ノ満足ヲ得タリト爲スコトヲ得ス 何トナレハ確認判決ノ目的ハ唯權利關係ノ存在不存在ヲ確定スルニ止マリ權利行使ニヨリテ現實ノ財産ニ實現セラルルコトナキヲ以テ之カ爲メ債務者ニ何等ノ財産權ヲ回復シタルモノニアラサレハナリ 然ラハ本件請求ハ既ニ其主張自體ニ於テ失當ナルヲ以テ爾餘ノ爭點ノ判斷ヲ須ヒス原告ノ請求ヲ排斥スヘキモノトス(大正七年ワ一二七六號「賣買契約無効確認請求事件」同八、六、九民三判決一新聞一五八七號一九)

定期賣買無効確認ノ訴ニ於ケル被告

大審院 取引所ニ於ケル定期賣買ノ無効ヲ主張スル消極的確認ノ訴ニ於テハ取引所ハ其ノ被告トシテハ適格ヲ有スルモノニ非ス(判例集要目)

(事實) 本訴ノ要旨ハ被告(被控訴人、被告)取引所ノ仲買人村上讚十郎、藤岡幸一郎ハ原告(控訴人、原告)ノ委託ニ基キ同取引所ニ於テ定期米ノ賣建ヲ爲シタルカ其ノ後讚十郎外一名ハ右賣建ノ相手方タル仲買人ト協議ノ上違法ナル方法ニ據リ買戻處分ヲ爲シタリ 仍テ讚十郎外一名ニ對シ債權ヲ有スル原告人ハ代位權ニ基キ被告上告人タル取引所ニ對シ前記買戻處分無効確認ノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ原告人ノ讚十郎外一名ニ對シテ有スル債權ハ兩名ニ對シ各別ニ爲シタル定期米賣買委託ニ因リ生シタルモノナリ 讚十郎ニ對スル債權ハ八十七萬七千二百圓八十錢幸一郎ニ對スル債權ハ三十七萬六百七十六圓六十錢ナリト陳述シ被告上告人ハ原告人ノ主張スル買戻處分ハ違法ナルモノニ非ス、本訴請求ハ原告人ニ何等利益ナキヲ以テ不適法トシテ訴ヲ却下セラルヘキモノナリ、本訴請求ハ代位權ニ基クモノナルカ故ニ債權者ハ債務者ニ屬スル債務ノ辯濟ヲ確保スルニ足ル權利ヲ行使シ得ルニ過キサルモノトス、然ルニ本訴請求ハ之ニ該當セサルモノトス、又本訴請求ニ係ル權利行使ハ債務者タル仲買人ノ資力ヲ減少スルノ結果ヲ生スルモノトス、從テ何レノ點ヨリモ本訴請求ハ失當ナリト抗辯シタリ 原院ハ本訴ハ假令利益ナシトスルモ不適法ナルモノニ非ス、被告取引所ノ仲買人村上讚十郎、藤岡幸一郎ハ各自其ノ取引所市場ニ於テ原告人主張ノ如ク定期米ノ賣建ヲ爲シ其ノ後大正七年十一月二十六日其ノ取引所市場ニ於テ之カ買戻處分ヲ爲シタルモ其ノ買戻處分ハ取引所法ニ違反シタルモノニ非ス、又虛偽ノ意思表示ニ非ス、從テ無効ニ非ス、故ニ原告人カ右兩名ニ代位シテ此ノ賣買ノ無効確認ヲ求ムル本訴ハ失當ナリト判斷シテ原告人ノ本訴請求ヲ棄却シタリ

(判決理由) 甲カ乙ニ對シ或權利ヲ有スト主張スルニ當リ乙ハ此ノ主張ヲ争フモノトセムカ乙ハ甲カ自己ニ對シ訴ヲ提起シ來ルヲ俟テ専ラ防禦者ノ地位ニ立チテ原告敗訴ノ判決ヲ得以テ權利ノ保護ヲ計ルヲ得ヘキハ論ナシト雖尙乙ハ自ら進ンテ攻撃者ノ地位ニ立チテ權利ノ保護ヲ求ムルヲ得ヘシ 消極的確認ノ訴ナルモノ即是ナリ 故ニ此ノ訴ハ義務者ナリト稱セラルル者カ原告トナリ權利者ナリト稱スル者ヲ被告トシテ提起スヘキモノナルコト多言ヲ俟タス 今夫米穀取引所ナルモノハ之ヲ定期賣買ノ側ヨリ觀レハ單ニ仲買人カ相互間ニ賣買ヲ締結スル場所ト云フ意味ヲ有スルニ止マリ固ヨリ賣買ノ當事者ニハ非ス 賣買契約上ノ權利義務自體ニハ何等其ノ衝ニ立ツトコロナシ

從テ被告上告人ノ經營ニ係ル取引所ニ於テ仲買人間ニ締結セラレタル定期賣買ニ關シ其ノ賣買無効ト云フ消極的確認ノ本訴ヲ上告人カ被告上告人ニ對シテ提起シタルハ斯ル訴ノ原告タリ被告タル適格ヲ有セサル者ヲ當事者ト爲シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ本訴ハ之ヲ排斥スルニ餘有リ 但若上告人主張ノ當該賣買カ無効ナル爲延テ上告人ト被告人間ニ或權利關係ヲ及ホス場合ナラハ上告人ハ此ノ權利上ノ關係ヲ訴訟物トスル訴ヲ被告上告人ニ對シテ提起シ其ノ請求原因トシテ前記賣買ノ無効ナルコトヲ主張スルヲ得ヘキハ勿論ナリ 而モ斯ル場合ト雖モ豫メ他日ノ地ヲ成スカ爲先ツ此ノ前提ノ問題ニ付訴ヲ提起スルカ如キハソレ自身獨立ノ訴タル要件ヲ具備セサル限り之ヲ許スヘキモノニ非ス 何者前提問題タルノ故ヲ以テ之ニ關シ當然獨立ノ訴ヲ提起スルヲ得ルモノトセハ終ニ事端ノ繁キニ勝ヘサルニ至ルヘケレハナリ 要之本訴ハソレ自體之ヲ排斥スヘキ理由アリ 結局上告人ハ之ヲ是認スルヲ得サルニ歸ス (大正一年オ一六一六號「賣買契約無効確認請求事件」同一二、二、二七民一判決「民集二卷八五、彙報三四卷上民四五四、新聞二二〇號二一、評論二二卷民訴五四)

松本森治博士 判旨正當デアル 但判決ガ取引所ヲ以テ「單ニ仲買人カ相互間ニ賣買ヲ締結スル場所ト云フ意味ヲ有スルニ止マリ」ト謂ヘルハ聊カ語弊ガアル 取引所ハ取引所ニ於テスル取引ヲ管理シ之ヲ記帳シ違約ノ場合ニ賠償ノ責ヲ有スルモノデアルカラデアル (判例民事法大正二二年度六九、私法論文集續編五〇九)

第六節 取引所取引ノ委託ト課税

定期米賣買
ニ因ル所得
ト爲スル所得
法第五條第
四號

行政裁 投機事業ニ屬スル收入年額ト雖モ諸般既知ノ事實ニ依リ之ヲ豫算シ得サルモノニ非ス
數年間反覆繼續シテ行ヒタル定期米賣買ニ因ル所得ハ營利ノ事業ニ屬スル所得ニシテ所得税法第五條第四號ニ該當セス—判決錄要旨

(判決理由) 投機事業ニ屬スル收入年額ト雖モ諸般既知ノ事實ニ依リ之ヲ豫算シ得サルモノニ非サルヲ以テ原告カ定期米賣買ニ因ル所得ハ收入年額ヲ豫算シ得ス、從テ所得稅賦課ノ目的ト爲スコトヲ得スト爲ス主張ハ其理由ナシ且原告カ數年前ヨリ定期米賣買ヲ爲シ大正七年一月ヨリ同年八月五日迄ノ間ニ於テハ原告自己ノ名義ヲ以テ爲シタ

定期米賣買
ニ因ル所得
ト爲スル所得
法第五條第
五號

ル買立口數四百二十口仕切口數五百三十三口アリタルコトハ原告亦認ムル所ナレハ原告ハ商行爲ヲ反覆繼續シテ行ヒタルモノニシテ該行爲ヨリ生スル所得ハ營利ノ事業ニ屬スル所得ナリト謂ハサルヲ得ス 從テ該所得ハ所得税法第五條第四號ニ該當セス 然レハ本件定期米賣買ニ因ル所得ヲ以テ營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ナリトシ之ニ對シテハ所得稅ヲ賦課スヘキモノニ非スト爲ス原告ノ主張亦其ノ理由ナシ (大正八年三九號「所得金額及戰時利得金額決定不服ノ訴」同一、二六第一部判決「行政錄大正八年一〇〇九、彙報三三卷上行政七七、新聞一六三五號二一)

行政裁 投機事業ニ因ル收入年額ト雖モ諸般既知ノ事實ニ依リ之ヲ豫算シ得サルモノニアラス
數年來反覆繼續シテ行ヒタル定期米賣買ニ因ル所得ハ營利ノ事業ニ屬スル所得ニシテ所得税法第十

八條第五號ニ該當セス—判決錄要旨

(判決理由) 投機事業ニ因ル收入年額ト雖諸般既知ノ事實ニ依リ之ヲ豫算シ得サルモノニ非サルヲ以テ定期米賣買ニ因ル利益ノ如キハ今日アリテ明日ヲ計ルヘカラサルモノナルカ故ニ所得稅賦課ノ目的ト爲スコトヲ得スト爲ス原告ノ主張ハ理由ナシ 次ニ仲買人ニ非サル者カ取引所ニ於テ取引ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ナレトモ仲買人ヲ通シテ取引ヲ爲スハ毫モ妨ケナキヲ以テ原告カ仲買人ヲ經テ取引ヲ爲シ所得稅ヲ課スヘキ所得アルトキハ之ヲ課稅ノ目的トスルモ違法ニ非ス 次ニ取引所稅法ニ依リ仲買人ニ課スルモノハ取引稅ニシテ所得稅ニ非サルハ勿論仲買人ノ所得ニ客ノ計算ニ屬スル利益金ヲ算入スルコトナシ 從テ既ニ仲買人ニ對シ課稅シタル後客ニ對シ更ニ課稅スルハ二重課稅ナリト爲ス原告ノ主張モ亦理由ナシ 終リニ定期米賣買ナル商行爲ヲ反覆シテ爲シタルトキハ該行爲ヨリ生スル所得ハ營利ノ事業ニ屬スル所得ニシテ所得税法第十八條第五號ノ所得ニ該當セサルモノナリ 而シテ原告カ大正八年以來自己ノ名ニ於テ又ハ人見義明ノ名ヲ借り原告ノ計算ニ於テ反覆繼續シテ定期米ノ賣買ヲ爲シ居ルコトハ證人平松靜一ノ證言及乙第一號證乙第二號證乙第三號證一乃至三乙第四號證ヲ綜合シテ之ヲ認ムルニ十分ナリ 然レハ定期米賣買ニ因ル所得ヲ所得税法第十八條第五號ニ所謂營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ナリト爲ス原告ノ主張並人見義明名義ノ定期米賣買ニ因ル所得ヲモ加算決定シタルハ不當ナリト爲ス原告ノ主張ハ其ニ理由ナシ 而シテ所得金額中定期米賣買ニ因ラサル所得一萬八千八百八十五圓ニ付テハ當事者間ニ爭ナク定期米賣買ニ因ル收入豫

算金額ニ付テハ原告ニ於テ之ヲ過當ナリト主張スレトモ其ノ主張ヲ是認スルニ足ル證據ナキヲ以テ被告ノ算定シタル七萬五千圓ヲ正當ト爲ササルヲ得ス(大正一二年一九號「所得金額決定不服ノ訴」同一二、七、二七第一部判決「行政録大正一二年八六八、新聞二一七〇號一八、評論一三卷諸四五」)

行政裁 米穀取引所ニ於ケル定期賣買ハ通例轉賣買戻ニ依リテ決濟シ現物ヲ授受スルノ意思ヲ以テ行ハルルモノニアラス—判決錄要旨

(判決理由) 當事者間ニ爭ナキ甲第一號證ノ一乃至三十ニ依レハ株式會社東京米穀取引所ニ於ケル賣買高ノ大部分ハ轉賣買戻ノ方法ニ依リテ決濟セラレ現物ノ受渡ハ非常ノ少量ナルコト明カナルト證人米穀取引所仲買谷崎久兵衛ノ「正米取引ニ付テハ買附ノ委託ヲ爲ス者ハ買附ケタル正米ヲ直ニ引取ラスシテ將來相場ノ出ツルトキニ利益ヲ得ントノ考ヨリ轉賣シテ差額ヲ利セントスルノ意思アルヲ常トス(下略)」トノ證言及證人米商仲買業阪上平次郎ノ「一體定期取引ニテハ轉賣買戻ヲシテ差金ヲ利スルコトヲ目的トスルモノニシテ現物ヲ引取ルカ如キハ苦シ紛レニ爲スモノナレハナリ」トノ證言トニ依リテ見レハ株式會社東京米穀取引所ニ於ケル定期賣買ハ轉賣買戻ニ依リテ決濟シ現物ヲ授受スルノ意思ヲ以テ行ハルルモノニ非サルヲ常例ト認ムヘク原告ノ定期取引ニ於ケル買附ハ此常例ト異ナルヲ認ムヘキ徵憑ナキ限リハ亦常例ノ如ク現物引取ノ意思ヲ以テ爲シタルモノト認ムヘキニ非ス 而シテ乙號證ニ依ルモ原告カ其受米ヲ全部澁澤商店外ニケ所ニ委託販賣シタルコト明カニシテ其ノ以外ニ受米ヲ處理スル設備ナク定期米ノ買附ヲ爲シタルハ現物引取ノ意思ヲ以テ爲シタルモノナリト認ムヘキ何等ノ徵憑ノ認ムヘキモノ存セサルヲ以テ明治四十年ニ於テ原告カ毎月(九月限ヲ除ク)受米ヲ爲シ委託販賣ヲ爲シタルハ畢竟自己ノ當初ノ意思ニ反シ受米ヲ爲ササルヲ得サルノ境遇ニ陥リタルノ結果之ヲ處分スルカ爲メニ已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ米穀販賣ヲ營業トシテ爲シタルヲ認メサルコト相當ニシテ被告(東京稅務監督局長菅野盛次郎)カ原告ノ委託販賣ヲ以テ營業稅法ニ該當スル營業ヲ營ムモノナリト認メ物品販賣業トシテ營業稅課稅標準額ノ算定ヲ爲シタルハ相當ニアラス(明治四一年一七七號「營業稅課稅標準額違法決定取消請求ノ訴」同四四、二、二〇第三部判決「行政録明治四四年五八、彙報二二卷行政二二四、新聞七一九號二八」)

定期取引受
米ノ委託販
賣ト所得稅

行政裁 米穀販賣力營業トシテ爲サルルニ非スシテ定期取引ノ結果引取リタル現物ヲ處分スルニ在ルトキハ之ニ因リテ偶繼續的ニ所得ヲ得タル事實アリトスルモ所得稅法第五條第五號ニ該當スルモノトス

(判決理由) 本件所爭ノ要點ハ原告ノ第三種所得金額ヲ決定スルニ當リ原告ノ米穀販賣ニ依ル所得金ヲ豫算シ計算スヘキヤ否ヤニアリトス 按スルニ原告ノ米穀販賣力收益ノ目的ヲ以テ爲サルルモノニアラスシテ原告カ定期取引ノ結果トシテ引取リタル現物ヲ處分スルカ爲メニ外ナラサルハ甲第一號證即原告ト被告(東京稅務監督局長菅野盛次郎)トノ間ニ於ケル營業稅課稅ニ關スル當裁判所ノ明治四十一年第七十七號事件判決理由ニ「明治四十年ニ於テ原告カ毎月(九月限ヲ除ク)受米ヲ爲シ委託販賣ヲ爲シタルハ畢竟自己ノ當初ノ意思ニ反シ受米ヲ爲ササルヲ得サルノ境遇ニ陥リタルノ結果之ヲ處分スルカ爲メニ已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ米穀販賣ヲ營業トシテ爲シタルヲ認メサルコト相當ニシテ」トアルニ依リテ明カナリトス 然レハ原告カ本件米穀販賣ニ依リテ繼續的ニ收入ヲ得ルモ是ニ依リテ所得ヲ得ントスルカ如キハ全然豫期セサル所ニシテ假令是ニ依リテ所得ヲ得タルノ事實アリトスルモ其所得タルヤ臨時偶發的性質ノモノニ外ナラス 故ニ原告ノ米穀販賣ニ依ル所得ハ所得稅法第五條第五號ニ所謂營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ニ該當スルモノトシテ原告ノ第三種所得金額決定ニ當リ除算スヘキモノトス 然ルニ被告ハ之ヲ加算シテ原告ノ所得金額ヲ決定シタルモノナルカ故ニ其決定金額ヨリ被告カ米穀販賣ニ依ル所得ナリト豫算セル金額ヲ控除シ注文ノ如ク判決ス(明治四二年五八號「所得金額違法決定取消請求ノ訴」同四四、四、二六第三部判決「行政録明治四四年三八四、新聞七三三號二九」)

第七節 仲裁契約

施第二十三條 左ノ場合ニ於テハ取引所ハ遲滯ナク其ノ事項ヲ商工大臣ニ報告スヘシ(改正—大正一一、七)

七 仲裁判斷ヲ爲シタルトキ(舊規定—大正三、六一七 仲買人ノ委託手数料ヲ定メタルトキ)

舊施第五條(明治二六、七) 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ

仲裁ニ關ス
ル法規

十六 仲裁ニ關スル事項
舊第五條（明治三二、七）取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
十六 仲裁ニ關スル事項

大阪地 注文主ト仲買人トノ間ニ授受セル通帳ニ「此委託賣買取引關係ヨリ委託者ト當店トノ間ニ紛争ヲ生シタルトキハ仲裁ハ必ス當取引所ニ規定スル仲裁委員ノ判斷ヲ求ムヘシ 其紛争ノ原因及ヒ事實如何ヲ問ハス總テ裁判所ノ判定ヲ乞ハサルモノトス」トノ規約ハ仲裁契約トシテ有効ナリ民事訴訟法第七百八十七條ハ仲裁契約ノ目的タル權利關係又ハ其關係ヨリ生スル争ハ仲裁契約ニ於テ一定スレハ足り必スシモ契約當時ニ現ニ成立スルヲ要セサルモノナリ

（判決理由）乙第一號證ハ原告（仲買人）ヨリ被告（委託者）ニ交付シタル定期賣買米通帳ナルコト竝ニ同號證ニ委託賣買取引規定ト題シ其末項ニ於テ「此委託賣買米取引關係ヨリ委託者ト當店トノ間ニ紛争ヲ生シタルトキハ仲裁ハ必ス當取引所定款ニ規定スル仲裁委員ノ判斷ヲ求ムヘシ 其紛争ノ原因及ヒ事實ノ如何ヲ問ハス總テ裁判所ノ判定ヲ乞ハサルモノトス」ト記載シタルコトハ本件ニ於テ争ナキ所ナリトス 原告ハ右乙第一號證ニ記載セル委託賣買米取扱規定ハ本件當事者ヲ羈束スルモノニアラスト主張スルニ依リ先ツ之ヲ案スルニ乙第一號證ハ原告ヨリ被告ニ交付シタル通帳ニシテ原告ハ之ヲ授受スルニ當リ特ニ同號證ニ記載セル右條項ニ依據シ定期米ノ取引ヨリ生スル法律關係ヲ定ムヘキ明示ノ意思表示ヲ爲シタルコトハ本件ニ於テ之ヲ認メ難シト雖モ同號證ノ内容ヲ觀ルニ委託賣買米取扱規定ト題シ前記掲出ノ條項以外ニ六個ノ條項ヲ設ケ第一項ニ於テ定期賣買ノ委託者ハ株式會社大阪堂島米穀取引所ノ定款及ヒ營業細則賣買米取扱規則等ノ規定中賣買委託者ト仲買人トノ取引ニ必要ナル條項ハ總テ之ヲ遵守スル旨規定シ第二項ニ於テ指定値段ニ依ル注文ハ原告ノ都合ニ依リ其注文高ノ幾分ヲ減シ又全部ノ賣買ヲ爲シ能ハサルコトアルヘキコト第三項ニ於テ注文ノ全部又ハ一部ヲ他店ニ注文スルコト第四項ニ於テ賣買米ノ解合ノコト第五項ニ於テ取引所計算ノ際ニ於ケル關係書類ノコト第六項ニ於テ仲買人ヨリ發スル案内催告及通知等ノコトニ關シ仲買人カ客ヨリ注文ヲ受ケ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スニ當リ仲買人ト客トノ權利關係ヲ定ムルニ必要ナル事項ヲ規定シアリ 右ハ何レモ印刷セルモノナリト雖モ前記條項ノ趣旨ヲ推究シ且乙第一號證通帳ノ態様ヲ參照スルトキハ原告ハ客ヨリ賣買ノ注文ヲ受ケルニ當リ豫メ前記ノ如キ條項ヲ定メ之ニ依リ客トノ取引ニ付キ權利義務ヲ定メントスル意思ノ存在ヲ認ムルニ難カラズ 而シテ更ニ乙第一號證ヲ觀ルニ前記條項ヲ記載セル其前文ニ於

テ宇津呂三十郎トシテ被告ノ氏名ヲ表示シ原告ノ署名捺印ヲ爲シ附込期限ヲ記入シ且收入印紙ヲ貼付シタルヲ以テ斯ル態様ニ於テ乙第一號證ヲ被告ニ交付シ被告ハ之ヲ受領シ且本件取引ヲ同號證ニ記載シタル以上ハ本件原告被告間ニ於テ本訴ノ取引ニ關シ前示條項ニ付合意ヲ爲シタルモノト推認スルヲ得ヘシ 原告ハ乙第一號證ノ前示條項カ契約トシテ當事者ヲ羈束セントスルニハ該條項ノ末段ニ於テ記載スヘク設ケラレタル場所ニ原告ハ被告ニ宛テ署名捺印シ又被告ヨリ之ヲ承諾スル書面ヲ徵スル定メトナリ居ル旨主張スレトモ斯ル手續ヲ踐ムニアラサレハ契約ハ成立セサルモノナルコトハ之ヲ認メ難キノミナラス原告ハ前記ノ如キ記事及態様ノ帳簿ヲ授受シ且授受ニ當リ特ニ留保又ハ異議ヲ止メタルコトハ之ヲ認メ得サル以上ハ更ニ原告主張ノ場所ニ署名捺印シ又被告ノ承諾書ヲ徵セサルモ前記條項ノ契約成立セルモノト認ムルニ充分ナルカ故ニ前記ノ認定ハ強テ不當ニアラサルヘシ 依テ原告告ハ前示條項ニ羈束セララルモノト認ム 次ニ冒頭掲出ノ仲裁契約トシテ有効ナルヤ否ヤヲ審査スルニ乙第一號證ニ依レハ原告被告間ノ本件定期米ノ取引竝ニ證據金ノ授受ニ付テ記載シアリ 又前示條項ニハ「此委託賣買取引關係ヨリ委託者ト當店トノ間ニ於テ紛争ヲ生シタルトキハ仲裁ハ必ス當取引所定款ニ規定スル仲裁委員ノ判斷ヲ求ムヘシ 其紛争ノ原因及ヒ事實ノ如何ヲ問ハス總テ裁判所ノ判定ヲ乞ハサルモノトス」ト規定シタルヲ以テ之ニ依レハ原告被告ハ右定期米取引ニ付キ原告被告間ニ紛争ヲ生シタルトキハ其紛争ノ原因及ヒ事實ノ如何ヲ問ハス大阪堂島米穀取引所定款ヲ以テ規定セル仲裁委員ノ判定ヲ求メ裁判所ノ審理判斷ヲ乞ハサルニ在ルコト明ニシテ且乙第二號證株式會社大阪堂島米穀取引所定款第二百二十條ニ「取引所ニ仲裁委員ヲ常置シ賣買取引ニ關シ仲買人相互間又ハ仲買人注文主間ニ起リタル紛争ニ付キ双方ノ者ヨリ請求アリタルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ裁判セシム」ト規定シ右取引所ニ於テハ仲裁委員ヲ常置シ同委員ヲシテ民事訴訟法ノ規定ニ依リ仲裁判斷ヲ爲サシムルコト明カナルカ故ニ右條項ハ仲裁契約トシテ有効ナリト認ムルヲ相當トス 原告ハ右契約ハ明治四十四年十月一日若クハ其以前ニ成立シタルニ本件取引ハ同年十一月中ニシテ其時ハ未タ係争ノ原因タル權利關係カ成立セサルカ故ニ仲裁契約ハ無効ナリト言フモ乙第一號證ニ依レハ右仲裁契約ハ原告被告間ノ定期米取引ヨリ生スル争ニ付キ之ヲ約シタルコトハ洵ニ明カニシテ即チ一定ノ權利關係ヨリ生スル争ニ付キ仲裁契約ヲ爲シタルモノトス 原告ハ仲裁契約成立ノ當時ニ權利關係カ既ニ成立スルヲ要スルカ如ク主張スレトモ民事訴訟法第七百八十七條ノ趣旨ハ仲裁契約ノ目的タル權利關係又ハ其關係ヨリ生スル争ハ仲裁契約ニ於テ一定スレハ足り必スシモ契約ノ當時ニ現ニ成立スルヲ要セサルヲ以テ原告ノ此點ニ關スル主張ハ失當ナリ 然ラハ原告被告ハ本件紛争ヲ仲裁契約ノ趣旨ニ基キ前記仲裁委員ノ判定ヲ求ムヘク原告ハ司法裁判所ニ對シ之カ審理判斷ヲ求ムル權利ナキヲ以テ原告ノ本訴ハ之ヲ却下スヘキモノトス（明治四五年ワ一一一號「決算金請求事件」同四五、四、二〇民三判決―新聞七九〇號一九、評論一卷民訴六六）

基キ選舉セラレタル仲裁委員ノ裁定ニ服從シ司法裁判所ノ判定ヲ乞ハサル事ヲ合意ストノ文詞並ニ同號證ノ表面ノ裏面記載ノ規約事項ハ委託者ニ於テ承認シタルモノナル旨ノ文詞ハ孰モ印刷ニ付セラレタル凡例トモ認メ得ヘク從テ本件仲裁契約成立ノ證左ト爲スニ足ラサルノミナラス假ニ右契約アリタリトスルモ訴外坂田牧太郎(委託者)ト被告トノ間ニ於テノミ其効力ヲ保有シ坂田牧太郎ヨリ債權ノ讓渡ヲ受ケタリト主張スル原告ト被告トノ間ニ何等ノ拘束力ヲ生スルモノニアラサルカ故ニ被告ノ妨訴抗辯ハ到底之ヲ採用スルヲ得ス(大正五年ハ六一〇三號「證據金並ニ利益金請求事件」同六、四、三〇判決—新聞一二六八號二三、評論六卷民訴二〇三、判例二卷民六七六)

大阪控 仲裁契約ノ抗辯ハ妨訴抗辯ノ性質ヲ有シ本案ノ辯論前ニ提出スヘキモノナリ

(判決理由) 控訴人(仲買人)ハ當事者間ニ右定期取引ノ委任ト同時ニ之ヨリ生スル争ニ付キテハ先ツ仲裁判斷ヲ受クヘキ仲裁契約成立シタルヲ以テ直ニ司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘカラサル旨抗辯シテ如キ仲裁契約ノ本件委任ト同時ニ成立シタル事實ハ本件定期取引ノ委託ニ付控訴人ヨリ被控訴人(委託者)ヘ交付シタル通帳中ニ此仲裁契約ノ各項ヲ記載シタルコトノ争ナキ事實ニ徴シ明ナリト雖モ仲裁契約ノ抗辯ハ妨訴抗辯ノ性質ヲ有シ本案ノ辯論前ニ提出スヘキモノナルニ控訴人カ原審ニ於テ本案ノ辯論後ニ之ヲ提出シタルコトハ訴訟記録ニ徴シテ明ナリ 然ルニ此抗辯ハ有効ニ拋棄スルコトヲ得ヘキモノナルニ控訴人ノ過失ニ非スシテ本案辯論前ニ之ヲ主張スル能ハサリシコトノ疏明ナキカ故ニ控訴人カ本案ノ辯論後ニ主張シタル此抗辯ハ失當ナリ(大正八年ネ二〇號「株式定期賣買證據金返還請求控訴事件」同八、八、二九民三判決—新聞一六〇三號一五、評論八卷諸三二三)

* 上告審—大正八、一二、二五民二判決(次掲)

大審院 本案ニ付キ被告ノ口頭辯論始マリタル後ニ於テハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有効ニ拋棄シ得ヘキモノナル以上ハ被告ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ主張スル能ハサリシコトヲ疏明セサル限り之ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス 即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ハ疏明方法トシテ許サルヘキモノニ非サレハ新ニ證據調期日ヲ定メテ證人ヲ取調フヘキ申立ハ疏明方法トシテ許スヘカラサルモノトス—判決録要旨

(上告理由) 原判決ハ審理ヲ盡ササル違法ノ判決ナリ 蓋本件ニ於テ上告人ヨリ本定期取引ヨリ生スル争ニ付キテハ仲裁判斷ヲ受

仲裁契約ノ
基ク抗辯ノ
提出時期

仲裁契約ノ
基ク抗辯ノ
提出時期

クヘキ契約ノ存在スルコトヲ抗辯シタルニ對シ原院ハ右仲裁契約ノ存在ハ之ヲ承認シナカラ上告人カ第一審ニ於テ右抗辯ヲ提出シタルハ本案ノ辯論後ナルニ拘ラス其過失ニアラスシテ之ヲ本案辯論前ニ主張スル能ハサリシコトノ疏明ヲ爲サストノ理由ニ依リ之ヲ排斥セリ 然ルニ此點ニ對シテハ上告人ハ大正八年五月二十六日午前十時ノ口頭辯論ニ於テ證人黒川常治郎ノ訊問ヲ申出テ上告人カ第一審最初ノ口頭辯論ニ於テ仲裁契約ノ引用ヲ爲スコト能ハサリシニ付キ過失ナカリシコトヲ證セント試ミタルコトハ右證人訊問事項トシテ「那須仲買店ニテ使用スル取引通帳ニハ仲裁契約ノ規約ノ記載サレ居ルモノト記載サレ居ラサル分アルコトヲ知ルヤ」ト在ルニ依リテ明ナリ 然ルニ原院ハ此證據方法ハ之ヲ制限シ乍ラ猶且右抗辯ノ提出力時期ニ後レタルモノナリト爲シタルハ當事者ヲシテ證明ノ唯一ノ機會ヲ與ヘスシテ而モ其證明セント欲スル事實ヲ否定シタルモノニシテ即チ審理ヲ盡ササル違法ノ判決ナリト信ス 或ハ民事訴訟法第二百六條第三項ニハ「本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得」ト在リ 前記證人申請ノ如キハ疏明方法トシテハ許サルヘカラサルモノナリト辯スル者アラソモ本項ニ「疎明」ヲ要求シタルハ抗辯ノ時期ヲ失シタル理由ノミニ依リ絕對ニ抗辯權ヲ喪失セシムルハ苛酷ニ失ストノ主意ヨリシテ寧ロ抗辯權者ヲ寬大ニ遇セントノ主旨ヨリ生スルモノナルヲ以テ一應ノ證明ヲ以テ足レリト爲スニ在リ 證據ノ方法ヲ制限シタルモノトハ考フルコト能ハス 妨訴抗辯ノ提出ハ口頭辯論ニ於ケル手續ナルヲ以テ之ニ關シ通常ノ證據申出ヲ許ササルノ理ナシト信ス

(判決理由) 民事訴訟法第二百六條第三項ニ依レハ本案ニ付キ被告ノ口頭辯論始マリタル後ハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有効ニ拋棄シ得ヘキモノナル以上ハ被告ノ過失ニアラスシテ本案ノ辯論前ニ主張スル能ハサリシコトヲ疏明セサル限り之ヲ主張スルコトヲ得サルモノニシテ即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ハ疏明方法トシテハ許サルヘキモノニアラサルコトハ民事訴訟法第二百二十條ニ依リ明カナレハ新ニ證據調期日ヲ定メテ證人ヲ取調フヘキノ申立ハ疏明方法トシテ許スヘカラサルモノトス 上告人ハ原審ニ於テ仲裁判斷ヲ受クヘキ契約ノ存在スルコトノ妨訴抗辯ヲ過失ニアラスシテ本案ノ辯論前ニ提出スル能ハサリシコトヲ疏明スル爲メ證人黒川常次郎ノ喚問ノ申立ヲ爲シタルモノナレハ其中立ハ疏明方法トシテ許スヘカラサルモノニシテ原院力之ヲ却下シ過失ニアラスシテ本案ノ辯論前ニ主張シ能ハサリシコトノ疏明ヲ爲ササルノ故ヲ以テ上告人ノ妨訴抗辯ヲ排斥シタルハ相當ニシテ上告人所論ノ如キ不法アルコトナシ(大正八年オ八二七號「株式定期賣買證據金返還請求ノ件」同八、一二、二五民二判決—民錄二五輯二四〇四、彙報三一卷上民五八三)

* 原審—大阪控、大正八、八、二九民三判決(前掲)

廣島控 取引所法施行規則第五條ノ法意ハ仲買人相互間及仲買人ト賣買委託者間ノ紛議ヲ簡易迅速ニ解決セシムルカ爲メ取引所ノ定款中ニ仲裁判斷ニ關スル規則ヲ設クヘキコトヲ命シタルニ過キスシテ必スシモ上叙ノ紛議ニ付テハ仲裁判斷ヲ受ケサルヘカラサルコトヲ強制シタルモノト解スルヲ得ス。本件控訴人カ仲裁契約ニ基テ抗辯ヲ爲スニ先チ本案ノ辯論ヲ爲シタルコト洵ニ明瞭ニシテ而シテ本件無訴權ノ抗辯ハ有効ニ之ヲ拋棄シ得ルモノナル以上ハ右抗辯抗辯ハ之ヲ棄却セサルヘカラス。

(判決理由) 本件無訴權抗辯ノ基因タル仲裁契約ノ目的トナレル事項ハ東京司法裁判所ノ管轄ニ屬シ他ノ無訴權ノ場合ニ於ケル事件ノ如ク全然司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト其ノ類ヲ異ニセリト雖仲裁契約ノ存在ヲ理由トシテ司法裁判所ノ管轄ヲ拒否スル點ハ他ノ抗辯抗辯ト異ナル所ナキヲ以テ固ヨリ無訴權抗辯ノ一タルヲ失ハス。然レトモ仲裁契約ハ當事者ノ合意ニ因リテ成立シ事公益ニ關セス專ラ私人ノ利益ヲ保護スル制度ニ外ナラサレハ仲裁契約ノ目的タル事件ヲ司法裁判所ニ訴フルモ訴訟上ノ成立條件ニ何等缺クル所アルモノニアラサルヲ以テ當事者ノ一方ニ於テ仲裁契約ヲ無視シテ司法裁判所ニ出訴スルニ於テハ相手方ハ何時ニテモ契約ニ基キ仲裁判斷ヲ受ケルノ利益ヲ拋棄シテ有効ニ應訴スル事ヲ得ヘク他ノ無訴權抗辯ノ如ク當事者ノ有効ニ拋棄シ得サルモノナリト概論スルヲ得ス。控訴代理人ハ本件ノ仲裁契約ハ取引所法第九條同施行規則第五條ノ定ムル所ニ基因シテ締結シタルモノナレハ控訴人ニ於テ之ヲ拋棄スルヲ得スト主張スレトモ取引所法施行規則第五條ノ法意ハ仲買人相互間及仲買人ト賣買委託者間ノ紛議ヲ簡易迅速ニ解決セシムルカ爲メ取引所ノ定款中ニ仲裁判斷ニ關スル規則ヲ設クヘキコトヲ命シタルニ過キスシテ必スシモ上叙ノ紛議ニ付テハ仲裁判斷ヲ受ケサルヘカラサルコトヲ強制シタルモノト解スルヲ得ス。又乙第五號證ナル定款第百二十條(大阪堂島米穀取引所定款)ニ依ルモ紛議ニ付キ双方ノ者ヨリ請求アリタル時ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ裁斷セシムルコトアリテ當事者ニ對シ仲裁判斷ヲ受ケルコト否トノ自由ヲ保留セルコトヲ認メ得ヘク且取引所法第九條ニハ單ニ取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケヘキ旨ノ規定アルニ過キサレハ右法令定款等ハ仲裁判斷ヲ受ケルコト否トハ一ニ當事者ノ合意ニ任セ取テ之ヲ強制セサルモノト認ムヘキヲ以テ此點ニ關スル控訴代理人ノ主張ハ理由ナシ。更ニ進ンテ控訴人カ本件仲裁契約ニ基テ抗辯ヲ爲スニ先チ本案ノ辯論ヲ爲スルニ大正三年七月二十七日ノ原審第一回口頭辯論調書ニ依レハ被告代理人ハ抗辯抗辯トシテ當事者間ニ原告主張ノ如キ定期米賣買取引アリタリトスルモ本契約ノ義務履行地ハ大阪ナルヲ以テ本訴ハ不適法ナリト述ヘ本案ノ答辯トシテ別紙答辯書ノ通り一定ノ申立並事實ヲ陳述シタリトアリ。而シテ該調書ノ次葉ニ編綴セル同日付答辯書ニハ大阪ニ訴フヘキモノニシテ岡山ニ訴フヘキモノニ

非ストノ理由ヲ以テ訴ノ却下ヲ求ムル旨ヲ掲ケ其次ニ請求ノ却下及訴訟費用ヲ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムル旨ヲ掲ケ其事實トシテ被告ハ原告ヨリ定期米賣買取引ノ委託ヲ受ケタルコトナク從ツテ定期米賣買取引ノ原因トシタル本訴ハ不當ナリ、假リニ被告ハ原告ヨリ定期米賣買取引ノ委託ヲ受ケタルトスルモ原被告間ニ於ケル定期米賣買取引ニ關スル紛議ハ仲裁ニ任スヘキ特約アルヲ以テ直チニ出訴シ得ヘキニアラス、故ニ本訴ハ不當ナリ云々ト記載セリ。由是觀之仲裁契約ニ基テ抗辯ヲ爲スニ先チ本案ノ辯論ヲ爲シタルコト洵ニ明瞭ニシテ一點ノ疑ヒナク而シテ前段説明ノ如ク本件無訴權ノ抗辯ハ有効ニ之ヲ拋棄シ得ルモノナル以上ハ控訴人ノ右抗辯抗辯ハ之ヲ棄却セサルヘカラス。控訴代理人ハ先ツ取引所ノ主張シ次ニ無訴權ノ抗辯抗辯ヲ提出シタルハ已ムコトヲ得サル順序ニシテ控訴人ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ該抗辯ヲ提出シ得サリシコトハ各疏明書ニ據リ之ヲ疏明シテ餘リアリト主張スレトモ控訴人ハ先ツ無訴權ノ抗辯ヲ提出シ然ル後取引所爲シタルコトナキ旨ノ本案答辯ヲ爲シ得ヘク此順序ヲ採ルモ控訴人ノ本案答辯ニ付キ不利ノ結果ヲ惹起スヘキモノニ非サルヲ以テ原審ニ於テ控訴人ノ代理人カ此措置ニ出テサリシヲ目シテ已ムヲ得サル順序ナリト云フヲ得ス。且控訴代理人ノ疏明ニ據リテハ未タ以テ控訴人ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ無訴權ノ抗辯ヲ提出スルコト能ハサリシモノト認ムルヲ得サレハ他ノ爭點ニ對スル判斷ヲ俟タスシテ控訴人ノ無訴權抗辯ノ許容スヘカラサルコト明カナルヲ以テ原審カ之ヲ棄却シタルハ相當ニシテ本件控訴ハ其理由ナシ(大正四年第一二〇號 民事部判決一判例一卷民一三四)

* 明治三十二年七月農商務省令第十八號取引所法施行規則 第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ 十六 仲裁ニ關スル事項

大審院 被告力當事者間ノ定期米賣買取引ニ關スル紛議ニ付テハ某米穀取引所ノ仲裁判斷ニ任スヘキ契約アルコトヲ理由トシテ無訴權ノ抗辯抗辯ヲ爲シタルトキハ其抗辯事項ハ即チ契約ノ存否ニシテ裁判所ノ職權上審判ヲ爲スヘキモノニ非サレハ該抗辯抗辯ハ有効ニ拋棄スルコトヲ得ルモノト

ス一判決録要旨

(上告理由) 原判決ハ無訴權ノ抗辯ヲ有効ニ拋棄シ得ヘキモノト誤解シタル不法アリ。經濟市場ニ至大ノ關係ヲ有スル定期取引ノ取扱ハ法律ノ規定ニ基キ行政上ノ許可及ヒ認可ニ依リテ始メテ適法ノ行爲タル事ヲ得ヘク許可及ヒ認可ノ條件ニ反キタル行爲ハ禁制行爲トシテ制裁ヲ科シ其實行ヲ強制ス。本件甲第五號六號七號及之ヲ援用シタル乙第一號二號三號證ニ記載スル賣買米注文取扱約則第一條ニハ大阪堂島米穀取引所仲買人ニ於テ賣買米ノ注文ヲ受クルトキハ此約則ニ依リ取扱フヘキ旨ヲ規定シ其第十九條ニハ委託者ト仲買人間ノ紛議ハ仲裁判斷ニ付スヘク之ニ反キタルトキハ組合ニ於テ爾後一切取引ヲ拒絶スヘキ旨規定シアリ。此取扱約

則ハ私人ノ自由ニ處分シ得ヘキモノニアラスシテ取引所法第九條同施行細則第五條ニ依リ定款ニ仲裁判斷ノ方法ヲ設ケ政府ノ認可ヲ受クヘキ旨ヲ規定シ之ニ基ク定款第二百十條(乙第五號證)ハ仲買人ト客トノ紛議ハ仲裁判斷ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シテ此規定ニ基キ仲買人組合ハ前記取扱約則第十九條ヲ設ケ取引所ノ認可ヲ經テ畫一ニ之ヲ實行シ若シ之ニ違フトキハ組合取引ヨリ排斥セラレルノミナラス定款第五十六條(追加乙第五號證)ニ依リ營業停止若ハ除名ノ制裁ヲ課セラルルニ至ル 蓋シ各國ノ法制ニ於テ宗教若ハ商事等ニ關シテ特殊ノ裁判管理ヲ定ムル制度アルカ如ク大阪堂島ニ於テハ古來米相場ノ紛爭ハ米會所ノ頭取肝煎ニ仲裁セシメ一切公事沙汰ト爲ササリシ舊慣ヲ尊重シ現存ノ約則ニ於テモ之カ實行ヲ強制セラレ前記諸法令ニ於テ行政監督上之ヲ認可スルト同時ニ之カ違反行爲ヲ禁制行爲ト爲シタルモノナルカ故ニ私人ノ自由ニ拋棄シ得ヘキモノナラサルニ拘ラス原判決カ強制セサルモノト認メタルハ法令定款及約則ノ解釋ヲ誤リ無訴權ノ性質ヲ誤解シタル不法アルモノトス

(判決理由) 司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルコトヲ理由トスル無訴權ノ抗辯又ハ專屬管轄ニ屬スヘキコトヲ理由トスル管轄違ノ抗辯若クハ當事者カ訴訟能力ヲ有セス又ハ法律上代理人カ代理權ヲ有セサルコトヲ理由トスル訴訟能力又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯ノ如キ其事項カ裁判所ノ職權上審理判斷ヲ爲スヘキモノナルトキハ假令被告カ抗辯ヲ拋棄スルモ爲メニ其審理判斷ヲ缺クヘカラサレハ被告ノ拋棄ハ訴訟上何等効力アルモノニ非ス 民事訴訟法第二百六條第三項ニ「被告ノ有効ニ拋棄スルコトヲ得サルモノ」トアルハ如上ノ妨訴抗辯ヲ指スモノナルコト更ニ多言ヲ要セス 然ルニ上告人ハ當事者ノ定期米賣買取引ニ關スル紛議ニ付テハ大阪堂島米穀取引所ノ仲裁判斷ニ任スヘキ契約アルコトヲ理由トシテ無訴權ノ妨訴抗辯ヲ爲スモノナレハ其抗辯事項ハ即チ契約ノ存否ニシテ裁判所ノ職權上審理判斷ヲ爲スヘキモノニ非ス 然レハ上告人ノ該妨訴抗辯ハ有効ニ拋棄スルコトヲ得ルモノナルヤ洵ニ明白ニシテ假令上告人カ仲裁判斷ヲ受ケサルカ爲メ仲買人組合ノ規約ニ依リ制裁ヲ受クルカ如キコトアリトスルモ之ヲ理由トシテ有効ニ拋棄スルコトヲ得サルモノト謂ヒ得ヘキニ非サレハ本論旨ハ適法ノ上告理由タラス(大正五年オ一號證據金返還請求ノ件)同五、三、一三民二判決「棄却」—民錄二二輯五九一、覽報二七卷民三四〇、新聞一一四〇號二八、最近一八卷六三、評論五卷民訴一六四)

* 原審—廣島控、大正四、一一、三民事部判決

京城覆審 仲裁契約ノ成立ヲ理由トシテ應訴ヲ拒ム抗辯ハ本來無訴權抗辯ノ性質ヲ具有スルモノナリ

仲裁契約ニ

基ク抗辯ノ性質及其ノ拋棄

リト雖モ其契約目的事項ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スル性質ヲ有シ無訴權ノ場合ニ於ケルカ如ク全然司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルトハ自ラ其類ヲ異ニシ當事者ハ裁判上若クハ裁判外ニ於テ其契約ニ基ク抗辯ヲ有効ニ拋棄シ得ヘキモノナリ

(判決理由) 控訴代理人ノ仲裁契約ニ基ク抗辯ニ付キ案スルニ仲裁契約ノ成立ヲ理由トシテ應訴ヲ拒ム抗辯ハ本來無訴權抗辯ノ性質ヲ具有スルモノナリト雖モ其契約目的事項ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スル性質ヲ有シ無訴權ノ場合ニ於ケルカ如ク全然司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルトハ自ラ其類ヲ異ニシ當事者ハ裁判上若クハ裁判外ニ於テ其契約ニ基ク抗辯ヲ有効ニ拋棄シ得ヘキモノナリ 而シテ本件ニ於テ當事者ノ一方タル被控訴人(仲買人)カ原告トシテ斯ル仲裁契約ニ基ク權利ヲ無視シ司法裁判所タル第一審京城地方法院ニ訴求シタルニ當事者ノ他ノ一方タル控訴人(委託者)ニ於テ任意之ニ應訴シ本案ノ辯論ヲ爲シ判決ヲ受ケタルコト明カニシテ而モ控訴人カ過失ニアラスシテ第一審本案辯論前ニ其抗辯スルコト能ハサリシヲ疏明セサリシヲ以テ控訴人ハ仲裁契約ヲ理由トシテ之カ應訴ヲ拒絕シ得ヘキ權利アルコトヲ知リナカラ該權利ヲ任意拋棄シ司法裁判所ノ審判ニ服シタルモノト認ムルヲ相當トス 仍テ控訴代理人ノ仲裁契約ニ基ク抗辯ハ理由ナシ(大正九年民控六九五號「定期米賣買不足金請求控訴事件」同一〇、二、四民一判決—新聞一八二〇號一三、評論一〇卷民訴一五七)

仲裁契約ニ基ク抗辯ノ性質及其ノ拋棄

朝高法院 當事者間ニ定期米賣買ノ委託ニ關スル紛議ニ付仁川米豆取引所ニ於テ選舉シタル仲裁委員ノ裁定ニ關スヘキ契約アルコトヲ理由トシテ應訴ノ責任ナキコトヲ主張スル抗辯ハ其契約目的事項ハ本來司法裁判所ノ管轄ニ屬スレトモ仲裁判斷ヲ受クヘキ旨ノ契約存在スルカ故ニ司法裁判所ノ抗辯ヲ受クヘキモノニ非ストスル抗辯ニシテ民事訴訟法第二百六條第二項第一號ニ所謂無訴權ノ抗辯ハ訴訟ノ目的物タル請求自體カ本來司法裁判所ノ管轄ニ屬セストスル點ニ於テ相類似スルカ故ニ二者全然同一ナリト謂フコトヲ得スト雖司法裁判所ノ管轄ニ屬セストスル點ニ於テ相類似スルカ故ニ仲裁契約ニ基ク抗辯ハ無訴權抗辯ニ準スヘキ妨訴抗辯ナリト解スルヲ相當トス 然レトモ無訴權抗辯ハ職權調査事項ニシテ當事者ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得スト雖仲裁契約ニ基ク抗辯ハ其契約目的事項カ本來司法裁判所ノ管轄ニ屬スル性質ヲ有スルモノナルカ故ニ當事者カ司法裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ

欲シ該抗辯ヲ拋棄シテ司法裁判所ノ管轄ニ屬セシムルコトハ當事者ノ隨意ニシテ當事者ハ任意ニ之ヲ拋棄シ得ヘキモノトス」仲裁契約ニ基ク抗辯ハ形式上ノ抗辯即應訴ノ責任アルコトヲ認メサル訴訟ノ成立要件ニ關スル抗辯ニシテ實體上ノ抗辯ニ非ス（大正一〇、五、一〇判決—朝高錄八卷民一三九、朝鮮高等法院判例要旨類集民四〇二）

東京控 米穀取引所仲買人ト委託者トノ間ニ取引所定款所定ノ仲裁委員ノ判斷ニ服スヘキ旨ノ仲裁契約アリトスルモ其仲買人カ仲裁判斷ノ當時既ニ營業ヲ廢シタル以上ハ仲裁判斷ヲ受クヘキモノニアラスト解スルヲ相當トス

（判決理由）控訴人カ米穀取引所仲買人ニシテ訴外株本隆秀トノ間ニ株式會社大阪堂島米穀取引所ノ仲裁判斷ニ關スル契約ニ從フヘキ旨ノ特約ヲ爲シタルコト及ヒ控訴人カ大正四年四月中仲買人ノ業ヲ廢シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナリ 該契約ノ趣旨タル乙第三號證（第十九條）乙第二號證ニ依レハ同所仲買人ト委託者トノ間ニ紛爭ヲ生シタル時ハ取引所定款ノ定ムル仲裁委員ノ判斷ニ服スト云フニアリテ控訴人ハ此趣旨ノ仲裁契約ヲ爲シタルモノト謂フヘシ 而シテ此契約ハ仲買人カ其營業繼續中ナルコトヲ前提ト爲シタルモノト言フヘク即チ仲買人ト委託者トノ紛爭ニ付テハ仲裁判斷ヲ爲スヘキ時ニ於テモ取引所ノ仲買人ノ業ヲ營メルニアラサレハ仲裁委員ノ仲裁判斷ヲ受クヘキモノニアラスト解スルヲ相當トス（大正五年ネ五〇號「定期米賣買證據金並利益金請求事件」同五、四、一民三判決—新聞一一三一號二七、評論五卷民訴三四六、判例一卷民一一四）

取引員ノ業
ト仲裁判
斷

第二章 取引員ノ使用人及外交員

第一節 取引員ノ使用人

大審院 取引所仲買人ハ他人ノ委託ニ因リ他ノ計算ヲ以テ取引ヲ爲スコトヲ營業ト爲ス者ナレハ偶々自己ノ計算ヲ以テ取引ヲ爲スコトナキニ非サルモ通常他人ノ委託ニ因リテ取引ヲ爲スコトヲ看做ササルヘカラス サレハ他人ノ委託ヲ受クルコトト取引所ニ於テ取引ヲ爲スコトハ固ヨリ同一ノ行爲ニアラサルモ仲買人ノ業務上密接ノ關係アルカ故ニ事實裁判所カ取引所ニ於テ一切ノ取引ヲ爲サシムヘキ委任ハ他人ヨリ取引ノ委託ヲ受クルコトノ委任ヲモ包含スルモノト認定スルモ之ヲ以テ直ニ不法ノ判斷ト爲スコトヲ得サルヤ勿論ナリ 然リ而シテ原院ハ其判文上明白ナルカ如ク甲第二號證ノ委任狀ニ依リ上告人（仲買人）ハ佐藤道藏ヲ自己ノ業務代理人ト爲シ自家ノ商號ヲ以テ株式會社鶴岡米穀取引所市場ニ於テ何等ノ制限ナク業務ヲ取扱ハシメタル事實ヲ確定シ而シテ此確定シタル事實ニ基キ上告人ハ右道藏ニ對シ獨リ同取引所ニ於テ取引ヲ爲スコトヲ委任シタルノミニ非スシテ公衆ヨリ賣買ノ委託ヲ受ケ取引ヲ爲スコトノ委任ヲモ爲シタルモノト推定シタルモノナリ 而シテ此推定ハ仲買人ノ業務ノ性質ニ適合スル所アルモ決シテ委託ト取引所ニ於ケル取引トヲ混同シ若クハ其真相ヲ誤解シタルニ基因スルモノト認ムルコトヲ得ス（明治三五年オ三一七號「定期米賣買差引殘金請求ノ件」同三五、一二、一一民一判決—民錄八輯一一卷四一、彙報一四卷民五七）

取引員ノ業
務ノ性質ト
市場代理人
ノ受託行為

第二章 取引員ノ使用人及外交員 第一節 取引員ノ使用人 六一七

東京控 甲カ仲買人ヲ代理シテ取引所ノ場ニ於テ取引ヲ爲ス權限ハ有シタルモ客ヨリ取引ノ委託ヲ受クルコトハ其權限ノ範圍内ナルヤ否ヤ明確ナラサル場合ニ於テ客カ甲ハ此等ノ事項ニ付テモ亦仲買人ヲ代理スヘキ權限ヲ有セルモノト信シテ株式取引ノ委任ヲ爲シ證據金若クハ其代用證券ヲ授受シタルハ前後ノ事情上決シテ相當ナルヲ失ハサルト共ニ畢竟斯カル信念ヲ生スルニ至リシハ特ニ取引ノ機敏神速ヲ尙ヒ仔細ニ代理權限ノ内容ト範圍トヲ推究シタル後始メテ手下スカ如キ餘裕ヲ容ササル株式市場ニ於テ仲買人カ甲ヲ其代理人トシテ取引所ニ出入セシメ居タルニ職由スルモノナレハ民法第百十條ノ適用上仲買人ニ於テ其責ヲ免ルルヲ得サルモノト云ハサルヘカラス

(判決理由) 訴外渡邊吉カ控訴人ヨリ新潟米穀株式取引所ニ於ケル株式取引ヲ委任セラレ其證據金及其代用トシテ控訴人主張ノ如キ金圓及ヒ株券ノ交付ヲ受ケタルコトハ前記吉ノ原審ニ於ケル證言(第一回)ニ據リテ之ヲ認ムルヲ得ヘシ 然ルニ此等ノ行爲アリタル當時吉カ前記取引所ノ場ニ於テ被控訴人ヲ代理シテ取引ヲ爲ス權限ヲ有シ居タルコトハ甲第三號證及ヒ原審證人遠藤清三郎ノ供述(第一、二回)ヲ綜合シテ之ヲ認ムルヲ得ヘキモ被控訴人ノ代理人トシテ客ヨリ取引ノ委託ヲ受クルコトモ亦其權限ノ範圍内ナリシコトハ明確ニ之ヲ認ムルヲ得ヘキ何等ノ證據ナシ 而モ前記認定ノ如キ代理權ヲ有シ居タル事實ソノモノ及ヒ甲第三號證並ニ原審證人遠藤清三郎ノ供述(第一、二回)及ヒ眞正ニ成立シタリト認ムヘキ甲第一、二號證及ヒ原審證人渡邊吉ノ供述(第一回)中右甲兩號證發送ノ事情ニ關スル部分並ニ右委任ヲ受ケタル當時證人ハ内川福七(被控訴人)ノ代理人トシテ取引所ニ出入シ居タリト部分ヲ彼此綜合考覈スルトキハ控訴人カ吉ト本件取引ノ委任ヲ爲シ及ヒ證據金若クハ其代用證券ヲ授受シタル際吉ハ此等ノ事項ニ付テモ亦被控訴人ヲ代理スヘキ權限ヲ有セリト控訴人ニ於テ信スルニ至リシハ前後ノ事情上控訴人トシテ決シテ相當ナルヲ失ハサルト共ニ畢竟斯カル信念ヲ生スルニ至リシハ特ニ取引ノ機敏神速ヲ尙ヒ仔細ニ代理權限ノ内容ト範圍トヲ推究シタル後始メテ手下スカ如キ餘裕ヲ容ササル株式市場ニ於テ被控訴人カ吉ヲシテ其代理人トシテ取引所ニ出入セシメ居タルニ職由スルモノナルコトヲ認定スルヲ得ヘキカ故ニ民法第百十條ノ適用上被控訴人ニ於テ其責ヲ免ルルヲ得サルモノト云ハサルヘカラス(大正五年ネ三三六號「證據金及證據金代用株券返還若クハ損害賠償請求控訴事件」同七、一一、二民二判決—新聞一五〇〇號一五、判例四卷民一八四)

京都地 仲買人カ客ヨリ定期株式取引ノ委託ヲ受ケテ買付ヲ爲ス場合ニ於テハ記名株式ニアリテ

ハ名義書換ノ白紙委任狀ト共ニ株券ヲ委託者ニ交付シ之ニヨリテ右委託契約ヲ終了スルヲ通常トスルモ若シ委託者ヨリ其株券ノ名義書換ヲモ委託セラレルトキハ右契約附隨ノ効力トシテ仲買人ハ之ヲ受諾シ其手續ヲ爲スヘキ慣習存スレ引取り株券名義書換ノ委託ヲ承諾シ株券ヲ受取りタル使用人ニ仲買人ヲ代理スルノ權限アリト信スヘキ正當ノ事由委託者ニ存シタリト認メ得ルトキハ仲買人ハ名義書換ノ引受ニ付其責ヲ免ルルヲ得ス 而シテ其者カ右株券ヲ横領シタルトキハ仲買人ハ委託者ニ對シ損害賠償ノ責ヲ負フヘキモノトス(大正七年ワ一二六號「損害賠償請求事件」同七、一〇、一九民事部判決—新聞一四七六號一八、評論七卷商六七八)

* 判決理由—八九五頁參照

大審院 甲カ店員ヲシテ取引所外ニ於テ定期取引ト同一ノ取引ヲ爲サシメ自ラ事ニ當ラスト雖モ情ヲ知ラサル店員ヲ利用シテ罪ヲ犯シタルモノナルトキハ自ラ實行シタル場合ト一般ナレハ甲ヲ實行正犯トシテ處斷スルハ相當ナリ(明治四二年九八八號「取引所法違反ノ件」同四二、六、三刑二判決—刑錄一五輯六九三)

* 判決理由—一一三四頁參照

大阪地 北濱街ニ於ケル有價證券賣買業者カ給仕ヲ雇入レ掃除其ノ他ノ雜務ニ使役スル場合ニ於テモ馴レルニ從ヒ數年ヲ出テスシテ一般店員トシテ記帳又ハ金錢有價證券ノ取扱ヲ爲サシムルニ至ルコトハ普通事例ニ屬ス(昭和九年ワ一三五二號「保證債務履行請求事件」同九、一一、二四民四判決—新聞三七八三號七)

* 判決理由—一二五〇頁參照

大審院 原審ハ舉示ノ證據ニ依リ甲ハ取引員乙ノ店員ニアラスト認メタルモノニシテ假ニ同人カ

委託手数料ノ三割ニ當ル「戻リ」ヲ乙ヨリ受ケ居タル事實アリトスルモ必スシモ右認定ヲ爲スノ妨トナルモノニアラス

(判決理由) 被上告人ハ原審ニ於テ訴外吉原利男ハ被上告人ノ店員ニアラストシテ其代理權ヲ否認シタルコト記録上明ナリ之ニ對シ上告人カ利男ハ被上告人ヨリ報酬トシテ同人ノ關係シタル短期清算取引ノ委託手数料ノ内三割ヲ「戻リ」ナル名稱ニ依リ受領シツツアル旨主張シタルコトモ亦記録上之ヲ認メ得サルニアラサレモ斯ノ如キ事實ハ利男カ被上告人ノ店員ナリトノ主張ヲ明ニスル情況タルニ過キサルモノナレハ必スシモ之ヲ判決ニ摘示セサルヘカラサルモノニアラス而シテ右爭點ニ付原審ハ舉示ノ證據ニ依リ利男ハ被告ノ店員ニアラスト認メタルモノニシテ右證據ニ依レハ斯クノ如キ認定ヲ爲シ得サルニアラス假ニ同人カ上告人主張ノ如キ手数料ノ三割ニ當ル「戻リ」ヲ被上告人ヨリ受ケ居タル事實アリトスルモ必スシモ右認定ヲ爲スノ妨トナルモノニアラス又所論ノ乙第八號證甲第十三號證ニ利男カ被上告人ノ外交員ナルカ如キ記載アリトスルモ之カ爲ニ必スシモ同人ヲ被上告人ノ店員ナリト認メサルヘカラサルモノニアラス(昭和十二年オ六四六號「株券返還並利益金交付請求事件」同一二、七、八民一判決—法學六卷一一號一四二九)

大阪控 雇人ニアラサル者ヲ雇人ノ如ク裝ヒ取引所ヨリ鑑札ヲ受ケシメタル仲買人ハ的確ノ證明ナキ以上ハ其者ヲ自己ノ雇人ニアラスト辯解スルモ之ヲ採用スルヲ得ス

(判決理由) 岩見外吉ハ被控訴人(仲買人)ノ雇人ナルヤ否ヤヲ案スルニ甲第三十四號證乃至三十九號證ニ因レハ被控訴人ハ外吉ヲ雇人トシテ堂島米穀取引所ニ届出テ外吉ハ同取引所ヨリ被控訴人ノ雇人トシテ取引所ニ出入シ得ル鑑札ヲ受ケ居リタルコト明ナリ被控訴人ハ外吉ハ俗ニ「トソビ」ト稱シ仲買人ト顧客ノ中間ニ立チテ注文ノ取次ヲ爲ス獨立ノ營業者ニシテ被控訴人ノ雇人ニアラス、唯取引所ニ出入スルノ便宜ヲ得セシムル爲ニ雇人ノ如ク裝ヒタルニ過キスト辯解スレトモ雇人ニアラサル者ヲ雇人ナリト詐リ取引所ヨリ鑑札ヲ受ケシムル如キハ獨リ取引所ヲ欺クノミナラス事情ヲ知ラサル第三者ヲシテ眞實ノ雇人ナリト誤信セシムルノ恐レアルカ故ニ當院ハ不誠實ノ仲買人ニアラサル限リハ決シテ斯ノ如キ不正ノ行爲ヲ爲スモノニアラサルコトヲ信セント欲スルモノナリ 隨テ的確ノ證明ナキ以上ハ外吉カ雇人タルハ表面上ノ假裝ニ過キスシテ其實ハ雇人ニアラストノ辯解ハ容易ニ採用スル

「トソビ」ヲ
雇人ノ如ク
裝ヒ取引所
ノ鑑札ヲ受
ケタル場合
ニ於ケル雇
人ニ非ズト
辯解ノ効
果

從業者ノ行
爲ト雇主ノ
責任

ヲ得ス 然ルニ被控訴人カ右辯解ヲ證明スル爲メニ採用セル證據ハ當院ヲシテ一モ其主張ヲ信認セシムルニ足ルモノナケレハ當院ハ被控訴人ノ辯解ヲ排斥シテ岩見外吉ハ眞實被控訴人ノ雇人ナリト認定ス(明治三十八年ネ九二號「證據金取戻及損害賠償請求事件」同三八、一一、七民一判決—新聞三五八號九)

法第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス(追加—大正三、三 改正—大正一一、四)

稅第二十一條 取引所ノ取引員又ハ會員ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ取引員又ハ會員ヲ處罰ス(改正—大正一一、四)

第二節 外交員

第一款 總說

有價證券外務員取締規則 (昭和十六年七月四日商工省令第六十一號發布)

* 昭和十六年十二月十六日大藏省令第七十一號ヲ以テ條文中「商工大臣」「商工省」「商工省印」ヲ夫々「大藏大臣」「大藏省」「大藏省印」ト改正

商工省 從來證券取引ニ於テモ保險外務員ト同様、戶別訪問シテ註文ヲ取ツテ歩ク所謂株式外交員ト謂フモノガアルノデアアルガ一口ニ株式外交員ト簡單ニ言ツテモ其ノ種類ハ雜多デアリ、或ル者ハ業者ノ使用人トシテ確タル地位ヲ持チ、偶々外勤トシテ勸誘事務ニ從事シテキルト謂フモノモアレバ、業者ニ所屬スルノデモナケレバ、獨立シテ營業スル形式ノモノデモナク、其ノ時々ノ取引ノ形態ニ依テ、或ハ委託者ノ代理人タルコトモアレバ、或ハ業者ノ代理人タルコトモアリ、實際問題トシテ株式外交員トシテハ寧ろ身分關係ノ曖昧ナ者ガ其ノ數ニ於テ多數ヲ占メ、斯カル株式外交員ヲ中心トシテ業者及委託者ガ之ニ絡ミ、兎角問題ヲ起シテ

第二章 取引員ノ使用人及外交員 第二節 外交員

有價證券外
務員取締規
則

制定趣旨

キタノデアル 斯カル場合ニモ株式外交員ハ、結局ニ於テ其ノ身分關係ガ不明瞭デアルガ爲、巧ミニ責任ヲ轉嫁シ、之ガ爲ニ蒙ル業者及委託者ノ損害ハ尠カラズモノガアツタノデアル 而モ斯ウイフ傾向ハ支那事變勃發以來、軍事費及生産擴充資金調達ノ爲、株式、社債及公債ノ流通量ガ著シク増加スルト共ニ、之ニ正比例シテ増加シ、特ニ國債ノ如キハ此等一部ノ外交員ノ爲ニ其ノ信用ニ影響ヲ蒙リ、之ガ消化ヲ阻害スル傾向スラ見ラレタノデアル 茲ニ於テ當局トシテ證券取引ノ圓滑ナル流通ト取引ノ安全性トヲ確保スル爲、今回有價證券外務員取締規則ヲ制定シ、株式外交員ノ資格ヲ一定ノ身分關係ヲ有スル者ノミニ限定シテ所屬關係ヲ明カナラシムルト共ニ、株式外交員ノ登録制度ヲ設ケ、委託者ノ保護ニ遺憾ナキヲ期スルコトトシタノデアル(解説―有價證券外務員取締規則ニ就イテ) 商工通報、昭和一六年八月一日號二九)

商工事務官 村田 繁氏 本則ノ規定ニ依ル有價證券外務員ノ制度ヲ設ケタルコトニ因ツテ取引所法第十一條ノ四ニ規定スル禁止事項ニ對スル例外規定ヲ設ケタノデハナイノデアル 取引所法第十一條ノ四ニ所謂委託ノ代理ト謂ヒ、委託ノ媒介ト謂ヒ又ハ委託ノ取次ト謂フモ斯ル行爲ヲ爲ス者ハ等シク取引員ニ對シ獨立ノ地位ニ立チ、ソコニ何等ノ從屬關係、使用關係ナク、從ツテ斯ル者ト委託者トノ間ニ起ル「トラブル」ニ對シテハ取引員ハ何等ノ責任ヲ負ハナイノデアリ、斯ル種類ノ者ノ存在ハ取引所法又ハ有價證券取締法ニ於テ禁止セラレテ居タガ、今回有價證券外務員取締規則ニ於テモ亦斯ル存在ヲ認メテハキナイノデアル(有價證券外務員須知一二)

商工事務官 村田 繁氏 取引所法ニ依リテ免許セラレタル取引員又ハ有價證券業取締法ニ依リテ免許セラレタル有價證券業者ガ有價證券外務員タリ得ルカガ問題デアル：有價證券外務員トナルベキ資格ニ付テノ何等ノ制限ガナイカラ、本則ノ上カラハ當然有價證券外務員ニナリ得ル譯デアル 然シ乍ラ斯ル業者ガ有價證券外務員トナリタル場合一面業者トシテ確タル一ノ營業所ヲ持ツテ實物ノ賣買ヲ營業トシテキルバカリデナク、他面有價證券外務員トシテ他ノ業者ノ使用人タル地位ヲ持ツモノデアルガ故ニ、實物取引員又ハ有價證券業者ガ清算取引ヲ爲シ得ル取引員ノ有價證券外務員トナルトキハ、外務員タル實物取引員又ハ有價證券業者ノ營業所ハ雇主タル清算取引ヲ爲シ得ル取引員ノ支店又ハ出張所ト看做サレルノデアリ、雇主タル該取引員ハ取引所法第十一條ノ四ノ規定ニ違反スルコトトナルノデアル 從ツテ業者ガ有價證券外務員トナルコトハ本則上ハ差支ナキモ、取引所法又ハ有價證券業取締法トノ關係ニ於テ實際上ハ不可能ナ譯デアル(有價證券外務員須知九)

商工事務官 村田 繁氏 第八條第一號ノ場合ニ注意シナケレバナナイコトハ所屬業者ノ變更トノ差異デアル 前者ハ業者ノ實體ニハ變更ナク、其ノ氏名、名稱又ハ商號ガ單ニ變更ガアツタ場合ヲ意味スルノデアリ、後者ハ業者ヲ、例ヘバ甲ヲ主人トシテ仕

有價證券外務員制度ト
取引所法第
十一條ノ第
四項

業者ハ外務
員タリ得ル
ヤ

所屬業者ノ
變更

事ヲシテキタノヲ乙ヲ主人トスル様ニナツタ如ク、實體的ニ變更ノアツタ場合ヲ謂フノデアリ、從ツテ此ノ場合ニハ原簿訂正ノ手續ニ依ラズ新ニ登録ノ申請ヲ爲スコトヲ要スルノデアル(有價證券外務員須知一二)

商工省 本則ニ依リ有價證券外務員ハ常ニ業者ノ使用人タルモノトスルコトニ依リ、有價證券外務員ノ勸誘ニ依リ生ズル一切ノ責任ヲ業者ニ負ハシムルト共ニ、有價證券外務員ノ本則ニ依ル種々ノ取締其ノ他ニ付テモ、業者ニ義務ヲ負ハセテキルノデアルガ右ハ業者ハ有價證券外務員以上ニ證券取引ニ付知識、經驗ヲ有シ、有價證券外務員ノ取扱ヲ最モヨク心得テキルモノデアルガ故ニ斯カル業者ニ有價證券外務員タラントスル者ノ選擇ノ自由ヲ與ヘ、有價證券外務員ヲ業者ニ從屬セシムルコトニヨツテ、業者ニ一切ノ責任ヲ負ハセ、業者ガ有價證券外務員ノ監督ニ遺憾ナキヲ期シ、以テ委託者ノ保護ト證券取引ノ安全性トヲ圖ルコトトシタノデアル (イ)手續上ノ義務(第十二條、第十三條、第十四條、第二十三條) (ロ)有價證券外務員ヲシテ使用セシムル爲ニ交付スル文書圖畫ノ届出義務(第十九條、第二十條) (解説―有價證券外務員取締規則ニ就イテ) 商工通報、昭和一六年八月一日號三一)

外務員規則第一條 本則ニ於テ有價證券外務員トハ有價證券業取締法ニ依ル有價證券業者又ハ有價證券ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ノ會員若ハ取引員(以下業者ト總稱ス)ノ使用人ニシテ當該業者ノ營業所外ニ於テ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買、其ノ媒介ノ委託又ハ取引所ニ於ケル有價證券ノ賣買取引ノ委託ノ勸誘ニ從事スル者ヲ謂フ 本則ニ於テ有價證券トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 國債證券
- 二 地方債證券
- 三 社債券
- 四 産業債券
- 五 商工債券
- 六 恩給債券
- 七 庶民債券
- 八 株 券
- 九 外國又ハ外國法人ノ發行スル證券ニシテ前各號ノ證券ノ性質ヲ有スルモノ

外務員規則
第一條
有價證券外
務員ノ意義

業者ノ義務

監理局長通牒 地方長官宛 有價證券外務員取締規則施行ニ關スル件 從來有價證券業者又ハ取引所ノ取引員ノ爲ニ其ノ營業所外ニ於テ有價證券ノ賣買又ハ其ノ委託等ノ勸誘ニ從事スル所謂有價證券外務員ハ有價證券業者又ハ取引員トノ關係甚タ不明瞭ニシテ責任ノ歸趨不明確ナルノミナラス兎角大衆ノ投機心理ニ乘シテ所謂低位株ノ賣買ヲ勸誘スル等弊害著シキモノアリ、依ツテ今般有價證券外務員ノ登録制度ヲ設ケ以テ有價證券取引ノ安全性ヲ確保スルト共ニ低位株ノ跋扈ヲ阻止スル爲新ニ有價證券外務員取締規則(商工省令第六十一號)ヲ公布シ本月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ左記ニ依リ其ノ取締ニ遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也(昭和一六、七、九一六監局二三三五號)

一、本則ニ謂フ有價證券外務員トハ有價證券業者取締法ニ依ル有價證券業者又ハ有價證券ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ノ會員若ハ取引員ノ使用人ニシテ當該業者ノ營業所外ニ於テ取引所ニ依ラサル有價證券ノ賣買、其ノ媒介ノ委託又ハ取引所ニ於ケル有價證券ノ賣買取引ノ委託ノ勸誘ニ從事スル者ナルヲ以テ有價證券業者取締法第一條但書ノ銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ノ使用人ニシテ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買ノ勸誘ニ從事スル者又ハ法人タル業者ノ業務執行役員等ハ本則第二條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケズシテ勸誘ノ事務ニ從事スルコトヲ得

二、略(六三三頁及六三四頁參照)

三、本則ノ規定ニ依リ警察官署ニ於テ拘留又ハ科料ニ處シタルトキハ其ノ都度速ニ當局ニ其ノ報告ヲ爲サレタシ

監理局長通牒 取引所理事長及有價證券業協理理事長宛 有價證券外務員取締規則來ル七月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ其ノ所取引員(協理理事長宛ノモノニアリテハ其ノ協會加入ノ業者トアリ)所屬有價證券外務員ニ於テ本則ノ規定ニ違背スル者無之様指導相成ルト共ニ本則ノ運用ニ付充分協力相成度尙左記事項ヲ其ノ所取引員(又ハ其ノ協會加入ノ業者)ニ了解セシムル様取計相成度此段及通牒候也(昭和一六、七、九一六監局二三三七號)

一、本則ニ謂フ有價證券外務員トハ有價證券業者取締法ニ依ル有價證券業者又ハ有價證券ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ノ會員若ハ取引員ノ使用人ニシテ當該業者ノ營業所外ニ於テ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買、其ノ媒介ノ委託又ハ取引所ニ於ケル有價證券ノ賣買取引ノ委託ノ勸誘ニ從事スル者ナルヲ以テ有價證券業者取締法第一條但書ノ銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ノ使用人ニシテ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買ノ勸誘ニ從事スル者ハ之ヲ包含セズ

又法人タル業者ノ業務執行役員等ハ使用人ニ非ザルヲ以テ本則第二條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケズシテ勸誘ノ事務ニ從事スルコトヲ得

二、有價證券外務員ハ業者ノ使用人タルコトヲ要シ業者トノ間ニ雇傭關係ナキ代理人ハ本則第一條所定ノ勸誘事務ニ從事スルコトヲ得ズ而シテ使用人タル以上其ノ報酬ノ支拂方法ハ固定給ニ依ルト歩合給ニ依ルトヲ問ハサルモノトス

三、本則ニ謂フ勸誘トハ有價證券ノ賣買又ハ其ノ委託等ニ關スル契約締結ノ爲ニスル誘引行爲一切ヲ謂ヒ其ノ文書タルト口頭タルト個々ニ付爲スト一般的ニ爲ストヲ問フコトナシ且契約締結ニ關スル誘引行爲アルヲ以テ足り其ノ契約締結アリタルコトヲ要セズ

四、略(六二八頁參照)

五、略(六三三頁參照)

六、略(六三七頁參照)

商工省 從來ハ株式外交員トハ業者ノ使用人ガ外勤トシテ行フ者ノ外ニ、「フリー」デ行フ者ガ相當數居タ譯デアルガ、後者ノ如キ種類ノ外務員ノ存在ハ一面ニ於テ取引所ノ責任ノ歸趨ヲ不明瞭ナラシムルト共ニ、他面斯カル所屬關係ノナイ獨立ノ營業ト認メラルル虞アル業務ハ取引所法及有價證券業者取締法ノ見地ヨリ違法ニ非ズヤトノ疑ガアルノデ、本則ニ於テハ之ヲ認メナイコトトシタノデアアル 從テ斯カル種類ノ外交員ハ今後ハ執レカノ業者ノ使用人トナルノデナケレバ證券取引ニ就テノ勸誘事務ニ從事スルコトガ出來ナイノデアアル(解説—有價證券外務員取締規則ニ就イテ)商工通報、昭和一六年八月一日號二九)

商工省 業者ノ戶主、家族等デ業者ノ仕事ヲ偶々手傳フ程度ニ於テ勸誘事務ヲ行フ場合ハ、所謂有價證券外務員トハ謂ヘナイ(解説—有價證券外務員取締規則ニ就イテ)商工通報、昭和一六年八月一日號二九)

商工事務官 村田 繁氏 支配人又ハ支店長ト謂フモノハコトニ所謂業者ノ使用人デアリ、從ツテ勸誘事務ニ從事スル限リ有價證券外務員トナル譯デアアルガ、管ニ支配人又ハ支店長ノ中ニハ業者ヨリ營業上ノ代理權ヲ授與セラレ、且登記簿面ニ其ノ代理權ヲ登記セラレテキル者ガアル 斯ル者ハ證券ノ賣買取引ニ付テ業者ニ代リテ其ノ業務ヲ爲シ得ルモノデアアルカラ、此ノ限リニ於テハ賣買ヲ爲ス一ツノ手段トシテノ勸誘ハ當然爲シ得ルモノナルガ故ニ、斯ル者ハ有價證券外務員タル登録ヲ受ケズトモ勸誘ヲ爲スコト

ガ出來ル(有價證券外務員須知七)

商工事務官 村田 繁氏 商法上所謂代理商ナルモノガアルガ、代理商ガ有價證券ニ關シ賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ勸誘ヲ爲スハ、有價證券業取締法第九條ニ依リ有價證券業者ガ代理店トシテノ認可ヲ受ケタトキニ其ノ業務ヲ爲スコトガ出來ルノデアリ、從ツテ有價證券外務員トシテノ取扱ヲ受ケルモノデハナイ(有價證券外務員須知八)

外務員規則第二條 有價證券外務員ハ有價證券外務員原簿ニ登録ヲ受クベシ
有價證券外務員ハ二以上ノ業者ノ有價證券外務員トシテ登録ヲ受クルコトヲ得ズ

* 外務員規則第九條(登録拒否) 同第十一條(登録抹消) 及同第二十五條(罰則) 參照

商工省 一應誰デモ有價證券外務員トシテ登録ヲ受ケ得ル譯デアアルガ、例外ガ三ツアル 即チ(イ)一定ノ業者ノ有價證券外務員トナツタ者ハ、最早他ノ業者ノ有價證券外務員トナリ得ナイ(第二條第一項)(ロ)本則第十條第三項ノ規定ニ依リ、登録ヲ抹消セラレタル日ヨリ一年ヲ經過シナイ者ハ、有價證券外務員トナリ得ナイ(第九條第一項)(ハ)登録ヲ受ケタル後有價證券外務員トシテ不當ノ所爲ガアリ、有價證券外務員トシテ登録スルコトヲ商工大臣ニ於テ不適當ト認メタ者ハ有價證券外務員ト爲リ得ナイ(第九條第二項)(ニ)解説―有價證券外務員取締規則ニ就イテ―商工通報、昭和十六年八月一日號三〇)

商工事務官 村田 繁氏 本則ニ於テ有價證券外務員ノ登録制度ヲ設ケタノハ大體保險外務員ノ登録制度ノ場合ト同ジク其ノ所屬關係ヲ明カナラシメテ有價證券外務員ノ信用ヲ確保スルト共ニ、他面委託者ノ保護ヲ目的トシタモノデ、ソレニ依ツテ有價證券取引ノ安全性ヲ期セントスルモノデアアルカラ、此ノ點ニ於テ特許權ノ登録等ノ如ク權利發生ノ要件デアアルモノトハ性質ヲ異ニシ、單ニ身分關係ノ公示ノ意味ヲ有スルニ過ギナイ 從ツテ業者ト有價證券外務員トノ所屬關係ハ登録ニ依リ生ズルモノデハナク、兩者間ノ雇傭契約ノ締結ニ因リテ生ズルモノデアアルカラ、假令登録アルモ兩者ノ間ニ雇傭ニ關スル契約ガナイトキハ其ノ登録ハ無効ト謂フ可キデアル(有價證券外務員須知一五)

商工事務官 村田 繁氏 登録ノ申請ヲ爲ス場合 (イ)新ニ有價證券外務員タラントスルトキ(第二條第一項)(ロ)登録期間満了後更ニ繼續シテ外務員タラントスルトキ(第六條(ハ)所屬業者ニ變更アルトキ 所屬業者ノ氏名名稱又ハ商號ノ變更アリタルトキハ、商工大臣ガ職權ニヨリテ原簿ヲ訂正スルカラ登録申請ノ必要ガナイガ、今迄甲ノ業者ニ所屬シテキタ外務員ガ新ニ乙ノ業者ニ變ル場合ハ、新ニ登録ノ申請ヲセネバナラナイ 然シ繼續ノ場合ハ特例ヲ認メラレテ居ル(第十一條第二項)(ニ)第十一條第一項

第一號、第二號、第四號及第五號ノ規定ニ依ル登録抹消後更ニ登録ノ申請ヲ爲サントスルトキ(有價證券外務員須知一八)

外務員規則第三條 大藏省ニ有價證券外務員原簿ヲ備ヘ左ニ掲グル事項ヲ記載ス

- 一 氏名
- 二 生年月日
- 三 住所
- 四 所屬業者ノ氏名稱又ハ商號
- 五 登録ノ年月日

* 外務員規則第七條(原簿訂正申請其ノ他) 同第八條(職權ニ依ル原簿訂正) 及同第十一條(登録抹消) 參照

外務員規則第四條 有價證券外務員ノ登録ヲ受ケントスル者ハ有價證券外務員登録申請書(様式第一號)ニ履歷書(様式第二號)ヲ添附シ之ヲ大藏大臣ニ差出スベシ

* 外務員規則第六條(再登録申請) 同第二十二條第一項第一號(登録手数料) 及同第二十三條(大藏大臣ヘノ書類差出) 參照

外務員規則第五條 登録ノ有効期間ハ登録ノ日ヨリ五年トス

* 外務員規則第十一條第一項第一號(有効期間満了ト登録抹消) 及同第十五條第一號(有効期間満了ト外務員證返納) 參照

外務員規則第六條 登録ノ有効期間満了ノ日前二月乃至四月以内ニ有價證券外務員ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ第四條ノ規定ニ依リ添付スベキ履歷書ハ之ヲ省略スルコトヲ得

外務員規則第七條 第三條第一號又ハ第三號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ有價證券外務員ハ二十日以内ニ有價證券外務員原簿訂正申請書(様式第三號)ヲ大藏大臣ニ差出スベシ
有價證券外務員ノ住所ニ付行政區劃、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ有價證券外務員ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

* 外務員規則第二十二條第一項第三號(原簿訂正手数料) 同第二十三條(大藏大臣ヘノ書類差出) 及同第二十六條第二號(罰則)

外務員規則
第三條
有價證券外
務員原簿

外務員規則
第四條
登録申請

外務員規則
第五條
登録ノ有効
期間

外務員規則
第六條
再登録申請

外務員規則
第七條
原簿訂正申
請、住所ノ
行政區劃其
ノ他變更届
出

参照

監理局長通牒

取引所理事長及有價證券業協會理事長 有價證券外務員取締規則來ル七月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ其所
取引員 (協會理事長宛ノモノニアリテハ其ノ協會加入ノ業者トアリ) 所屬有價證券外務員ニ於テ本則ノ規定ニ違背スル者無之様指導相
成ルト共ニ本則ノ運用ニ付充分協力相成度尙左記事項ヲ其ノ所取引員 (又ハ其ノ協會加入ノ業者) ニ了解セシムル様取計相
成度此段及通牒候也 (昭和一六、七、九一六監局二三五七號)

四、有價證券外務員原簿訂正ノ申請ヲ爲ス際外務員證ノ返納ヲ爲スコト能ハザル者ハ本則第十六條ノ規定ニ依ル再
交付ノ申請ヲ爲シタル後第七條第一項ノ原簿訂正ノ申請ヲ爲スモノトス

外務員規則第八條

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ大藏大臣ハ有價證券外務員原簿ヲ訂正ス

一、所屬業者ノ氏名名稱又ハ商號ニ變更アリタルトキ

二、所屬有價證券業者ニ付相續アリタル場合ニ於テ相續人ガ有價證券業取締法施行規則第七條ノ規定ニ依リ免許
ヲ申請シ之ニ對スル免許アリタルトキ

三、有價證券外務員ノ住所ニ付行政區劃、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

* 本條第一號ニ付テハ所屬業者ノ變更 (六二二頁) 同第二號ニ付テハ外務員規則第十一條第二項 (登錄抹消ヲ爲サザル場合) 同第
三號ニ付テハ同第七條第二項 (住所ノ行政區劃其ノ他變更届出) 參照

外務員規則第九條

第十一條第三項ノ規定ニ依リ登錄ヲ抹消セラレタル日ヨリ一年ヲ經過セザル者ニ付テハ大藏大
臣ハ有價證券外務員ノ登錄ヲ拒否ス

有價證券外務員トシテ著シク不當ノ所爲アリタリト認メタル者ニ付テハ大藏大臣ハ有價證券外務員ノ登錄ヲ拒否ス
ルコトアルベシ

商工事務官 北郷茂光氏 著シク不當ノ所爲トハ例ヘバ規則第十八條ノ第二號第三號ノ如キ場合ヲ謂フ (昭和一六年七月二六日於
大株市場樓上有價證券外務員取締規則實施打合會速記録二一)

外務員規則
第九條
登錄拒否

外務員規則
第八條
原簿訂正

外務員規則
第十條
有價證券外
務員證交付

外務員規則
第十一條
登錄抹消

外務員規則第十條 大藏大臣有價證券外務員ノ登錄ヲ爲シタルトキハ有價證券外務員證 (様式第四號) ヲ交付ス有價
證券外務員原簿ヲ訂正シタルトキ亦同ジ

* 外務員規則第十二條 (外務員死亡ト外務員證返納) 同第十五條 (外務員證返納) 同第十六條 (外務員證再交付申請) 同第十七條
〔外務員證ノ携帶) 同第二十一條 (外務員證ノ提示) 及同第二十六條 (罰則) 參照

外務員規則第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ大藏大臣ハ有價證券外務員ノ登錄ヲ抹消ス

一 登錄ノ有効期間満了シタルトキ

二 登錄抹消ノ申請アリタルトキ

三 有價證券外務員死亡シタルトキ

四 所屬業者トノ雇傭關係消滅シタルトキ

五 所屬業者死亡、解散、廢業、免許ノ取消、除名其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキ

所屬有價證券業者免許年限満了後引續キ免許ヲ受ケタルトキ及所屬有價證券業者ニ付相續アリタル場合ニ於テ相續
人ガ有價證券業取締法施行規則第七條ノ規定ニ依リ免許ヲ申請シ之ニ對スル免許アリタルトキハ大藏大臣ハ前項ノ
規定ニ拘ラズ有價證券外務員ノ登錄ヲ抹消セズ

有價證券外務員著シク不當ノ所爲アリタルトキハ大藏大臣ハ有價證券外務員ノ登錄ヲ抹消ス

大藏大臣第一項第五號又ハ前項ノ規定ニ依リ登錄ヲ抹消シタルトキハ登錄セラレタル者ニ之ヲ通知ス

* 本條第一項第三號ニ付テハ外務員規則第十二條 (外務員死亡届出) 同第四號ニ付テハ同第十三條 (雇傭關係消滅届出) 又本條第
二項ニ付テハ同第八條第二號 (相續アリタル場合ノ原簿訂正) 同第三項ニ付テハ同第九條 (登錄拒否) 同第四項ニ付テハ同第十五
條第四號 (外務員證返納) 參照

商工省 二ト四トノ關係デアルガ、二ハ四ノ如ク雇傭關係ガ消滅シタ場合ト異リ有價證券外務員ノ仕事ヲ廢メントスルトキ、即
チ外勤ヨリ内勤ニ轉向セントスルガ如キ場合ヲ意味スルノデアル (解説) 有價證券外務員取締規則ニ就イテ「商工通報、昭和一六
年八月一日號三〇)

第二章 取引員ノ使用人及外交員 第二節 外交員

六二九

商工省 第十一條第二項ニ於テハ同條第一項ニ掲グル抹消原因ガ存スルニモ不拘、抹消セザルコトヲ規定シタガ、右ハ業者ノ免許期限満了後、更ニ免許ヲ受ケ得ベキトキ、又ハ業者ノ死亡後其ノ相續人ガ引續キ當該業務ヲ行ハントスルトキ、此等業務ニ從屬スル有價證券外務員ノ資格ヲ機械的ニ奪ヒ取ツテ、新ニ登録ノ申請ヲ爲サシメルガ如キコトハ、實情ニ徴シ妥當デナイト認メタルカラデアル（解説）有價證券外務員取締規則ニ就イテ、商工通報昭和一六年八月一日號三〇）

商工事務官 村田 繁氏 有價證券業者ノ免許年限ハ五年デアリ五年毎ニ更新スルノデアルガ、免許年限ノ切レル前ニ更新ノ免許ヲ受ケルトキハ問題ハナイガ、免許年限ノ切レル前ニ更新ノ免許ノナイ場合ニハ其ノ有價證券業者ハ一應資格ヲ失フ譯デアリ、從ツテ有價證券外務員モ自身トシテハ有効期間満了ニ達シナイトキデモ一應第十一條第一項第五號ノ規定ニ依リ登録抹消セラレルトトナリ、甚ダ不都合ナル故第十一條第二項ニ所屬有價證券業者ノ免許年限満了後引續キ免許ヲ受ケタルトキハ抹消セザル旨規定シタノデアリ、從ツテ若シ業者ニシテ更新免許ノ申請ヲアツタトキハ有價證券外務員モ亦其ノ登録ヲ抹消サレナイトコトナル譯デアル 第二項ノ後段ニ規定スル相續ノ場合モ亦同趣旨デアル（有價證券外務員須知二八）

外務員規則第十二條 有價證券外務員死亡シタルトキハ所屬業者ハ有價證券外務員證ヲ添へ遲滞ナク其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

外務員規則第十二條 外務員死亡届出

* 外務員規則第十一條第一項第三號（登録抹消）及同第二十七條第一號（罰則）參照

外務員規則第十三條 有價證券外務員トノ雇關係消滅シタルトキハ所屬業者ハ十日以内ニ其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

外務員規則第十三條 雇關係消滅届出

* 外務員規則第十一條第一項第四號（登録抹消）及同第二十七條第一號（罰則）參照
商工事務官 村田 繁氏 雇關係消滅スルモ登録抹消ナキトキハ有價證券外務員ハ依然トシテ勸誘ニ從事スルコトガ出來ルバカリテナク、其ノ間ニ生ジタル種々ノ責任ハ登録原簿上ノ雇主タル業者ニ於テ負フベキモノト思料セラレル（有價證券外務員須知一六）

外務員規則第十四條 有價證券外務員其ノ業務ニ關シ公訴ヲ提起セラレ又ハ訴訟事件ノ被告ト爲リタルトキ及其ノ判決アリタルトキハ所屬業者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

外務員規則第十四條 訴訟關係届出

* 外務員規則第二十七條第一號（罰則）參照

外務員規則第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ有價證券外務員ハ有價證券外務員證ヲ遲滞ナク大藏大臣ニ返納スベシ

外務員規則第十五條 納付申請再

- 一 登録ノ有効期間満了シタルトキ
- 二 登録抹消ノ申請ヲ爲サントスルトキ
- 三 所屬業者トノ雇關係消滅シタルトキ
- 四 第十一條第四項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキ
- 五 有價證券外務員原簿ノ訂正アリタル場合ニ於テ新ニ有價證券外務員證ノ交付ヲ受ケタルトキ

* 外務員規則第十二條（外務員死亡ト外務員證返還）及同第二十六條（罰則）參照

外務員規則第十六條 有價證券外務員證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ再交付ヲ大藏大臣ニ申請スルコトヲ得

外務員規則第十六條 交付申請

* 外務員規則第二十二條第一項第二號（再交付手数料）及同第二十三條（大藏大臣ヘノ書類差出）參照

外務員規則第十七條 有價證券外務員其ノ業務ニ從事スルトキハ有價證券外務員證ヲ携帯スベシ

外務員規則第十七條 携帶

* 外務員規則第二十六條第二號（罰則）參照

- 外務員規則第十八條** 有價證券外務員ハ其ノ業務ヲ行フニ付左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
- 一 所屬業者ヨリ交付ヲ受ケタルモノニ非ザル文書圖畫ヲ使用スルコト
 - 二 人ヲ惑ハシムベキ目的ヲ以テ有價證券ノ相場ニ關シ虛偽ノ事實又ハ誇大ノ觀測ヲ告グルコト
 - 三 委託ノ資料ノ割引、割戻其ノ他之ニ類似スル特別ノ利益ノ提供ヲ約スルコト

* 外務員規則第二十六條第二號（罰則）參照

商工事務官 村田 繁氏 有價證券外務員ガ第十八條第一號ノ規定ニ違反シ、所屬業者ノ交付セザル文書圖畫ヲ使用シテ勸誘事務

外務員規則第十八條 有價證券外務員ノ行爲ノ制限

ニ從事スルモ、其ノ結果ノ取引上ノ責任ハ所屬業者ニ於テ負フベキデアリ、第十八條第一號違反ノ故ヲ以テ其ノ責任ヲ免レルコトハ出來ナイモノト思料セラレル(有價證券外務員須知三三)

商工事務官 村田 繁氏 第十八條第二號ニ付テハ別段説明スルマデモナイガ唯勸誘スル爲ニハ多少ハ顧客ノ心ヲ惹カンガ如キ言辭モ弄サネバナラナイデアリ、普通常識ニ於テ許容サレル程度ノ虚偽ノ事實又ハ誇大ノ觀測ハ許サレルモノト謂フベキデアラウ(有價證券外務員須知三三)

商工事務官 村田 繁氏 此ノ委託手数料ノ割引、割戻ガ問題トナルノハ均シク取引員ノ使用人トシテノ有價證券外務員ニ付謂ハレルノデアアル 此ノ委託手数料ハ取引所法施行規則第十五條ニ依リ認可制度ガ採ラレ、認可セラレタ率ニヨリ取引員ハ委託者ヨリ委託手数料ヲ取ルベキコトニナツテ居リ、其ノ割引、割戻ヲナスコトハ許サレナイノデアアルカラ、其ノ使用人トシテ勸誘スル有價證券外務員モ亦斯カル割戻、割引ヲ爲スコトハ當然デアアルガ、更ニ趣旨ヲ徹底セシメ取締ニ遺憾ナキヲ期センガ爲ニ、特ニ本則ニ於テ有價證券外務員ノ委託手数料ノ割戻割引ヲ爲スコトヲ禁止シ、右ニ違反シタルトキニハ罰則ヲ適用スルコトトシタノデアアル(第二十六條第二號) 其ノ他之ニ類似スル特別ノ利益ノ提供ヲ約スルト規定シテアルノハ、割戻又ハ割引ガ禁止サレル結果他ノ方法ニ依リテ割戻、割引ト同一ノ効果ヲ擧ゲントスル脱法行爲ヲ取締ル趣旨ニ於テ規定シタモノデアアル(有價證券外務員須知三四)

外務員規則
第十九條
使用文書
畫届出其ノ
他

外務員規則第十九條 業者ハ有價證券外務員ヲシテ其ノ業務ヲ行フニ付使用セシムル爲之ニ交付スル文書圖畫ニ自己ノ氏名名稱又ハ商號ヲ記載スベシ但シ豫メ地方長官ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

業者ハ前項ノ文書圖畫(前項但書ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケタルモノヲ除ク)ノ各一部ヲ交付ノ日ヨリ五日前ニ地方長官ニ差出スベシ

* 外務員規則第二十條(文書圖畫ノ使用禁止) 同第二十四條(外務員規則第十九條ニ所謂地方長官) 及同第二十七條第二號(罰則) 參照

監理局長通牒 地方長官宛 有價證券外務員取締規則施行ニ關スル件從來有價證券業者又ハ取引所ノ取引員ノ爲ニ其ノ營業所外ニ於テ有價證券ノ賣買又ハ其ノ委託等ノ勸誘ニ從事スル所謂有價證券外務員ハ有價證券業者又ハ取引員トノ關係甚ダ不明瞭ニシテ責任ノ歸趨不明確ナルノミナラズ兎角大衆ノ投機心理ニ乗ジテ所謂低位株ノ賣買ヲ勸誘ス

ル等弊害著シキモノアリ、依ツテ今般有價證券外務員ノ登録制度ヲ設ケ以テ有價證券取引ノ安全性ヲ確保スルト共ニ低位株ノ跋扈ヲ阻止スル爲新ニ有價證券外務員取締規則(商工省令第六十一號)ヲ公布シ本月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ左記ニ依リ其ノ取締ニ遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也(昭和一六、七、九一—一六監局二三五五號)

二、本則第十九條第二十條ノ規定ノ運用ニ付テハ左ノ通取扱ハレ度シ

(イ)業者ガ大藏省、勸業銀行等ニ於テ債券發賣ノ周知方法トシテ發行スル文書圖畫又ハ株式取引所、有價證券業協會等ニ於テ發行スル株式價值表等ニ付テハ豫メ包括的承認ヲ與ヘラルルト共ニ右承認ヲ與ヘラルタルモノニ付テハ爾後其ノ届出ヲ要セサルモノトスルコト

(ロ)有價證券外務員ヲシテ使用セシムル文書圖畫ヲ外務員ニ交付ノ日ヨリ五日前ニ業者ガ差出シタル場合、不當ナルモノト認メラレタルトキハ文書ニ依リ其ノ使用ヲ禁止スル旨ノ通知ヲ爲スコト

(ハ)有價證券外務員ヲシテ使用セシムル文書圖畫ヲ外務員ニ交付ノ日ヨリ五日前ニ業者ガ差出シタル場合、不當ナルモノト認メラレザルモノニ付テハ五日ヲ經過シタル後ニ於テ其ノ外務員ヲシテ使用シ得ル様爲スコト

(ニ)業者又ハ其ノ外務員ガ現ニ使用シ居レル文書圖畫ヲ本則施行後依然トシテ使用セントスル場合ノ届出時期ニ付テハ第十九條ノ規定ニ拘ラズ經過的措置トシテ可然取計ヲフコト

(ホ)略 (外務員規則第二十條ノ項參照)

監理局長通牒

取引所理事長及有價證券業協會理事長宛

有價證券外務員取締規則來ル七月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ其ノ所

取引員(協會理事長宛ノモノニアリテハ其ノ協會加入ノ業者トアリ) 所屬有價證券外務員ニ於テ本則ノ規定ニ違背スル者無之様指導相成ルト共ニ本則ノ運用ニ付充分協力相成度尙左記事項ヲ其ノ所取引員(又ハ其ノ協會加入ノ業者)ニ了解セシムル様取計相成度此段及通牒候也(昭和一六、七、九一—一六監局二三五七號)

五、本則第十九條ノ規定ノ運用ニ關シテハ左ノ如ク地方長官宛通牒シ置キタリ

(イ)業者ガ大藏省、勸業銀行等ニ於テ債券發賣ノ周知方法トシテ發行スル文書圖畫又ハ株式取引所、有價證券業協會等ニ於テ發行スル株式價值表等ヲ有價證券外務員ヲシテ使用セシムル場合、右ノ文書圖畫ニ付テハ地方長官ニ於テ豫メ包括的承認ヲ爲スト共ニ右承認ヲ爲シタルモノニ付テハ爾後簡便ナル手續ヲ採ルコト

(ロ)有價證券外務員ヲシテ使用セシムル文書圖畫ヲ外務員ニ交付ノ日ヨリ五日前ニ業者ガ地方長官ニ差出シタル場合五日ヲ經過スルモ何等ノ通知ニ接セザルトキハ承認アリタルモノト看做シ其ノ使用ヲ爲シ得ル様爲スコト

商工事務官 村田 繁氏 業者ガ有價證券外務員ニ交付スル文書圖畫ニハ其ノ責任ヲ明カニスル爲ニ自己ノ氏名、名稱又ハ商號ヲ記載スルコトヲ要スルノデアル(第十九條第一項)ガ有價證券外務員ニ使用セシメル文書圖畫ニハ種々アリ、例ヘバ大藏省、勸業銀行等ガ債券發賣ノ周知方法トシテ發行スルパンフレットノ類ヤ、株式取引所、有價證券業協會等ニ於テ發行スル株式値段表等ニ付テモ業者ニ其ノ氏名、名稱又ハ商號ヲ記載セシメルコトハ第十九條第一項本文ノ趣旨カラ見テ必要ナイノデアリ、右ノ如ク文書圖畫ノ種類ニ依ツテハ豫メ地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監)ノ承認ヲ經テ氏名、名稱又ハ商號ヲ記載セズトモヨイコトニシタノデアル(第十九條第一項但書)(有價證券外務員須知三七)

外務員規則
第二十條
文書圖畫ノ
使用禁止

外務員規則第二十條 地方長官ハ前條第一項ノ文書圖畫ヲ不當ナリト認メタルトキハ其ノ使用ヲ禁止スベシ
前項ノ規定ニ依リ文書圖畫ノ使用ヲ禁止セラレタルトキハ業者ハ遲滞ナク破棄其ノ他使用ヲ止ムルニ必要ナル處置ヲ爲シ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

*外務員規則第二十四條(外務員規則第二十條ニ所謂地方長官)及同第二十七條第三號(罰則)參照

監理局長通牒 地方長官宛 有價證券外務員取締規則施行ニ關スル件 從來有價證券業者又ハ取引所ノ取引員ノ爲ニ其ノ營業所外ニ於テ有價證券ノ賣買又ハ其ノ委託等ノ勸誘ニ從事スル所謂有價證券外務員ハ有價證券業者又ハ取引員トノ關係甚ダ不明瞭ニシテ責任ノ歸趨不明確ナルノミナラズ兎角大衆ノ投機心理ニ乗ジテ所謂低位株ノ賣買ヲ勸誘スル等弊害著シキモノアリ、依ツテ今般有價證券外務員ノ登録制度ヲ設ケ以テ有價證券取引ノ安全性ヲ確保スルト共ニ低位株ノ跋扈ヲ阻止スル爲新ニ有價證券外務員取締規則(商工省令第六十一號)ヲ公布シ本月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ左記ニ依リ其ノ取締ニ遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也(昭和一九一六、七、九一六監局二三五五號)

二、本則第十九條第二十條ノ規定ノ運用ニ付テハ左ノ通取扱ハレ度シ

(イ)―(ニ)略(外務員規則第十九條ノ項參照)

(ホ)第二十條第一項ノ不當ナリト認メラルル文書圖畫ノ大體ノ標準ハ左ニ據ラレタキコト

外務員規則
第二十一條
文書圖畫又
ハ外務員證
ノ提示

- (1) 取引所ニ於ケル相場又ハ其ノ他ノ相場ヲ偽リテ記載シタルモノ
- (2) 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ルコトヲ目的トシテ虛偽ノ事實ヲ記載シタルモノ
- (3) 取引所ニ依ラズシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル所謂相場賭博ノ手引ニ付テ記載シタルモノ
- (4) 株金ノ拂込、資本ノ増加又ハ會社ノ設立等ニ付官廳ノ許可、認可又ハ內認可等證券ノ價格ニ影響ヲ與フルガ如キ虛偽ノ事實ヲ記載シタルモノ
- (5) 國民ノ貯蓄心ヲ阻害シ又ハ公債、社債等ノ信用ヲ失墜セシムルガ如キコトヲ記載シタルモノ
- (6) 一攫千金ノ投機思想ヲ助長スルガ如キコトヲ記載シタルモノ
- (7) 會社ノ經理狀況等ヲ偽リテ記載シタルモノ
- (8) 其ノ他前各號ニ準ジ著シク不當ナリト認メラルルモノ

外務員規則第二十一條 大藏大臣及地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監)ハ當該官吏ヲシテ有價證券外務員ニ對シ其ノ業務ヲ行フニ付使用スル文書圖畫又ハ有價證券外務員證ノ提示ヲ求メシムルコトヲ得

*外務員規則第二十六條第三號(罰則)參照

外務員規則
第二十二條
登錄手續料
其ノ他

外務員規則第二十二條 有價證券外務員ノ登録、有價證券外務員證ノ再交付又ハ有價證券外務員原簿訂正ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手續料ヲ納付スベシ

- 一 有價證券外務員ノ登録ノ申請 每一件五圓
- 二 有價證券外務員證ノ再交付ノ申請 每一件一圓
- 三 有價證券外務員原簿訂正ノ申請 每一件五十錢

前項ノ手續料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スベシ

外務員規則
第二十三條
大藏大臣ハ
ノ書類差出

外務員規則第二十三條 本則ノ規定ニ依リ有價證券外務員ヨリ大藏大臣ニ差出スベキ書類ハ所屬業者ヲ經由スベシ
商工事務官 北郷茂光氏 コレハ本則ノ規定ニ依リ有價證券外務員ヨリ商工大臣ニ差出スベキ書類ハ所屬業者ヲ經由スルコトヲ規定シタモノデアリ 從ツテコレ等ノ書類ハ總テ府縣廳ヲ經由シナクテモヨイノデアリ コレハ官廳事務ノ簡易化ヲ圖ル爲斯ノ如キ

規定ヲ設ケタ次第アル 併シ斯クナツタカラト云ツテ決シテ業者ガ府縣廳ノ監督カラ離脱シタ譯デハナイ(昭和一六年七月二六日於大株市場樓上有價證券外務員取締規則實施打合會速記録三三)

外務員規則第二十四條 第十九條又ハ第二十條ニ於テ地方長官トハ業者ノ本店ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監)トス

外務員規則第二十四條
地方長官ノ規定
外務員規則第二十五條
無登録勸誘者及有價證券外務員ニ對スル罰則

外務員規則第二十五條 有價證券外務員ノ登録ヲ受ケズシテ第一條第一項ニ定ムル勸誘ニ從事シタル者又ハ有價證券外務員原簿ニ記載セラレタル自己ノ所屬業者以外ノ業者ノ爲ニ第一條第一項ニ定ムル勸誘ニ從事シタル者ハ三月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留、又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

外務員規則第二十六條 有價證券外務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 有價證券外務員證ヲ他人ニ使用セシメタルトキ
- 二 第七條第一項、第十五條、第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 三 第二十一條ノ規定ニ依ル提示ヲ拒ミタルトキ

外務員規則第二十七條 業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 第十二條乃至第十四條ノ規定ニ違反シ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ
- 二 第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 三 第二十條第二項ノ規定ニ違反シ必要ナル處置ヲ爲サズ又ハ届出ヲ怠リ若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ

外務員規則第二十八條 業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

* 外務員規則第三十條(外務員規則第二十八條ト拘留ノ刑)參照

商事事務官 村田 繁氏 第二十八條ハ轉嫁罰ノ規定デアルガ、轉嫁罰ノ規定ノ趣旨ヨリシテ業者ノナスベキ義務ニ付業者ニ代ツテ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ作爲、不作爲ニ因リ違反シタ場合ニ適用アルベキ罰則デアラカラ業

外務員規則第二十八條
從業者ノ違反行爲ト業
者處罰

外務員規則第二十七條
業者ニ對スル罰則

外務員規則第二十九條
法人未成年者禁治產者ト罰則適用

外務員規則第三十條
規則第二十條ノ刑ト拘留ノ刑ト罰則適用
附則
施行期日及
經過規定

者ガ第二十八條ニ依リ罰セラレルノハ第二十七條ノ各號ニ該當スル場合ノミデアリ、文字解釋ヨリスレバ使用人トシテ有價證券外務員ノ第二十六條及第二十五條後段ニ該當スル場合モ含マルル様ニ思ハレルガ、第二十八條ノ趣旨ヨリ見テ含マレザルモノト解スベキデアラウ(有價證券外務員須知四一)

外務員規則第二十九條 本則ニ依リ業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

* 外務員規則第三十條(外務員規則第二十九條ト拘留ノ刑)參照

外務員規則第三十條 前二條ノ場合ニ於テハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

外務員規則附則 本則ハ昭和十六年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ第一條第一項ニ定ムル勸誘ニ從事スル者ハ昭和十七年三月三十一日迄有價證券外務員ノ登録ヲ受クルコトナクシテ同條同項ニ定ムル勸誘ニ從事スルコトヲ得

監理局長通牒 取引所理事長及有價證券協會理事長 有價證券外務員取締規則來ル七月十日ヨリ施行相成候ニ付テハ其ノ所取引員(協會理事長宛ノモノニアリテハ其ノ協會加入ノ業者トアリ)所屬有價證券外務員ニ於テ本則ノ規定ニ違背スル者無之様指導相成ルト共ニ本則ノ運用ニ付充分協力相成度尙左記事項ヲ其ノ所取引員(又ハ其ノ協會加入ノ業者)ニ了解セシムル様取計相成度此段及通牒候也(昭和一九一六監局二三五七號)

六、本則施行ノ際現ニ第一條第一項ニ定ムル勸誘ニ從事スル者ハ昭和十七年三月三十一日迄有價證券外務員ノ登録ヲ受クルコトナクシテ勸誘事務ニ從事スルコトヲ得レドモ其ノ後ハ假令有價證券外務員ノ登録申請中ナリト雖外務員證ヲ携帯セズシテ勸誘事務ニ從事スルコトヲ得ザルヲ以テ可及的速カニ登録申請ノ手續ヲ爲スコト

東京民地 所謂外交員又ハ外務員トハ通常取引員ニ對シ從屬的ノ立場ニアリテ之カ爲忠實ニ委託ノ註文ヲ集メ其ノ報酬トシテ取引員ヨリ委託手数料ノ一定ノ割合ニヨル所謂玉割又ハ割戻ヲ受クル關

外交員ノ意
蓋外交員ニ非
ズシテ獨立

ノ仲介營業者ト認ムベキ場合

外交員ノ性質

引所法第四十條ノ取
引員ニ從
屬スル外
交員及從
屬スル外
交員ノ關
係ヲ認
明スル價
格ニ關
スル

係ニアルニ止ルモノナリ」甲ハ取引員乙ニ對シ委託客ノ株式賣買取引ニヨリ乙ノ被ルコトアルヘキ損害ニ付一切其ノ責ニ任シ乙ハ又甲ニ對シ著シク高率ノ玉割ヲ支給スル等ノ約旨ナルトキハ甲ハ外交員ニ一步ヲ進メタル獨立ノ仲介營業者ナリト認ムルヲ相當トス (昭和十三年ワ三三二九號「保證金返還請求事件」同一五、一一、二一判決—評論三〇卷商一〇九、新報六〇五號一六)

* 判決理由—七三三頁參照

高窪喜八郎博士 取引トハ仲買人ト客即チ委託者ノ間ニ立テ賣買取文ニ關スル處理ヲ爲ス者ニシテ、之ヲ實際ノ狀況ニ徴スルニ一定ノ仲買人ニ專屬スルモノト然ラザルモノトアリ、又其一定ノ仲買人ニ專屬スル場合ニ於テモ仲買人トノ間ニ雇傭關係ノ存スルモノト然ラザルモノトアリ、其雇傭關係ノ存スル場合ニハ一種ノ商業使用人ニ屬シ、其關係ノ存在セザル場合ニ於テハ仲買人ノ爲メニ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス代理商ニ準ズルモノト看ルベシ 又其一定ノ仲買人ニ專屬セザルモノニ付テモ二種類ニ分レ、一ハ專ラ仲買人ノ爲メニ代理商ニ準ズル行爲ヲ爲シ、他ハ專ラ賣買取者ノ代理人トシテ行動スルニアリ 要スルニ取引ナルモノハ各場合ニ付キ以上ノ中其何レニ屬スルヤヲ決スルノ外ナシト雖モ、其大部分ハ仲買人ノ使用人ト解スベク、而シテ其使用人ト解スベキ場合ニ於テハ賣買取文ノ處理ニ關シテハ其代理權ヲ有スルモノト解スルヲ適當トスベシ (取引所法ヲ論ス七二三)

* 外交員ト取引所法第十一條ノ四第二項(判例)—本編第四章第二節「取引所法第十一條ノ四第二項違反罪」參照

東京控 東京株式取引所仲買人間ニ於テハ大正三年九月以來ハ何レノ店ニ於テモ取引即チ外交員ヲ自己ノ店員トシテ取扱ヒ居リ同年以前ニ在リテハ外交員中ニ仲買人ニ從屬スルモノト然ラサルモノトアリ從屬的外交員ハ仲買人ヨリ口錢ノ幾割ヲ報酬トシテ貰ヒ受ケルモノト仲買人ニ雇ハレ一定ノ給料ヲ受ケテ行動スルモノトノ區別コソアレ均シク客ノ注文ニ關シテハ其從屬スル仲買人ノ代理人ト看做サレ又從屬セサル外交員ハ客ト特殊ノ關係アリテ定期取引ノ方針及方法等一切ヲ舉ケテ任サルル外交員ニシテ同人ノ取次ク注文ニ關シテハ總テ客ノ代理人ト看做サルル慣習ノ存在スルコトヲ認ムルヲ得ヘシ

(判決理由) 東京株式取引所仲買人タル被控訴人カ大正三年十二月八日控訴人ヨリ株式定期賣買取引ノ證據金代用トシテ富士瓦斯紡績株式會社新株五十株ヲ受取リタルコト被控訴人カ控訴人ノ委託ニ基キ大正三年十一月二十五日株式會社東京株式取引所新株一月限三十株ヲ一株ニ付キ金九十一圓五錢ニテ同年十二月七日同株三十株ヲ一株ニ付キ金八十八圓五十五錢ニテ大正四年一月二十一日同株三十株ヲ一株ニ付キ金九十五圓二十錢ニテ夫々取引所ノ市場ニ於テ買付ヲ爲シタルコト並ニ右賣買取引ニ付テハ訴外杉岡顯吉ノ介在シタル事實ハ何レモ當事者間ノ争ナキトコロナリ 然ルニ被控訴人ハ右ノ中一月限ノ分三十株ハ大正三年十一月三十日一株ニ付キ金九十二圓九十五錢二月限ノ分三十株ハ同年十二月九日一株ニ付キ金九十圓三十五錢三月限ノ分三十株ハ翌大正四年一月二十一日一株ニ付キ金九十五圓五錢ニテ何レモ控訴人ノ委託ニ基キ轉賣シ了リタル旨並ニ尙前同様控訴人ノ委託ニ基キ大正三年十二月二十四日東京株式取引所新株二月限五十株ヲ一株ニ付キ金八十八圓三十錢ニテ又大正四年一月四日同株式三月限五十株ヲ一株ニ付キ九十九圓三十錢ニテ賣付ケタル旨主張スレトモ證人杉岡顯吉ノ原審及ヒ當審ノ證言ニヨレハ右株式轉賣並ニ賣付ハ何レモ同證人カ擅ニ控訴人(委託者)ノ名ニ於テ被控訴人(仲買人)ニ對シ之ヲ委託シタルモノニ係リ其實證人ニ於テ毫モ控訴人ヨリ被控訴人ヘスル委託ヲ爲スヘキ旨ノ代理權ヲ附與セラレタルモノニアラサルコト極メテ明瞭ナリトス 尤モ右顯吉並ニ松宮誠一郎ノ原審ニ於ケル證言ニヨレバ顯吉ハ被控訴人方ノ外交員トシテ控訴人ヨリノ注文ヲ取扱ヒタルコト明ニシテ當審證人南波禮吉ノ證言ニ徴センカ東京株式取引所仲買人間ニ於テハ大正三年九月以來(新法實施後)ハ何レノ店ニ於テモ取引即チ外交員ヲ自己ノ店員トシテ取扱ヒ居リ同年以前ニ在リテハ外交員中ニ或仲買人ニ從屬スル者ト從屬セサル者トアリ、從屬的外交員ハ或ル仲買人ヨリ口錢ノ幾割ヲ報酬トシテ貰ヒ受ケテ注文ヲ取扱フモノト仲買人ニ雇ハレ一定ノ給料ヲ受ケテ行動スルモノトノ區別コソアレ均シク客ノ注文ニ關シテハ其從屬スル仲買人ノ代理人ト看做サレ又從屬セサル外交員ハ客ト特殊ノ關係アリテ定期取引ノ方針及ヒ方法等一切ヲ舉ケテ任サルル外交員ニシテ同人ノ取次ク注文ニ關シテハ總テ客ノ代理人ト看做サルル慣習ノ存在スルコトヲ認メ得ヘシ 而シテ被控訴人ハ東京株式取引所仲買人トシテ同慣習ニ據ルノ意思アリシモノト推定スルヲ相當トスヘク而モ杉岡顯吉ノ原審並ニ當審ノ證言當審證人坂部トミ坂部重謙ノ各證言ニ徴センカ顯吉ハ定期取引ノ委託ニ關シ控訴人ト何等特殊ノ關係アルニアラス 又取引ノ方針及ヒ方法一切ヲ舉ケテ任サレタルモノニモアラスシテ寧ロ被控訴人方ノ從屬的外交員トシテ控訴人ノ注文ヲ取扱ヒタルモノナルコト明ニシテ而シテ控訴人ヨリ特ニ定期取引ノ注文ニ關シ代理權ヲ授與サレタル事實ノ存スルナキヲ以テ如上認定ノ各事實ヲ綜合シ顯吉ハ控訴人ノ從來ノ注文ニ關シテモ同人ノ代理人タリシモノニハ非スシテ却テ被控訴人ノ代理人トシテ行動シタルモノト認定スルヲ相當トス 乙第十四號證(仕切金及代用證券交附覺ト題スル帳簿)ニ杉岡顯吉カ控訴人ノ代理人トシテ仕切金ヲ被控訴人ヨリ預リタル旨ノ記載アルモ同號證中ニ訴外相馬政太郎モ亦牧田源太郎ニ對スル仕切金ヲ同人ノ代理トシテ預リタ

ル旨ノ記載アリ。而モ右政太郎カ被控訴人方ノ店員タル事實(同事實ハ被控訴人之ヲ認ム)ヲ参照スレハ右ノ如キ記載ハ被控訴人方ノ事務ノ取扱上客先ニ對スル各取扱者ノ何人ナルカヲ判然タラシムル爲メノ便宜ニ出テタルモノト認ムヘク同號證ノ記載ニヨリテハ杉岡顯吉ニ控訴人ヲ代理スルノ權限ナカリシモノナリトスル前認定ヲ翻スニ足ラス。松宮誠一郎喜早要人ノ各證言其他被控訴人ノ擧ケタル一切ノ證據ニヨルモ亦然リ。右認定ノ如ク訴外杉岡顯吉ニ何等控訴人ヲ代理スルノ權限ナカリシ以上ハ或ル代理權ノ存在ヲ前提トスル民法第一百條ノ規定ハ本件ノ取引ニ關シ其適用ヲ見ルノ餘地ナキモノト謂ハサルヘカラス。然ラハ則チ右顯吉カ恣ニ控訴人ノ名義ヲ以テ被控訴人ニ爲シタル前示係争ノ各轉賣並ニ賣付ノ委託ハ控訴人ニ對シ何等ノ効力ナキモノト論斷セサルヲ得ス。從テ右係争ノ轉賣並ニ賣付ニ付キ控訴人ニ於テ其實ニ任スヘキモノナルコトヲ前提トシテ爲ス被控訴人ノ抗辯並ニ反訴請求ノ認容スヘカラサルヤ言フ俟タス(大正五年ネ一四七號「株券取戻等請求事件」同六、三、一四民三判決—新聞一二五〇號一〇、最近一九卷二一六、評論六卷諸一八二、判例二卷民三九五)

東京地 取引カ客ノ代理人ナリヤ否ヤハ各場合ニ就テ之ヲ決スルノ外ナク或ハ客ノ代理人タルコトアルヘク或ハ客ノ代理人タラサルコトアルヘシ。一切ノ場合ヲ舉ケテ悉ク取引カ客ノ代理人ナリト謂フカ如キ慣習ノ東京株式取引市場ニ於テ存在スル事實ニ至ツテハ寧スル慣習ノ存在セサルコト當裁判所ニ顯著ナリト謂フヘキヲ以テ之ヲ認容スルヲ得ス。而シテ取引カ客ノ代理人ナル場合ニ於テハ仲買人ヨリ客ニ對スル追證據金ノ請求ハ客引ニ對シテ之ヲ爲スヲ妨ケサルコトアルヘシト雖モ然モ客引カ客ノ代理人ニアラサル場合ニ於テモ尙且仲買人ヨリ客ニ對スル追證據金ノ請求ハ之ヲ客引ニ對シテ爲スヲ以テ足ルト云フカ如キ慣習ノ東京株式取引市場ニ於テ存在スル事實ニ至リテハ是亦寧スル慣習ノ存在セサルコト當裁判所ニ顯著ナリト謂フヘキ結果之ヲ認容シ難シ(大正三年ワ一六六一號「株式取引計算金請求事件」民二判決—評論四卷商三三六)

東京控 株式市場ニ於ケル取引ハ仲買人ニ屬シテ客ヲ仲買人ニ誘致スルモノニシテ時トシテハ客ノ代理トシテ取引スルコトアルヘキモ常ニ必スシモ然ラスシテ客ノ代理人ナルヤ否ヤハ各個ノ取引ニ付テ定マルモノナリ。取引カ客ノ代理人ナラサル場合ニ於テ仲買人ヨリ客ニ對スル追證據金等ノ

外交員ノ代理
委託者ノ代理
取引ノ代理
委託者ノ代理
取引ノ代理
委託者ノ代理
取引ノ代理

外交員ノ代理
委託者ノ代理
取引ノ代理
委託者ノ代理
取引ノ代理
委託者ノ代理
取引ノ代理

ザル外交員
ニ對スル追
證據金ノ請
求

請求ハ之ヲ客引ニ爲スヲ以テ足ルトノ慣行存セス

(判決理由) 控訴人カ本件株式ノ買付ヲ爲シタル後其相場低落シ大正三年八月三日ニ於テハ岡茂一郎ニ於テ當初ノ約旨ニ從ヒ追證據金ヲ差入ルヘキ程度ニ下落シタルコト及ヒ控訴人ニ於テ岡茂一郎ヲ誘致シタル取引吉田幹三ニ對シ同日岡茂一郎ニ追證據金ノ差入方ヲ請求スヘキコトヲ委囑シ翌四日轉賣手仕舞ヲ爲シタル事實ハ乙第一號證同第二號證同第四號證人吉田幹三ノ證言ニ依リテ明カナリト雖モ吉田幹三ノ證言其他控訴人提出ノ證據方法ニ依ルモ右請求ノ通知カ岡茂一郎ニ到達シタル事實ヲ認メ難キヲ以テ客引吉田幹三ヲ通シテ岡茂一郎ニ追證據金ノ差入方ヲ請求シタルトノ控訴人ノ主張ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス。次ニ東京株式取引所ノ市場ニ於テ客引ハ自己ノ誘致シタル客ノ代理ナリトスル慣習並ニ仲買人ハ客ニ對シテ追證據金ノ差入方ヲ請求スルニハ客引ニ爲スヲ以テ足ルモノナリトノ慣習アル事實モ控訴人提出ノ證據方法ニ依リテハ之ヲ認メ難キノミナラス鑑定人小布施新三郎ハ「客引(或ハ外交員ト稱ス)ハ普通一人ノ仲買人ニ專屬シ客ヨリ注文アリタル取引ヲ仲買人ニ照會スルモノニシテ客引カ客ヲ明示セスシテ取引スルトキハ追證據金其他取引ニ關スル一切ノ請求ハ客引ニ爲スヲ以テ足ルモノ若シ客引ヲ明示セルトキハ先ツ客引ニ對シテ右ノ請求ヲ爲シ手仕舞ヲ爲ス場合ニ於テハ常ニ客ニ對シテ其旨ヲ明示シタル後其處分ヲ爲スヘキ慣行ナル旨」陳述スルニ依テ看レハ株式市場ニ於ケル取引ハ仲買人ニ屬シテ客ヲ仲買人ニ誘致スルモノニシテ時トシテハ客ノ代理トシテ取引スルコトアルヘキモ常ニ必スシモ然ラス。客ノ代理人ナルヤ否ヤハ各個ノ取引ニ付テ定マルモノニシテ客引カ客ノ代理人ナリトノ慣行カ東京株式取引所ノ市場ニ存セサル事實明カナルノミナラス取引カ客ノ代理人ナラサル場合ニ於テモ仲買人ヨリ客ニ對スル追證據金等ノ請求ハ之ヲ客引ニ爲スヲ以テ足ルモノナリトノ慣行カ存セサル事實ヲ認ムルニ足ル。鑑定人有松尚龍ノ陳述スルコトハ東京米穀取引市場ニ於ケル慣行ナレハ該鑑定ニ依リテハ前掲ノ斷定ヲ覆ヘスニ足ラス。本件取引ニ付キ吉田幹三カ客引トシテ斡旋シタル事實ハ當事者間爭ナシト雖モ同人カ岡茂一郎ノ代理人トシテ取引セル事實ハ控訴人提出ノ證據方法ニ依ルモノ之ヲ認メ難キノミナラス却テ事件ノ取引主力岡茂一郎ナルコトハ當初ヨリ控訴人ニ於テ知悉シ居リタル事實ハ證人吉田幹三ノ證言ニ依リテ明カナレハ控訴人カ岡茂一郎ニ對シテ追證據金ヲ請求シタルトノ主張ハ到底之ヲ採用スルヲ得サルモノトス。然ラハ控訴人カ大正四年八月三日株式ヲ轉賣手仕舞ヲ爲シタルハ不法ニ歸シ同年九月二十七日岡茂一郎ヨリ轉賣手仕舞ノ委任アリタルコトハ甲第一號證ニ依リテ明カナレハ控訴人ハ其委任ヲ實行スルノ義務アリト言フヘク其之ヲ實行セサルハ義務不履行ニ歸スルヲ以テ之ニ因リテ岡茂一郎ノ被リタル損失ハ控訴人ニ於テ賠償スルノ責任アリト言ハサルヘカラス(大正五年ネ五五七號「株式取引計算金請求事件」同六、二、二民三判決—新聞一二二八號二四、同一三四一號二〇、評論六卷諸四八、判例二卷民二八八)

外交員ノ代理
關係ノ認定
委託者ノ代理
人ニテアリ
ザルニテ
引對スル
ニ對スル
金支拂ノ計算

*原審—東京地、大正四、九、三〇判決

大阪區 被告取引員ハ本件外交員ハ建玉ノ申出及手仕舞ノ申出竝ニ證據金ノ差入、客ニ交付セル取引内容及計算關係ヲ記載セル通帳ノ保管ニ付テハ客ノ代理權ヲ有シタルモノナルカ故ニ計算金殘額受領ニ付テモ亦代理權アリタリト信スヘキ正當ノ理由アリタル旨抗爭スルモ之ヲ認ムヘキ證據ナシ 被告取引員ハ右通帳ヲ提出シテ計算金ノ支拂ヲ求ムル者ニ對シテハ本人ノ代理人ナリト認ムヘキ商慣習アリト抗爭スルモ認メ得ス

(判決理由) 原被告間ニ原告主張ノ取引委託ノアリタルコト及其結果被告ヨリ原告ニ對シ金三千二百八十圓十九錢ヲ支拂フヘキ關係トナリ内二千八百二十圓二十六錢ハ既ニ支拂濟ナルコト竝ニ殘額四百五十九圓九十三錢(本訴請求金)ニ付被告ハ訴外海老奈良藏ナル者ニ交付シタルコト而シテ同訴外人ハ當時被告方外交員ナリシコトハ當事者間爭ナキトコロナリ 從テ本件爭點ハ右海老奈良藏ニ對シ被告ノ交付シタル金四百五十九圓九十三錢ハ原告ニ對スル支拂金トシテ有効ナリヤ否ヤノ一點ニ存スルモノトス 被告ハ右金員受領ニ付海老奈良藏ハ原告ノ代理人ナリシ旨及假ニ右受領行爲ニ付原告ノ代理權ナカリシモノトスルモ本件委託ニ係ル建玉ノ申出及手仕舞ノ申出竝ニ證據金ノ差入、被告ヨリ原告ニ交付セル本件取引ニ付其内容及計算關係ヲ逐一記載セル通帳ノ保管ニ付テハ原告ノ代理權ヲ有シタルモノナルカ故ニ右殘金受領ニ付テモ亦代理權アリタリト信スヘキ正當ノ理由アリタル旨抗爭スルモ證人江見壽太郎ノ此點ニ關スル證言ハ未タ以テ確證ト爲シ難ク其他ニ之ヲ認ムヘキ證據ナク却テ證人海老奈良藏ノ證言及原告本人訊問ノ結果ニ依レハ之等事項ハ被告ノ外交員タル關係上被告ノ使者トシテ之ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トスヘシ 尤モ前記通帳ヲ同訴外人ニ於テ保管シ居リタルコト及同訴外人ノ右殘金費消ニ付同訴外人ヨリ原告ニ對シ示談の申込ノアリタルコトハ之等證據ニヨリ之ヲ認メ得ヘキモ前者ハ同訴外人カ被告ヨリ原告ニ交付スヘキコトヲ命セラレタルニ拘ラス之ヲ原告ニ交付セシメシテ據ニ自己ノ手許ニ保管シ居リタルニ過キシテ原告ヨリ保管ヲ託サレタルニ非ス 又後者ハ原告トシテモ兎モ角支拂ヲ受クレハ事足ルノ見地ヨリ同訴外人ヨリノ示談の申込ニ一時請求ヲ延期シタルニ過キシテ既ニ受領シタル自己ノ金員ヲ費消セラレタルモノトシテ示談申込ヲ爲シタルニ非サルコトモ亦之等證據ニヨリ明瞭ナルカ故ニ之等ノ事實ハ前記認定ニ對シ何等ノ影響ヲ來ササルモノトス 右ノ外被告ハ前記通帳ヲ提出シテ計算金ノ支拂ヲ求ムル者ニ對シテハ本人ノ代理人ナリト認ムヘキ商慣習アリ 本件ニ付テモ同訴外人ハ通帳ヲ提出シテ計算金ノ殘額ヲ要求シタルモノナルハ右慣習上本人タル原告ヨリ請求アリタルト同一ノ効果發生スル旨抗爭スルモノ之ヲ認メ得ヘキ證據ナキヲ以テ之レ又採用スルニ由ナシ 而シテ右殘金ハ計算終了ト同時ニ支拂ハルヘキモノニシテ同

計算ハ既ニ昭和十一年七月二十一日ニ終了シタルコトハ被告ニ於テ認ムルトコロナリ 仍テ被告ニ對シ右殘金四百五十九圓九十三錢ヲ未タ受領セサルモノトシテ同金員及之ニ對スル昭和十一年七月二十一日ヨリ完済迄年六分ノ損害金ノ支拂ヲ求ムル原告ノ本訴請求ヲ正當トス(昭和十一年ハ九八九九號「株式委託清算取引計算金事件」同一二、九、一一判決—新報四八四號二一)

大審院 上告人カ原審ニ於テ外交員甲カ委託者乙ノ代理人トシテ上告人ニ取引委託ノ注文ヲ爲スヘキ權限ヲ有シタル旨ノ主張事實ニ付甲號證ヲ證據トシテ援用シタルニ拘ラス原判決ハ同證ニ付何等說明ヲ與ヘスシテ外交員甲カ斯ル權限ヲ有シタルコトハ之ヲ認メ難ク却テ斯ル權限ヲ有シタルモノニ非スト認定シタルハ違法ナリ

外交員ノ代理
關係ノ認定
委託者ノ代理
人ニテアリ
ザルニテ
引對スル
ニ對スル
金支拂ノ計算

(上告理由) 上告人ハ原審ニ於ケル抗辯トシテ株式取引ノ委託契約ニ付仲買人ト客トノ間ニ外交員カ介在スル場合ニ其ノ者カ仲買人ノ代理人ナリヤ客ノ代理人ナリヤノ判斷ハ要スルニ該外交員カ各個ノ具體的事實關係ニ照シ仲買人ニ近キ關係ニアリヤ客ニ近キ關係ニアリヤ換言スレハ客ノ方面ヨリ觀テ客カ外交員其ノ者ヲ信用シ之ヲ介シテ委託ヲ爲シタルヤ又ハ外交員ノ屬スル仲買人ヲ信用シ外交員ヲ介シテ委託ヲ爲シタルヤ若ハ仲買人ノ方面ヨリ觀テ仲買人カ外交員其ノ者ヲ信用シ之ヲ介シテ客ノ委託ヲ受ケタリヤ又ハ客本人ヲ信用シ外交員ヲ介シテ客ノ委託ヲ受ケタリヤニ依リテ之ヲ決スヘキモノニシテ大正三年取引所法ノ改正ニ依リ制度上外交員カ必ス特定ノ仲買人商店ニ專屬シ其ノ店員タルヘキコトトナリタレハトテ右制度ハ單ニ外交員取締ノ趣旨ニ出テタルモノニ過キシテ外交員カ仲買人ノ店員タルノ故ヲ以テ商法第三十四條ノ推定規定ノ例外トシテ常ニ必ス之ヲ仲買人ノ代理人ト推定シ若ハ看做スヘシトノ何等特別規定若ハ慣習存スルモノニアラス 而シテ客ト仲買人トノ間ニ介在シタル外交員カ客ニ近キ關係ニアリ場合即客カ外交員其ノ者ヲ信用シ之ヲ介シテ仲買人ニ委託ヲ爲シ仲買人モ亦外交員其ノ者ヲ信用シ之ヲ介シテ客ノ委託ヲ受ケタル場合ハ寧ろ其ノ外交員ヲ客ノ代理人ト認ムヘキモノナルコト且客カ直接仲買人ノ店ニ出入セス常ニ外交員ヲ經由シテ委託ヲ爲シ證據金ノ差入損益計算金ノ授受等迄外交員ニ委セ直接自ラ店トノ間ニ授受スルコトナキ場合ノ如キハ客カ外交員ヲ信用シ居ル一例ナルコトヲ主張シ且立證(乙第三十四號證ノ二、三及乙第三十五號證等)シ然シテ本件上告人ト被告ト被上告人先代トノ買賣委託ニ付テハ右先代ハ元來五味五六專屬ノ客ニシテ上告人トハ一面識モナク大正八年中右五味ノ手引ニ依リ初メテ上告人商店ニ株式定期賣買ノ委託ヲ爲スニ至リタルモノナルトコロ其ノ後約一年間數十回ノ各委託ニ付右五味ハ常ニ其ノ間ニ介在シ證據金代用ノ差入利益計算金ノ授受等總テ右五味ニ委セ被上告人先代ハ一回タリトモ直接上告人商店ニ來リ自ラ賣買ノ注文ヲ爲シ若ハ金錢ヲ受領シタル事例ナク電話應接ニ付テモ上告人商店ニ於テハ必ス右五味カ出テ之ニ當リ他ノ店員ハ總テ被上告人先代ヲ識ラス當時上告人商店ノ支配

九日原告等カ更ニ被告ヨリ同株十株ヲ一株金十六圓五十錢ニテ買受ケ之ト併セテ四十株ノ引渡ヲ受ケタル事實竝ニ同株ノ時價一株金二十七圓五十錢ナルコトハ當事者間ニ爭ナシ 而シテ原告等ハ前記株式ノ受渡ノ衝ニ當リシ訴外稻熊萬太郎ハ被告ノ店員ナリト主張スレトモ同人カ被告ノ外交員ニシテ而モ被告ヨリ手數料ノ歩合ヲ收受スルニ過キサルモノナルコトハ證人大原義光ノ證言ニ徴スルモ明白ナルトコロニシテ原告等ノ全立證ニ依ルモ右認定ヲ覆スニ足ラス 然レトモ右萬太郎カ被告ノ店員ニ非スシテ其外交員ナル一事ニ依リ同人カ原告等ノ代理人トシテ本件取引ニ關與シタルモノト認ムヘキニ非ス 蓋シ外交員カ客ノ代理人ナルヤ將又取引員ノ代理人又ハ其使用人ナルヤハ外交員タル資格ノミニ依テ決シ難ク各個ノ具體的取引ヲ觀察シ該取引ニ對スル關與ノ形式、程度等換言スレハ其外交員ハ孰レノ指揮命令ニ服シタルヤ又當事者ハ外交員ニ信用ヲ措キ其取引ヲ託シタルヤ或ハ取引員ト其外交員トノ間ニ選任監督ノ關係アリヤ等ノ諸點ニ付仔細ニ之ヲ検討スルノ外他ニ決定ノ標準ヲ求メ難キニ依ル 今本件ニ付之ヲ看ルニ成立ニ爭ナキ甲第一號證ノ二同第二號證ノ一乃至三同第五號證ノ一乃至四同第六、七號證竝ニ證人稻熊萬太郎ノ證言(第一、二回)ニ徴シ其成立ヲ認メ得ヘキ同第一號證ノ一ヲ綜合シ且原告近藤富登本人ノ訊問ノ結果ヲ參酌スレハ原告等ハ愛知電氣鐵道株式會社有松驛々員ニシテ從來株式ノ賣買ニ就テハ何等ノ智識經驗ヲ有セス偶々昭和六年十月九日同會社櫻驛々長杉山鐵次郎カ原告等ニ對シ株式ノ格安有望ナルコトヲ傳ヘテ其買入ヲ勸誘シ且從來被告ト取引ヲ繼續シ來レル事情ヲ申添ヘテ其趣旨ヲ書面ヲ訴外稻熊萬太郎ニ持參セシメ且同人ハ原告等ニ對シ「名古屋株式取引所取引員橋本逸男商店」ナル名刺(甲第一號證ノ二)ヲ差出シタル爲原告等ハ右萬太郎カ被告ノ店員ナリト信シタルモ其際ハ右萬太郎トノ商議ヲ差控ヘ翌日原告等自ラ被告ノ營業所ニ赴キ日本電力株買入ノ交渉ヲ爲シ一株金十九圓九十五錢ニテ四十株ノ買注文ヲ爲シ手附金六十圓ヲ差入レ被告名義ノ賣渡約定證(甲第二號證ノ一)ノ交付ヲ受ケタルモ其後引渡期限ノ一週間ヲ經過スルモ之カ引渡ナキ爲原告富田喜藏ハ被告營業所ニ赴キ其引渡ヲ督促シタルトコロ被告ハ同月二十二日ニ至リ訴外稻熊萬太郎ヲシテ同株十株ヲ原告等ノ許ニ持參セシメタルヨリ原告等ハ其引渡ヲ受ケ其代金百九十九圓五十錢ヲ支拂ヒ同人ヨリ被告名義ノ受領書(甲第二號證ノ二)ノ交付ヲ受ケ尙殘株三十株ニ付テハ被告ハ同月二十九日右萬太郎ヲシテ同株四十株ヲ原告等ノ許ニ持參セシメ契約外ノ十株ニ付テモ其買受方ヲ交渉セシメタルモ引渡期限ヲ過クルコト十餘日而モ株價暴落ノ際ナリシカハ原告等ハ其引受ヲ拒ミタル爲右萬太郎ハ其内十株ハ契約價值ニテ他ハ一株金十六圓五十錢ニテ賣買ヲ承諾シ其代金百九十四圓五十錢(手附金共)ヲ受取り其際原告等ヨリ先ニ引渡シタル十株ト併セ同株券五十株ノ名義書換手續ヲ委託セラレタルモ其後同株券ノ返還ヲ爲ササル爲原告等ハ被告營業所ニ赴キ之カ督促ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘク斯ル事實關係ニ徴スレハ訴外稻熊萬太郎カ原告等ノ代理人トシテ本件株式ノ賣買取引ニ關與シタルモノト認メ得サルノミナラス前記甲第一號證ノ一成立ニ爭ナキ甲第一號證ノ二同第五號證ノ一、四同第六、七號證竝ニ證人稻熊萬太郎ノ證言(第一、二回)ヲ綜合スレハ訴外稻熊

萬太郎ハ昭和四年中被告ノ募集廣告ニ依リ被告ノ從屬的外交員トシテ履ハレ平素取引上「名古屋株式取引所取引員橋本逸男商店」ナル名刺及叙上記載ヲ肩書トシ稻熊萬太郎名古屋市中區南大津町二丁目十三番地(被告營業所々在)ト印刷セル名刺ヲ使用ヲ許容セラレ顧客中ニモ右萬太郎ヲ橋本様ト呼ブ者アリシ事實竝ニ被告ハ昭和六年十月二十九日原告等ニ對シ殘株三十株ノ引渡ヲ爲スニ際シ右萬太郎ヲシテ同株四十株ヲ原告等ノ許ニ持參セシメ契約外ノ十株ニ就テモ之カ買受方ヲ原告等ニ交渉スヘキ旨命シタル事實ヲ認メ得ヘキカ故ニ右萬太郎ハ被告ノ從屬的外交員ニシテ而モ本件取引ノ一切ニ就テハ被告ノ使用人トシテ行動シタルモノト謂ハサルヘカラス 蓋シ民法第七百十五條ニ所謂使用者タルハ被用者トノ間ニ民法ニ所謂僱傭契約ノ存在ヲ要件トセス 一方カ他方ヲ選任シ且指揮監督ヲ爲ス地位ニアル以上其者ハ使用者ニシテ其關係ノ繼續的ナルト否トハ之ヲ問フノ要ナキモノト解セサルヘカラス 若シ然ラストセシカ株式賣買ノ如ク敏速ヲ要スル取引ニアリテ顧客ハ常ニ其店員ナルヤ外交員ナルヤヲ取引員ニ就キ確認スルノ要アルヘク斯クテハ取引ノ安全ヲ阻害スルコト甚シクハナリ 茲ニ於テカ東京株式取引所々屬取引員カ大正三年九月以來從屬的外交員ヲ一齊ニ店員トシテ處遇スルニ至リタルコトモ亦故ナキニアラサルヲ察知スルニ足ル 尙株式ノ現物賣買ニ於テ其受渡ニ際シ客ノ希望ニ依リ取引員ニ於テ株券ノ名義書換ノ委託ヲ受クルコトハ方今一般ニ行ハルル事例ナルコトハ成立ニ爭ナキ甲第七號證及證人稻熊萬太郎ノ證言(第二回)ニ徴シ明白ナルトコロニシテ而モ當裁判所ニ顯著ナル事實ナリ 從テ右萬太郎カ同年十月二十九日株券引渡ニ際シ原告等ヨリ其名義書換手續ノ委託ヲ受ケタルハ當然被用者タル右萬太郎ノ職務範圍ニ屬スヘキモノトス而モ前記證人ノ證言(第一回)ト成立ニ爭ナキ甲第六、七號證ニ依レハ右萬太郎ハ名義書換ノ爲委託セラレタル同株五十株ヲ即日被告ニ交付シ其名義書換ヲ託シタルモ其後被告ニ於テ同株ヲ一株十六圓五十錢ニテ原告等ニ賣却シタル爲生シタル差損金六十九圓ノ辨償方ヲ右萬太郎ニ迫リタル爲同人ハ其檢出ニ窮シ原告等ノ指圖ニ依ルモノノ如ク申許リ一旦名義書換ノ爲被告ニ託シタル株券五十株ヲ證據金代用トシテ原告富田喜藏名義ヲ藉リテ擅ニ短期取引ヲ爲シ之カ爲生シタル損失金填補ノ爲同年十一月月上旬十株ヲ時價一株十五圓三十錢ニ賣却シ内四十株ヲ時價一株十七圓九十錢ニ賣却シタル事實竝ニ右萬太郎ノ申出ニ依リ被告ハ漫然同株券ヲ同人ニ交付シタル事實ヲ認メ得ヘキカ故ニ右株券ノ返還不能ノ爲原告等ノ蒙リタル損害ハ被告ニ於テ賠償ノ責アルモノト謂ハサルヘカラス 證人稻熊萬太郎ノ證言(第一、二回)中叙上各認定ニ副ハサル部分ハ措信シ難ク鑑定人河瀬文一ノ鑑定ノ結果ハ之ヲ採用セス 其他被告ノ全立證ニ依ルモ右認定ヲ覆スニ足ラス 被告ハ原告等ト訴外稻熊萬太郎間ニ示談契約成立シ金百六十五圓ヲ内入辨濟シタリト主張スルモ其交渉ノ不調ニ歸シタル事實ハ證人大原義光ノ證言ニモ明白ナルトコロニシテ而モ前記金百六十五圓ハ原告等カ同年十月二十九日更ニ同株十株ノ買注文ヲ爲シ其代金トシテ訴外稻熊萬太郎ニ交付セラレタルモノヨリ原告等ニ返還シタルモノナルコト成立ニ爭ナキ乙第一號證及證人稻熊萬太郎ノ證言第一、二回ニ徴シ明瞭ナレハ右抗辯ハ理由ナシ 依テ其損

害額ニ付審究スルニ原告等ハ本訴株券ノ買入價格ヲ以テ之カ算定ヲ爲スモ代替物ニ在リテハ一般市場價格ヲ以テ之カ標準ト爲スヘク而モ其被害當時ニ於ケル市場價格カ原告等ノ買入價格ヨリモ著シク低落セルコトハ前叙ノ如クナルモ本件訴訟ノ最終口頭辯論期日ニ於ケル市場價格カ一株金二十七圓五十錢ナルコトハ被告モ亦認ムルコトハ其範圍内ニ於ケル原告等ノ本訴請求額ハ全部正當ナリトシテ之ヲ認容スヘキモ本件訴訟送達ノ日ノ市場價格ニ就テハ原告等ニ於テ其立證ヲ爲ササル依リ之カ遅延損害金ニ付テハ本件最終辯論期日ナル昭和七年十一月十八日ノ翌日以降完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニ依ルヲ相當ト認ムヘク其餘ノ部分ハ之ヲ棄却スヘキモノトス(昭和七年ハ九三七號「損害賠償請求事件」同七、一二、五判決―新聞三五〇二號五、評論二二卷民二三八)

東京民地 本件ノ如キ事情ノ下ニ爲サレタル取引ニ於テハ甲ハ委託者ノ代理人ト解スルヨリハ寧ロ取引員ノ代理人トシテ委託者ヨリ委託ヲ受ケ之ヲ應諾シ取引員ニ通シタルモノト認ムルヲ相當トス

(判決理由) 窪田彌一ハ元東京株式取引所ノ取引員ニシテ控訴人(取引員)トハ同僚ノ關係ニアリタルモノナルコト同人ハ大正十四年中取引員ヲ廢業シタルモ其後控訴人方ニ出入シ其客員トシテ專屬外交員ト同様ノ仕事ニ從事シ居リタルコト窪田カ本件取引ニ關シテ爲シタル被控訴人「委託者」宛ノ信書ハ控訴人方ノ用紙ヲ使用シ居ルコト本件(一)ノ取引ハ被控訴人カ右窪田ト同道シテ控訴人方ニ至リ右窪田ヲ通シテ委託セラレタルモノニシテ且右取引ニ基ク前記益金並ニ證據金等合計金六百五十四圓五十錢モ亦被控訴人自身控訴人方ニ赴キタル際ニ受授セラレタルモノナルコト並ニ被控訴人カ窪田ヲ知ルニ至リタルハ昭和五年四月中ニシテ(一)取引ノ直前一瀆貫一ノ紹介ニヨルモノニシテ其以前ニ於テハ全然面識サヘナキモノナリシコト被控訴人ヨリ窪田ニ對スル通信ハ控訴人方ノ同人宛ニ爲サレ居リタルコトヲ認メ得ヘク右ノ如キ事情ノ下ニ於テ爲サレタル(一)乃至(三)ノ取引ニ於テハ窪田彌一ハ被控訴人ノ代理人ト解スルヨリハ寧ロ控訴人ノ代理人トシテ被控訴人ヨリ右取引ニ關スル委託ヲ受ケ之ヲ應諾シ控訴人ニ通シタルモノト認ムルヲ相當トスヘキノミナラス被控訴人ハ昭和五年八月十七日付書面ヲ以テ右窪田ニ對シ右(二)(三)ノ買建株ヲ手仕舞シ清算取引ヲ打切ルヘキ旨通知シタルコト右窪田ハ前記ノ如ク(二)(三)ノ手仕舞方ハ控訴人ニ通知シタルモ其後被控訴人ノ委託ニ基カスシテ擅ニ(四)(五)ノ委託アリタル如ク控訴人ニ通知シタルモノナルコトヲ認ムルニ足リ前記證人上野龜吉、泉章三郎、窪田彌一(原審第一、二回及當審)ノ證言中右認定ニ反スル部分ハ輒ク信ヲ措キ難ク其他右認定ヲ覆スニ足ル指信スヘキ證據ナシ 次ニ控訴人ノ(ハ)ノ主張ニ付按スルニ右窪田ニ(一)乃至(三)ノ取引ニ付被控訴人ヲ代理スル權限アリタルコトノ認メ得ヘカラサル前叙ノ如クナル本件ニ於テハ右事實ノ存在ヲ前提トスル控訴人ノ此點ニ關スル主張モ亦之ヲ採用スルニ由ナシ從テ(四)(五)ノ取引ニヨリ被控訴人カ控訴人ニ對シ其主張ノ如キ損害債務ヲ負擔セリトノ控訴人ノ主張モ亦理由ナキニ歸ス

外交員ヲ取引員ノ代理キ場合ト認ムベキ

外交員ヲ取引員ノ代理キ場合ト認ムベキ
引員ノ代理キ場合ト認ムベキ
人ト認ムベキ
キト認ムベキ
外員ノ代理キ場合ト認ムベキ
事由ニ因ル
二難スベキ
履行不能ト
證據金返還
請求

而シテ前記(二)(三)ノ取引ニヨリ被控訴人カ控訴人主張ノ如キ損害債務ヲ負擔シタルコトハ前叙ノ如ク被控訴人ノ認ムルコトコトナルモ右ハ被控訴人ヨリ差入レアル證據金千圓ヲ以テ當然充當セラルヘキモノニシテ控訴人モ之ヲ右金千圓ヨリ差引キ本訴ニ於テ此部分ノ請求ヲ爲シ居ラサルコト明ナリ 以上ノ理由ニヨリ控訴人ノ本訴請求ハ到底失當ニシテ棄却ヲ免レサルニヨリ右同趣旨ニ出テタル原判決ハ洵ニ相當ニシテ本件控訴ハ理由ナシ(昭和一〇年レ一〇七三號「株式長期買買清算取引損害請求控訴事件」同二、八、四第五部判決―新聞四一七六號一八)

大阪地 外交員カ取引當時常ニ取引員ノ店舗ニ出入シ自ラ其ノ外交員ナリト稱シテ委託者ヨリ委託ノ注文ヲ受ケ其ノ他證據金等ノ受渡ヲ爲シ取引員ニ於テモ亦之ヲ許容シ居タルトキハ當該外交員ハ形式上取引員ノ店員タルト否トニ拘ラス委託注文ノ受領證據金ノ受渡等ニ關シテハ取引員ヨリ其ノ代理權ヲ授與セラレタルモノト認ムヘク委託者ヨリ特ニ代理權ヲ授與セララルカ又ハ兩者間ニ密接ナル關係アルコトノ認メラレサル限り之ヲ委託者ノ代理人ナリト認ムヘキモノニ非ス

(判決理由) 被告カ株式會社大阪株式取引所取引員ナルコトハ當事者間爭ナシ 而シテ成立ニ爭ナキ甲第一號證人井上源司ノ證言ニ據リ全部眞正ニ成立シタリト認ムル甲第三乃至第六號證人泉喜之介ノ證言ニ據リ其ノ成立ヲ認メ得ヘキ甲第十五號證人泉喜之介ノ證言及原告三谷伊藏本人訊問ノ結果ニ據レハ原告兩名ハ共同シテ昭和十二年九月三日安宅民藏ナル假名ニテ被告店員ナリト稱スル訴外井上源司ニ對シ短期清算取引ニ於テ鐘ヶ淵紡績株式二百株ヲ買建スヘキ旨ノ注文ヲ爲シ其ノ證據金代用トシテ同訴外人ヲ通シ被告ニ對シ株式會社三和銀行第二新株式五百株ヲ交付シタルモ被告ハ右委託ニ係ル取引ノ實行ヲ爲ササリシコトヲ認メ得ヘシ 被告ハ右事實ヲ否認シ安宅民藏ハ右以外ニ數回ニ亘リ清算取引ノ委託ヲ爲シ其ノ損失金及拂渡金アル外右株券ニテ擔保セラレヘキ約ナル訴外泉喜之介ノ計算尻債務アレハ右株券ヲ返還シ得スト主張スルヲ以テ按スルニ此ノ點ニ關スル甲第七號證及第十一號證ノ各二乙第一、二號證並證人井上源司、小谷繁一、河村末吉ノ各證言ハ當裁判所ノ輒ク措信シ難キトコロニシテ他ニ右認定ヲ覆シテ右被告主張事實ヲ認ムルニ足ル證據ナク前顯甲第四乃至第六號證成立ニ爭ナキ甲第九、十號證證人泉喜之介ノ證言ニ據リ全部眞正ニ成立シタリト認ムル甲第八號證ニ右泉證人ノ證言及原告三谷伊藏本人訊問ノ結果ヲ綜合シテ考覈スレハ原告等ハ被告主張ノ如キ清算取引ノ委託及前渡金ノ受領ヲ爲シタルコトナク又原告三谷伊藏ハ右泉喜之介ノ被告ニ對シ清算尻債務ニ對シ其ノ主張ノ如キ金員ヲ支拂ヒタルモ其ノ殘存債務ニ付テハ原告等ニ於テ右株券ヲ以テ其ノ支拂ヲ擔保スヘキ旨約シタルカ如キコトナク右各

式取引所取引員ノ外交員ナル者ハ取引員ニ從屬スルモ其ノ名稱ノ示スカ如ク店外ニ於テ客即チ委託者ト取引員トノ間ノ外交事務ヲ執行其ノ客ヲ店ニ周旋スルヲ通例トスルモノニシテ當然取引員ヲ代理シテ取引ヲ爲ス權限ヲ有スルモノニ非ス 從テ原判決認定ノ如ク外交員カ店外ニ於テ客トノ間ニ注文ヲ受ケ之ニ依リ代用證券ノ交付ヲ受クルカ如キ取引ヲ爲スノ代理權ヲ有スルモノト爲スカ如キハ取引所法第十一條ノ四ニ依リ禁止セラルル處ニシテ取引員ハ決シテ斯ノ如キ取引上ノ代理權ヲ授與シ得ヘキモノニ非ス 此ノ點ニ關シテハ未タ御院ノ判例ハ存セサルモ取引員ノ地位ニ類似スル保險會社ノ勸誘員ノ權限ニ付「保險會社ノ勸誘員ハ保險會社ノ爲保險契約ノ申込ヲ誘引スル保險會社ノ使用人タルニ過キスシテ會社ヲ代理シ保險契約申込ノ意思表示ヲ受クル權限ヲ有セサルモノト推定セラルヘキモノトス」トノ御院判例アリテ（大正五年一〇月二一日民三判決民錄二二輯一九五九）右判例ハ類似ノ地位ニ在ル取引員ノ外交員ノ權限ニ付類推セラルヘキモノト信ス 加之本件ニ於テ原審採用ニ係リ且相手方提出ノ甲第七號證同第八號證ノ一同第三十七號證ノ一ニ依レハ上告人ノ外交員ナル窪田三郎ハ單ニ顧客ヲ取引員タル上告人ニ周旋シ取引員ト客トノ間ノ賣買委託取引ノ成立ニ依リ報酬トシテ「戻リ」ト稱スル係客ノ委託手数料ノ一割五分ニ當ル口錢ノ支給ヲ受クルモノナルコト及證據金ノ不足又ハ追證ノ請求ハ係外交員ヲ經テ爲スコトアルモ右ハ單ニ店ノ意思ヲ顧客ニ傳達スル程度ニシテ對外交渉ハ店員中村信太郎ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ他金錢ノ出納一切ハ店員井上孝一ヲシテ爲サシメ證據金ノ不足又ハ追證ノ請求等帳簿ノ一切ハ店員吉田安太郎ヲシテ爲サシメ居リタルコト明カニシテ外交員窪田三郎カ上告人ヲ代理シテ法律行爲ヲ爲スノ權限アリタル事實ハ到底之ヲ認ムルヲ得サレハナリ 從テ外交員タル訴外窪田三郎カ取引員タル上告人ノ代理人ナリト謂ハシカ爲ニハ特ニ取引員タル上告人ヨリ當該取引ニ付主人ヲ代理スル權限ヲ與ヘラレタル事實アリタルヲ要スルモノト謂ハサルヘカラス 然ルニ原判決ハ何等此ノ點ニ付審理判斷スル處ナク前記ノ如ク判示シ以テ訴外窪田三郎ヲ上告人ノ代理人ナリト判斷シタルハ證據ニ基カスシテ代理權ヲ認定シタル違法アリ

（判決理由）原判決ハ其ノ舉示スル證據ニ基キ窪田三郎ハ上告人ノ使用人ニシテ其ノ外交員トシ上告人ノ爲ニ客ノ注文證據金ノ授受等ノ事項ヲ委任セラレ居タルコト而シテ本件株券モ亦同人カ右委任セラレタル事項ノ範圍内ニ於テ即チ證據金代用證券トシテ上田耕三トノ間ニ授受シタルコト竝右授受ニ關シテハ窪田三郎ニ上告人ヲ代理スルノ權限アリシコトヲ認定シタルモノニシテ原判決ノ掲ケタル證據ニ依レハ右ノ事實關係ヲ認定シ得サルニ非ス 假ニ株式取引所取引員ノ外交員ナルモノハ店外ニ於テ客即チ委託者ト取引員トノ間ノ外交事務ヲ處理シ兩者ノ取引ヲ媒介周旋スルヲ通例ト爲シ當然ニハ取引員ヲ代理シテ取引ヲ爲ス權限ヲ有スルモノニ非サルコト所論ノ如シトスルモ

原審カ證據ニ基キ本件株券ノ授受ニ付キテハ窪田三郎ニ上告人ヲ代理スルノ權限アリト認定スルニ何ノ妨ケトナルモノニ非ス 又固ヨリ商法第三十四條ヲ適用セサル不法アルコトナク取引所法第十一條ノ四ニ牴觸スルモノニ非ス（同條ハ取引員ノ使用人カ主人ヲ代理スルヲ禁スルモノニアラサルヤ論ナシ）（昭和一三年オ二三五四號「株券返還請求事件」同一四、一〇、二四民五判決一判決全集六輯一二八二）

東京民地 本件事實關係ノ下ニ於テハ取引員甲ハ乙ノ店舗ト取引ヲ爲ス第三者ニ對シ其ノ事實上ノ經營者乙ハ甲ノ營業ノ部類ニ屬スル行爲ニ付甲ヲ代理スヘキ權限ヲ有スル旨ヲ表示シタルモノト解スルヲ相當トスヘキカ故ニ甲ハ乙カ爲シタル本件株式賣買ノ受託契約證據金ノ受領其ノ他之ニ關スル一切ノ行爲ニ付民法第九條ノ規定ニ依リ其ノ責ニ任スヘキモノト謂ハサルヘカラス 東京株式取引所受託契約準則第二條ノ規定ニ基キ乙ハ委託者丙ノ代理人ト看做サルヘキモノナル旨主張スレトモ乙カ丙ヲ代理スヘキ權限ヲ有シタルコトハ之ヲ認ムルニ足ル證據ナシ 東京株式取引所受託契約準則第二條ノ規定ニ所謂他人トハ取引員ノ代理人若ハ表見代理人ヲ含マサルコト多言ヲ要セス

（判決理由）被告先代安次郎カ株式會社東京株式取引所ノ短期取引員ニシテ訴外北原千代カ右安次郎ノ外交員ナリシコトハ當事者間ニ爭ナク成立ニ爭ナキ甲第一乃至第四號證ノ各一、二、同第二十三號證ノ一證人北原千代ノ證言ニ依リ眞正ニ成立シタルト認ムル甲第五乃至第十三號證ノ各一、二、同第二十號證冒頭欄外記載部分並（濟）印ノ印影部分ノ成立ニ爭ナク其ノ餘ノ部分ニ付同證言ニ依リ眞正ニ成立シタルト認ムル同第二十一號證證人北原千代ノ證言並原告本人富水吉一ノ供述ヲ綜合スレハ原告ハ昭和十二年四月十二日北原千代ヲ通シ被告先代安次郎トノ間ニ株式短期清算取引ノ委託契約ヲ爲シ同月以降右安次郎カ廢棄シタル日ノ同年八月二日迄ノ間ニ株式會社東京株式取引所新株外數種ノ株式ニ付合計二百六十七口ノ賣買ヲ委託シ其ノ委託證據金トシテ右期間中別表記載ノ如ク十四回ニ亙リ合計金一萬三千二百五十圓ヲ其ノ都度北原千代ニ交付シタル事實ヲ認メ得ヘク證人島俊夫ノ證言中右認定ニ反スル部分ハ輕ク措信シ難ク其ノ他右認定ヲ覆スニ足ル證據ナシ 然ルニ北原千代カ右證據金中別表記載ノ（イ）乃至（ニ）ノ四回分合計金三千圓ヲ先代安次郎ニ差入レテ昭和十二年四月十二日以降同年五月十一日迄ノ間ニ僅ニ四十四口ノ賣買ヲ實行シタルニ過キサルコト右安次郎ノ同年五月十六日右取引ヲ決濟シタルトコロ金一千九百五十八圓五十八錢ノ損失トナリタルコトハ孰レモ當事者間ニ爭ナシ 原告ハ北原千代ハ株式賣買ノ受託證據金ノ受領其ノ他之ニ關スル一切ノ行爲ニ付被告先代安次郎ヲ代理スヘ

外交員ヲ取引員ノ代理
人ト認ムル
キ場合
受託契約
規定ト
外交員ノ代理
關係

キ權限ヲ有シ其ノ代理人トシテ原告トノ間ニ前示行爲ヲ爲シタルモノナリ 假ニ前掲四十四口以外ノ取引及別表記載ノ(ホ)以下ノ證據金受領カ權限外ノ行爲ナリトスルモ北原千代ハ其ノ眞實ニ代理シタル四十四口ノ取引ノ中間及之ニ繼續シテ右安次郎ノ代理人トシテ全ク右取引ト同一ノ事情ノ下ニ原告トノ間ニ其ノ委託契約並證據金ノ受領等ノ行爲ヲ爲シタルモノナレハ右權限外ノ行爲ニ關シテモ原告ハ北原千代ニ右安次郎ヲ代理スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由アリタルモノナルヲ以テ先代安次郎ハ北原千代ノ行爲ニ付其ノ責ニ任スヘキ旨主張スレトモ北原千代カ前記株式賣買ノ受託並證據金ノ受領(勿論當事者間ニ争ナキ前示四十四口ノ取引ヲモ含ム)其ノ他之ニ關スル一切ノ行爲ニ付被告先代安次郎ヲ代理スヘキ權限ヲ有シタルコトハ原告ノ提出援用ニ係ル全證據ニ據ルモ之ヲ認メ難キヲ以テ北原千代ニ右安次郎ヲ代理スヘキ一般的又ハ部分的ノ權限アリタリトシテ之ヲ前提トスル原告ノ右各主張ハ孰レモ到底之ヲ認容スルニ由ナシ 然レトモ成立ニ争ナキ第十四號證ノ一乃至四、同第十六號證ノ一乃至四、同第十七號證ノ一、二、證人三宅正一ノ證言ニ依リ眞正ニ成立シタリト認ムル甲第十八號證、原告本人富水吉一ノ供述ニ依リ眞正ニ成立シタリト認ムル甲第十五號證ノ一乃至四、證人三宅正一、同佐藤千秋、同北原千代、同島俊夫(後記措信セサル部分ヲ除ク)ノ各證言並原告本人富水吉一ノ供述ヲ綜合スレハ被告先代安次郎ハ東京市日本橋區兜町東株ビル五階五百八號室ニ於テ(ヤ)島安次郎商店ナル商號ヲ用ヒ株式会社東京株式取引所ニ於ケル實物並短期ノ取引ヲ營業ト爲シ居タルモノナルトコロ昭和十二年二月頃北原千代ヨリ株式賣買委託注文ノ取次ヲ受クルコトナリ前示五百八號室ト廊下ヲ隔テテ相對スル五百九號室ヲ自己名義ニテ賃借シテ之ヲ北原千代ニ使用セシメタルヨリ同人ハ同所ニ店舗ヲ構ヘ安次郎ニ該室ノ賃料ヲ支拂ヒ事務員數名外交員十數名ヲ使用シ右安次郎ニ保證金一萬圓ヲ差入レ事實上獨立シテ島商店ニ對スル株式委託賣買ノ取次ヲ營業ト爲スニ至リタルカ安次郎ハ北原ノ營業ヲ援助スル目的ヲ以テ前示兩室間ノ廊下ノ中央ニ自己ノ商號タル(ヤ)島商店ナル看板ヲ掲ケ且北原ノ室ニモ自己ノ店舗ニ於ケルト同様出入口扉ノ硝子戸並室内ノ硝子戸等ニモ右商號ヲ記載セシメタルノミナラス北原カ取引上使用スル株式賣買注文傳票、用箋、封筒、株式氣配狀等ニモ全部(ヤ)島安次郎商店名義ノ印刷セラレタルモノヲ使用シ且毎日右株式氣配狀ヲ自己名義ニテ北原ノ客先ニ發送スルコト並北原ノ使用スル外交員ヲシテ其ノ營業用名刺ニ島商店ノ外交員ナル旨及自己ノ營業用架設電話番號ヲ記載シタルモノヲ所持スルコト等ヲ許容シ又双方ノ店舗ニ架設セラレタル電話モ共通ニ之ヲ使用シ殊ニ取引所直通電話ニテ時々刻々ノ立會相場ヲ知ルヤ直ニ之ヲ室内電話ニヨリ北原方備付ノ黑板ニ間斷ナク之ヲ表示セシムル等北原ノ店舗カ島商店ノ一部ナルカノ如キ便益ヲ與ヘ且北原ノ營業ニ付自己ノ商號ヲ使用スルコトヲ許容シ居タル爲其ノ間北原ノ下外交員タル訴外田沼榮造ヲ介シテ北原ノ識リ北原ノ店舗ニ出入スルニ至リタル原告ハ其ノ店舗ノ外觀、店內ノ施設、従業員ノ態度等ニ照シ北原ノ店舗ハ被告先代安次郎ノ經營ニ係ルモノニシテ北原千代ハ島商店ノ事實上ノ支配人タル地位ニ在ルモノナリト信シ昭和十二年四月十二日同人トノ間ニ先代安次郎ニ

對スル株式賣買委託契約ヲ爲シ既ニ冒頭ニ於テ認定シタル如キ取引ヲ委託シ合計一萬三千二百五十圓ノ證據金ヲ北原千代ニ交付シ北原又原告ニ對シ先代安次郎名義ヲ以テ受託契約ヲ爲シ證據金受領等ノ行爲ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘク右認定ニ反スル證人島俊夫ノ證言部分ハ當裁判所ノ措信セサルトコロニシテ他ニ右認定ヲ覆スニ足ル證據ナシ 然ラハ上叙認定ノ事實關係ノ下ニ於テハ被告先代安次郎ハ北原千代ノ店舗ト取引ヲ爲ス第三者ニ對シ其ノ事實上ノ經營者北原千代ハ同先代ノ營業ノ部類ニ屬スル行爲ニ付同先代ヲ代理スヘキ權限ヲ有スル旨ヲ表示シタルモノト解スルヲ相當トスヘキカ故ニ先代安次郎ハ北原千代カ爲シタル本件株式賣買ノ受託契約證據金ノ受領其ノ他之ニ關スル一切ノ行爲ニ付民法第九百九條ノ規定ニ依リ其ノ責ニ任スヘキモノト謂ハサルヘカラス 被告ハ北原千代ハ本件取引ニ付却テ原告ヲ代理スヘキ權限アリタルモノナリ、然ラストスルモ東京株式取引所ノ取引ニ於ケル慣習ニ依リ受託契約準則第二條ノ規定ニ基キ原告ノ代理人ト看做サルヘキモノナル旨主張スレトモ北原千代カ原告ヲ代理スヘキ權限ヲ有シタルコトハ之ヲ認ムルニ足ル證據ナシ 尤モ乙第三號證ニハ「富水吉一代人北原千代」ナル記載アルモ該證ハ北原千代カ昭和十二年五月十六日原告ニ無斷ニテ前掲四十四口ノ取引ヲ決濟シタル際先代安次郎商店ニ宛テタル勘定殘金千四十一圓四十二錢ノ受領證ニ此ノ如キ記載ヲ爲シタルモノニ過キサレハ右記載ヲ以テハ未タ北原千代ニ原告ヲ代理スヘキ權限アリタリトハ做シ難シ又被告主張ノ如キ慣習存シ且受託契約準則ニ其ノ主張ノ如キ記載アリトスルモ被告ノ主張ニ係ル同準則第二條ノ規定ニ所謂他人トハ取引員ノ代理人若クハ表見代理人ヲ含マサルコト多言ヲ要セサルヲ以テ該主張モ到底理由ナク其ノ他北原千代カ原告ノ代理人トリシコトヲ肯認シテ前示認定ヲ覆スニ足ル證據ナシ 被告ハ假ニ原告主張ノ如ク本件取引ニ付北原ニ於テ被告先代安次郎ノ代理人ト認メラルヘキ事情ノ存シタリトスルモ證據金受領證ノ島商店發行ノモノニハ島商店名下ニ同商店ノ捺印アリ北原千代發行ノモノニハ總テ同人ノ署名捺印若クハ捺印アルノミニテ且兩者ノ型式相違シ居ルニ拘ラス北原千代發行ノ受領證ヲ以テ先代安次郎ノ發行ニ係ルモノナリト爲スニハ北原千代ニ先代安次郎ヲ代理スヘキ權限ナカリシコトヲ知悉シ居タルモノト謂フヘク假ニ然ラストスルモ北原千代ノ島商店ニ於ケル地位ニ付先代安次郎ニ關シタランニハ容易ニ北原千代カ無權限ナリシコトヲ知り得ヘカリシモノナレハ之ヲ知ラサルニ付原告ニ重大ナル過失アル旨主張スルヲ以テ按スルニ被告先代安次郎カ原告ヨリ四回ニ亙リ合計金三千圓ノ證據金ヲ受領シタル際ニ發行シタル受領證(成立ニ争ナキ甲第一乃至第四號證)各ニシテ別表記載ノ(イ)乃至(ニ)ニ該當)ト北原千代ノ發行ニ係ル受領證證人北原千代ノ證言ニ依リ眞正ニ成立シタリト認ムル甲第五乃至第十三號證)各ニ及同第二十號證ニシテ別表記載ノ(ホ)乃至(カ)ニ該當)トヲ對照スルトキハ兩者其ノ型式ニ於テ異ルトコロアルハ容易ニ之ヲ看取シ得レトモ兩者ノ悉クカ其ノ受取人欄ニハ(ヤ)島安次郎商店名義ノ不動文字ノ印刷セラレアリ 只後者ノ中別表記載ノ(ホ)(ハ)(テ)(リ)(カ)ニ該當ノ分即甲第五、六、八、九、二十ノ各號證ニ右島安次郎商店名義ノ次ニ北原千代ノ署名捺印アルニ過キス 總テ之

ヲ島安次郎商店ノ受領證ナリト認ムルニ何等ノ不審ナク殊ニ先代安次郎カ北原千代ノ營業ニ付自己ノ商號タル(ヤ)島安次郎商店名義ノ使用ヲ許容シ居タル事實ニ徴スルトキハ被告主張ノ如キ證據金受領證ノ型式ノ相違ヲ以テ原告ニ被告主張ノ如キ惡意アリタルモノトハ認メ難キノミナラス又北原千代カ島商店ト廊下ヲ隔テテ相對スル一室ニ店舖ヲ構ヘ安次郎ノ承諾ノ下ニ其ノ商號タル(ヤ)島商店ナル看板ヲ掲ケ店舖ノ硝子戸ニモ右商號ヲ記載シ且委託者ニ對シテ取引上使用する注文傳票、用箋、封筒、株式氣配狀等ニ右商號ヲ印刷シタルモノヲ使用シタル爲北原千代ノ店舖ハ島商店ノ店舖ノ一部ニシテ其ノ營業ハ先代安次郎ノ經營ナルカノ如キ外觀ヲ呈シタルコトハ前段認定ノ如クニシテ而モ證人三宅正一、同佐藤千秋、同北原千代ノ各證言並原告本人富水吉一ノ供述ヲ綜合スレハ島商店ニハ北原ノ外ニ外交員モ居ラス同商店ノ取引ハ殆ント總テ北原千代ヲ通シテ行ハレタル爲北原千代カ自己ノ營業ノ爲ニ雇庸シタル外交員中ノ或者モ當初ハ島商店ノ外交員ニ採用サレ同商店ノ爲ニ外交ノ事務ヲ爲スモノト誤信シタルカ如キ狀況ナリシノミナラス北原ノ店舖ニ出入スル委託者ハ勿論北原方ノ外交員中ニモ先代安次郎ノ店舖ハ同人ノ居室ニシテ北原ノ店舖ハ島商店ノ營業所ナリト思惟シ北原千代ヲ島商店ノ營業主任ナリト誤認シタル如キ狀況ノ下ニ於テ北原千代ハ島商店名義ニテ委託ノ注文ヲ受ケ之ヲ島商店ニ重シタル事實ヲ認メ得ルヲ以テ委託者ノ一人トシテ北原ノ店舖ニ出入シタル原告カ些ノ疑念ヲ挾ムコトナク同店舖ヲ先代安次郎ノ經營ニ係リ北原千代ヲ島商店ノ營業主任乃至支配人格ノ者ナリト信シ之ト取引ヲ繼續シタルトスルモ開ハ洵ニ已ムヲ得サルトコロナリト謂フヘク原告カ北原千代ト島商店トノ關係乃至同人ノ島商店ニ於ケル地位ニ付先代安次郎ニ關シササリシトテ此ノ點ニ於テ原告ニ過失アリト做シ難キヲ以テ被告主張ノ抗辯ハ理由ナシ 然リ而シテ原告カ本件訴訟ニテ被告先代安次郎ニ對シ本件株式賣買委託契約ヲ解除スヘキ旨ノ意思表示ヲ發シ(尤モ右訴狀ニハ被告先代安次郎ノ代理人北原千代ノ債務不履行ヲ理由トシテ右不履行ノ部分ニ付契約ヲ解除スル旨記載セラレアルモ株式賣買委託契約ハ債務不履行ノ存否如何ヲ問ハス何時ニテモ將來ニ向ツテ之ヲ解除シ得ヘキモノナルヲ以テ右解除ノ意思表示ハ有效ナリト爲ササルヘカラス)該訴狀カ昭和十二年九月十八日同人ニ到達シタルコトハ本件記録上明白ナレハ原告ノ被告先代安次郎ニ對スル本件委託契約ハ既ニ消滅ニ歸シタルモノナルトコロ原告カ昭和十二年十二月六日午後一時ノ本件準備手續期日ニ於テ被告先代安次郎ニ對シ前掲證據金總額一萬三千二百五十圓ト原告ノ負擔ニ歸シタル前示委託取引四十四口ノ清算損失金一千九百五十八圓五十八錢トヲ其ノ對當額ニ付相殺スル旨ノ意思表示ヲ爲シタルコトハ當裁判所ニ顯著ナルヲ以テ被告先代安次郎ハ原告ニ對シ右證據金ノ殘金一萬一千二百九十一圓四十二錢ヲ返還スヘキ義務アリタルコト明白ナリ 然ルニ右安次郎カ昭和十三年一月二十三日死亡シ原告カ其ノ家督相続ニ因リ右債務ヲ承繼シタルコトハ被告ノ認ムルトコロナルヲ以テ被告ニ對シ右金額及之ニ對スル本件訴訟途達ノ日ノ後タル昭和十二年九月二十日以降完済ニ至ル迄商法所定ノ年六分ノ割合ニ依リ遲延損害金ノ支拂ヲ求ムル原告ノ本訴請求ハ全部正當トシテ之ヲ認容スヘキモノトス(昭和十二年

ワ二四四七號「株式賣買委託證據金返還等請求事件」同一五、一二、二三第一五部判決—新聞四六七六號二五〇、評論三〇卷民五三九、新報六一七號一六)

專屬外交員
ト民法第百
十條ノ適用

大審院 然レトモ上告人カ原判決認定ノ如ク訴外林市兵衛ヲ其ノ專屬外交員タラシメ以テ株式賣買契約ノ締結ニ付代理權ヲ授與シ右林ニ於テ本件株式ノ賣買ヲ爲シ且該契約ノ一部履行等ニ付テモ自ラ折衝ヲ重ネ來リタル如キ事情ノ下ニ在テハ被上告人ニ於テ右林ニ本件賣買契約ノ解除ニ付テモ亦之カ代理權ヲ有セルモノト信シタルハ寧ロ相當ニシテ從テ原審カ本件ニ付民法第百十條ノ適用ヲ妨ケサル旨斷定シタルハ違法ニ非サルト同時ニ右判示ハ又必スシモ上告人引用ノ當院判例ト抵觸スルモノト謂フヘカラス 然ラハ假リニ論旨第六點所論ノ如ク訴外林ニ本件賣買契約解除ニ付テノ代理權ナキモノト解スルヲ正當トシ從テ此點ニ關スル原判示ニ所論ノ如キ間然スルトコロアリトスルモ原判決ハ結局正當ナルニ歸シ論旨何レモ採用スルニ足ラス (昭和九年オ二一六四號「值合金請求事件」同一〇、二、三三民三判決—法學四卷九號一一八一)

廣濱嘉雄氏 民法第百十條ノ適用アル場合 他人ヲ專屬外交員トシテ株式賣買契約ノ締結ニ付キ代理權ヲ授與シ右ノ他人ヲシテ株式ノ賣買ヲ爲シ契約ノ一部履行等ニ付イテモ自ラ折衝ヲ重ネテ來タヤウナ事情ノ下ニ於テハ右賣買契約ノ解除ニ付テモ亦之カ代理權ヲ有スルモノト信ジタルコトハ至當デアアル(法學五卷八號一一一八)

判例批評

專屬外交員
ノ權限者本人
ニ關スル外
委託者本人
ノ取引員
又ハ取引員
ノ誤信ノ効
果

東京控 取引員甲カ乙ヲ其ノ專屬外交員トシテ委託取引ノ勸誘ヲ爲サシメ居ル場合ニ於テハ未タ以テ外交員タル乙ニ委託取引ノ申込ヲ受領スル代理權ヲ附與シタルモノナリト謂フヲ得サルモ苟モ乙ノ勸誘ニ應シ客ヨリ同人ニ對シ委託取引ノ注文カ爲サルカ如キ場合ハ同時ニ甲ニ於テ乙ニ對シ同人カ該注文ヲ甲ニ傳達スルニ付テノ所謂意思表示受領ニ關スル使者權ヲ與ヘ居ルモノト解スルヲ相當トス 故ニ一旦甲ノ使者タル乙ニ對シ客タル丙カ取引上丁綿糸店名義ヲ用フルトシテモ眞實其取引カ自己本人ノ取引ナルコトヲ明示シテ委託取引ノ注文ヲ爲シタル以上乙カ使者トシテノ職責ヲ實行スルニ當リ甲ニ對シ丁ノ代理人タル丙ヨリ注文アリタル旨報告シ斯ノ如キ誤達ニ基キ又ハ甲カ

乙ノ正當ナル報告ヲ誤解シ丁ノ代理人タル丙ヨリ注文アリタルモノト信シ斯ノ如キ誤信ニ基キ甲カ實際ニ於テハ爲サレサリシ丁ノ委託取引ノ申込ヲ承諾シ取引市場ニ於テ該委託ヲ實行シタリトスルモノニ因リテハ申込ト承諾トカ合致シテ丁ト甲間ニ委託關係ノ成立スル根據ナク丁カ委託契約上ノ責任ヲ負擔スル謂ナキモノト謂ハサルヘカラス

(判決理由) 被控訴人先代津久居彦七カ栃木縣佐野町ニ本店ヲ有シ同縣足利市ニ出張所ヲ設ケ綿糸ノ販賣ヲ營ミ居タル事實右彦七ノ孫津久居勝次カ大正十五年當時彦七ノ營業ヲ手傳ヒ居タル事實及ヒ秋腰和助カ當時右彦七ノ雇人タリシ事實ハ何レモ當事者間ニ爭ナク控訴人カ東京米穀商品取引所(米穀部綿糸部穀肥部)取引員タルコトハ原審證人龜山忠三郎ノ證言ニヨリ眞正ニ成立シタリト認ムヘキ甲第五號證ノ一乃至四ニ徴シ之ヲ認定スルニ十分ニシテ同人カ清算取引市場ニ於テ原判決添附ノ別紙ノ一ニ記載スルカ如キ綿糸ノ清算取引ヲ爲シ其損益計算カ別紙ノ一ニ記載スルカ如クナリタル事實ハ亦被控訴人ノ認ムルトコロナリトス 控訴人ハ右取引ハ被控訴人ノ先代津久居彦七本人ヨリ直接委託セラレタルモノナリ(機關又ハ代理人ニヨリ意思表示ノ場合ヲ除ク)ト主張スレトモ本件ノ如何ナル證據ニヨルモ右事實ヲ認定シ得サルモノニシテ右事實ニ基キ控訴人ノ請求ハ失當ナルモノト謂ハサルヘカラス 而モ原審證人秋腰和助(第一、二回)中村仲太郎津久居韻三津久居勝次當審證人津久居勝次秋腰和助ノ各證言及當審證人大池岩雄ノ證言ノ一部(同人調書二枚目表六行目ヨリ十二行目迄)ヲ綜合スレハ右取引ハ當初大正十五年五月頃控訴人方ノ外交員タル龜山忠三郎カ被控訴人先代ノ營業ヲ手傳ヒ居タル右津久居勝次ニ對シ綿糸ノ清算取引ヲ爲スヘキコトヲ勸誘シ右勝次ニ於テモ彦七ノ雇人秋腰和助ト相談ノ上龜山ノ勸誘ニ從ヒ自己名義ヲ以テカ取引ヲ爲スコトヲ決意シタルモ右清算取引ヲ爲シタルコトヲ祖父ノ彦七又ハ父韻三ニ知ラルルニ於テハ不都合ノ生スル虞アリシヲ以テ右取引ニ付テハ表面上特ニ津久居勝次名義ヲ用ヒス彦七ノ出張所タル足利市通三丁目ニ所在スルモノトシテ津久居綿糸店名義ヲ用ヒルコトトシ豫メ龜山ノ了解ヲ得右名義人ニ宛テラレタル取引上ノ通信ハ足利市ニ開催セラレル綿糸實物取引ノ市日毎ニ右出張所ニ出張スルコトニナリ居タル津久居勝次ニ於テ之ヲ披見スルコトト爲シ現實具體的ノ取引ニ付テハ津久居勝次又ハ其代理人秋腰和助ニ於テ大正十五年六月十四日以降常ニ控訴人ノ店ニ電話ヲ掛ケ外交員龜山忠三郎ヲ電話口ニ呼出シ各本件委託取引ノ注文ヲ爲シ居タル事實明ナルノミナラス原審證人龜山忠三郎ノ證言及辯論ノ全趣旨ニ徴スレハ同人ハ當時控訴人方ノ專屬外交員トシテ控訴人ノ依頼ニ基キ同人ノ爲メ委託取引ノ勸誘ヲ爲シ居タルモノナル事實明ナリトス 斯ノ如ク東京米穀商品取引所ノ取引員タル控訴人カ龜山忠三郎ヲ其ノ專屬外交員トシテ委託取引ノ勸誘ヲ爲サシメ居ル場合ニ於テハ未タ以テ外交員タル右龜山ニ委託取引ノ申込ヲ受領スル代理權ヲ附與シタルモノナリト謂フヲ得サルモ苟

モ龜山ノ勸誘ニ應シ客ヨリ同人ニ對シ委託取引ノ注文カ爲サルルカ如キ場合ハ同時ニ控訴人ニ於テ龜山ニ對シ同人カ該注文ヲ控訴人ニ傳達スルニ付テノ所謂意思表示受領ニ關スル使者權ヲ與ヘ居ルモノト解スルヲ相當トス 故ニ一旦控訴人ノ使者タル龜山ニ對シ客タル津久居勝次カ前叙ノ如ク取引上津久居綿糸店名義ヲ用フルトシテモ眞實其取引カ自己本人ノ取引ナルコトヲ明示シテ委託取引ノ注文ヲ爲シタル以上龜山カ使者トシテノ職責ヲ實行スルニ當リ控訴人ニ對シ被控訴人ノ先代津久居彦七ノ代理人タル津久居勝次ヨリ注文アリタル旨報告シ斯ノ如キ誤達ニ基キ又ハ控訴人カ龜山ノ正當ナル報告ヲ誤解シ被控訴人先代津久居彦七ノ代理人タル津久居勝次ヨリ注文アリタルモノト信シ斯ノ如キ誤信ニ基キ控訴人カ實際ニ於テハ爲サレサリシ津久居彦七ノ委託取引ノ申込ヲ承諾シ取引市場ニ於テ該委託ヲ實行シタリトスルモノニ因リテハ申込ト承諾トカ合致シテ津久居彦七ト控訴人間ニ委託關係ノ成立スル根據ナク被控訴人先代津久居彦七カ委託契約上ノ責任ヲ負擔スル謂ナキモノト謂ハサルヘカラス(斯ノ如キ場合ニ於テ龜山忠三郎ヲ津久居勝次ノ使者ト解スル說ナキニアラスト雖モ斯ク解スルハ著シク事實ノ眞相ヲ曲解スルノ非難ヲ免レス 蓋シ津久居勝次ノ方面ヨリスレハ龜山ハ相手方タル控訴人ノ勸誘員ニ外ナラスシテ其選任監督ノ權ヲ專ラ控訴人ニ在リ 而モ津久居勝次カ龜山ヲ更ニ使者ニ選任シ之カ監督ヲ爲スモノナリト看ルハ事實ニ添ハス) 控訴人ハ假リニ本件取引カ直接被控訴人先代津久居彦七本人ヨリ委託セラレタルニ非ストスルモ津久居勝次及秋腰和助ハ右彦七ノ代理人ニシテ控訴人ハ右代理人ト委託取引上ノ契約ヲ爲シタルモノナルカ故ニ被控訴人ハ其責任ヲ辭スルコトヲ得サルモノナリ、假ニ津久居勝次秋腰和助ニ本件取引ニ關スル代理權ナシトスルモ控訴人ハ右勝次及和助ヲ彦七ノ代理人ト信シタルモノニシテ斯ク信スルニ付テハ正當ノ事由アルモノナリト主張スレトモ津久居勝次及秋腰和助カ右取引ニ關シ彦七ノ代理人トシテ行動シタル事實一モ存セサルコト前顯認定ニヨリ明ナル本件ニ在リテハ控訴人ノ右主張ハ何レモ採用スル限リニ在ラス 次ニ控訴人ハ大正十五年十月三十日本件取引ニヨリ仕切益金二萬二千四百九圓ヲ被控訴人先代津久居彦七ノ當座口ニ振込ムヘク株式會社安田銀行小舟町支店ニ委託シ同銀行ハ其足利支店ヲ經テ其翌日右振込アリタル事實ヲ津久居彦七ニ通知シ同人ハ茲ニ自己ノ店務ヲ處理シ居タル津久居勝次及秋腰和助カ彦七ノ商號タル津久居綿糸店名義ヲ用ヒテ本件取引ヲ爲シツアルコトヲ知リタルニ拘ラス之ヲ放任シ右取引カ自己ノ取引ニアラサルコトヲ控訴人ニ通知セサリシモノニシテ結局右兩名カ自己ノ商號タル津久居綿糸店名義ヲ用ヒテ取引ヲ爲スコトヲ認許シタルモノナリ 從テ被控訴人先代ハ本件取引ニ關シ前記兩名ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ控訴人ニ表示シタルト同様右取引ヨリ生スル責任ヲ辭スルコトヲ得サルモノナリト主張スレトモ原審證人津久居韻三ノ證言ニヨリ眞正ニ成立シタリト認ムヘキ乙第五號證ノ一乃至三同第六第七號證原審證人秋腰和助(第一、二回)中村仲太郎津久居韻三津久居勝次上原正禮(第一回)當審證人三田榮吉津久居勝次秋腰和助ノ各證言及辯論ノ全趣旨ヲ綜合スレハ津久居彦七ハ其ノ商號トシテ津久居彦七又ハ津久居商店ナル名稱ヲ用フルコトアルモ津久居綿糸店ナル商號ヲ用ヒタル

事實ナキノミナラス尙被控訴人先代彦七ニ對シ株式會社安田銀行足利支店ヨリ控訴人カ足利市ノ津久居綿糸店名義ヲ以テ送附シタル綿糸取引ノ仕切益金ニ關シ佐野町本店ニ電話ヲ以テ照會アリタル際彦七ハ右電話ノ取次ヲ爲シタル中村伸太郎ヲシテ彦七方ニ於テハ控訴人ト綿糸ノ清算取引ヲ爲シタル覺ナク右送金ハ他店トノ取引ノ間違ナルヘシト答ヘシメタル事實明瞭ニシテ右取引カ津久居勝次秋腰和助ノ兩名ニ於テ而モ津久居綿糸店名義ヲ用ヒテ控訴人ト綿糸ノ委託取引ヲ爲シ居ルコトノ如キハ少クトモ昭和二年一月當時迄ハ彦七ハ知ラザリシコト明カナレハ右兩名カ彦七ノ商號ヲ用ヒテ取引ヲ爲スコトヲ認許シタルモノト謂フヲ得サルヲ以テ控訴人ノ前記主張モ亦採用セラルヘキモノニアラス〔中略〕叙上認定ノ如クナル以上控訴人カ被控訴人ノ先代津久居彦七ト委託取引ヲ爲シタルコトヲ前提トスル控訴人ノ本訴請求ハ失當ナルコト言フ俟タサルトコロニシテ爾餘ノ爭點ニ付テハ逐一其判斷ヲ與フルコトヲ要セサルモノトス 仍テ控訴人ノ請求ヲ排斥シタル原判決ハ相當ナリ〔昭和五年ネ九五五號「綿糸清算取引仕切損金請求控訴事件」同一〇、一〇、一六民六判決—評論二四卷民九四四〕

外交員ノ手
仕舞委託
否ノ權限

大審院 取引員ノ外交員ハ反證ナキ限り取引員ニ代リテ客ヨリ手仕舞ノ委託ヲ受ケテ之カ諾否ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノト推測スヘキモノトス

〔判決理由〕取引所員ノ外交員ハ反證ナキ限り取引員ニ代リテ客ヨリ手仕舞ノ委託ヲ受ケテ之カ諾否ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノト推測スヘキモノニシテ原院ハ上告人ノ外交員竹下重太郎カ右ノ權限ヲ有スルモノト推認シ以テ被上告人ヨリ昭和八年三月八日手仕舞ノ委託ヲ受ケテ之ヲ拒絶シタル行爲ハ上告人ニ對シテ効力ヲ生スル旨ヲ判示シタルモノト謂フヘク而シテ本件ニ於テハ同人カ斯カル權限ヲ有セサルコトノ反證ナカリシモノナレハ原院カ右ノ認定ヲ爲シタルハ不法ニ非ス 然ラハ竹下重太郎カ被上告人ヨリ受ケタル手仕舞ノ委託ヲ上告人ニ取次キタルヤ上告人カ拒絶ノ意思表示ヲ重太郎ヲシテ傳達セシメタルヤニ付判斷ヲ爲スコトヲ要セサルヲ以テ原院カ此點ニ關スル審理判斷ヲ爲サザリシハ不法ニ非ス 原判決ニ引用シタル證人小林喜三カ被上告人カ竹下ニ買手仕舞ニシテ吳レト云ヒタルコトヲ被上告人ヨリ聞キタル旨證言シ證人上田雅ハ被上告人ハ今日手仕舞ヲ了セサレハ相場ノコトタカラ後日トウナツテモ知らラヌト云ヒタリトコトヲ聞キタリト證言シ何レモ右被上告人ノ陳述カ冗談ナル旨ノ趣旨ナリト解スルヲ得ス 故ニ原院ハ此等證人ノ證言ト被上告人本人ノ供述ノ一部トヲ綜合シタル上被上告人カ昭和八年三月八日上告人ノ外交員タル竹下重太郎ニ對シ手仕舞ヲ爲スヘキ旨ノ委託ヲ爲シタル事實ヲ認定シ右ノ委託ハ被上告人ノ

外交員ノ不
正行爲ト取
引員ノ責任

眞意ニ出テタルモノニシテ冗談ニアラサルコトヲ判斷シタルハ不法ニ非ス〔昭和一〇年オ二〇三一號「株式短期清算金請求事件」同一〇、一二、二六民一判決—新聞三九四〇號一六、評論二五卷商一二〕

東京民地 被告「取引員」主張ノ如ク森「外交員」ニ於テ原告「委託者」ヨリ受領スヘキ證據金等ヲ着服スルノ意思ヲ以テ本件取引ノ委託ヲ受ケタルモノトスルモ被告ハ本人トシテ猶ホ右契約上ノ責任ヲ負擔スルモノト謂ハサルヘカラス 而シテ森ハ原告ヨリノ本件取引ノ委託ニ付被告ニ之ヲ報告セザリシ結果被告ハ取引所ニ原告ノ委託ノ趣旨ニ從フ取引ヲ上場セザリシ事實ヲ認め得ルヲ以テ被告ハ債務不履行ノ責ヲ免ルルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス 〔昭和一三年ワ一三〇八號「損害賠償請求事件」同一五、一一、一三判決—評論三〇卷民三三四、新報六一二號二〇〕

* 判決理由一八〇八頁參照

第三款 委託者ノ代理人タル外交員

東京控 客引ニヨル株式取引ニ於テハ客引ハ客ノ代理人トナリ客引カ請求スル轉賣買戻ハ總テ本人ニ對シテ効力ヲ有スヘキモノナルコトハ東京株式取引所仲買人間ニ於ケル商慣習ナリ

〔判決理由〕本件主要ノ爭點ハ右飯島佐甫ノ依頼ニヨリ被控訴人〔仲買人〕カ爲シタル轉賣買戻ハ控訴人〔委託者〕ニ其ノ効力ヲ及ホスヘキヤ否ヤニアリトス 此點ニ對スル控訴代理人ノ主張ハ飯島佐甫ハ被控訴人ノ店員ニシテ客引ナルモノニアラサルニヨリ同人ノ手ヲ經テ爲シタル買附及賣附ハ何レモ直接取引ナリ 然ラハ轉賣買戻ニ付テモ亦被控訴人ハ控訴人ヨリスル注文ヲ待タサルヘカラス 假リニ飯島佐甫ヲ客引ナリトスルモ客引ヲ以テ客ノ代理人ト看做スヘキ慣習ナキカ故ニ飯島佐甫ノ依頼ニヨリテ爲シタル轉賣及買戻ハ控訴人ニ何等効力ヲ及ホスヘキモノニアラスト云フニ在ルモ證人秋山脩田口重一近藤虎雄等ノ各一致スル證言ニヨリ飯島佐甫カ客引ニシテ被控訴人ノ店員ニ非サルコト疑ナク而シテ控訴人ノ爲シタル買附及賣附ノ注文並ニ證據金ノ交付ハ何レモ同人ノ手ヲ經タルコトハ爭ナキ事實ナルヲ以テ本件取引ノ客引ニヨル取引タルコト論ナシ 控訴代理人ノ立證ニヨリテハ未タ其主

外交員ノ代
理者ト看
做ス
委託者ノ依
頼ニ因リ爲
シタル買
戻ノ効力

ナルコトヲ知ルニ足ルヲ以テ該事實ハ未タ以テ叙上ノ認定ヲ覆スニ由ナシ 然リ而シテ特定ノ株式ニ付賣建若クハ買建ノ委託アリタル場合ニハ該委託ハ通常其株式ノ現物授受若クハ手仕舞ニ關スル行爲ニ迄及ヒ該委託契約ニ關シ委託者ヨリ其代理人ニ對シ授與セラルル代理權ノ範圍モ亦之ニ從フモノト認ムヘキヲ以テ其委託ノ趣旨ニ從ヒ手仕舞ニ付テハ更ニ委託者ノ指圖ヲ待ツヘキ場合ト雖モ之カ爲メ別ニ代理權ノ附與ヲ必要トスルモノニ非ス 然レハ叙上轉賣指圖ニ付テモ上田ニ原告ヲ代理スル權限アリタルモノト謂フヘク其ノ申込ニ應ジテ爲シタル被告ノ轉賣力委託契約ノ本旨ニ適ヒタル債務ノ履行タルコト言ヲ俟タス 從ツテ原告主張ノ如キ履行不能存スル管ナク之ヲ原因トスル原告ノ損害賠償ノ請求カ理由ナキコト亦明白ナリ 仍テ次ニ原告ノ證據金返還ノ請求ニ付其當否ヲ按スルニ被告カ大正十一年九月中原告ヨリ證據金千二百圓及證據金代用明治製糖新株五十株ノ交付ヲ受ケタル事ハ當事者間ニ爭ナク被告ハ原告告間ニハ大正十一年五月以降十一月迄ノ間ニ於テ原告主張ノ本件五口以外ニモ尙別紙計算書記載ノ如キ數十口ノ株式定期取引委託アリ 右證據金ハ之等全部ニ關シ差入レラレタルモノナル旨主張シ原告告間ノ計算書タル成立ニ爭ナキ乙第一號證ニヨレハ一應其實事ヲ認メ得ルカ如シト雖モ證人上田芳一ノ證言並成立ニ爭ナキ乙第四號證ニ照セハ右乙第一號證計算書ニ於ケル原告告間定期株式取引委託ハ本件五口ヲ除ク以外ハ全部原告ノ與リ知ラサルコトロニシテ右乙原告告名義ヲ冒用シ擅ニ思惑賣買ヲ試ミタルモノニ外ナラス 尤モ其中數口ニ付テハ原告ヨリ現物賣買ノ委託アリシモノアルモ上田カ擅ニ定期取引ノ委託トシテ之ヲ被告ニ通シタルモノナルコトヲ認メ得ヘク結局之等本件五口以外ノ定期取引委託ニ付テハ原告ハ何等ノ關係ナク原告告間受託契約書タル乙第二號證モ證人上田芳一ノ證言ニヨレハ同人ノ偽造ニ係リ原告ノ關知セサルモノナルコト明白ナルヲ以テ之ヲ以テ上田カ原告ノ代理人タリシコトノ證左ト爲シ得ヘキニアラス 然ラハ前示證據金並證據金代用株式券モ亦專ラ本件五口ノ定期取引ニ關シテノミ差入レラレタルモノト認メサルヘカラサルヲ以テ之カ取引完了ノ曉ニハ原告ハ何時タリトモ賣買損益金ノ計算ヲ遂ケ且手數料ヲ控除シタル上其殘額ニ付テカ返還ヲ求メ得ヘキ筋合ナルコト明白ナリ 而シテ本件定期株式賣買ノ價格ハ前段認定ノ如クナルヲ以テ(一)ニ付テハ金十圓ノ損(二)ニ付テハ金十二圓ノ損(三)ニ付テハ金九圓ノ損(四)(五)ニ付テハ金四十五圓ノ損トナリ其ノ合計損益計算ノ結果金三十二圓ノ益トナルコト原告告ヨリ被告ニ對シ支拂フヘキ手數料金八十圓ナルコトハ被告ノ爭ハサルコトコトナレハ差引金四十八圓ハ被告ヨリ原告ニ對シ立替勘定トナリ居レルモノニシテ被告ハ前示證據金千二百圓中ヨリ之ヲ控除シタル殘額千五百十圓並前示證據金代用株式券ノ返還ヲ爲スヘキ義務アリ 然ルニ右株券ハ其後大正十一年十一月二十七日被告ニ於テ一株二十二圓六十錢ノ割合ニヨリ内四十株ヲ他ニ處分シ殘十株モ其後之ヲ賣却シ現ニ所持セサルコト其自白スルコトコトナレハ原告ハ之ニ代ヘテ之カ返還ヲ求メ得ヘキ時ハ之ニ代ヘテ之カ返還ヲ求メ得ヘキ時以後タル右大正十一年十一月二十七日ノ時價一株二十二圓六十錢ノ割合ニヨル該株式五十株ノ價格一千三百三十圓ノ賠償ヲ求メ得ヘキコト勿論ナリ 然レハ結局被告ハ原告ニ對シ

前示證據金殘額一千五百二十二圓並證據金代用株式券返還不能ニヨル損害金一千三百三十圓合計二千二百八十二圓ヲ支拂フヘキ義務アルニ止マリ委託契約上ノ債務履行不能ニ基ク損害ニ付テハ前叙ノ如ク之カ賠償ノ義務ナキモノナルヲ以テ原告ノ本訴請求ヲ右ノ限度ニ於テ認容シ其餘ハ之ヲ棄却スヘキモノト認ム(大正一二年ワ三三一號「損害賠償請求事件」同一四、一一、一〇民一一判決―新報七一號二一)

外交員ヲ代理
委託者ノ代理
キ場合
外人ト認ムベ
キ場合
委託者ノ代理
人ト看做ス
商慣習

東京控 委託者タル客カ直接取引員ノ店ニ出入セス金錢ノ出納等迄外交員ニ任ス場合ニハ客カ該外交員ヲ信用シテ取引ヲ爲スモノト認ムヘク斯ル場合ニハ該外交員ハ取引員ノ代理人ニ非スシテ委託者ノ代理人ト認ムヘキモノトス」株式ノ定期賣買ニ關シテハ委託者カ外交員ヲシテ賣買委託ニ關スル事項ヲ爲サシメタルトキハ其ノ者ヲ委託者ノ代理人ト看做ス商慣習存ス

(判決理由) 被控訴(委託者)代理人ハ加藤清治ハ寧ロ控訴人先代(取引員)ノ代理人ニシテ被控訴人ハ同人ニ斯ノ如キ取引ノ代理權限ヲ與ヘタルコトナシト爭ヘトモ此點ニ關スル證人平塚貞次ノ原審並ニ當審ニ於ケル供述ハ措信シ難ク其他被控訴代理人ノ提出援用ニ係ル各證據ニ依リテハ前記認定ヲ覆スニ足ラズ 即チ此點ニ關シ被控訴代理人ハ被控訴人ハ元來加藤清治ナルモノヲ知ラス、訴外平塚貞次ノ紹介ニヨリ始メテ同人ヲ知ルニ至リタルモノニシテ當時同人ハ多田岩吉商店加藤清治ナル名刺ヲ持參シ宛モ同人カ控訴人先代ノ代理人ナルカ如キ態度口吻ナリシ爲メ被控訴人ハ同人ヲ控訴人先代ノ代理人ナリト信シ株式ノ賣買ヲ委託スルニ至リタルモノナリト主張スレトモ加藤清治カ控訴人先代ノ株式仲買店ノ外交員タリシコトハ控訴代理人ニ於テモ敢テ爭ハサルコトコトナルヲ以テ同人カ被控訴代理人主張ノ如キ名刺ヲ持參スレハトテ之ヲ以テ直ニ被控訴人ノ代理人ニ非ストハ認定シ難キノミナラズ被控訴人ハ從前ノ株式ノ取引ニ於ケル證據金ノ授受損益計算金ノ受渡等總テ加藤ヲ經由シテ之ヲ爲シ來リタルコトハ被控訴代理人ノ認ムルコトロニシテ當院カ成立ヲ認ムル甲第二十號證及成立ニ爭ナキ同第二十一號證ニ依レハ右ノ如ク委託者タル客カ直接取引員ノ店ニ出入セス金錢ノ出納等迄外交員ニ任ス場合ニハ客カ該外交員ヲ信用シテ取引ヲ爲スモノト認ムヘク而シテ客カ外交員ヲ信用シテ取引スル場合ニハ該外交員ハ取引員ノ代理人ニ非スシテ委託者ノ代理人ト認ムヘキモノナルコト明白ナルヲ以テ本件取引ノ如キモ加藤清治ハ寧ロ被控訴人ノ代理人ト認ムルヲ相當トスルノミナラス從前ヨリ株式ノ定期賣買ニ關シテハ委託者カ外交員ヲシテ賣買委託ニ關スル事項ヲ爲サシメタルトキハ其者ヲ委託者ノ代理人ト看做ス商慣習ノ存シタルコト明白ナルカ故ニ孰レニスルモ加藤清治ハ被控訴人ノ代理人ナリト認メサルヲ得ス 控訴代理人ハ假リニ斯ノ如キ慣習アリトスルモ本件當事者ハ斯ノ如キ慣習ニ從フ意思ナカリシモノナリト抗爭スレトモ右事實ヲ認ムルニ足ル何等ノ反證ナク而シテ反證ナキ限り當事者ハ右慣習ニ依ル意思

計金三百三十三圓九十錢ヲ訴外山田義一ニ支拂ヒタル事實ヲ認ムルヲ得ヘシ 仍テ更ニ右山田義一カ當時被控訴人ノ代理人トシテ之ヲ受領スル權限ヲ有シタルモノナリヤ否ヤニ付審究スルニ原審證人岩崎熊次郎當審證人福島永治(第一、二回共)ノ各證言ヲ綜合スレハ被控訴人ハ昭和四年六月頃當時控訴人方ノ外交員タリシ前記山田義一ヲ通シ初メテ控訴人ト株式委託取引ヲ開始セルモノニシテ本件取引ニ於テモ證據金ノ納入ハ勿論株式賣買ノ注文及仕切計算等凡テ同訴外人ヲ通シテ爲シ居タルモノナルトコロ同人ハ控訴人方ノ店員ニ非サルハ勿論單ニ控訴人ヨリ手數料ノ歩合ノ支給ヲ受ケ居タルモノニ過キス、且控訴人ハ被控訴人ト全然面識ナク又被控訴人ハ控訴人ニ對シ其ノ住所ヲモ知ラサリシコトヲ各認ムルヲ得ヘク而シテ當審ニ於ケル鑑定人森孫一ノ鑑定ノ結果(第一、二回共)ニ依レハ前記ノ如ク取引員カ委託者本人ト面識ナク且委託者カ其ノ住所ヲモ知ラサス單ニ取引員ヨリ手數料ノ歩合ヲ受ケ居ルニ過キサル外交員ヲ通シテ取引員ト株式委託取引ヲ爲シタル場合ニ於テハ該外交員ハ取引員ノ代理人ニ非スシテ委託者ノ代理人ト看做ス商慣習ノ存在スルコト明カニシテ右慣習ハ強行規定ニ反セサルコト勿論ニシテ本件當事者間ニ於テモ反證ナキ限リ右慣習ニ依ル意思アリタルモノト推定スルヲ相當トスヘキニ依リ右山田義一ハ被控訴人ノ代理人ナリト認メサルヲ得ス 成立ニ爭ナキ甲第一、二、三號證並當裁判所カ眞正ニ成立シタリト認ムル甲第四號證ニ依ルモ右認定ヲ覆スニ足ラス 果シテ然ラハ右山田義一ニ對シ爲シタル前記控訴人ノ支拂ハ有効ナルニ依リ被控訴人ノ本訴請求ハ失當トシテ之ヲ棄却スヘク之ヲ認容シタル原判決ハ不當ナルヲ以テ民事訴訟法第三百八十六條ニ則リ取消ヲ免レス(昭和六年レ二五〇號 同七、五、二民一四判決—東株調査彙報六六號四一)

東京民地 外交員カ取引員ノ代理人ナリヤ將又委託者ノ代理人ナリヤハ各個ノ取引ニ付テノ具體的事實ニ依リ決スヘキモノト解スルヲ相當トス 而シテ委託者カ外交員ニ對シ其ノ都度特ニ代理權ヲ授與シタルコトナカリシトスルモ若シ委託者ニシテ從來ヨリ其ノ外交員ノミニ株式賣買ノ委託取引ノ取次斡旋ヲ依頼シ或ハ證據金ノ差入若ハ清算金ノ授受ヲ之ニ一任スル等特ニ其ノ外交員ヲ信賴スルコト厚キ事情カ看取セラレレカ爲メ其ノ外交員カ取引員ヨリハ寧ロ客タル委託者ニ接近スルカ如キ關係アル場合ニ於テハ株式ノ委託取引ノ實際ニ照シ其ノ外交員ハ寧ロ客タル委託者ノ代理人ト認ムルヲ至當トス

(判決理由) 被告カ株式會社東京株式取引所ノ一般取引員ナルコトハ證人村田正三白鳥誠一郎ノ證言ニ依リ之ヲ認メ得ヘク被告カ

外交員ヲ委託者ノ代理人ト認ムベキ場合ニ於テハ委託者ノ手仕舞註文ノザルニ依リ

其ノ商號ヲ角和商會ト稱シ前記肩書地ニ營業所ヲ有スル事實、被告カ昭和九年八月二十七日被告商店ノ外交員タル訴外長岡欣三ヲ通シ原告ヨリ同取引所短期清算市場ニ於テ新東百株ノ賣付ヲ爲スコトヲ委託セラレタル事實、被告カ右ノ委託ニ基キ翌二十八日午前場ニ於テ右株式ノ内五十株ヲ一株金百四十七圓三十錢五十株ヲ一株金百四十七圓ニテ各賣付ケタル事實、其ノ翌二十九日原告カ右取引ノ委託證據金トシテ金一千二百圓ヲ被告ニ差入レタル事實、本件取引ニ付當事者相共ニ市場ノ慣習ニ依ル意思ヲ有シタル事實ハ總テ本件當事者ニ爭ナキトコロナリトス 被告ハ右長岡ト原告トノ間ニハ豫テヨリ長岡ヲシテ自由ニ原告名義ニテ株式ノ賣買ノ委託ヲ爲サシメ之ニ依リ生スル損益ノ負擔分配ニ關スル特約アリ、之ニ基キ長岡ハ前記(一)ノ株式賣買後昭和九年八月二十九日ヨリ同年九月七日迄ノ間ニ被告主張ノ如キ(二)乃至(六)ノ株式賣買取引ヲ被告ニ委託シ之ニ應ジテ被告カ取引ヲ爲シ後殘玉手仕舞アリテ原告ハ結局合計金九百九十五圓十五錢ノ損失ヲ負擔スルニ至リタル旨主張スルヲ以テ按スルニ其ノ成立ニ爭ナキ乙第一號證ノ一及三同第六號證ノ一乃至七ノ各記載内容及證人長岡欣三、村田正三、白鳥誠一郎ノ各證言等ニ徴シ前記長岡カ原告ノ代理人ナリトシテ被告主張ノ如キ(二)乃至(六)ノ株式ノ賣買ヲ被告ニ委託シ之ニ基キ被告カ其ノ取引ヲ了シタル事實ヲ認メ得ヘキモ證人古山よね泉文介廣田信一山口政五郎ノ各證言並原告本人訊問ノ結果等ヲ綜合スレハ原告ノ内縁ノ妻古山よねハ同人自身ノ分ハ勿論原告ノ爲ス株式ノ賣買ノ委託取引ニ關スルモノニ付テモ其ノ金錢ノ授受等ノ如キハ自ラ之ヲ爲シ總テニ慎重ヲ期シ居タル事實右古山ト長岡トノ間カ被告主張ノ如キ特約ヲ爲ス程度ノ親密ナル關係ニハ非サリシ事實前記原告ノ差入レタル金一千二百圓ノ證據金ノ如キモ長岡ノ手ヲ通セス古山カ自ラ被告方ニ持參シテ之ヲ差入レタル程ナリシ事實原告ト長岡トノ間ニモ亦被告主張ノ如キ特約ハ存セザリシ事實原告ノ委託ニ基キ昭和九年八月二十八日ノ株式賣建ノ前後ヲ通シ原告カ長岡ニ對シ右ノ取引以外ニ株式賣買ノ委託取引ニ關スル雜種ノ行爲ヲ特ニ一任シタル事實ニ徵シ信ヲ措キ難キカ故ニ長岡カ原告ノ依頼ニ基キモノナリトシテ村田正三、白鳥誠一郎ノ各證言部分ハ前記認定ノ基礎タル事實ニ徵シ信ヲ措キ難キカ故ニ長岡カ原告ノ依頼ニ基キモノナリトシテ委託セラレタル被告主張ノ前記(二)乃至(六)ノ取引ハ畢竟原告ニ於テ全然關知セサル取引ナリト認ムルヲ相當トス 而シテ原告被告間ニ外交員ヲ通シテ爲ス株式ノ賣買ノ委託取引ヲ嚴禁シ特ニ原告自身ノ委託アル場合ニ限リ被告ハ取引ヲ爲スヘキ趣旨ノ特約カ成立シタリトス原告ノ主張事實ハ之ヲ認ムヘキ證據ナキト共ニ又被告主張ノ如ク東京株式取引所市場ニ於テ外交員ハ常ニ委託者ノ代理人ト看做スヘキ旨ノ商慣習ノ存在スル事實モ亦之ヲ認ムルニ足ル措信スヘキ證據ナク外交員カ取引員ノ代理人ナリヤ將又委託者ノ代理人ナリヤハ各個ノ取引ニ付テノ具體的事實ニ依リ決スヘキモノト解スルヲ相當トス 而シテ委託者カ外交員ニ對シ其ノ都度特ニ代理權ヲ授與シタルコトナカリシトスルモ若シ委託者ニシテ從來ヨリ其ノ外交員ノミニ株式賣買ノ委託取引ノ取次斡旋ヲ依頼シ或ハ證據金ノ差入若ハ清算金ノ授受ヲ之ニ一任スル等特ニ其ノ外交員ヲ信賴スルコト厚キ事情カ看取セラレレカ爲メ其ノ

外交員カ取引員ヨリハ寧ろ客タル委託者ニ接近スルカ如キ關係アル場合ニ於テハ株式ノ委託取引ノ實際ニ照シ其ノ外交員ハ寧ろ客タル委託者ノ代理人ト認ムルヲ至當トスヘキトコロ本件ニ於テ原告ト長岡トノ間ニ右ノ如キ特種ノ信賴關係アルコトヲ視フニ足ル事情ハ何等存セザリシコト前段所定ノ如クナル以上原告ハ被告主張ノ如キ右(二)乃至(六)ノ取引ニ付テハ其ノ委託者トシテノ責任ナキモノト謂ハサルヲ得ス。而シテ證人古山よねノ證言並原告本人訊問ノ結果ニ徴シ原告カ昭和九年九月十三日被告ニ對シ建株ノ賣埋ヲ委託シ或ハ其ノ後殘玉ノ手仕舞ニ同意ヲ與ヘタル等被告主張ノ如キ事實ハ之ヲ首肯スルヲ得ス。此點ニ關スル證人長岡欣三、村田正三、白鳥誠一郎ノ證言部分ハ措信スルニ足ラサルカ故ニ結局被告ノ前記主張ハ之ヲ採用スルニ由ナシ。然リ而シテ被告ノ前記(二)ノ建株ニ對スル(三)(四)ノ買埋ノ如キ原告ノ委託ノ趣旨ニ反スル行為タニナカリシナランニハ右原告ノ委託ニ基ク賣建株ハ尙存續シ居タリシモノト解スヘキトコロ原告カ昭和九年九月十三日被告ニ對シ右ノ當時ノ建株全部ノ手仕舞ヲ委託シタルコトハ當事者間ニ爭ナキトコロナルノミナラス當時右株式ノ相場カ一株ニ付金百三十一圓八十錢ナリシトノ原告ノ主張事實ハ被告ニ於テ明カニ爭ハス又口頭辯論ノ全趣旨ニ依リ之ヲ爭ヒタルモノト認ムヘキ場合ニ非サルヲ以テ右原告ノ主張事實ハ被告ニ於テ之ヲ自白シタルモノト看做スヘキ然ラハ原告ハ前記(一)ノ建株全部ヲ一株ニ付金百三十一圓八十錢ニテ買埋ムルコトヲ得タリシモノト謂フヘク右取引ヲ決濟シテ得ヘキ差引利益金ハ被告ノ受託義務ノ不履行ニ依リ原告ノ喪失シタル得ヘカリシ利益ナリト解スルヲ得ヘシ。而モ右ノ如ク買埋タニアラハ原告ノ受クヘカリシ其ノ繰延料其ノ支拂ヲ爲スヘカリシ手數料等カ原告主張ノ如キ金額トナルコト當事者間ニ爭ナキトコロナルヲ以テ右賣買ノ差引利益金ハ金一千五百二十三圓六十錢トナルコト計算上明カナルカ故ニ被告ハ同額ノ損害ヲ原告ニ賠償スヘキ義務アルモノトス。而シテ原告カ被告ニ差入レ置キタル證據金一千三百圓ノ内金二百四圓八十五錢ヲ本件取引終了後昭和九年十月十日被告ヨリ受領シタル事實ハ當事者間ニ爭ナキトコロ原告カ昭和九年十月四日被告ニ對シ右損害金並證據金ヲ同月七日迄ニ支拂フヘキ旨ヲ書面ヲ發シ該書面カ翌五日被告ニ到達シタル事實モ亦當事者間ニ爭ナキトコロナルカ故ニ被告ニ對シ右證據金九百九十五圓十五錢並損害金一千五百二十三圓六十錢此合計金二千五百十八圓七十五錢並之ニ對スル昭和九年十月八日以降完済ニ到ル迄商法所定ノ年六分ノ遅延損害金ノ支拂ヲ求ムル原告ノ本訴請求ハ全部正當ナルヲ以テ之ヲ認容スヘキモノトス(昭和九年ワ三三一〇號「證據金等返還請求事件」同一一、一二、二八第五部判決一評論二六卷商一一六、新報四六一號二〇)。

外交員ヲ委託者ノ代理ト看做ス

東京民地 東京株式取引所ニ於テハ委託者タル客カ取引員ニ從屬セサル下外交員ノ如キモノヲシテ賣買委託ニ關スル事項ヲ爲サシメタルトキハ其ノ者ハ通例之ヲ委託者ノ代理人ト看做ス商慣習存ス

商慣習
非從屬外交員ノ場合
專屬外交員ナリトノ委託者ノ誤信
委託者ノ代理ト看做ス

(判決理由) 控訴人カ株式會社東京株式取引所ノ一般取引員ナルコトト被控訴人カ昭和九年八月三日控訴人方ノ外交員訴外大野文一郎ノ下外交員タル訴外牛島文治郎ヲ介シ控訴人ニ對シテ短期清算市場ニ於ケル株式賣買取引ヲ委託シ之カ證據金代用證券トシテ被控訴人名義ノ京濱電力株式會社ノ第二新株五十株券ヲ控訴人ニ差入レタルコトト控訴人カ被控訴人ノ註文ニ依リ同日三菱礦業株式會社株式三十株ヲ一株金百二十六圓四十錢ニテ買付ケ同月九日之ヲ一株金百二十八圓ニテ轉賣シ更ニ同月二十七日新東株十株ヲ一株金百四十八圓ニテ賣付ケ同月二十九日一株金百四十六圓七十錢ニテ買戻シタルコトト及控訴人カ昭和九年十月十五日右代用證券ヲ金八百二十五圓ニテ賣却シタルコトト當事者間ニ爭ナキ所ニシテ被控訴人ハ右株式ノ取引ハ二回限りニシテ結局金三十六圓十錢ノ被控訴人ノ利益勘定トナリタルヲ以テ右代用證券ハ被控訴人ニ返還セラルヘキモノナリト主張スルニ對シ控訴人ハ被控訴人ニ於テハ其ノ外ニモ右牛島ヲ代理人トシテ昭和九年十月十八日迄前後二十七回ニ亘リ株式賣買ヲ委託シ其ノ結果金七百九十三圓八十八錢ノ損失ヲ蒙リタルヲ以テ控訴人ハ右代用證券ヲ處分シテ損失金ノ支拂等ニ充當シ殘餘ハ被控訴人ヲ代理スル牛島ニ之ヲ手交シタル旨及假ニ右牛島ニ斯ル代理權ナカリシトスルモ控訴人トシテハ同人ニ其ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有シタル旨抗爭ス仍テ按スルニ原審並當審ニ於ケル證人大野文一郎、牛島文治郎ノ各證言及被控訴人本人訊問ノ結果(但シ大野證人ノ證言並被控訴人ノ供述中後記措信セサル部分ヲ除ク)及原審證人阿部二郎當審證人浦崎義信ノ各證言ト成立ニ爭ナキ乙第二號證ノ一、二トヲ綜合スレハ訴外牛島文治郎ハ昭和九年七月頃ヨリ控訴人方ノ外交員タル訴外大野文一郎ノ下外交員トナリ客ノ註文ヲ勸誘シテ之ヲ大野ニ取次キ同人ヨリ更ニ右註文ヲ控訴人ノ店ニ通シ牛島ハ右大野カ受クル報酬ノ一部ヲ分與セラレ居タルモ直接控訴人トハ履備若クハ委任等ノ關係ナク從テ全然其ノ指揮監督ノ下ニ屬セス被控訴人ノ店務ニ付何等ノ代理權ヲ有スルモノニ非ザリシカ(成立ニ爭ナキ甲第三號證ノ一ノ牛島文治郎ノ名義ニ二宮類治商店勤務ト印刷シタルハ同人カ大野ノ許ヲ得テ顧客誘引ノ便宜上作成シタルモノニシテ控訴人ノ全ク關知セサルトコロナリトス)其ノ頃被控訴人ト知合ヒ被控訴人ニ對シ株式清算取引ヲ勸誘シタルヨリ被控訴人ハ右勸メニ應シテ同年八月三日右牛島ト共ニ控訴人店舖ニ赴キ牛島ノ紹介ニ依リテ知リタル大野ノ取扱ニテ三菱礦業株三十株ヲ短期市場ニ於テ買付ケルコトヲ委託シ其ノ委託證據金代用トシテ前掲京濱電力株式會社第二新株五十株券一枚ヲ白紙委任狀及承諾書添附ノ上控訴人ニ差入レタル事實及其ノ後被控訴人ハ同月九日右三菱礦業株ヲ轉賣シ同月二十七日新東株ヲ賣建テ同月二十九日之ヲ買戻シタルカ右取引ニ當リテハ被控訴人ハ何レモ牛島文治郎ニ依頼シ指値ヲ爲シテ之カ賣買註文ヲ控訴人ノ店ニ通達セシメ且利益金モ右牛島ヲ介シテ受領シタル事實ヲ認メ得ヘク原審並當審ニ於ケル證人牛島文治郎ノ證言及被控訴人本人ノ供述及商業帳簿タルコトニ爭ナキヲ以テ眞正ニ成立シタルモノト認ムル乙第六號證ノ一、二ニ依レハ右牛島ハ何等被控訴人ノ依頼ナキニ拘ラス其ノ註文ニ基クカノ如ク裝ヒテ(所謂手張リテ)被控訴人ノ代理人トシテ前記二口ノ外同年八月四日以降同年九月二十九日迄ノ間前後二

十三回ニ亘リ情ヲ知ラサル控訴人ニ對シ鋼管、新東、日産、第二南滿、新鐘、日魯等ノ諸株ノ短期清算取引ヲ委託シ結局金七百九十三圓八十八錢ノ損失勘定トナリタル事實明カニシテ又原審證人牛島文治郎、阿部二郎當審證人浦崎義信ノ各證言及成立ニ争ナキ甲第四號證ノ十二依レハ控訴人ハ右損金ノ辨濟ヲ得ラレザリシヨリ昭和九年十月十二日頃豫メ牛島ニ通知シタル上前記證據金代用證券ヲ一株金十六圓五十錢合計金八百二十五圓ニテ賣却シ同月十八日其ノ内ヨリ右損失金ヲ控除シタル殘額三十一圓十二錢ヲ被控訴人ニ返還スル爲右牛島ニ引渡シタル事實ヲ認ムルニ足ル 叙上ノ各認定ニ抵觸スル趣旨ノ被控訴人訊問ノ結果及原審證人田中スミ大野文一郎ノ各證言部分ハ之ヲ採用セス 而シテ被控訴人トシテハ當初右牛島カ控訴人ノ店ニ直屬スル外交員ナルカ如ク誤信シ居タルコトハ被控訴本人ノ供述及前記甲第三號證ノ一ニ依リ之ヲ窺ヒ得ヘキモ實際牛島カ控訴人ト直接何等ノ關係ナキ者ナルコト前認定ノ如クナル以上被控訴人カ牛島ヲ通シテ爲シタル其ノ主張ノ二回ノ取引ニ付牛島ハ控訴人ヲ代理シテ其ノ局ニ當リタルモノト謂ヒ得サルコト勿論ニシテ却テ東京株式取引所ニ於テハ委託者タル客カ此ノ種取引員ニ從屬セサル下外交員ノ如キモノヲシテ賣買委託ニ關スル事項ヲ爲サシメタルトキハ其ノ者ハ通例之ヲ委託者ノ代理人ト看做ス商慣習ノ存スルコトハ證人浦崎義信ノ證言鑑定人村上文策ノ鑑定ノ結果ヲ參酌シ之ヲ認メ得ヘキトコロ被控訴人カ右牛島ヲ通シテ本件取引ヲ爲スニ當リテハ何等右商慣習ニ從ハサル旨ノ別段ノ意思ノ表示シタル事跡ヲ認メ得ス 單ニ牛島ヲ以テ控訴人直屬ノ外交員ナリト誤信シタルニ過キササル次第ナルヲ以テ固ヨリ右商慣習ノ支配ヲ免カルヘキニ非ス 事實ニ於テ牛島カ前認定ノ如キ地位ヲ有スルモノナル以上同人ハ右二回ノ取引ニ付被控訴人ノ代理人タリシモノト認メサルヲ得ス 而シテ其ノ他ノ賣買委託ニ付テモ牛島ハ被控訴人ノ代理人トシテ行ヒ控訴人モ亦之カ牛島ノ手張取引タルコトヲ知ラス正當ノ代理權限ニ基クモノト信シテ取引シタルコトハ前段認定ノ如クニシテ而モ商機ヲ瞬刻ニ争ヒ手續ノ簡捷敏捷ヲ尙フ株式取引ノ性質ニ照ラシ控訴人カ右二回ノ取引ニ關シ代理權ヲ有シタル牛島文治郎ニ其ノ餘ノ取引ニ付テモ代理權アリト信シタルハ正當ノ理由アルモノト認ムヘキカ故ニ右牛島ノ代理權越ノ行爲ハ被控訴人ニ對シ其ノ効力ヲ生スヘク被控訴人ハ之ニ基ク損失ヲ負擔セサルヘカラス 此ノ點ニ付被控訴人ハ成立ニ争ナキ甲第四號證ノ七(乙第二號證ノ一)ノ證人浦崎義信ノ調書中同證人ノ供述トシテ「私ノ方テハ田中ト信シテヤツタノテアリマスカ本件ハ御訊ネノ通りテアリマスカラ差損金ハ牛島カラ取ラネハナラヌ關係ニナリマス」トアル部分ヲ抜イテ牛島ノ勝手ニ爲シタル本件取引ニ付被控訴人ニハ責任ナク右ハ控訴人側ニ於テモ之ヲ認メ居タルモノナルコトヲ立證セントスルモノノ如クナルモ當審證人浦崎義信ノ證言ニ依レハ右ハ德義上牛島ニ於テ辨償スヘキ筋合ナルコトヲ申述ヘタル迄ニシテ被控訴人ニ法律上ノ責任ナシトスル趣旨ニ非サルコトヲ認メ得ヘキヲ以テ同號證ノ存スルコトハ何等前認定ノ妨トナラス 然ルトコロ右浦崎義信ノ證言並村上鑑定人ノ鑑定ノ結果ニ依レハ取引員ハ委託者ニ於テ損失金ノ支拂ヲ爲ササル限り特ニ改メテ承諾ヲ求ムルコトヲ要セスシテ證據金代用トシテ委託者ヨリ受取りタル物件ヲ自由

ニ處分シ之カ辨濟ニ充當シ得ヘキ慣習東京株式取引所ノ取引ニ付行ハルルコト明白ニシテ反證ナキ限り本件當事者ハ此ノ慣習ニ據ルノ意思アリタルモノト推定スヘキカ故ニ控訴人ノ爲シタル本件代用證券ノ處分ハ正當ニシテ既ニ控訴人ハ其賣得金ノ前記損失金トノ差額ヲ被控訴人ニ返還スル爲其ノ代理人タリト信セシ右牛島ニ交付シタルコト前示ノ如クナル以上之ニヨリ本件取引ハ完全ニ決濟セラレ最早控訴人ハ被控訴人ニ對シ右代用證券ノ返還若クハ之ニ代ルヘキ損害賠償等ノ義務ヲ負ハサルモノト謂フヘシ 果シテ然ラハ被控訴人ノ本訴請求ハ失當ニシテ之ヲ排斥スヘキモノナルニ拘ラス右ト其ノ趣旨ヲ異ニシ該請求ヲ容レタル原判決ハ不當ニシテ取消ヲ免レス サレハ本件控訴ハ其理由アルモノトス(昭和一年レ五二〇號「寄託物返還請求控訴事件」同一三、八、八第九部判決一評論二八卷商一五四)

大審院 商慣習ハ當事者カ之ニ依ルノ意思アリタル場合ニ限り有効ナルモノトス

(上告理由) 上告人(取引員)ハ原審ニ於テ抗辯トシテ東京株式取引所ニハ株式外交員ハ客タル委託者ノ代理人ト看做ス商慣習存シ本件取引ニ於テハ當事者相共ニ右慣習ニ依ル意思ナリシモノナレハ外交員長岡欣三カ被上告人ノ代理人トシテ爲シタル委託ノ効果ニ付キ被上告人(委託者)ハ其ノ責任ニ任スヘキモノナル旨ヲ主張シタルトコロ右主張事實中市場慣習ニ依ル意思アリタル點ニ付テハ被上告人ニ於テモ争ナカリシトコロナリ 右慣習ノ存在ニ關シ原審鑑定人森孫一ノ鑑定ノ結果ニ依レハ東京株式取引所ニハ從來委託者ト取引員トカ面識モナク又委託カ直接取引員ニ對シ爲サレタルコトナク常ニ外交員ノミヲ通シテ委託ニ關スル事項即チ賣買取引ノ仕掛ケ仕切其ノ他之ニ伴フ委託證據金賣買損益金株券代金等ノ授受カ爲サレタル場合ニ於テハ最初ノ受託ヲ開始シタル當時ノ情況ニ從ヒ其ノ外交員ヲ客ノ代理ト看做ス商慣習存在スルコト明ナリ 然ルニ原審ハ右商慣習アルコトヲ認定シ剩ヘ被上告人ニ於テ右市場慣習ニ依ル意思ヲ以テ取引ヲ開始シタル事實ヲモ確定シ乍ラ「右商慣習ノ趣旨タル外交員カ委託者ノ意ニ反シ擅ニ代理名義ヲ冒用シテ取引員ニ委託シタルカ如キ場合ニ適用ナキモノト解スヘキハ當然」ナリトシテ上告人ノ右抗辯ヲ排斥シ去リタリ 然レトモコレ法律ノ解釋ヲ誤リ不當ニ上告人ノ主張ヲ排斥シタルモノニシテ吾人ノ承服シ能ハサル所ナリ 其ノ理由左ノ如ク抑モ株式市場ニ於ケル叙上ノ商慣習ノ淵源ハ株式市場ニ於ケル委託取引ノ實際上ノ要求ニ基キテ育成馴致セラレタルモノナルヲ以テ株式取引ヲ實踐シ委託取引ノ實際ヲ體驗スルコトニ依リテ初メテ理解シ得ヘキモノナリ 即チ客カ取引員ニ對シ賣買委託ヲ爲スニ當リテハ所謂株式外交員ノ仲介取次ニ俟ツコト十中ノ八、九ニ上ル實情ナル處(而モ其ノ意思傳達機關トシテ電話ヲ利用スルコト最大多數ナリ)其ノ委託ノ目的物タル株式ノ市價ハ變動常ナク分秒ニシテ異ナル様相ヲ示現スルコトモ亦吾人ノ經驗上熟知スル所ナリ 株式取引員ハ斯カル變動極リナキ株式ノ賣買ヲ受託スル者ナルカ故ニ委託者ノ指揮命令ニ從ヒ之ヲシテ商機ニ投セシメン

外交員ヲ委託者ノ代理ト看做スルノ意思ニ依ルノ意

カ爲メニハ迅速機敏ナル手段ヲ以テ之ヲ市場ニ上場シ以テ委託者ノ期待ニ副フコトヲ要スルヤ多言ヲ俟タザル處ナリ 然ルニ今外交員取次ノ委託ニ付キ他ノ契約ニ於ケルカ如ク一々代理權ノ存否委託ノ眞偽ヲ吟味シ外交員ニ代理權アルコトヲ確メ或ハ該委託カ客ノ眞意ニ出テタルコトヲ確メ然ル後之カ受託ヲ爲スコトヲ要ストセハ取引員ニ取ツテ煩雜ナルハ忍ブヘシトスルモ遂ニハ商機ヲ失シ延イテハ委託者ノ利益ヲ害スル結果ヲ招來スヘキ事火ヲ賭ルヨリモ明ナリ 此ノ故ニ取引員並ニ其ノ相手方タル委託者間ニ斯ル取引ノ迅速ヲ阻害スル制度ヲ無用ノ長物トスル漸ク高ク少クトモ最初ノ取引ニ於テ或ル外交員ニ委託スル事項ノ一ヲ爲サシメタル以上其ノ後反覆シテ行ハルル委託取引ニ付キ一々代理權ノ存否其ノ範圍如何ヲ問ハス一律ニ其ノ者ヲ委託者ノ代理人ト看做シ以テ取引員ヲシテ困難ナ立證問題ヲ免レシムルヲ以テ當事者双方ノ爲メ賢明ナルニ想到シ遂ニ前記商慣習ノ生成ヲ觀ルニ至リタルモノナリ 仍テ前記商慣習ハ結果的ニ觀レハ取引員ニ對シテ安全ノ保證ヲ與フルモノナリト雖モ原因論的ニ見レハ委託者ノ欲スル迅速性ヲ尊重シ客ノ利益ヲ保護スルノ要請ニ基クモノナルコトヲ忘ルヘカラサルモノナリ 被上告人ハ右商慣習ノ存在ヲ承認シ且之ニ從フ意思ヲ以テ本件委託取引ヲ開始シタルコト被上告人ノ自認スルコトコトナリ 然ラハ則チ其ノ代理人タル外交員ノ爲シタル行爲ニ付キ假令代理權ヲ爭フコトヲ得ル場合ニ於テモ善意ノ第三者タル上告人ニ對抗シ得ヘカラサルヤ前記商慣習ノ趣旨ニ照シ明瞭ナリト謂フヘシ 然ルニ原判決ハ右商慣習ノ趣旨ヲ單純ナル代理權ノ存否ノ問題ト混同シ「外交員カ委託者ノ意ニ反シ擅ニ代理名義ヲ冒用シテ委託シタル場合ニ適用ナキモノト連斷セルハ明ニ商慣習ノ解釋ヲ誤リタルモノナリ 原判決ノ如クンハ民法ニ於ケル表見代理ノ規定ノ如キハ全ク適用ノ餘地ナク又妻カ擅ニ日常ノ家事ニ屬スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ民法第八百四條ノ規定ハ適用スルノ限リニ非サルコトナルヘシ 豈斯ノ如キ不條理アルヘケンヤ 原判決ハ遂ニ破毀ヲ免レサルモノナリ

(判決理由) 凡ソ商慣習ハ當事者力之ニ依ルノ意思アリタル場合ニ限り有効ナルモノト解スヘキトコロ原審ハ本件取引ニ付テハ當事者間ニ所謂ノ如キ商慣習ニ反スル特約ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルモノニシテ該認定ハ原審ノ爲シ得ヘキトコロナルカ故ニ本件取引ニ付テハ當事者ニ所謂ノ如キ商慣習ニ依ル意思ナカリシモノト謂フヘク從テ右商慣習ノ有無ハ本件終局ノ判斷ニ毫モ影響スルトコロナク原審ノ爲シタル右商慣習ニ關スル說明ハ寧ロ蛇足的說明ニ付所論ノ如キ適當ナラサル點アリトスルモ敢テ原判決破毀ノ理由ト做スニ足ラサルヤ論無キトコロナリ 論旨モ亦遂ニ採用スヘカラス(昭和一三年オ一四九七號「證據金等返還請求事件」同一三、一二、二八民三判決—新聞四三八四號七、評論二八卷商二六)

判例批評

小町谷操三博士 大審院ハ新タニ「商慣習ハ當事者力之ニ依ル意思アリタル場合ニ限り有効」ナル旨ヲ正當ニ判示シタ(法學八卷

八號九〇〇)

竹内貞次氏 本判決ハ(1)商慣習ハ當事者ニ於テ之ニ依ル意思アルトキニ限り適用セラルベキガ故ニ(2)當事者ガ商慣習ニ反スル特約ヲ爲シタルトキハ該商慣習ニ依ルノ意思ナキモノト謂フベク(3)當事者ニシテ商慣習ニ依ルノ意思ヲ有セザルトキハ該商慣習ハ其ノ適用無シトスルモノデアツテ寔ニ正當デアアル：：尙本件商慣習ハ外交員ガ客タル委託者ノ意思ニ反シ代理名義ヲ冒用シタル場合ニモ其ノ適用ヲ拒否セラルベキデハ無イ 若シ然ラズトセンカ委託者ノ意思ニ基キテ爲ス場合ハ本慣習ヲ待ツ迄モナク其ノ外交員ハ委託者ノ代理人若クハ之ニ類スル者デアアルカラ結局本慣習ハ無意義ニ歸スルカラデアアル 此ノ意味ニ於テ原判決ノ此部分ハ本判決理由ニモ云フ通り妥當ナラザルモノガアル(商事法判例研究昭和一三年度八)

第三章 委託者ノ代理人

委託者ノ代理人ニ關スル規定

委託者ノ代理人ニ關スル規定ニ依リテ委託者ノ代理人ト看做ス

大株受託準則 第七條 委託者カ他人ヲシテ賣買委託ニ關スル事項ヲ爲サシムルトキハ其ノ者ヲ委託者ノ代理人ト看做ス(同趣旨ニ東株受託準則第二條)

東京民地 取引員甲ハ東京株式取引所受託契約準則第二條ノ規定ニ基キ乙ハ委託者丙ノ代理人ト看做サルヘキモノナル旨主張スレトモ乙カ丙ヲ代理スヘキ權限ヲ有シタルコトハ之ヲ認ムルニ足ル證據ナシ」東京株式取引所受託契約準則第二條ノ規定ニ所謂他人トハ取引員ノ代理人若ハ表見代理人ヲ含マサルコト多言ヲ要セス(昭和二年ワ二四四七號「株式賣買委託證據金返還等請求事件」同一五、一二、二三第一五部判決—新聞四六七六號一五、評論三〇卷民五四三、新報六一七號一七)

* 判決理由—六五三頁參照
* 「委託者ノ代理人ニ關スル受託契約準則ノ規定ト外交員ノ代理關係」ニ付テハ尙本編第二章第二節第二款「委託者ノ代理人タル外交員」參照

東京控 當審鑑定人林猶吉、米山利之助、瀧澤吉三郎ノ鑑定ニ依レハ「株式取引ニ於テ」代理人ト稱スル者カ本人ノ印類ト公債證書トヲ持參スレハ代理人ト稱スル者ニ於テ疑ハシキ情況アルトキハ取引ヲ拒絶スル場合アルモ普通ノ場合ニ於テハ本人同様ト看做シ取引ヲ爲シ其取引ハ本人ニ對シ効力ヲ有スル商慣習アルコトヲ認メ得ヘシ 而シテ右慣習ハ法令ニ規定ナキ事項ニ關シ且公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサルモノト認ムルヲ以テ法例第二條ノ規定ニ依リ法律ト同一ノ効力ヲ有スルモノト認ム(明治四〇年ネ三九一號「賠償金請求控訴事件」同一一、五、九民二判決—彙報一九卷控七五、新聞五〇四號一五)

客ノ代理人ニ關スル慣習

京都取引所ニ於ケル委託者ノ代理人ニ關スル慣習

大阪控 京都取引所ニ於テハ取引ノ委託カ取引員ノ店員ヲ介シテ爲サレタル場合店員ト委託者トノ間ニ親族關係等密接ナル關係アルトキハ店員ヲ委託者ノ代理人ト看做ス慣習存スルモノトス 故ニ此ノ場合店員カ主人タル取引員ニ取次クニヨリ委託者ヨリノ委託カ其ノ効力ヲ生スルモノナリ 然レトモ右委託者名義ノ取引委託カ委託者ヨリ委託ナキニ拘ラス店員カ其ノ名義ヲ冒用シテ爲シタルモノニシテ權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニモアラサルトキハ其ノ取引ヨリ生シタル損失ヲ該委託者ニ歸セシムルコトヲ得ス

(判決理由) 騰併ト控訴人「取引員」トノ間ニ右ノ如キ取引ノ委託契約ノ成立シタルコトヲ認メ得ヘシ 而シテ右兩者間ノ株式賣買取引ノ委託ニ付キ大正十四年十一月十七日騰併ヨリ控訴人ニ對シ證據金代用トシテ鐘ケ淵紡績株式會社新株式二十株券一枚ヲ交付シタルコトハ控訴人ノ自認スルトコロナルニ拘ラス右騰併ヨリ委託アリタル各取引ヲ控訴人カ取引所ニ於テ實行セサリシコトハ控訴人ノ自陳スルトコロナルヲ以テ元來株式取引ノ如キハ一定ノ日時ニ一定ノ相場ヲ眼目トシテ一定ノ限月等ノ下ニ之ヲ行フヘキ行爲ナレハ右騰併ノ委託契約ハ控訴人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ履行不能ニ歸シタルモノナルニ付キ騰併ハ委託ヲ解除シ右證據金代用證券ノ返還ヲ請求シ得ルモノト云ハサルヘカラス 爾リ而シテ成立ニ爭ナキ甲第八號證ニ依レハ騰併ハ大正十五年一月十四日控訴人ニ對シ右證據金代用證券ノ返還ヲ求メ居ルヲ以テ既ニ其ノ如ク解除ニ依ル効果ノ實行ヲ求メタル場合ナルニ於テ騰併ハ右委託契約ヲ解除シタルモノト認ムルヲ相當ト爲スヘケレハ控訴人ハ該證券ヲ返還スルノ義務アルモノトス 次ニ真正ニ成立シタルト認ムル甲第二號證ニ依レハ大正十五年三月七日右騰併ヨリ被控訴人ニ對シ右返還請求權ヲ讓渡シタルコトヲ認メ得ヘク同日騰併ヨリ控訴人ニ對シ其通知ヲ爲シタルコトハ控訴人ノ自認スルトコロナルハ控訴人ハ被控訴人ニ對シ該證據金代用證券タリシ鐘ケ淵紡績株式會社新株式十株券一枚ヲ返還スルノ義務アルモノナリトス 然レトモ控訴人ハ取引ノ委託カ取引員ノ店員ヲ介シテ爲サレ右店員ト委託者トノ間ニ親族關係等密接ナル關係アル場合ニハ右店員ヲ委託者ノ代理人ト看做ス慣習カ京都取引所取引員間ニ存在シ本件當事者モ右慣習ニ依リ意思アリタル旨抗辯シ原審鑑定人大城戶傳次當審鑑定人六鹿清治ノ各鑑定ノ結果ニ依レハ京都取引所ニ於テハ右抗辯ノ如キ慣習行ハルコトヲ認メ得ヘク板垣一郎ト小野騰併ト親族關係アルコトハ被控訴人ノ認ムルコトコロナルニヨリ右慣習ニ依リ意思ナカリシコトノ見ルヘキモノナキ本件ニ於テハ右慣習ニ依リ意思アリタルモノト認ムヘク從テ小野騰併ヨリ委託ヲ受ケタル板垣一郎ハ同人ノ代理人ト看做スヘキヲ以テ更ニ之ヲ主人タル控訴人ニ取次クニヨリ騰併ヨリノ委託カ其効力ヲ生スルモノナル處右騰併カ控訴人ニ對スル證據金トシテ大正十四年十二月十一日右一郎ニ交付シタルト云フ金五百圓ハ一郎ニ於テ

之ヲ控訴人ニ交付セスシテ擅ニ費消シタルコトハ原審證人板垣一郎杉浦忠次郎ノ各證言ニ依リ之ヲ認メ得ヘケレハ其如ク騰併ノ代理人ト看做スヘキ一郎カ右金圓ヲ控訴人ニ交付スル以前ニ費消シタルモノナル以上其金圓ニ付キ控訴人ニ返還義務ナキコト勿論ナルニ依リ騰併ヨリ該金五百圓ノ返還請求權ヲ讓受ケタリトシテ爲ス被控訴人ノ請求部分ハ失當ナリトス 甲第一號證第五號證ノ二等ニ依ルモ右認定ヲ覆スニ足ラス 更ニ控訴人ハ騰併ヨリ本件以外ニ數十回ニ亘リ板垣一郎ヲ通シテ株式及定期米ノ取引委託ヲ受ケ之ヲ實行シタル結果合計五百一十一圓二十八錢ノ騰併ノ損失ニ歸シタルヲ以テ其支拂ヲ受ケサル以上證據金返還ノ義務ナキ旨抗辯シ被控訴人ニ於テ控訴人ノ帳簿タルコトヲ認メ其内容モ整然明瞭ニ記載セラレアルニヨリ眞正ニ成立シタリト認ムヘキ乙第三、四號證ニ依レハ小野騰併ハ控訴人ニ對シテ右抗辯ノ如キ取引委託損失支拂ノ債務ヲ負擔セルカ如シト雖モ原審證人板垣一郎杉浦忠次郎ノ各證言ニ依レハ前示本件以外ノ騰併名義ノ取引委託ハ板垣一郎カ騰併ヨリ委託ナキニ拘ラス騰併名義ヲ冒用シテ爲シタルモノニシテ權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニモアラサルコト明カナレハ右損失ヲ騰併ニ歸セシムルヲ得サルモノトス(昭和三年ネ二七八號「證據金並ニ利益金返還請求控訴事件」同四、五、一民二判決—新聞三〇四〇號九、評論一九卷民九二)

東京控 アル法律行爲ニツイテ(本件テハ甲滿商會ヲ通シテタル被控訴人ニ對スル清算取引ノ委託)、如何ニモ自分カ責任ヲ負フ地位ニアルト見ラレルカタチヲ(本件テハ控訴人名義ノ口座ヲ被控訴人ノ店ニ設ケタコト)自ラノ意思ニモトツイテ、生セシメタ者ハ實ハ責任ヲ負フ意思カナカツタ場合テモソノ眞意ヲ知ラスニ、アラハレタカタチヲ信賴シタ者ニ對シテハ、責任ヲ負ハナケレハナラス、トイフコトハ、少クトモ財產法ノ範圍ニ於テハ一般ニ承認セラレタ法理テアツテ、ソレハ民法第百九條改正商法第二十三條第八十三條ノ規定アルコトカラヨク窺ヒ得ルトコロテアル コノ法理カラミテ控訴人「委託者」ハ長谷部カ勝手ニ控訴人ノ口座ヲ利用シテ控訴人ノ名義テ被控訴人「取引員」ニ委託シテ行ツタ本件取引ノ結果ニツイテ責任ヲ負ハナケレハナラナイノテアル

(判決理由) 訴外長谷部兼ハ昭和八年中甲府市テ「甲滿商會」トイフ商號ヲツカツテ、株式現物店ヲ開イテ、客カラノ清算取引ノ注文ヲ一般取引員テアル被控訴人ニ取次ク商賣ヲ始メタカ、ソノ際同市ニアル株式會社有信銀行ノ取締役テアリ且ツ同地ノ有力者テアル控訴人ニ對シテモ、口座ヲ設ケテ被控訴人ト株式ノ取引ヲスルヤウ勸メタトコロ、控訴人ハ自分テハ別ニ山一證券株式會社等ト取引カアリ、改メテ被控訴人ト取引ヲ始メル意思モナクマタソノ必要モナカツタカ、長谷部トノコレマテノ關係カラソノ立場

委託者名義
ノ口座利用
ト表見代理
ノ法理

上、同人ノ申出ヲコトワリカネ(長谷部ハ前カラ甲府市テ山梨經濟新報社ヲ經營シテオリ控訴人ハ同市ノ銀行ノ有力者達トトモニ長谷部カラタノマレテソノ顧問トナツテキタ)自分ノ名前テ被控訴人方ニ口座ヲ設ケルコトヲ承知シ、若シ實際ソノ口座ヲ利用シテ被控訴人ニ清算取引ノ委託ヲスルトキハ、ソレニ加ヘテ長谷部ノ注文ヲモ十株位ノ範圍テ控訴人ノ名前テ委託スルコトハ、アラカシメ承知シテキタカ長谷部カソノ口座ヲ利用シテ控訴人ノ名前テ勝手ニ清算取引ノ委託ヲスルコトハ許シテナカツタニモカカハラス、同人ハ控訴人ノ知ラヌ間ニ控訴人名義ノゴム印ヲツクリコレヲツカツテ、控訴人ニ無斷テ同人名義テ被控訴人ト前ニ認定シタヤウナ取引ヲシタコトカ認メラレル 原審證人長谷部兼梶原泰治小林淺治ノ各證言ノウチ右ノ認定ニ反スル部分ハ當裁判所カ信用シナイモノテ、被控訴人ノアケルソノ餘ノ證據ニヨツテハ右ノ認定ヲウコカスニ足リナイ シカラハ、長谷部兼カ控訴人ノ名義ヲツカツテ行ナツタ前記取引ノ委託ハ控訴人ヲ代理スル權限カナインニ勝手ニシタモノテアルカラ、控訴人ニ當然ソノ責任カアルモノト認メルワケニハユカナイ シカシナカラ、控訴人ハ長谷部カ控訴人名義ノ取引口座ヲ被控訴人ノ店ニ設ケルコトヲ承諾シテキタコトハ前ニ認定シタ通りテアリ、カツ被控訴人ハ長谷部兼ノ經營スル甲滿商會カラノ申入ニヨツテ、控訴人名義ノ口座ヲ設ケ同商會ヲ通シテタル控訴人名義ノ清算取引ノ委託ヲ受ケ、ソレヲ控訴人自ラノ意思ニヨル取引委託テアルト信シテ、前ニ述べタ通りノ取引ヲツツケテキタノテアツテ、長谷部ト控訴人トノ間ノ約束ハ全ク知ラナカツタコトカ原審證人梶原泰治原審證人武村喜一ノ各證言ニヨツテ認メラレル ソシテ、アル法律行爲ニツイテ、(本件テハ甲滿商會ヲ通シテタル被控訴人ニ對スル清算取引ノ委託)如何ニモ自分カ責任ヲ負フ地位ニアルト見ラレルカタチヲ(本件テハ控訴人名義ノ口座ヲ被控訴人ノ店ニ設ケタコト)自ラノ意思ニモトツイテ、生セシメタ者ハ實ハ責任ヲ負フ意思カナカツタ場合テモソノ眞意ヲ知ラスニ、アラハレタカタチヲ信賴シタ者ニ對シテハ、責任ヲ負ハナケレハナラス、トイフコトハ、少クトモ財產法ノ範圍ニ於テハ一般ニ承認セラレタ法理テアツテ、ソレハ民法第百九條改正商法第二十三條第八十三條ノ規定アルコトカラヨク窺ヒ得ルトコロテアル コノ法理カラミテ控訴人ハ長谷部カ勝手ニ控訴人ノ口座ヲ利用シテ控訴人ノ名義テ被控訴人ニ委託シテ行ツタ本件取引ノ結果ニツイテ、責任ヲ負ハナケレハナラナイノテアル シカラハ、控訴人ハ被控訴人ニ對シテ前記取引ノ不足金合計千五百二圓六十八錢ヲ支拂フヘキ義務カアルモノトイフヘキテアツテ、右債務カ商行爲ニヨリテ生シタ債務テアルコトハ前段ノ認定ニヨツテ明カテアリ且ツ本件訴狀カ昭和十年九月十三日控訴人ニ送達サレタコトハ記錄ニヨツテ明カテアルカラ、控訴人ニ對シテ右金千五百二圓六十八錢並ニコレニ對スル昭和十年九月二十八日カラ支拂スミマテ年六分ノ損害金ノ支拂ヲ求メル被控訴人ノ請求ハ正當テアル ヨツテ被控訴人ノ右請求ヲ認メタ原判決ハ相當テアツテ本件控訴ハソノ理由カナイ(昭和十四年ネ六七〇號「株式買賣委託仕切不足金請求控訴事件」同一五、一一、二五民八判決—新聞四六七七號六)

朝高法院 原判決カ甲カ乙ノ爲ニスルコトヲ示サシテ自己ノ名義ニ於テ京城株式現物市場仲買人ト委託取引ヲ爲シタル本件ノ場合ト雖取引ノ効力ハ直接本人タル乙ニ對シ生スル旨判示シ乙ノ請求ヲ是認シタルハ相當ナリ

(判決理由) 商法第二百六十六條ニ所謂商行為ノ代理人ハ本人ノ爲ニスルコトヲ示ササルトキト雖其ノ行為ハ本人ニ對シテ其効力ヲ生ストノ規定ハ簡明迅速ヲ貴フ商行為ニ於テ一々本人ノ爲ニスルコトヲ示スヲ要スト爲スハ煩雜ナルノミナラス本人カ自己ノ氏名ヲ被示スルコトヲ欲セサルモノアルカ故ニ本人ノ爲ニスルコトヲ示ササル場合ト雖モ其行為ハ本人ニ對シテ効力ヲ生スルモノト爲シタルモノニシテ専ラ商取引ノ實際ニ適合セシムル爲ニ設ケラレタル便宜規定ニ外ナラス 而シテ該規定ハ相手方ニ於テ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ知ルト否トニ拘ラサルモノトス 唯相手方ハ代理人ヲ本人ト信シテ取引スル場合アルカ故ニ相手方ヲ保護スルカ爲ニ本人ニ對シ履行ノ請求ヲ爲スノ外尙代理人ニ對シテモ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ旨但書ノ規定ヲ設ケタルモノナリ 而シテ本人ニ對シテ効力ヲ生ストハ相手方本人ニ對シ効力ヲ主張シ得ルノミナラス本人ヨリ相手方ニ對シテモ効力ヲ主張シ得ル趣旨ナルコト規定上明白ナルニ依リ本人ヨリ相手方ニ對シ履行ノ請求ヲ爲シ得サル趣旨ノ規定ナリト爲ス論點ハ理由ナシ 上告人(京城株式現物市場仲買人)ハ代理人ニ對シ相殺シ得ヘキ債權ヲ有スル場合ニ不測ノ損害ヲ被ルコトアリト陳辯スレトモ此ノ債權ハ代理人自身ニ對スル債權ナルカ故ニ代理人ニ對シ請求スヘキ筋合ニシテ是カ爲ニ本人ヨリ相手方ニ對シ直接商行為ノ効力ヲ主張シ得ト論スルハ失當ナリ 然レハ原判決カ馬淵正之助カ被告上告人ノ爲ニスルコトヲ示サシテ自己ノ名義ニ於テ上告人ト委託取引ヲ爲シタル本件ノ場合ト雖取引ノ効力ハ直接本人タル被告上告人ニ對シ生スル旨判示シ被告上告人ノ請求ヲ是認シタルハ相當ニシテ毫モ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニ非ス(大正一三年民上二七〇號 同一三、一一、一六判決一評論一四卷商八六、朝鮮司法協會雜誌四卷二號五五)

東京控 株式取引ノ如ク輸贏ヲ瞬刻ノ遲速ニ争フモノニアリテハ百事簡捷敏活ヲ尙フノ結果他人ノ代理權限ヲ審査スルニ付テモ亦普通一般ノ取引ニ於ケル如ク周到ナルヲ得サルハ自然ノ數ナリ 從ヒテ曩ノ買付委託ニ關シテハ甲カ委託者ヲ代理スル權限ヲ有シ居タル以上該建玉ノ手仕舞ハ勿論依テ生スル損害金受領等ニ付テモ亦同人ニ其權限アリト信スルハ取引場裡ノ行為トシテ蓋正當ナルヲ以テ仲買人ノ善意ナル限リ權限超越ノ結果ハ委託者ニ於テ之ヲ負擔スヘキコト當然ナリ

(判決理由) 當初買付ノ委託ヲ爲シタル時ノ事情ヲ尋ヌルニ被控訴人ハ小川直英ヲ介シテ控訴人ニ取引ヲ委託シタル旨主張シ控訴人ハ小川ハ被控訴人ノ代理人タリシ旨主張セルヲ以テ要スルニ小川直英カ其際關與シタルコト明白ナルノミナラス證人稻村晋吉ノ前掲供述ニ據レハ小川ハ被控訴人ノ注文ヲ控訴人ニ致スニ當リ一存ニテ注文者名義ヲ山田順吉トナシタルコトヲ認メ得ルヲ以テ小川ハ其際被控訴人ノ代理人トシテ關與シタルモノト認定セサルヲ得ス 何者若シ單純ナル意思傳達ノ使用ナリセハ獨斷ヲ以テ注文者ノ實名ヲ隱匿スルカ如キコトハ寧ろ爲シ得ヘカラス 而モ本人ノ名ヲ以テ或人ト取引ヲ爲スニ當リ第三者ヲシテ之ヲ助成セシムル方法ハ孰レカ之ヲシテ意思傳達ノ使者タラシムルカ或ハ代理權限ヲ與フルカノ二途ヲ出テサルヲ以テ已ニ前者ニ非ストセハ反證ナキ限リ自ラ後者ト認ムルノ外ナケレハナリ 況ヤ本件買付以前ヨリ被控訴人ト控訴人間ニ定期取引アリシコトハ當事者雙方ノ主張セサルトコロナルノミナラス證人三浦正智ノ小川ハ本件取引一口ヲ控訴人ニ爲セシノミナリトノ供述及ヒ證人稻村晋吉ノ供述全部ノ趣旨ヲ徵スルモ本訴當事者間ノ取引關係ハ本件買付ヲ以テ開始セラレタルコト明瞭ナルニ仍リ斯カル際ニハ單ニ買付ノ委託ヲ爲ス外多少當事者間ニ交渉決定シ置クヘキ事項モ存スヘク尙單純ナル使者ニテハ十分其目的ヲ達シ得サルヘク若又單ニ買付ノ委託ヲ爲セハ足ル迄ニ當事者間ニ地歩ヲ進メアル以上意思ノ傳達ハ他ニ簡便ナル方法アリ 必スシモ使者ヲ用フルノ要ナキヲ以テ此等ノ點ヨリ推スモ小川カ被控訴人ノ代理人トシテ事ニ當リシコトハ反證無キ限リ之ヲ認メサルヲ得ス 甲第一、二號證ノ宛名カ被控訴人自身トナレルコトハ此認定ヲ覆スニ足ラス 之ヲ要スルニ當初ノ買付委託ニ付テハ小川直英ハ被控訴人ヲ代理スル權限ヲ有シ居タルコト如上ノ次第ナルヲ以テ其後小川ヨリ轉賣ノ委託ヲ爲シタル際ニモ控訴人ハ其自陳スル如ク全ク小川カ其代理權限内ニテ爲スコトト信シタルハ此際正當ノ理由アルモノト云ハサルヘカラス 蓋何ヲカ代理權限アリト信スヘキ正當ノ理由ト云フヤハ時ニヨリ處ニヨリ又取引ノ種類ニヨリ一様ナラス株式取引ノ如ク輸贏ヲ瞬刻ノ遲速ニ争フモノニアリテハ百事簡捷敏活ヲ尙フノ結果他人ノ代理權限ヲ審査スルニ付テモ亦普通一般ノ取引ニ於ケル如ク周到ナルヲ得サルハ自然ノ數ナリ 從ヒテ本件ニ於テ曩ノ買付委託ニ關シテハ小川カ被控訴人ヲ代理スル權限ヲ有シ居タル以上該建玉ノ手仕舞ハ勿論仍テ生スル損害金受領等ニ付テモ亦同人ニ其權限アリト信スルハ取引場裡ノ行為トシテ蓋正當ナルヲ以テ控訴人ノ善意ナル限リ權限超越ノ結果ハ本訴當事者ニ在リテハ被控訴人ニ於テ之ヲ負擔スヘキコト當然ナリ 而モ控訴人ノ惡意ハ何等ノ立證ナク證據金九百圓ヲ差入レシタルコト及ヒ一株ノ手数料二十二錢ナルコトハ當事者間ニ争ナク又前記轉賣ノ結果生シタル損害金百五十圓ナルコトハ計算上疑ナク而シテ此等ノ損害及ヒ手数料ヲ前記證據金中ヨリ控除シタル殘金七百六圓ヲ控訴人ヨリ小川直英ニ支拂ヒタルコトハ眞正ニ成立シタルト認ムヘキ乙第二號證ニヨリ明白ナルヲ以テ控訴人ハ本件取引ニ關シテハ又何等ノ責任ナク從ヒテ甲第三號證ニ表示セラルル如キ其後ノ轉賣委託ヲ對抗セントスル被控訴人ノ本訴請求ハ其理由ナシ(明治四三年ネ二八〇號「株式定期賣買決算請求控訴事件」同四四、六、

二八民二判決―最近九卷四四)

東京控 甲カ株式ヲ相當ノ價格ニ昇騰スルヲ待テ賣却セン爲メ乙ヲシテ右株式第一回拂込金領收證ヲ株式仲買人丙ニ預入レシメタルトキ乙カ擅ニ該株式ヲ丙ニ讓渡シタルハ其代理權限外ノ行爲ニ屬スレトモ乙カ甲方ニ寄寓シテ其家政ノ手傳ヲ爲シタル事實アリ且乙カ甲ノ右拂込金領收證ヲ丙ニ交付シタル事實アリ又委任狀(偽造)ニ甲ノ印章カ押捺セラレタル事實アルトキハ丙ハ乙ニ株式處分ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スルモノニシテ其善意ナルトキハ丙ノ株式取得ハ有効ナリトス

委託者ノ表見代理人ト代理權アリト信ズベキ正當ノ理由

(判決理由) 控訴人ハ本件株式ヲ相當ノ價格ニ昇騰スルヲ待テ賣却セントシ長榮定治ヲシテ右株式第一回拂込金領收證ヲ株式仲買人ニ預入レシメタルモノナルヲ以テ同人ハ控訴人ニ代テ本件株式ヲ讓渡ヲ爲ス權限ヲ有セス 從テ長榮定治カ本件株式ヲ栗生武右衛門ニ讓渡シタルハ其代理權限外ノ行爲ニ屬スレトモ前記認定ノ如ク長榮定治ハ控訴人方ニ寄寓シテ其家政ノ手傳ヲ爲シタル事實アリ且長榮定治カ控訴人ノ右拂込金領收證ヲ栗生武右衛門ニ交付シタル事實アリ又本件委任狀ニ控訴人ノ印章カ押捺セラレタル事實アルニヨリ栗生武右衛門ハ長榮定治カ控訴人ニ代テ本件株式ヲ處分スル權限ヲ有スルモノト信シ且之ヲ信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシモノト認ムヘク此認定ヲ覆スヘキ證據ナキヲ以テ長榮定治カ控訴人ノ代理人ナリトシテ爲シタル栗生武右衛門ニ對スル本件株式ヲ讓渡ハ控訴人ト栗生武右衛門ト間ニ其効力ヲ生スルモノナルカ故ニ假リニ長榮定治ニ代理權ナカリシトスルモ栗生武右衛門ハ長榮定治カ控訴人ニ代テ本件株式ヲ讓渡スル權限ヲ有スルモノト信シテ之カ讓渡ヲ受ケ且其代理權アリト信スヘキ正當ノ理由アリタルヲ以テ栗生武右衛門ノ本件株式取得ハ有効ナリト被控訴人ノ主張ハ其理由アリ(大正三年ネ四二九號「株券引渡並ニ株式名義書換抹消手續請求事件」同四、七、一〇民三判決―評論四卷商三六九)

* 上告審―大正五、八、九民三判決(次掲)

大審院 民法第一百條ニ所謂第三者カ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキトハ第三者ヲシテ代理人ニ權限アリト信セシムルニ足ル事情ニシテ其事情ノ存在カ本人ノ作爲又ハ不作爲ニ出テタルモノナルコトヲ要スルハ當院判例ノ存スルトコロナリ

委託者ノ表見代理人ト代理權アリト信ズベキ正當ノ理由 民法第一百條ノ意義ト原判決ノ理由

(上告理由) 上告人カ第一審以來ノ主張ハ第一審ノ訴狀並ニ原判決ノ援用セル第一審判決事實摘示ノ記載ニ明カナル如ク「上告人

由不備

ハ本件株式カ相當ノ價額ニ昇騰スルヲ待テ賣却セント欲シ訴外長榮定治ニ託シテ右株式ノ第一回拂込金領收證ヲ株式仲買人ニ預ケ入レシメ該株式相場ノ昇騰スルヲ待テ居リタル處長榮定治ハ訴外栗生武右衛門ノ店員ニ勸メラレテ株式ノ定期取引ヲ開始シ擅ニ上告人ノ印章ヲ盜用シテ右株式名義書替ニ關スル上告人名義ノ委任狀ヲ偽造シ前示第一回拂込金領收證書ニ之ヲ添付シテ自己單獨ノ取引ナル右定期取引證據金代用トシテ栗生武右衛門ニ差入レ損失ヲ蒙リタル結果右株式全部ヲ栗生武右衛門ニ讓渡スニ至リタルモノナリ」ト云フニ在リテ而シテ其事情ハ第一審證人長榮定治及ヒ原審ノ證人千田慶助ノ供述ニ徴シ極メテ明瞭ナリトス 果シテ然リトセハ縱令原判決認定ノ如ク長榮定治カ上告人方ニ寄寓シテ家政手傳ヲ爲シタル事及ヒ上告人ノ右第一回拂込金領收證書ヲ栗生武右衛門ニ交付シタル事實アリテ且本件ノ委任狀ニハ上告人ノ印章カ押捺セラレタル事實アリトスルモ是等ノ事實ノミニ依テハ未タ栗生武右衛門ニ於テ長榮定治カ上告人ニ代リ本件株式ヲ處分スルノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシモノト認ムルヲ得サルヤ勿論ナリト謂ハサルヲ得ス

(判決理由) 民法第一百條ニ所謂第三者カ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキトハ第三者ヲシテ代理人ニ權限アリト信セシムルニ足ル事情ニシテ其事情ノ存在カ本人ノ作爲又ハ不作爲ニ出テタルモノナルコトヲ要スルハ當院判例ノ存スル所ナレハ代理人カ權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ代理人ニ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スルモノト爲サンニハ本人ノ作爲又ハ不作爲ニ出タル事情ノ存在スルコトヲ明確ニ判示セサルヘカラス 然ルニ原院カ上告人ハ本件株式ヲ相當ノ價格ニ昇騰スルヲ待テ賣却セントシ長榮定治ヲシテ係争株式第一回拂込金領收證ヲ株式仲買人ニ預入レシメタルニ止マリ同人ハ上告人ニ代リテ本件株式ヲ讓渡ヲ爲ス權限ヲ有セス、隨テ同人カ本件株式ヲ栗生武右衛門ニ讓渡シタルハ其代理權限外ノ行爲ニ屬スルコトヲ判示シナカラ同人カ上告人方ニ寄寓シテ其家政ノ手傳ヲ爲シタル事實同人カ上告人ノ右拂込金領收證ヲ武右衛門ニ交付シタル事實及ヒ本件委任狀ニ同人ノ盜用シタル上告人ノ印章ヲ押捺セラレタル事實ヲ舉示シタルノミニテ他ニ同一ノ取引ヲ爲サシメタル如ク上告人自身ノ作爲又ハ不作爲ニ出タル事情ヲシテ武右衛門ニシテ定治カ本件株式ヲ處分スル權限ヲ有スルモノト信セシムルニ足ルモノヲ明示セサルハ理由不備ノ不法アル判決ニシテ破毀スヘキモノトス(大正四年オ一〇六號「株券引渡等請求事件」同五、八、九民三判決―新聞一二一七號二七)

* 原審―東京控、大正四、七、一〇民三判決(前掲)

東京控 委託者甲カ株式ノ價格昇騰ヲ待テ他ニ賣却セント欲シ同株式第一回拂込金領收證ヲ丙ヲ代理人トシテ仲買人乙ニ預ケタル事實及ヒ甲カ從來丙ヲ代理人トシテ乙ト株式賣買ニ關スル取引ヲ爲サシメタルコトアル事實ニ徴シ甲ハ乙ヲシテ丙カ甲ノ爲メニ本件株式ヲ處分シ得ル權限ヲ有スルモノト信セシムルニ足ル行爲アリタルモノト認ムヘク從テ乙カ丙ニ於テ甲ヲ代理スル權限アルモノト信シタルハ正當ノ理由アリタルモノト認ムルヲ相當トス

(判決理由) 本株式ニ付キ明治四十五年六月十四日控訴人名義ノ株式ノ發行アリタルコト及ヒ右株式カ控訴人ヨリ訴外栗生武右衛門ニ讓渡セラレタル旨ヲ以テ名義書替手續アリタルコトノ各事實ハ當審證人渡邊汀一ノ證言ニヨリ之ヲ認定スルニ足ル 而シテ被控訴人等カ控訴人ノ主張ノ如ク栗生武右衛門外數名ノ手ヲ經テ轉々シテ本件株式ノ名義人トナリ現ニ本件株式ヲ所持シ居ルコトノ事實ハ當事者間ニ爭ナキ所ナルカ故ニ控訴人ト訴外栗生武右衛門トノ間ニ眞實本件株式ノ讓渡アリタルヤ否ヤハ本訴主要ノ争點ナリ 依テ此點ニ付キ審按スルニ原審證人長榮定治當審證人菊地達郎千田慶助ノ各證言ヲ綜合スルトキハ控訴人ハ其主張ノ如ク自己ノ引受ニ係ル東京瓦斯株式會社新株式百三十六株(未タ株券ノ發行ナキモノ)カ相當ノ價格ニ騰貴スルヲ待テ當時東京株式取引所ノ仲買人タル栗生武右衛門ノ手ヲ經テ他ニ賣却セント欲シ當時控訴人家ニ寄寓シ居リタル訴外長榮定治ヲシテ本件株式第一回拂込金領收證ヲ右栗生武右衛門ニ預ケ置カシメタル處長榮定治ハ控訴人ノ印影ヲ盜用シテ控訴人名義ノ本件株式名義書替ニ關スル委任狀ヲ偽造シ控訴人ノ代理人トシテ右株式ヲ其情ヲ知ラサル栗生武右衛門ニ讓渡シ右武右衛門ハ前記第一回拂込金領收證ニ依リ控訴人名義ノ株式ノ發行ヲ求メ且右偽造ニ係ル控訴人名義ノ委任狀ニ依リ自己名義ニ書替手續ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘキヲ以テ訴外長榮定治ハ控訴人ヲ代理スル權限ナクシテ本件株式ノ讓渡行爲ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス 此點ニ付キ被控訴人ハ訴外長榮定治カ控訴人ノ委任ヲ受ケ本件株式ヲ栗生武右衛門ニ讓渡シタル旨抗爭スルモ其立證ニ供シタル乙第一號證ニ依テハ其事實ヲ認ムルニ難ク其他被控訴人ノ立證ナキヲ以テ到底其主張ヲ是認スルニ足ラサルカ故ニ右抗辯ハ排斥ヲ免レス 然レトモ控訴人カ本件株式ノ價格カ昇騰スルヲ待テ栗生武右衛門ノ手ヲ經テ他ニ賣却セント欲シ訴外長榮定治ヲ代理人トシテ栗生武右衛門ニ本件株式第一回拂込金領收證ヲ預入レシメタル前段認定ノ事實ト成立ニ爭ナキ乙第一號證ノ一拙者代人長榮定治ヲ以テ拙者名義ノ東京瓦斯株式會社株券百三十六枚貴店ニ御預ケ申置候處云々然ノミナラス代人長榮定治ヲ以テ買理申候(日本電燈株ト乘換ヘシモノ)臺北製糖株式新株二十株ノ今年利益配當一株八朱總額二十六圓八十錢ヲモ拙者受領致スヘキニ之亦未タ何等ノ沙汰無之拙者迷惑至極ノミカ云々ノ記載ニヨリ認メ得ヘキ控訴人カ從來訴外長榮定治ヲ控訴人ノ代理人トシテ栗生武右衛門ト株式賣買ニ關スル取引

ヲ爲サシメタルコトアル事實トニ徴センカ 控訴人ハ其當時栗生武右衛門ヲシテ長榮定治カ控訴人ノ爲メニ本件株式ヲ處分シ得ル權限ヲ有スルモノト信セシムルニ足ル行爲アリタルモノト認ムヘク從テ栗生武右衛門カ訴外長榮定治ニ於テ控訴人ヲ代理スル權限アルモノト信シタルハ正當ノ理由アリタルモノト認ムルヲ相當トス 故ニ民法第一百十條ニ依リ控訴人ハ長榮定治カ控訴人ノ代理人トシテ爲シタル本件株式讓渡行爲ニ付キ其實ニ任スヘキモノト爲スヘキカ故ニ控訴人ハ右讓渡行爲ノ無効ヲ主張シ得サルハ當然ナリ 然シテ控訴人ハ栗生武右衛門カ訴外長榮定治ニ於テ控訴人ヲ代理スル權限ナキ事實ヲ了知シナカラ右定治ヨリ本件株式ヲ讓受ケタリト抗爭スルモ其援用ニ係ル當審證人菊地達郎千田慶助ノ此點ニ關スル部分ノ證言ハ措信シ難ク其他控訴人ノ援用スル證據ニ依テハ到底其事實ヲ認ムルニ足ラサルヲ以テ控訴人ノ前記主張ハ採用スルニ由ナシ 然レハ控訴人ト栗生武右衛門トノ間ノ本件株式讓渡行爲ノ無効ヲ前提トシテ爲ス控訴人ノ本件請求ハ爾餘ノ争點ニ付キ判斷ヲ俟タス其失當ニシテ排斥スヘキモノナルコト明瞭ナルカ故ニ本件控訴ヲ全ク理由ナキモノト認ム(大正五年ネ五四〇號「株券引渡並ニ株式名義書替抹消手續請求控訴事件」同七、四、三〇民二判決—新聞一四四六號一九、評論七卷民六二七)

* 上告審—大正八、四、一五民一判決(次掲)

大審院 原判決ハ争點ノ判斷ニ影響ヲ來スヘキ重要ノ事實ニ對スル判斷ヲ遺脱シタル不法アリ

(判決理由) 原審ハ證據ニ依リ上告人カ其引受ニ依ル東京瓦斯株式會社新株式百三十六株ヲ相當價格ニ騰貴スルヲ待テ當時東京株式取引所仲買人栗生武右衛門ノ手ヲ經テ他ニ賣却スヘキ目的ノ下ニ訴外長榮定治ヲシテ其第一回拂込金領收證ヲ栗生武右衛門ニ預ケ置カシメタル處定治ハ上告人ノ印影ヲ盜用シテ控訴人名義ノ本件株式名義書替ニ關スル委任狀ヲ偽造シ上告人ノ代理人トシテ右株式ヲ其情ヲ知ラサル栗生武右衛門ニ讓渡シ武右衛門ハ會社ニ對シ領收證ニ依リ上告人名義ノ株式ノ發行ヲ求メ更ニ右委任狀ニ依リ自己名義ニ書替ヘ次テ被上告人等ニ轉帳シタルモノニシテ訴外定治ハ右讓渡ニ付キ上告人ヲ代理スル權限ナカリシモ上告人ノ行爲ニ依リ栗生武右衛門ニ於テ定治ニ上告人ヲ代理スル權限アリト信スルニ足ル正當ノ事由アリタルモノナルヲ以テ民法第一百十條ニ依リ上告人カ右讓渡行爲ノ無効ヲ主張スルコトヲ得サル旨ヲ判示シタリ 然レトモ原判決ニ引用セル第一審判決事實摘示ニ依レハ判示株式ノ讓渡ヲ爲スニ至リタル事情ハ訴外長榮定治カ右第一回拂込金領收證ヲ仲買人栗生武右衛門ニ預入レタル後ニ至リ擅ニ自己單獨ノ定期取引ノ證據金代用トシテ之ニ上告人名義ノ株式名義書替委任狀ヲ偽造添付シ訴外栗生武

右衛門ニ差入レ株式ノ定期取引ヲ爲シタルニ損失ヲ蒙リタル結果右株式全部ヲ栗生武右衛門ニ讓渡スニ至リタルモノナリト主張シタルコト明ニシテ右主張事實ハ上告人所論ノ如ク訴外長榮定治カ本件株式ヲ自己ノ所有株式トシテ自己單獨ノ取引ノ爲メニ處分シタルモノナリトノ意義ニ解セラレサルニアラサルヲ以テ若シ右ノ主張事實ノ肯定セラルルニ於テハ訴外長榮定治カ上告人ノ代理人トシテ本件株式ノ讓渡行爲ヲ爲シタリトノ原審ノ認定ニ影響ヲ來ササルモノナリト謂フヲ得サルノミナラス又訴外定治カ本件株式ヲ上告人ノ代理人トシテ騰貴後讓渡ノ目的ノ下ニ一旦栗生武右衛門ニ預入レナカラ其後ニ至リ自己單獨ノ定期取引ノ證據金代用トシテ更ニ之ヲ栗生武右衛門ニ差入レ且其損失ノ結果之ヲ武右衛門ニ讓渡スニ至リタル主張事實ノ如キ果シテ如何ナル順序方法ニ依リシヤ其具體的状況ノ如何ニ依リテハ假令訴外定治カ上告人ノ代理人トシテ讓渡行爲ヲ爲シ武右衛門カ委任狀偽造ノ情ヲ知ラサリトスルモ栗生武右衛門カ訴外定治ニ代理權アリト信シタル事由ノ正當ナルヤ否ヤノ判斷ニ影響ヲ來ササルニアラサルヲ以テ原審ハ須ク此主張事實ノ有無ヲ確定セサルヘカラサル筋合ナルニ原審ハ上告人ノ此主張事實ニ對シ何等判斷ヲ爲ササルヲ以テ原判決ハ爭點ノ判斷ニ影響ヲ來スヘキ重要ノ事實ニ對スル判斷ヲ遺脱シタル不法アリ 原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レス(大正七年オ一〇六五號「株券引渡並株式名義書替抹消手續請求事件」同八、四、一五民一判決—新聞一五六三號二一)

*原審—東京控、大正七、四、三〇民二判決(前掲)

東京民地 委託者甲ハ直接取引員乙又ハ其ノ店員ト折衝シタルコトナク擧ケテ之ヲ丙丁ノ兩名ニ一任シ以テ代理權ヲ附與シタルモノニシテ丙及丁ハ甲主張ノ取引ヲ委託スルニ際リ甲ハ教育家ナルカ故ニ株式取引ノ書類カ直接送付セラルルハ體面上好マシカラス書類ハ總テ丙宛ニ送付セラレタキ旨ヲ告ケ乙ノ店員ヲシテ甲ハ一切右兩名ヲシテ代理セシメ居ルモノナルカノ如ク信セシメ又乙ヨリ甲ノ委任狀ヲ求メラルルヤ右兩名ニ於テ之ヲ作成交付シ乙ノ店員ヲシテ右兩名ニ代理權アルコトヲ誤信セシメタル事實ヲ認ムルニ足ル 右ノ如キ場合ニ於テ乙及乙ノ店員カ丙及丁ニ甲ヲ代理スヘキ權限アリト信スルハ當然ニシテ甲ハ右兩名カ甲ノ代理人ナリト稱シテ甲主張ノ取引ト前後シテ擅ニ爲

委託者ノ表
代理權人ト
見代理人ト
信據アリト
正當ノ理由

シタル乙主張ノ取引委託ノ結果ニ付其ノ責ヲ免ルルヲ得サルモノトス

(判決理由) 被告カ「大二商店」ナル商號ヲ有スル株式會社東京株式取引所一般取引員ナルコト及原告カ昭和九年十月十六日被告ニ對シ現金千圓ヲ證據金トシテ差入レ同取引所ニ於ケル取引ヲ委託シ次テ同月三十日原告名義ノ日本産業株式會社株式(一株ノ金額五十圓全額拂込濟)百株ヲ原告名義ノ白紙委任狀及處分承諾書ヲ添附シテ差入レ證據金代用ト爲シタルコト及被告カ原告ノ委託ニ基キ別紙計算書短期取引ノ部(2)(7)(19)(33)(40)(49)記載ノ如ク同年十月二十六日以昭和十年二月二十三日ニ至ル迄同計算書ノ前示部分記載ノ如キ取引ヲ爲シ同上記載ノ如キ手数料並繰延料ヲ差引計算シ原告ハ結局同取引ニ於テ合計金七百二十三圓四十錢ノ利益ヲ得タルコトハ當事者間ニ爭ナキトコナリ 被告ハ右取引ハ原告自ラ委託シタルモノニ非ス原告ハ訴外長谷川清太郎及小崎輝子ヲ代理人トシテ前示證據金及證據金代用株式ヲ差入レ且右取引ノ委託ヲ爲シタルモノニシテ其ノ委託シタル取引ハ原告主張ノ取引ニ止マラス其ノ總取引ハ別紙計算書記載ノ如ク數十回ニ亘ルモノナル旨主張シ原告ハ右事實ヲ否定シ單ニ右小崎輝子ヲ介シテ前示證據金及證據金代用株式ヲ被告ニ差入レタルニ過キスシテ被告主張ノ右兩名ヲ自己ノ代理人トスル意思ナカリシ旨爭フヲ以テ先ツ證言並右證言及證人小崎尚男ノ第一、二回證言ニ依リ眞正ニ成立シタリト認ムル乙第五號證ノ五ヲ綜合スレハ原告カ被告ニ對シ本證言並右證言及證人小崎尚男ノ第一、二回證言ニ依リ眞正ニ成立シタリト認ムル乙第五號證ノ五ヲ綜合スレハ原告カ被告ニ對シ本件取引ヲ委託スルニ至リタルハ右清太郎ト原告トハ豫テヨリ別戀ノ間柄ナリシトコト昭和九年九月頃右清太郎ハ同人ノ知合ナル占星師望月某ヨリ被告商店ノ店員タル小崎尚男ノ義姉ニ當ル小崎輝子カ株式取引ニ精通シ居ルコトヲ聞知シタルヲ以テ當時原告カ他ノ取引員ニ株式取引ヲ委託シ損失ヲ招キ居タル折柄ナリシヨリ右輝子ヲ原告ニ紹介シ輝子ヲシテ原告ノ爲株式取引ヲ斡旋セシメント欲シ先ツ前示望月某ノ紹介ニ依リ右輝子ト面接シ次テ同人ヲ帶同シテ原告ヲ訪レ同人ヲ原告ニ紹介シ茲ニ右三名談合ノ末結局原告ハ輝子ニ金千圓ヲ證據金トシテ交付シ同人ヲ代理人トシテ之ヲ被告商店ニ差入レシメ且取引ノ委託ヲ爲シ原告被告間ニ取引委託關係ヲ生スルニ至リタルモノナルコト右談合ノ際原告ハ清太郎及輝子ノ兩名ニ取引ノ委託ハ一々原告ニ相談シ且取引ノ結果ノ報告ヲ受ケ度キモ自分ハ株式取引ニハ精通セサルカ故ニ宜シク頼ム旨ヲ依頼シ又利益アリタルトキハ其ノ一割ヲ同人等ニ謝禮トスル旨ヲ約定シ一方輝子ニ對シテハ更ニ見込アル株式ハ同人ニ於テ取引委託スルモ差支ナキ旨明言シタルコト並前示證據金代用株式ハ同人等ニ於テ原告ヨリ交付ヲ受ケ之ヲ被告ニ差入レタルモノナルコトヲ窺フニ足ル 右認定ノ事實及前示認定ノ當事者間ニ爭ナキ原告主張ノ取引關係ト證人小崎尚男ノ第一回證言トヲ綜合考慮スレハ曩ニ認定シタル原告主張ノ取引及證據金並證據金代用株式ノ差入ニ付テハ原告ハ被告又ハ被告商店員ト直接折衝シタルコトナク右ハ原告カ右清太郎及輝子ヲ介シテ之ヲ爲シタルモノニシテ原告

カ直接關係シタルモノハ全然存在セス 即チ原告ハ右證據金及證據金代用株式交付並取引委託ノ總テヲ右兩名ニ一任シ同人等ニ其ノ代理權ヲ附與シタルモノナルコトヲ認ムルニ十分ナリ(中路)然レトモ原告主張ノ部分ヲ除キタル右取引ノ委託ニ付前示清太郎及磯子ノ兩名ニ原告ヲ代理スヘキ權限アリタルコトハ被告ノ立證ニ依リテハ到底之ヲ認メ得サルトコロニシテ却テ證人丸山儀一、長谷川清太郎及小崎耀子ノ各證言並原告本人訊問ノ結果ニ依レハ原告ハ右兩名ニ對シ斯カル取引ノ委託ニ付代理權ヲ附與シタル事實ナク該取引委託ハ右兩名カ原告ヨリ附與セラレタル代理權ノ範圍ヲ逸脱シ所謂手張ヲ爲シタルモノナルコト寔ニ明白ナリ 然レトモ被告ハ右取引委託ニ付被告カ右兩名ニ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由アリタル旨主張スルヲ以テ其ノ當否ヲ稽フルニ原告主張ノ證據金及證據金代用株式ノ交付並取引ノ委託ハ原告カ直接被告又ハ被告ノ店員ト折衝シタルコトナク擧ケテ之ヲ右兩名ニ一任シ以テ代理權ヲ附與シタルモノニシテ被告主張ノ取引ハ原告カ證據金ヲ差入レタル後ニ於テ原告主張ノ取引ノ前後ニ亘リ繼續的ニ行ハレタルモノナルコトハ既ニ認定シタル事實ニ徴シ明白ナリ 而モ證人小崎尚男(第一、二回共)長谷川清太郎並小崎耀子ノ各證言ヲ乙第六號證ト綜合スレハ右清太郎及磯子ハ原告主張ノ取引ヲ委託スルニ際リ原告ハ教育家ナルカ故ニ株式取引ノ書類カ直接原告方ニ送付セラレルハ原告ノ體面上好マシカラス書類ハ總テ長谷川清太郎宛ニ送付セラレタキ旨ヲ被告ノ商店員ヲシテ原告ハ一切右清太郎及磯子ヲシテ代理セシメ居ルモノナルカノ如ク信セシメ又被告ヨリ原告ノ委任狀ヲ求メラルルヤ右兩名ニ於テ之ヲ作成交付シ(乙第六號證)被告ノ商店員ヲシテ右兩名ニ代理權アルコトヲ誤信セシメタル事實ヲ認ムルニ足リ右兩名ニ斯カル所爲アリタルハ前示認定ノ原告ト長谷川清太郎トノ關係ニ徴シ原告カ右清太郎等ヲ厚遇寛待シタルニ因ルモノナルコト亦想像ニ難カラス 右ノ如キ場合ニ於テ被告及被告ノ店員カ右清太郎及磯子ニ原告ヲ代理スヘキ權限アリト信スルハ當然ニシテ毫モ之ヲ咎ムヘキニ非ス 而シテ證人小崎尚男ノ第一、二回證言ニ依レハ被告及被告ノ店員カ右兩名ヲ原告ノ代理人トシテ株式取引委託ニ關スル一切ノ權限ヲ附與セラレ居ルモノト信シ被告主張ノ取引ヲ爲シタルモノナルコトヲ認ムルニ足リ右各認定ヲ覆スニ足ル證據ナキヲ以テ原告ハ民法第百十條第百九條ニ依リ右兩名カ原告ノ代理人ナリト稱シテ爲シタル被告主張ノ取引委託ノ結果ニ付其ノ責ヲ免ルルヲ得サルヤ言フ俟タス 原告カ自ラ代理權ヲ附與セサルニ拘ラス右兩名ニ於テ擅ニ爲シタル取引委託ノ結果ニ付其ノ責ヲ負フハ事情實ニ同情ニ値スヘキモ右ハ輒ク右兩名ヲ信用シ其ノ監督ヲ忽ニシタル不明ノ致ストコロニシテ已ムヲ得サルコトニ屬ス 果シテ然ラハ原告主張ノ證據金代用ノ株式ハ既ニ處分セラレタルモノニシテ原告ハ之ニ對シ其ノ責任ヲ辭シ得サルニ歸スルヲ以テ被告ハ原告ニ對シ右株式ヲ返還スヘキ義務ナク從テ之カ返還義務アルコトヲ前提トスル原告ノ本訴請求ハ爾餘ノ爭點ニ付判斷ヲ爲ス迄モナク失當トシテ之ヲ棄却スヘキモノトス(昭和一〇年ワ一四五一號「株式返還損害金請求事件」同一一、一一、一三第一一部判決) 評論二六卷民四五〇、新報四六四號一七)

代理權アリ
ト信ズベキ
正當ノ理由
ニ該當セザ
ル場合

東京控 甲カ單ニ最初丙ヲ通シテ乙ニ對シ定期米買付ノ委託ヲ爲シタル事實ノミヲ以テハ未タ丙カ乙ニ對シ爲シタル其後ノ委託ニ付テモ亦甲ノ代理權アリト信セシムヘキ正當ノ事由ト爲スニ足ラス

(判決理由) 先ツ被控訴人ノ原因變更ノ抗辯ニ付按スルニ本訴第二ノ取引ニ關スル請求ノ基本タル事實トシテ控訴人ノ主張スル所ハ控訴人カ被控訴人ニ對シ大正六年六月新南先物米三百石買付ノ委託ヲ爲シ被控訴人ニ於テ該委託ニ基キ同年六月四日同三百石ノ買付ヲ爲シタル其後被控訴人カ控訴人ノ委託ナキニ拘ラス擅ニ右建玉ヲ外シ之ヲ自由ニ處分シ手仕舞シタルニヨリ控訴人ニ損害ヲ被ラシメタリト云フニアリテ該主張ハ原審並ニ當審ニ於テ終始變更スル處ナキカ故ニ假令控訴人カ該事實ヲ以テ原審ニ於テハ不法行為ナリトシ又當審ニ於テハ債務不履行ナリト爲スモ是レ單ニ法律上ノ意見ヲ更正シタルニ過キサレハ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト謂フヘカラス 從テ右抗辯ハ其理由ナシ 次ニ本案ニ於テ被控訴人カ名古屋米穀取引所仲買人ニシテ控訴人ヨリ定期米賣買ノ委託ヲ受ケ其證據金三百圓ヲ受取リタルコト控訴人主張ノ第一ノ賣買委託ヲ受ケ其取引ノ結果控訴人カ利益ヲ得結局被控訴人ヨリ控訴人ニ對シ支拂フヘキ利益金百八十六圓六十錢アリシコトハ當事者間爭ナキ所ナリ 而シテ被控訴人カ控訴人ヨリ其第二主張ノ三百石買付ノ委託ヲ受ケ大正六年六月四日現場第一節ニ於テ金二十一圓十九錢ニテ三百石ノ買付ヲ爲シタルコトハ被控訴人ノ認ムル所ニシテ被控訴人ハ該取引ニ付キ其後控訴人カ其代理人大藏與六ヲ通シテ被控訴人ニ對シ其主張ノ如キ賣買買付買埋等ノ委託ヲ爲シタリト主張スレトモ之控訴人ノ否認スル訴ニシテ大正七年六月二十一日ノ原審口頭辯論調書ニ於ケル大藏與六訴訟代理人ノ供述ハ信ヲ措キ難ク乙號各證其他被控訴人採用ノ各證據ニ依ルモ該主張事實ヲ認ムルニ足ラス 却テ原審證人福住潤次郎太田三郎ノ各證言ヲ綜合スレハ被控訴人主張ノ右賣買ハ訴外大藏與六カ控訴人ノ代理權ナキニ拘ラス自己擅斷ニテ被控訴人ニ委託シタルモノナルコトヲ認メ得ヘタ尙被控訴人ハ右與六ニ控訴人ノ代理權ナカリシトスルモ代理權アリト信スヘキ正當ノ事由アリト主張スレトモ控訴人カ單ニ最初右與六ヲ通シテ被控訴人ニ對シ三百石買付ノ委託ヲ爲シタル事實ノミヲ以テハ未タ右與六カ被控訴人ニ對シ爲シタル其後ノ委託ニ付テモ亦控訴人ノ代理權アリト信セシムヘキ正當ノ事由ト爲スニ足ラス 他ニ被控訴人採用ノ各證據ニ依ルモ右主張ヲ認ムルニ足ラサルヲ以テ被控訴人カ控訴人ノ三百石ノ建玉ニ付被控訴人主張ノ如キ賣買買付及買埋ヲ爲シ大正六年六月二十三日買埋處分ヲ爲シタル結果控訴人ニ於テ差引金十二圓ノ債務負擔トナルカ如キ計算ト爲ラシメ以テ控訴人ニ損失ヲ被ラシメタルハ之洵ニ被控訴人カ控訴人ノ委託ニ背キタル擅斷ノ處置ニ基クモノニシテ即チ被控訴人ノ債務不履行ノ結果ニ外ナラサルモノト謂ハサルヘカラス 而シテ控訴人カ大正六年六月二十三日右三百石ノ建玉アリト信シ同日相場昂騰シタルニヨリ之處

分セントシタルニ際シ叙上ノ如ク被控訴人カ右建玉ヲ處分シタル事實ヲ發見シタルコトハ原審證人福住潤次郎ノ證言ニ依リテ之ヲ認メ得ヘク同日ノ相場カ二十二圓五十七錢ニシテ若シ控訴人カ該相場ニ於テ右三百石ノ建玉ヲ處分シタルニハ金四百十四圓ノ利益ヲ得ヘカリシコト並ニ其手數料カ金十七圓四十錢ナリシコトハ當事者間爭ナキヲ以テ結局控訴人ハ被控訴人ノ右債務不履行ノ爲メ右手數料ヲ差引キ金三百九十六圓六十錢ノ得ヘカリシ利益ヲ喪失シタル筋合ナルヲ以テ被控訴人ハ控訴人ニ對シ右損害ノ賠償トシテ右金額ヲ支拂フヘキ義務アルコト明ナリトス（大正八年ネ三四號「損害賠償請求事件」同九、四、七民三判決—評論九卷民訴一三三）

大審院 乙カ取引員丙ニ對シ甲ノ代理人ナリトシテ建株手仕舞ノ委託ヲ爲シタル場合ニ丙ハ乙カ其ノ代理權ヲ有スト信シテ其ノ委託ヲ受ケ且斯クノ如ク信スヘキ正當ノ理由アリタリトセハ甲ハ乙ノ爲シタル該委託ニ付本人トシテノ責ヲ負ハサルヲ得サルコト勿論ナリ

（判決理由）仍テ審按スルニ原審ハ上告人カ抗辯トシテ主張シタル所ハ單ニ上告人ハ昭和六年三月十七日被上告人前主岡本吉作ヨリ本件買建株手仕舞ノ委託ヲ受ケタルノ前既ニ同月十二日吉作ノ代理人タル訴外岡本幸太郎ヨリ右株手仕舞ノ委託ヲ受ケテ之ヲ履行シ其ノ結果生シタル利益金ヲモ幸太郎ニ交付シ了シ居リタルモノナレハ被上告人主張ノ如キ損害賠償ノ義務ナシト云フニアルモノト解シタル上右訴外人幸太郎カ吉作ノ代理人トシテ右手仕舞ノ委託ヲ爲シタルコトハ之ヲ認メ得レトモ其ノ代理權ヲ有セシコトハ之ヲ認ムルヲ得スト爲シ以テ上告人敗訴ノ判決ヲ爲シタルモノナルコト原判文上明ナル所ナリ 然レトモ被上告人前主岡本吉作カ本件買建委託前別ニ幾多ノ株買建賣建ヲ上告人ニ委託シ來リタルコトハ當事者間爭無キ所ニ係リ上告人ハ其ノ委託ハ總テ吉作本人ヨリ直接ニ之アリタルモノニ非スシテ其ノ代理人タル右訴外人幸太郎ヨリ爲サレタルモノナル旨ヲ主張シ其ノ證據ヲモ提出シタルコトハ原審口頭辯論調書上之ヲ認ムルニ十分ナリ 而シテ這ノ主張ハ單ニ冒頭記載ノ抗辯事實ヲ明カナラシメンカ爲ノ事情トシテ附陳シタルニ止マルモノトハ速斷シ得ヘキモノニ非ス 或ハ從來斯クノ如キノ事實アリ、故ニ上告人ハ前記三月十二日幸太郎カ吉作ヲ代理シテ本件株手仕舞ノ委託ヲ爲シタル際其ノ代理權アリト信シテ之ヲ受ケタリ、而シテ斯クノ如キ場合ニ於テハ兩カ信スヘキ正當ノ理由存ストノ別個ノ抗辯ヲ提出シタルモノナルヤモ知ルヘカラス 蓋幸太郎カ上告人ニ對シ吉作ノ代理人トシテ本件買建株手仕舞ノ委託ヲ爲シタルコト原審認定ノ如クニシテ

委託者ノ代理權ノ認定ト審理不盡

其ノ際上告人ハ幸太郎カ其ノ代理權ヲ有スト信シテ其ノ委託ヲ受ケ且斯クノ如ク信スヘキ正當ノ理由アリタリトセシカ吉作ハ幸太郎ノ爲シタル該委託ニ付本人トシテノ責ヲ負ハサルヲ得サルコト勿論ニシテ其ノ結果ハ冒頭掲記ノ抗辯カ認メラルル場合ト何等異ル所ナク從テ上告人トシテハ既ニ彼ヲ提出シタル以上此ヲモ提出シタリト解スルヲ寧ロ自然トスヘケレハナリ 然レハ原審ニ於テハ須ラク先ツ上告人ヲシテ前掲主張ノ趣旨ヲ釋明セシメタル上適當ノ審理ヲ進ムヘキモノナルニ拘ラス事茲ニ出テサリシハ畢竟應サニ盡スヘキノ審理ヲ盡ササリシモノニシテ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノトス（昭和八年オ二七〇四號「株式取引計算金請求事件」同一〇、二、二〇民四判決—大審院裁判例（九）民三三、法學四卷九號一一七七）

判例批評

廣濱嘉雄氏 民法第百十條ノ適用アル場合 甲ノ代理人乙ヨリ甲ノタメニ株買建賣建ノ委託ヲ受ケ來リタル丙ガ偶々甲カラノ授權ヲシテ乙ガ丙ニ株買建賣建ノ委託シタル場合ニ丙ガ乙ハ右株買建ニ關スル甲ノ代理人デアルト信ズルコトニハ正當ノ理由ガアルカラ乙ノ爲シタル該委託ニ付テハ丙ニ對シテ甲ハ其ノ責ニ任ジナケレバナラヌ（法學五卷八號一一一八）

取引所取引ノ委託者ノ越權行爲ト損害賠償義務

東京控 甲カ委託者乙ノ爲メニ米穀取引所仲買人ニ對シ米穀ノ定期取引ノ委託ヲ爲スヘキ旨乙ヨリ委任ヲ受ケタル場合買建並ニ該建玉ノ處分等一切ハ甲ニ於テ總テ乙ノ指圖ニ從フヘキ約定ナリトセハ甲カ乙ノ許諾ナクシテ限月ノ到來前買建米ノ轉賣ヲ爲サシメタルトキハ甲ハ爾後乙ノ指圖アルモ仲買人ヲシテ乙ノ爲メニ右買建米ノ處分ヲ爲サシメ又ハ限月ノ履行日ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲サシムルコトハ不能ニ歸シタルモノト謂フヘク從テ乙ハ甲ヲシテ右甲ノ給付不能ヲ生セシメタル行爲ニ因リ被リタル損害ヲ賠償セシメ得ヘキコト言フ俟タサル所ナリトス

（判決理由）被告カ原告ノ爲メニ株式會社名古屋米穀取引所仲買人ニ對シ同取引所ニ於ケル米穀ノ定期取引ノ委託ヲ爲スヘキ旨原告ヨリ委任ヲ受ケ大正六年八月十七日右取引ノ證據金ニ充用スル爲メ金四百圓ヲ受領シ之ヲ前記取引所仲買人渡邊爲次郎ニ送付シタルコト右渡邊ハ被告ノ指圖ニヨリ同月二十七日、八日頃同取引所ニ於テ十月限二百石ヲ一石金二十一圓十錢ニテ買建米ヲ爲シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ニシテ且成立ニ爭ナキ甲第三號證一、二（前記買建ニ關シ當事者間ニ往復シタル書面）ヲ彼此對照スレハ前記買建並該建玉ノ處分等一切ハ被告ニ於テ總テ原告ノ指圖ニ從フヘキ約定ナルコトヲ認定スルニ十分ナ

成立ニ争ナキ乙第一號證ハ之ヲ上記ノ諸證據ト綜合考駁スレハ同號證ハ原告ニ於テ被告カ原告ノ爲メニ仲買人ニ對シテ賣建又ハ買建ノ注文ヲ爲スニ方リ其適當ノ時期如何ニ付テハ被告ノ考量ニ依賴シ同人ヨリ原告ニ對シテ進言スヘキコトヲ期待スル趣旨ノ書翰ニ外ナラサルモノト解スルヲ相當ト爲スカ故ニ同號證ニヨリテハ前記買建並該建玉ニ對スル其後ノ處置カ舉ケテ被告ノ專行ニ委ネラレタルモノト認メ難ク其他ニ前記ノ認定ヲ覆スニ足ル證據ナシ 依テ進テ原告ノ損害金ノ請求ニ付案スルニ被告ハ原告ノ許諾無クシテ限月ノ到來前記二百石ノ轉賣ヲ爲サシメタルモノナルコトハ被告ノ明ニ争ハサル所ナルヲ以テ被告ハ爾後原告ノ指圖アルモ前記仲買人ヲシテ原告ノ爲メニ右買建米ノ處分ヲ爲サシメ又ハ限月ノ履行日ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲サシムルコトハ不能ニ歸シタルモノト謂フヘク從テ原告ハ被告ヲシテ右被告ノ給付不能ヲ生セシメタル行爲ニ因リ被リタル損害ヲ賠償セシメ得ヘキコト言フ俟タサル所ナリトス 然ルニ前記限月ノ履行日ナル大正六年十月二十九日ノ右取引所ニ於ケル本件買建米價額カ一石金十三圓二一錢ナルコトハ被告ノ認ムル所ナルヲ以テ之ハ前記買付價額一石二十一圓十錢トノ差二圓一錢此ノ二百石ニ對スル差額四百二十一圓ハ正ニ原告カ被告ノ履行不能ニヨリ受ケタル損害トシテ同人ニ對シテ之カ賠償ヲ請求シ得ヘキモノト謂ハサルヘカラス 次ニ證據金返還請求ノ點ニ付審究スルニ原告證人渡邊爲次郎ノ供述ニヨレハ前記取引所ノ仲買人タル同證人ニ於テ被告ノ指圖ニ基キ(被告カ原告トノ約定ニ反シ原告ノ許諾ナクシテ恣ニ仲買人ニ對シ右轉賣ノ指圖ヲ爲シタルモノナルコトハ前記認定ノ如シ)本件買建米ヲ轉賣シ因テ生シタル損害並手數料等ハ之ヲ本件四百圓ノ證據金ヨリ控除シ大正六年九月二十八日其殘額三百二十三圓六十錢ヲ被告ニ返還シタルコト明白ナルヲ以テ原告ハ被告ニ對シ證據金トシテ右三百二十三圓六十錢ヲ請求シ及右金額ト四百圓トノ差額七十六圓四十錢ヨリ當事者間争ナキ本件買建ニ關スル仲買人手數料十二圓二十錢ヲ控除セル其殘額六十四圓二十錢ハ前記被告ノ不履行ニ基キ生シタル損害トシテ之ヲ請求シ得ヘキモノトス 之ニ對シ被告ハ原告ノ委任ニヨリ前記仲買人渡邊爲次郎並同取引所仲買人赤座大次郎ニ對シ本件取引外ニ米穀ノ定期取引ノ委託ヲ爲シ前記證據金殘額ハ全部之ヲ該取引ニ關スル證據金ニ充用シタルヲ以テ返還スヘキ理由ナキ旨抗辯スレトモ其主張ノ如キ取引ノ委任カ原告間ニ存シタル事實ヲ明認スルニ足ル證據ナキヲ以テ右抗辯ハ認容スルニ由ナシ 最後ニ利息ノ點ヲ案スルニ前記損害賠償證據金返還ノ各債務ハ何レモ期限ノ定メナキ債務トシテ委任者タル原告ノ請求アリタル時ヨリ被告ノ遲滞ヲ生スルモノト解スヘキヲ以テ本件訴訟送達前ニ原告ヨリ被告ニ對シ之カ請求ヲ爲シタルコトノ證左ナキ本件ニアリテハ被告ハ該債務ニ付訴訟送達ノ時ヨリ遲滞ノ責ニ任スヘキモノト謂フヘク從テ被告ハ原告ニ對シ前記認定ノ損害證據金等ノ合計金八百九圓八十錢並之ニ對シ本件訴訟送達ノ翌日大正十年四月二十七日(右送達ノ事實ハ記錄中ノ送達證書ニヨリ明カナリ)以降年五分ノ法定遲延利息ヲ附シ之カ支拂ヲ爲スノ義務アルモノトス(大正一二年ネ九一二號、同九二五號「預金並損害金請求事件」同一三、一〇、三民三判決—新聞二三二五號一八)

* 上告審—昭和四、四、八民一判決(次掲)

大審院 上告人カ仲買人ヲシテ建玉ヲ處分セシメタルハ被告上告人ノ指圖ニ基クモノナル旨抗辯トシテ主張シタルニ拘ラス原院カ被告上告人ノ許諾ヲ得スシテ建玉ヲ處分シタル事實ヲ争ナキモノト認メ抗辯ノ當否ヲ審理セスシテ上告人ニ損害賠償ノ義務アル旨ヲ判示シタルハ審理不盡且理由不備ノ不法アリ

(上告理由) 上告人ハ原審ニ於テ本件建玉ヲ處分シタルハ被告上告人ノ委任契約ノ趣旨ニ基キテ爲シタルモノナリ 即上告人ハ被告上告人ヨリ單ニ買建ノミナラス其ノ建玉ノ處分等一切ヲ委任セラレタルモノナルコトヲ抗爭シ且假リニ最初ノ契約ニ於テ處分マテ委任セラレタルモノニアラストスルモ本件建玉ヲ限月前ニ於テ處分シタルハ被告上告人ノ意思ニ基キ爲シタルモノナルコトヲ抗爭シタリ 大正十三年五月十二日付準備書面ヲ以テ六年九月二十六日被控訴人ヨリ手仕舞ヲ爲シ保證金返還方請求セラレシニ付控訴人ハ未タ目的アルニ付延期セラレタク申込タルニ被控訴人ハ控訴人ノ請求ニ應スル旨ノ回答アリタルモ該回答遲延ニ付其ノ到着前ニ於テ渡邊仲買人ヘ手仕舞即建玉ノ處分ヲ爲シ保證金送金方請求シタル處右回答ヲ得タルニ付更ニ送金見合セノ趣渡邊仲買人ヘ申送りタルモ既ニ送金シタル後ナリシ旨ヲ主張シタリ 而シテ此ノ點ニ對スル立證トシテ乙第七號證及八號證ヲ提出シタリ 乙第七號證ハ被告上告人ヨリ彙ニ本件建玉ヲ限月前ニ手詰即處分方申來リタルヲ以テ上告人ヨリ手詰見合セラ請求シタルニ對スル回答ニシテ乙第八號證ハ乙第七號證回答ノ遲延シタルヲ被告上告人ノ指圖通リ渡邊仲買人ニ對シ建玉手詰方申送り其ノ後ニ於テ回答來リシタメ更ニ手詰取消シ保證金送金見合セ方申送りタルニ對スル渡邊仲買人ノ回答書ナリ 右乙第七號證及八號證ニ依レハ上告人カ本件建玉ヲ處分シタルハ被告上告人ノ指圖ニ基キ爲シタルモノナルコト寔ニ明瞭ニシテ上告人ノ此ノ點ニ對スル主張ハ立證シ得タルモノナリ 果シテ然ラハ被告上告人主張ノ如ク上告人カ本件建玉ヲ處分スルニハ被告上告人ノ許諾ヲ要スルモノト假定スルモ被告上告人ノ指圖ニ基キ處分シタルモノナルヲ以テ履行不能ノ責任ヲ生スヘキ理由ナシ 然ルニ原判決ハ此ノ爭點ニ對シ被告カ原告ノ許諾ナクシテ限月ノ到來前記二百石ノ轉賣ヲ爲サシメタルモノナルコトハ被告ノ明ニ争ハサル所ナルヲ以テ云々ト妄斷シ上告人ニ損害ヲ賠償スヘキ義務アリト認定シタルハ重大ナル爭點ヲ遺脱シタルニアラサレハ理由不備ノ違法アルモノナリ

(判決理由) 原院ハ上告人(被告)カ被告上告人(原告)ノ爲米穀取引所仲買人ニ委託シテ米穀ノ買建ヲ爲サシメタル場合ニ於テ其ノ建玉ノ處分ハ總テ被告上告人ノ指圖ニ從フヘキ約定ヲ爲シタル事實ヲ認定シタル上上告人カ仲買人

取引所取引ノ委託者ノ越權行為ト損害賠償義務

渡邊爲次郎ヲシテ被告上告人ノ爲大正六年八月二十七日頃十月限二百石ノ買建ヲ爲サシメタル後其ノ建玉ヲ限月ノ到來前被告上告人ノ許諾ナクシテ轉賣ヲ爲サシメタルコトヲ上告人ノ明ニ争ハサル所ナリト認定シ因テ以テ上告人ハ爾後被告上告人ノ指圖アルモ仲買人ヲシテ被告上告人ノ爲ニ右買建米ノ處分ヲ爲サシメ又ハ限月ノ履行日ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲サシムルコトヲ不能ニ歸セシメタルモノナリト判定シ上告人ニ損害賠償ノ責任ヲ負擔セシメタリ 然レトモ原審口頭辯論調書ニ依レハ上告人ハ原審ニ於テ第七號證乙第八號證ヲ提出シテ上告人ノ抗辯ヲ立證シタルコトヲ知ルニ足ルヘク而シテ同調書ニ記載アル立證趣旨ヲ乙第七號中ニ記載アル「此處ハ餘リ大利益無之モ一時手締ヲ爲シ來月ト相成新柄ニ向テ出陣致シ度見込有之云々最早只今ト相成候ハハ元利ノ損失ト相成可申ニヨリ貴意ニ應シ今暫時手締見合致スノ外無之云々」トアル文句及乙第八號證ニ記載アル「二十八日付尊書テ御送金見合可申様ニ御沙汰ノ處既ニ一昨日送金申上候後ニテ行違貴着ト存候云々」トアル文句ト對照スレハ上告人ハ原審ニ於テ上告人カ仲買人渡邊爲次郎ヲシテ建玉ヲ處分セシメタルハ被告上告人ノ指圖ニ基クモノニシテ即被告上告人ノ許諾ニ出テタル旨抗辯トシテ主張シ乙第七、八號證ヲ以テ之カ立證ヲ爲シタルコトヲ看取スルニ難カラス 故ニ原審ニ於テハ右抗辯ノ當否ニ付判斷ヲ爲スニ非サレハ上告人カ仲買人ヲシテ被告上告人ノ爲買建米ノ處分ヲ爲サシメ若ハ限月ノ履行日ニ現物ノ受渡ヲ爲サシムルコトヲ不能ナラシメタルヤ否ヲ判定スルコト能ハサルモノト謂ハサルヲ得ス、然ルニ原院カ被告上告人ノ許諾ヲ得シテ上告人カ建玉ヲ處分シタル事實ヲ争ナキモノト認メ如上ノ抗辯ノ當否ヲ審理セスシテ上告人ニ損害賠償ノ義務アル旨ヲ判示シタルハ審理不盡且理由不備ノ不法アルモノニシテ上告論旨ハ理由アリ 原判決ハ破毀ヲ免レス (大正一三年オ九八七號「預金並損害金請求事件」昭和四、四、八民一判決「破毀差戻」—大審院裁判例(三)民四九)

*原審—東京控、大正一三、一〇、三民三判決(前掲)

東京控 代理人ニアラサルモノノ爲シタル行爲ニ對シテハ民法第一百十條ノ代理人カ權限外ノ行爲ヲ爲シタル規定ヲ適用スヘキモノニアラス

(判決理由) 控訴人「仲買人」ハ假リニ訴外白崎繼次郎ニ於テ代理權ナカリシトスルモ同人ハ數年間繼續シテ被控訴人「委託者」ノ

代理人ニアラサルモノノ爲シタル行爲ニ對シタル規定ヲ適用スヘキモノニアラス

代理人ト爲リ控訴人ト取引シタル事實アルニ因リ本件係争取引ニ付テモ控訴人ニ於テ同人ヲ以テ被控訴人ノ代理人ナリト信スヘキ正當ノ事由ヲ有シタルモノナリト抗爭スルモ已ニ前段説示ノ如ク本件當事者間ニ從來爲シ來リタル一切ノ取引關係ニ於テ訴外白崎繼次郎ハ被控訴人ノ代理人ト認ムヘキモノニアラストスル以上ハ假令控訴人ニ於テ同人ヲ以テ被控訴人ノ代理人ナリト信シタルトスルモ代理人カ權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ關スル民法第一百十條ノ規定ハ固ヨリ本場合ニ適用ナク從テ被控訴人ニ於テ訴外白崎繼次郎ノ行爲ニ付キ其實ニ任スヘキニアラス(大正元年ネ五二一號「株券返還請求控訴事件」同二、二、四民三判決—新聞八九九號二二)

東京區 甲ハ仲買人乙ノ代理人トシテ本件一乃至三ノ取引ニ關與シタルニ過キス 而シテ委託者丙ハ甲ニ對シ建株全部ヲ手仕舞シ乙トノ間ノ委託關係ヲ決濟セラレ度旨申送りタルニ拘ラス甲ハ其ノ指圖ニ基カスシテ丙名義ニテ本件四及五ノ取引ヲ乙ニ委託シタルモノニシテ甲ハ丙ヲ代理シテ乙ニ委託スルノ權限ナクシテ右取引ヲ委託シタルモノナリ

(判決理由) 被告カ訴外窪田彌一ヲ通シ東京株式取引所ノ一般取引員ナル原告ニ對シ株式賣買清算取引ヲ委託シ原告主張ノ如キ(一)(二)(三)ノ取引ヲ爲シタル結果原告主張ノ如キ被告ノ利益及損失トナリタルコトニ付テハ當事者間ニ争ナシ 而シテ原告ハ右訴外窪田カ被告ノ代理人トシテ(四)(五)ノ取引ヲ原告ニ委託セリト主張スルニ對シ被告ハ右事實ヲ否認シ右訴外窪田ハ原告ノ代理人トシテ本件(一)(二)(三)ノ取引ニ關與セシニ過キサル旨抗爭スルヲ以テ按スルニ證人窪田彌一ノ證言及同上野龜吉ノ證言並上野ノ證言ニヨリ眞正ニ成立シタルト認ムル甲第一、二號證ノ各一乃至三ニヨレハ右窪田カ被告名義ニテ原告ニ對シ其ノ主張ノ如キ(四)(五)ノ取引ヲ委託シタル事實ヲ認メ得ヘキモ原告提出援用ニ係ル全立證ヲ以テスルモ未タ訴外窪田カ被告ヲ代理シテ右取引ヲ原告ニ委託スルノ權限アリシ事實ヲ認メ難キノミナラス却テ被告本人訊問ノ結果ヲ綜合考覈スル時ハ右窪田ハ原告ノ代理人トシテ本件一乃至三ノ取引ニ關與シタルニ過キス 且被告ハ昭和五年八月十七日附書面ヲ以テ右訴外窪田ニ對シ該書面到達次第被告ノ建株全部ヲ手仕舞シ原告トノ間ノ株式賣買清算委託關係ヲ決濟セラレ度旨申送りタルニ拘ラス右訴外窪田ハ被告ノ指圖ニ基カスシテ被告名義ニテ前記(四)(五)ノ取引ヲ原告ニ委託シタルモノニテ右訴外人ハ被告ヲ代理シテ原告ニ委託スルノ權限ナクシテ前記(四)(五)ノ取引ヲ原告ニ委託シタル事實ヲ認メ得ヘシ 果シテ然ラハ右認定ニ反スル事實ヲ前提トスル原告ノ本訴請求ハ爾餘ノ争點ニ付判

取引員ノ代理
委託者ノ代理
代理人ニシテ
代理人ニシテ
委託者ノ代理
委託者ノ代理

斷ヲ加フル迄モナク失當トシテ棄却スヘキモノトス（昭和九年ハ六四五三號「株式長期賣買清算取引損金請求事件」—新報四二一號二四）

委託者ノ代
理人タル株
式現物賣買
業者

東京控 甲ハ株式ノ現物賣買ヲ業トセルモノニシテ株式ノ短期取引ヲ受託シ得ヘキ資格ヲ有セサ
リシヲ以テ斯ル取引ニ付テハ取引員乙トノ協定ニ基キ専ラ注文者ノ代理人トシテ乙ニ取引委託ヲ爲
シ來レルモノナリ（昭和一年ネ四五六號「清算金請求控訴事件」同一三、六、三〇民二判決—評論二七卷商四三〇、新報
五一三號九）

* 判決理由—六九八頁參照

第四章 委託ノ代理、媒介又ハ取次營業

第一節 總 說

取次業者ト
問屋營業

大審院 取引所法第十一條ノ四第二項ハ何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次ヲ
營業ト爲スコトヲ得サル旨規定シ其ノ但書ニ於テ取引所ノ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可
ヲ受ケタルモノハ其ノ限ニ非サル旨ヲ定メ同法第三十二條ハ右規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ
罰金ニ處スヘキ旨ヲ規定シタルニ徴スレハ斯ル營業ヲ爲スヘキ法定ノ資格ヲ有セサル者力法律ニ違
背シテ取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次行爲ヲ營業トスルモ法律上ハ問屋營業者ヲ以テ
目スヘキニ非サルハ勿論ナリ

（上告理由）原判決ハ上告人ノ「上告人ハ定期株式賣買ノ問屋業者ニアラサル旨」ノ抗辯ヲ排斥シ上告人ヲ以テ自己ノ名ヲ以テ他
人ノ爲ニ定期株式ノ賣買ヲ業トスル株式問屋業者ナリト認定シ之ニ基キテ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタリ 然レトモ是現物賣買ト定期
取引トヲ混同セルモノニシテ取引ノ實際ニ徴セサル結果ニ外ナラス 蓋定期賣買ハ取引所ニ於テ行ハルル特殊ノ取引ナルヲ以テ取
引所ヲ離レテ成立スルモノニアラス 而シテ取引所ニ於ケル取引ハ取引所會員又ハ取引員ニ依リテノミ行ハルルコトハ取引所法
第六條ノ規定スル所ナルヲ以テ何等其ノ資格ナキ上告人ハ被上告人ヨリ定期取引ノ委託ヲ受ケルコト能ハサルモノトス 又何人ト
雖取引所ノ取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次ヲ營業トスル能ハサルコト同法第十一條ノ四第二項ノ規定スル所ナルヲ以テ被上告人ハ
仲買人タル訴外陸井幸平ニ對シ上告人ノ委託媒介取次等ヲモナス能力ナキコトモ亦論ヲ俟タス 從テ之ヲ商法上認メラレタル問屋
業者ト解スル餘地アルコトナシ 然レハ普通現物ノ賣買ナラハ格別此ノ禁止サレタル定期取引ノ問屋業者ヲ以テ被上告人ヲ律シタ
ル原判決ハ其ノ根柢ニ於テ違法アルモノト云ハサルヘカラス

（判決理由）商法第三百十五條ハ「問屋ハ委託者ノ爲ニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付相手方カ其ノ債務ヲ履行セサル

場合ニ於テ自ラ其ノ履行ヲ爲ス責ニ任スルト規定シタルヲ以テ或種ノ問屋業者カ其ノ營業ノ部類ニ屬スル取次ヲ爲シタル場合ニ非サレハ同條ノ適用ナキモノト解セサルヘカラス。而シテ取引所法第十一條ノ四第二項ハ何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得サル旨規定シ其ノ但書ニ於テ取引所ノ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ其ノ限ニ非サル旨ヲ定メ同法第三十二條ハ右規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處スヘキ旨ヲ規定シタルニ徴スレハ斯ル營業ヲ爲スヘキ法定ノ資格ヲ有セサル者カ法律ニ違背シテ取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次行爲ヲ營業トスルモ法律上ハ問屋業者ヲ以テ目スヘキニ非サルハ勿論ナリ。今本件ニ付之ヲ稽フルニ原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ上告人ハ取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理媒介又ハ取次ヲ營業トスル法定ノ資格ナキニ拘ラス被上告人(原告)ヨリ東京電燈株式會社ノ株式五十圓拂込濟十株ノ定期先物ノ買付方委託ヲ受ケ東京株式取引所取引員陸井幸平ニ對シ上告人ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ之カ買入方ヲ注文シタルトコロ陸井幸平ハ營業上ノ失敗ノ爲メ右株式ヲ上告人ニ引渡スコト能ハサル状態ニ立至リタリト云フニ在リテ原判決ハ右事實ニ對シ商法第三百十五條ヲ適用シテ上告人ハ委託者タル被上告人ニ對シ相手方ニ代リテ自ら其ノ債務ノ履行ヲ爲スヘキ責アル旨ヲ判示シタリ。然レトモ上告人カ被上告人ヨリ委託ヲ受ケタル前示行爲ハ即取引所ニ於ケル取引ノ委託ノ取次ニ該當シ上告人ニ於テ營業トシテ之ヲ爲スコトヲ得サル行爲ナルコト前叙ノ如ク從テ上告人ハ斯ル行爲ヲ營業トスルモ法律上問屋ニ非サルコト明ナルニ拘ラス問屋業者カ營業ノ部類ニ屬スル行爲ヲ爲シタル場合ト同視シ商法第三百十五條ノ適用アルモノト解シタル原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アリ。破毀ヲ免レス。論旨理由アリ(昭和五年オ二〇五〇號「株式引渡請求事件」同六、五、六民四判決「二部破毀善戻」一彙報四二卷下民五九、新聞三二七〇號九、評論二〇卷商三九二、新報二五六號一三)

委託者ノ代理
人タル株式
式現物賣買
業者
證據金納入
者
任意處分權
ノ行使

東京控 甲ハ株式ノ現物賣買ヲ業トセルモノニシテ株式ノ短期取引ヲ受託シ得ヘキ資格ヲ有セザリシヲ以テ斯ル取引ニ付テハ取引員乙トノ協定ニ基キ專ラ注文者ノ代理人トシテ乙ニ取引委託ヲ爲シ來レルモノナリ

(判決理由) 被控訴人カ株式會社東京株式取引所ノ取引員ナルコトハ本件當事者間ニ爭ナク原審證人坂齊平吉ノ證言ニ徴シ全部眞

取引員ノ立
替金延滞日
歩徴收

正ニ成立シタリト認ムヘキ甲第一號證ノ一、二(但同證ノ被控訴人ノ商業帳簿タルコトハ當事者間爭ナシ)原審證人坂齊平吉堀塚登(但後記措信セサル部分ヲ除ク)並ニ當審(第一回)證人堀塚登ノ各證言ヲ綜合スレハ控訴人ハ臺中市ニ於テ株式現物ヲ業トスル訴外江崎勝茂ヲ代理人トシテ昭和十年二月四日以降被控訴人ニ對シ株式短期取引ノ委託ヲ爲シ當時之ニ對スル證據金トシテ金五百圓及證據金代用トシテ日本產業株式會社株式三十株ヲ寄託シタル事實並ニ爾來控訴人ハ右江崎勝茂ヲ代理人トシテ被控訴人ニ對シ主トシテ電報ニ依リ指値ニテ株式賣買ノ委託ヲ爲シ昭和十年二月四日以降同年六月三日迄ノ間ニ於テ別紙計算書記載ノ如キ取引アリタル結果控訴人ノ益金七百三十五圓三十錢損金六千六百二十一圓一錢ノ計算尻トナリタルモ右益金中百三十七圓七十錢ハ既ニ控訴人ニ支拂濟ナルヲ以テ其差引損金合計六千二百三十三圓四十一錢ニ達シタルモノナル事實ヲ認ムルニ十分ナリ。前示認定ニ概觸スル原審證人堀塚登當審證人呂寅亮ノ各證言部分並ニ當審ニ於ケル控訴人ノ供述(第一、二回)ハ孰レモ右認定ノ資料ニ供シタル各證據ニ照シ違ニ措信シ難ク又前記證人堀塚登坂齊平吉ノ各證言ニ徴スレハ前記江崎勝茂ハ株式ノ現物賣買ヲ業トセルモノナルモ株式ノ短期取引ヲ受託シ得ヘキ資格ヲ有セザリシヲ以テ斯ル取引ニ付テハ被控訴人トノ協定ニ基キ專ラ注文者ノ代理人トシテ被控訴人ニ取引委託ヲ爲シ來レル關係上被控訴人ハ本件取引ニ付テモ先ツ其ノ結果ヲ右江崎勝茂ニ通知シ同人ヨリ更ニ之ヲ被控訴人ニ報告シ居リタルモノニシテ又注文客ヨリ證據金若ハ之カ代用證券ヲ被控訴人ニ差入ルヘキコトノ依頼ヲ受ケタル際ハ被控訴人ヨリ預リ證ノ送付アル迄先ツ右江崎ニ於テ注文客ニ一應預リ證ヲ發行シ置クヲ慣例トシタル事實ヲ窺フニ足り而モ該認定ヲ左右スヘキ確認ナキヲ以テ乙第一號證乃至第三號證ノ各一、二及同第四號證カ被控訴人モ認ムルカ如ク前記江崎勝茂ノ作成ニ係ル證據金代用證券ノ預リ證若ハ領收證或ハ本件取引ノ承諾書並ニ報告書ナリトスルモ叙上各書證ノ存在ノミヲ以テシテハ未タ直ニ前示認定ヲ讞シ得ヘキ資料ト爲スニ難ク更ニ當審(第一回)證人堀塚登ノ證言ニ徴スレハ本件取引ニ付テハ被控訴人ヨリ控訴人ノ爲キ取引ノ衝ニ當リタル右江崎勝茂ニ對シ追證據金差入方ノ督促アリタルヲ以テ之ヲ控訴人ニ通シタルモ應セザリシ爲仕切損金ヲ支拂フヘキコトヲ請求スル趣旨ニ於テ甲第四號證ノ催告書ヲ控訴人ニ郵送シタル事實ヲ窺ヒ得ヘキニ依リ該書證ノミヲ以テ直チニ本件取引カ控訴人ト被控訴人トノ間ニ成立シタルモノナリトノ事實ヲ否定シ得ヘキ資料ト爲シ難ク其他控訴人提出援用ニ係ル各證據ニ依ルモ未タ前段認定ヲ覆スニ足ラス。然リ而シテ本件取引ハ控訴人ト株式會社東京株式取引所ノ取引員タル被控訴人トノ間ニ成立シタルモノナルコト前段認定ノ如クニシテ東京株式取引所ニ於テハ委託者カ本證據金ノ半額以上ヲ缺損シタル場合ハ相當ノ追證據金ヲ取引員ニ差入ルヘク委託者カ其請求ニ應セサル場合ハ取引員ハ建玉ヲ任意處分シテ手仕舞ヲ爲シ得ル商慣習ノ存スルコトハ控訴人ノ認ムルトコロナルヲ以テ反證ナキ限り控訴人ノ右代理人ハ右慣習ノ存在ヲ知リテ本件取引ノ委託ヲ爲シタルモノト推認スヘキヲ相當トシ而モ斯ル場合ニ於テハ反對ノ意思表示アリタルコトヲ認ムヘキ證左ナキ以上本件當事者ハ右慣習ニ依ル意思ヲ有シタルモ